

# 高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和4年度—

令和5年3月

高槻市・関西大学総合情報学部



## はじめに

本報告書は、高槻市と関西大学が共同で、高槻市民を対象に実施した令和4年度市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の成果を取りまとめたものです。この調査は、関西大学総合情報学部で開講している「社会調査実習」(2022年度)の授業の一環として行われているもので、当授業の受講生が、調査票の設計からデータの入力作業まで、実施全体に大きく関わっています。たとえば、春学期には、受講生各自の関心から調査テーマを設定した上で調査票の設計を行います。そして、秋学期には、調査票のデータ入力と分析、最終報告書の執筆を行うことで、社会調査の実施に必要となる一連の過程を経験します。

このような背景から、例年、この調査では、大学生らしい自由な発想の調査テーマが選ばれる特長があります。今年度も、睡眠時間と生活の質、SNSと友人満足度、性格によるコミュニケーション手段の違い、森林レクリエーション活動への選好、共生社会についての認知、新型コロナウイルスの感染不安など、若者にとって身近なものから、地域や社会の問題に関わるものまで、多様で独創的なテーマが並びました。これらの調査結果は、単に一つの地域の市民調査という枠を超えて、学術的にもさまざまな知見を提供するものだといえるでしょう。

本調査は今回で12回目となります。過去の11回の調査では、回収率が60%前後を推移しており、今回も60.7%の回収率を達成できました。前々回、前回に続き、コロナ禍という状況で6割という回収率は非常に高い水準だといえます。これは関係各位の皆さまのご協力があったからこそ、成しえたことです。まず、関西大学総合情報学部の松本渉先生には、調査の準備から報告書の取りまとめまでのすべての段階で、毎回、的確で丁寧なご助言をいただきました。本調査を無事終えることができたのは松本先生にご尽力いただいたおかげです。また、ティーチング・アシスタントの西田尚紀さん、スチューデント・アシスタントの正木篤宏さんと廣森海斗さんには、これまでの社会調査の経験やスキルを活かして、受講生に寄り添った立場から様々なサポートをしていただきました。

この「社会調査実習」の授業では、大規模な郵送調査を実施する都合上、時間的制約のなかで、社会調査の一連の過程を一つずつ進めていく必要があります。受講生の皆さんには、調査テーマの設定、データ入力作業、データ分析と報告書執筆などすべての段階で、熱心に粘り強く、調査や作業に取り組んでもらいました。今年度の受講者は7人と少なく、データ入力作業は大変だったと思います。この報告書は、こうした受講生の皆さんの努力によって完成したものだといえます。

最後に、本調査の実施にあたり、高槻市市民生活環境部市民生活相談課の皆さま、関西大学総合情報学部オフィスの皆さまに多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして何より、本調査にご協力いただきました高槻市民の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2023年3月

関西大学総合情報学部教授 阪口 祐介



## 目次

はじめに		i
第1章 調査の概要	阪口祐介・松本渉	1
第2章 調査結果の概要	西田 尚紀	8
資料		131
予告はがき		133
調査票		135



# 第1章 調査の概要

阪口 祐介・松本 渉

## 1. 調査の概要とスケジュール

高槻市と関西大学による市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、2022(令和4)年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。社会調査実習の一環として、春学期には調査票の作成が、夏休みには調査票発送作業が、秋学期にはデータ入力、データ作成、分析等が行われた(表1)。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	日付	授業内	授業外
春学期	4/7	「社会調査実習」前期授業開講	高槻市と関西大学の
	4/14～7/21	調査票の作成	打ち合わせ(随時)
夏休み	7/31		サンプリング
	7/25～8/5		調査票印刷
	8/9	調査票発送準備作業	
	8/22		予告はがき発送
	8/25		調査票発送
	9/9		返送締切日
秋学期	9/22	「社会調査実習」秋学期授業開講	
	9/22～11/24	データの入力・読み合わせ	
	11/24～12/1		データクリーニング
	12/1～12/8	分析方法の習得	
	12/15～1/12	中間レポートの提出・報告	速報版報告書執筆
	1/19	最終授業(最終レポートの提出)	報告書執筆
	1/19～2/28		報告書編集

## 2. サンプリング

調査対象者： 18 歳以上 85 歳未満の高槻市民(1937 年 8 月 1 日～2004 年 7 月 31 日出生)

抽出名簿： 住民基本台帳 (2022(令和 4)年 7 月 31 日現在)

標本抽出法：層化抽出法

(具体的な手順)

1. 2022(令和 4)年 6 月末現在の人口に基づいて、性別と年齢によって作成された 12 の層の人口を算出する。次に、その人口の比率に従って、計画標本 2,000 を各層に割り当てる(表 2)。

表 2 層化の基準日の人口構成と計画標本の割り当て

	令和 4 年 6 月末現在の人口			計画標本の割り当て		
	男	女	男女計	男	女	男女計
18・19 歳	3,460	3,269	6,729	25	23	48
20 代	16,464	16,640	33,104	118	119	237
30 代	17,787	18,140	35,927	127	130	257
40 代	24,786	25,500	50,286	177	183	360
50 代	24,861	25,276	50,137	178	180	358
60 代	17,152	19,361	36,513	123	138	261
70 代以上	29,248	37,772	67,020	209	270	479
合計	133,758	145,958	279,716	957	1,043	2,000

2. 各層で割り当てられた人数を系統的に無作為抽出する。

## 3. 調査実施上の工夫

この調査では、調査および回収を円滑に実施するために、過年度と同様の工夫を行っている。

### 予告はがきの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票発送の 3 日前に予告はがきを送付した。このように事前に調査の実施を通知することで、調査対象者は心の準備をすることができ、また調査に対する期待感を高められると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にはがきに掲載した情報は最低限(「近日中に大きな茶封筒(ボールペン入り)が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の 2 点)にとどめた。今回は 8 月 22 日(月)に予告はがきを送付した。



## 調査票送付日

調査票の送付は、大学の窓口の盆休み終了後、最初の木曜日である 2022(令和 4)年 8 月 25 日(木)に行った。勤め人の夏休みを避けた上で、金曜日頃に調査票を受け取るためである。

## 同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れなくなるという効果もある。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

## 調査票の用紙

目立つように、浅黄色(なお前年は若草色)の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくくならないように厚手の紙を利用した。

## 調査票における挨拶文

すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページの上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの 3 点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保を示している。

## 調査票の構成デザイン

二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ(両面)の範囲に収まる調査票とした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。

## 封筒

調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズの糊付封筒を利用した。

一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。

## 催促状(なし)

催促状の送付は行っていない。

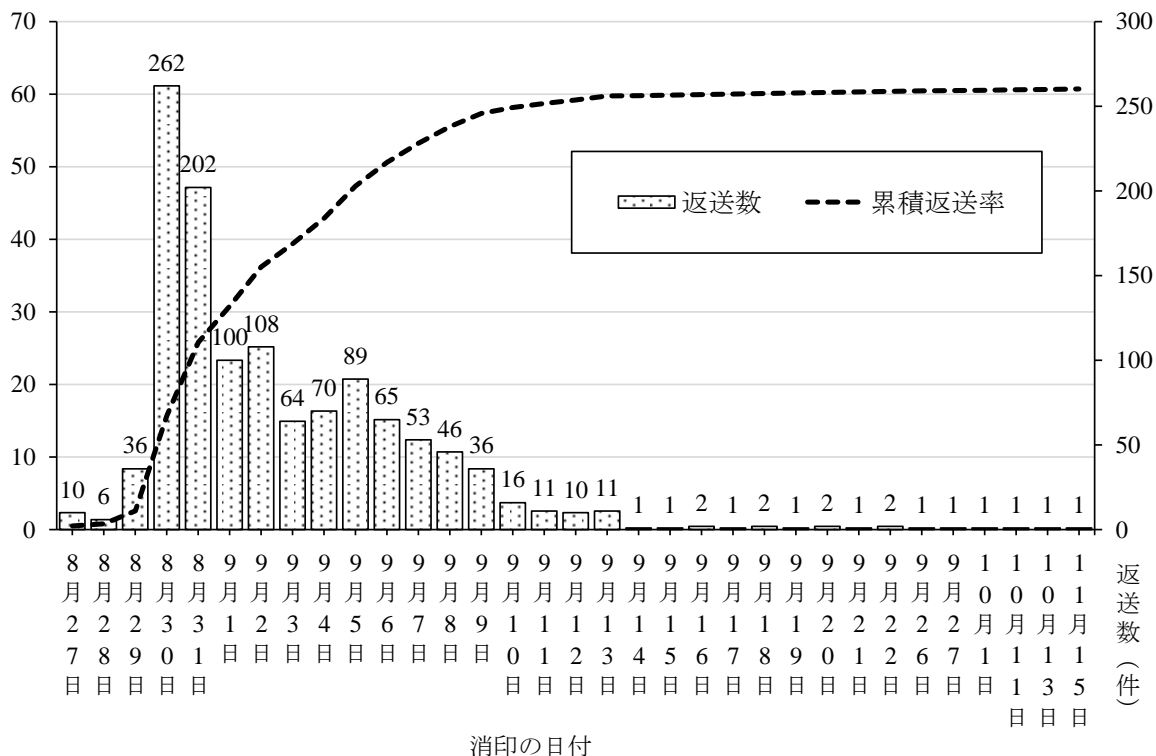
## 4. 調査票の回収状況

### 4.1. 返送状況

調査票の返送状況について述べる。図 1 は、消印の日付から調査票の返送状況の経過を示したものである。

最も早い消印は翌 8 月 27 日(土)である。返送日の山が二つみられる。最初の山は、最大の返送数 262 となった 8 月 30 日(火)であり、翌日の 8 月 31 日(水)も返送数 200 と多いことがわかる。これは、調査票受領後におとずれた土日を利用した記入・返送のピークといえる。もう一つの山は、返送数 89 であった 9 月 5 日(月)である。調査票受け取り後のピークの後に、平坦な山が続く返送のパターンがみられる。

累積返送率については、例年と同じく、調査票の返送受け取り期間の前半で返送率が 50% 台後半に達している。累積返送率のグラフ(図 1)が示しているように、回収期間後半に入ってもなおさらに上昇を続け、受け取り締切日頃には返送率が 60% を推移する結果になった。



(注1) 返送数とは、回答票の返送日ごとの件数(日付は消印による)

(注2) 累積返送率とは、その日までに返送された件数の累計を計画標本サイズで割った値

図 1 時系列に見た調査票の返送状況

#### 4.2. 回収率と調査不能の内訳

郵送調査の特質上、締切日の9月9日(金)以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付け、11月15日(火)で打ち切った。返送されてきた調査票総数は1,214件であり、無効調査票は0であった。最終的に有効な回答票数を1,214件、回収率を60.7%とした。調査不能の内訳も含めた調査の状況は表3の通りである。

表3 回収率と調査不能の内訳

		件数	(%)
1. 調査不能	尋ね当たらず等	3	(0.2%)
	未返送	783	(39.2%)
	無効調査票	0	(0.0%)
	計	786	(39.3%)
2. 有効回答票		1,214	(60.7%)
3. 計画標本サイズ(合計)		2,000	100.0%

#### 4.3. 回収率の詳細

男女別の回収率については、男性50.9%、女性67.4%となり、女性の方が17%ほど高い(表4)。年齢層別の回収率では、70代以上で74.9%、60代で73.2%と高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代で38.8%、18・19歳で31.3%まで低下する(表5)。社会調査において、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなることは一般的な傾向である。

表4 男女別の回収率

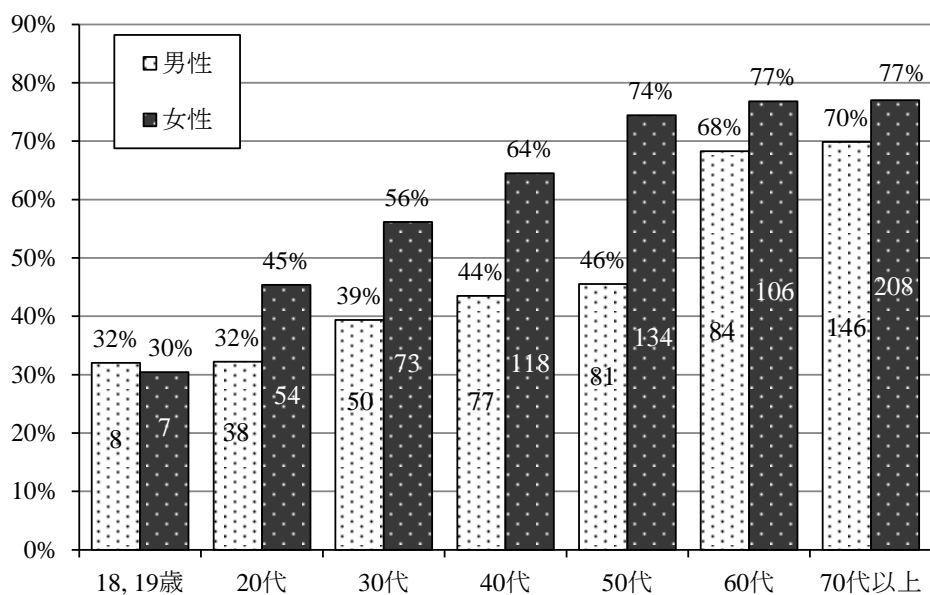
	男性	女性	不明	合計
回収標本	487	703	24	1,214
計画標本	957	1043	—	2,000
回収率 (%)	50.9%	67.4%	—	60.7%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分24が含まれていない。

表5 年齢層別の回収率

	18, 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	15	92	123	196	218	191	359	20	1,214
計画標本	48	237	257	360	358	261	479	—	2,000
回収率 (%)	31.3%	38.8%	47.9%	54.4%	60.9%	73.2%	74.9%	—	60.7%

(注) 年齢別の回収率の計算には、不明分20が含まれていない。



(注1) 棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。  
(注2) 棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数である。

図2 男女・年齢層別の回収率

## 5. 回収標本の特徴

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより、回収標本が母集団からある程度ずれている可能性があるため、その確認を行った。

表6は、母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定\*から、男女・年齢別の人口分布について、回収標本が母集団と乖離していることが統計学的に示されている。とりわけ、20代から50代の男性といった回収率の低い層では母集団よりも過小な人口割合である一方で、60代以上の男性、40代以上の女性といった回収率の高い層では母集団より過大な人口割合である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表7)。その結果、この比較においても適合度検定\*から両者が乖離していることが統計学的に示された。一人暮らしの多い20代、30代の回収率の低さがここにも影響したと考えられる。

### \*適合度検定

観測したデータの分布が、理論上の分布にあてはまっているかどうかを調べる統計学的手法。表6と表7では、2022(令和4)年6月末時点での高槻市全体の人口の分布を理論上の分布としている。なお、表6と表7の注釈にある統計量 $\chi^2$ は適合度基準と呼ばれる値で、この値が0の場合二つの分布は同一であり、値が大きいほど乖離していることを示している。 $df$ は、自由度と呼ばれる値(表6と表7では、「性別と年齢」「世帯人員数」の各カテゴリ数から1を引いた数に相当)である。 $p$ は、二つの分布が同一の分布である確率を表しており、統計量 $\chi^2$ と自由度 $df$ から計算されている。

表6 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本	%	R4年6月末 人口	%
男性	18, 19歳	8	0.7%	3,460	1.2%
男性	20代	38	3.2%	16,464	5.9%
男性	30代	50	4.2%	17,787	6.5%
男性	40代	77	6.5%	24,786	9.2%
男性	50代	81	6.8%	24,861	8.4%
男性	60代	84	7.1%	17,152	6.2%
男性	70～84歳	146	12.3%	29,248	10.5%
女性	18, 19歳	7	0.6%	3,269	1.2%
女性	20代	54	4.6%	16,640	5.9%
女性	30代	73	6.2%	18,140	6.6%
女性	40代	118	10.0%	25,500	9.4%
女性	50代	134	11.3%	25,276	8.6%
女性	60代	106	9.0%	19,361	7.1%
女性	70～84歳	208	17.6%	37,772	13.3%
合計		1,184	100.0%	279,716	100%

(注1) 表左側の回収標本には、性別または年齢の不明分30件が含まれていない。

(注2) 表右側のR4年6月末人口は、高槻市全体の人口である

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) 参照

(適合度検定)  $\chi^2=83.8716, df=13, p<0.0001$

表7 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数	回収標本	%	R4年6月末 世帯人員数別人口	%
1人	142	11.7%	64,843	18.6%
2人	401	33.0%	94,500	27.1%
3人	281	23.1%	76,665	22.0%
4人	239	19.7%	80,908	23.2%
5人	69	5.7%	25,955	7.4%
6人	21	1.7%	4,236	1.2%
7人	5	0.4%	1,022	0.3%
8人	1	0.1%	232	0.1%
9人	1	0.1%	90	0.0%
10人	0	0.0%	30	0.0%
11人以上	3	0.2%	44	0.0%
無回答	51	4.2%	—	—
合計	1,214	100.0%	348,525	100.0%

(注1) 表右側の世帯人数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) から算出した。ただし、回収標本が20～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯人数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。

(適合度検定)  $\chi^2=119.7642, df=10, p<0.0001$

## 第2章 調査結果の概要

西田 尚紀

### 1. 調査対象者の属性

調査票の質問順とは異なるが、はじめに本調査における回答者の属性を確認する。ただし、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。回答者の性別は男性が487人で女性が703人であり女性の方が多い(図1)。年齢は70代が約3割と多く、18歳、19歳と20代は1割未満と少ない(図2)。男女別に年齢を確認してもほぼ同様の傾向が見られる(図3)。

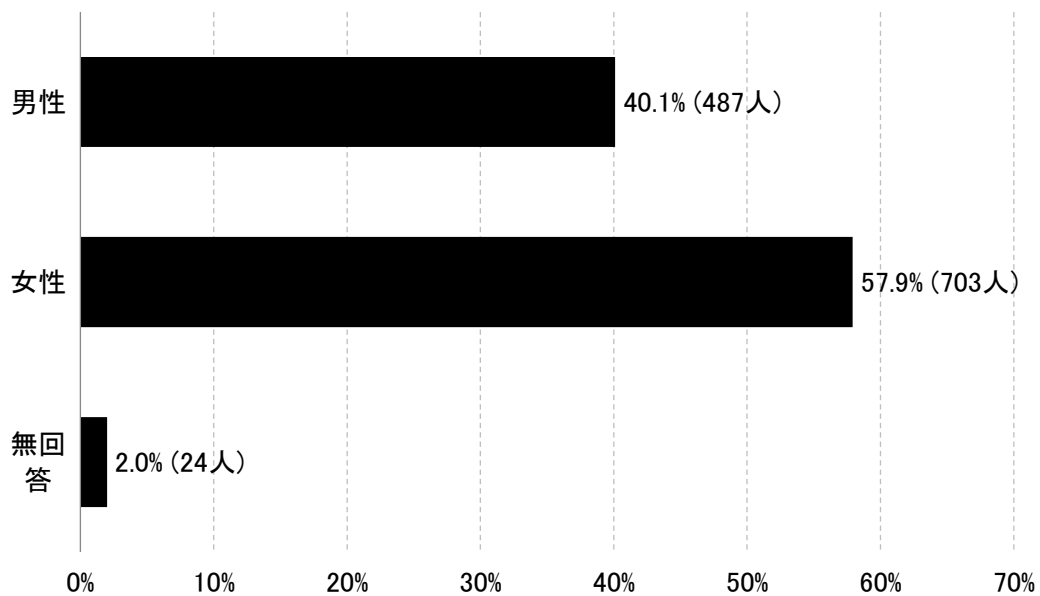


図1 Q40 性別

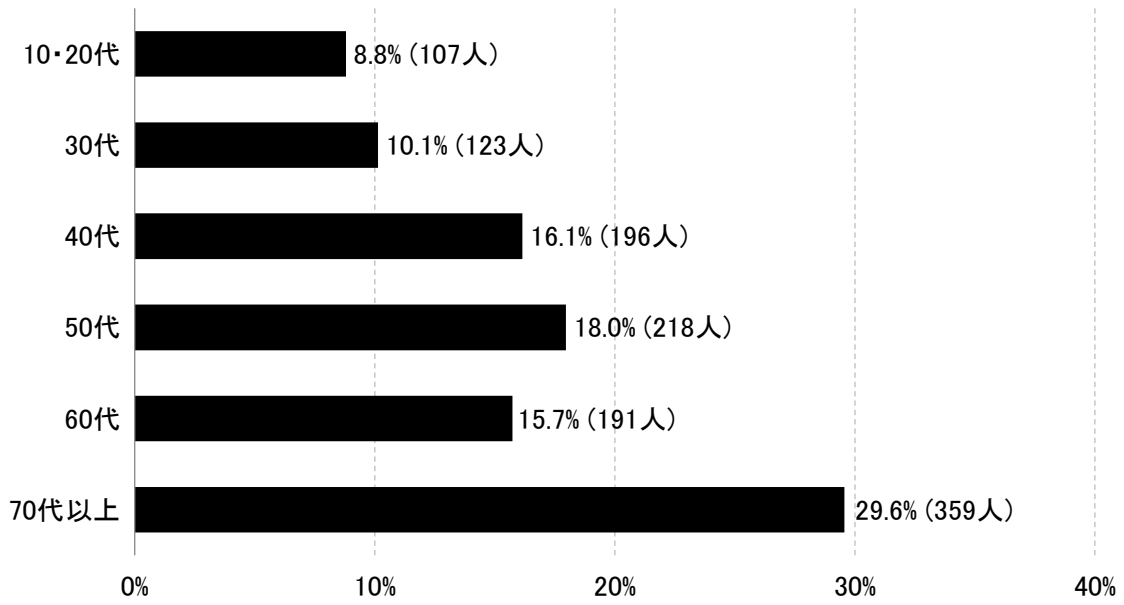


図 2 Q41 年齢

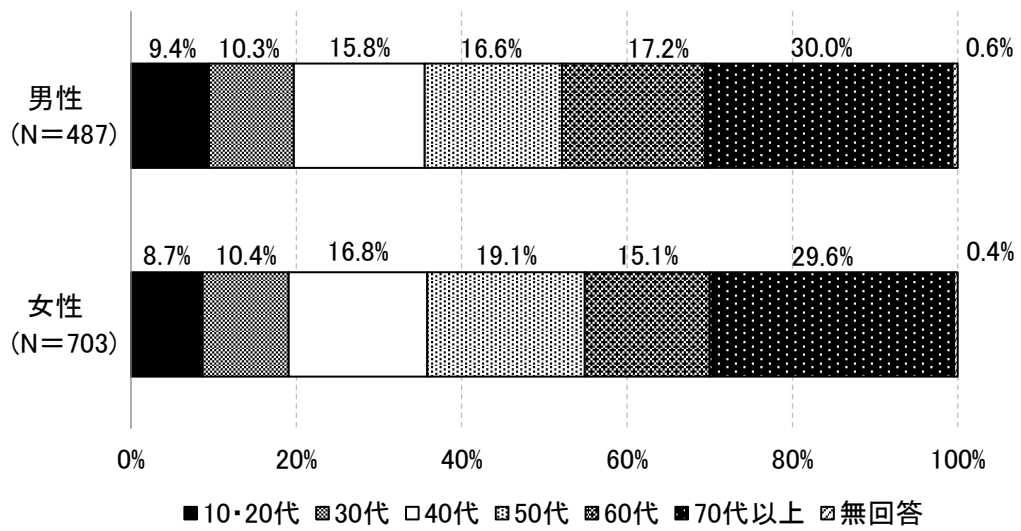


図 3 性別×年齢

以降、基本的にはすべての質問項目に関して性別・年齢とのクロス集計を提示する。ただし、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。なお、本調査の全回答者数は1,214人である。性別・年齢の内訳については図1と図2を参照のこと。また、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧については本章の最後を参照のこと。

職業は、合計を見ると常時雇用者が30.7%と最も多く、次いで無職が多い。男女別で見ると、男性は常時雇用者が42.9%と最も多く、女性は臨時雇用、パート、アルバイトが25.6%と最も多い。年代別で見ると、60代・70代以上で常時雇用者の割合が大きく減少し、無職が大きく増加している。臨時雇用、パート、アルバイトと回答した人は、40代から60代が2割以上となっている(表1)。

表1 Q42 職業

		(%)										
		常時雇用 の勤め人	臨時雇用、 パート、 アルバイト	自営業主	自営業の 家族従業 者	経営者、 役員	家事専業	学生	無職	その他	無回答	
男女別	合計 (N=1214)	30.7	18.5	3.4	0.9	2.1	13.8	3.3	23.1	1.6	2.6	100.0
	男性 (N=487)	42.9	8.8	5.3	0.6	2.7	0.6	3.7	31.6	2.1	1.6	100.0
	女性 (N=703)	22.3	25.6	2.1	1.1	1.7	23.5	3.1	17.2	1.3	2.0	100.0
年代別	10・20代 (N=107)	43.0	10.3	1.9	0.0	0.9	1.9	36.4	1.9	2.8	0.9	100.0
	30代 (N=123)	61.0	19.5	6.5	1.6	0.8	6.5	0.8	2.4	0.8	0.0	100.0
	40代 (N=196)	50.0	27.6	4.6	2.0	1.5	9.2	0.0	2.6	1.0	1.5	100.0
	50代 (N=218)	49.1	24.8	3.7	1.4	5.5	7.3	0.0	4.6	1.4	2.3	100.0
	60代 (N=191)	19.4	26.2	2.1	0.0	1.6	19.9	0.0	25.7	2.6	2.6	100.0
	70代以上 (N=359)	1.7	8.4	2.5	0.6	1.4	24.0	0.0	58.2	1.4	1.9	100.0



最終学歴は、男女別で見ると、男性が「大学（旧高専）・大学院」が47.2%と最も多いのに対し、女性が25.7%と男性よりも少ない。女性で最も多いのは「高校（または旧制中学など）」であり、35.7%である。また、「短大・高専（5年制）」は男性が1.6%と最も少ないのに対して、女性が19.9%と「高校（または旧制中学など）」や「大学（旧高専）・大学院」に次いで3番目の多さである。年代別で見ると、10・20代が「大学（旧高専）・大学院」が70.1%であるが、年代が上がるごとに減少傾向にあり、70代以上が15.6%である。反対に、10・20代は「高校（または旧制中学など）」が15.9%であるが、年代が上がるごとに増加し、70代以上が55.7%となっている（図4）。

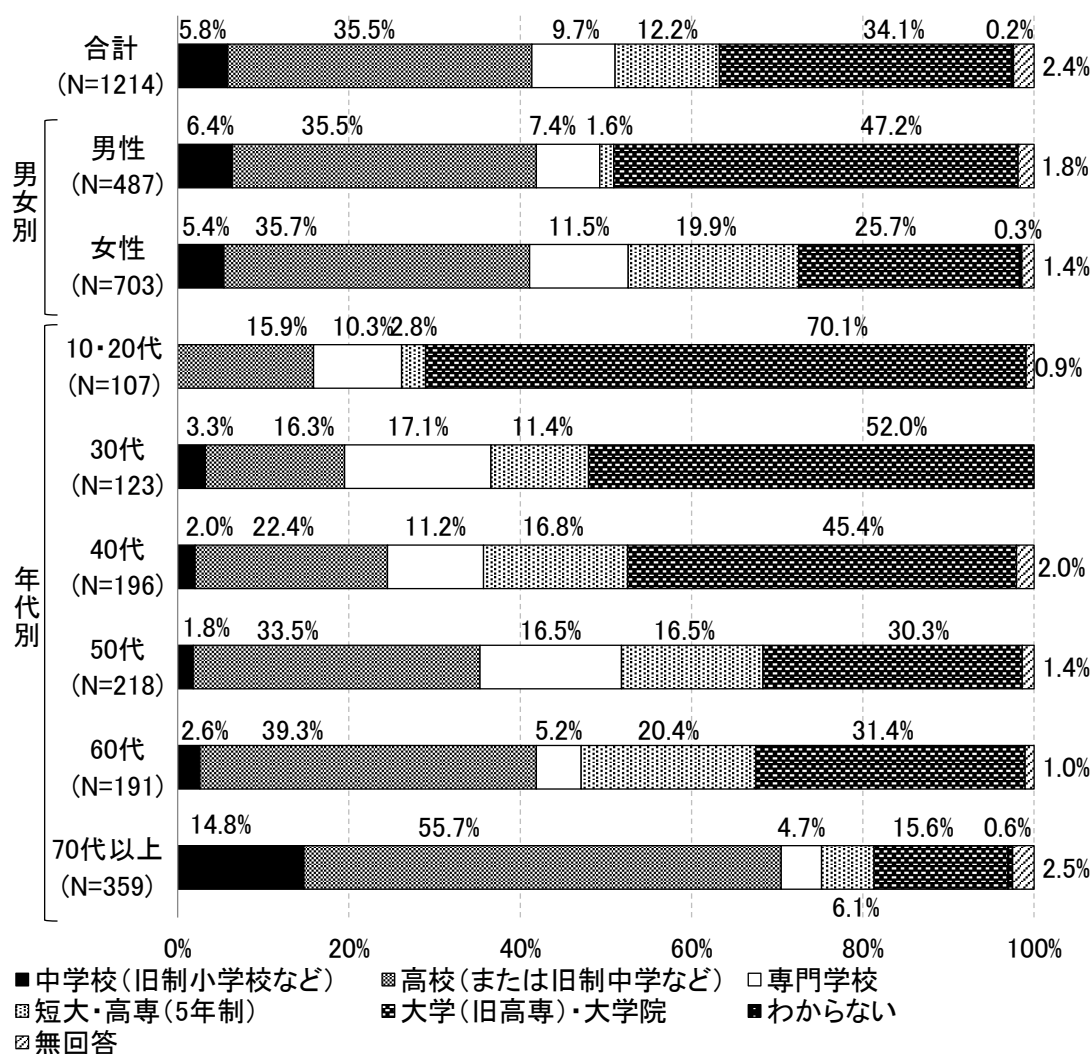


図4 Q43 最終学歴

居住地域については昨年のおり、単純集計のみを提示する。ここでの地区とは小学校の校区を参考に行している。各地区と該当小学校区は、檜田地区（檜田小学校）、高槻北地区（芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校）、高槻南地区（高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校）、五領地区（五領・上牧小学校）、高槻西地区（郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校）、如是・富田地区（芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校）、三箇牧地区（三箇牧・柱本小学校）である（図 5）。

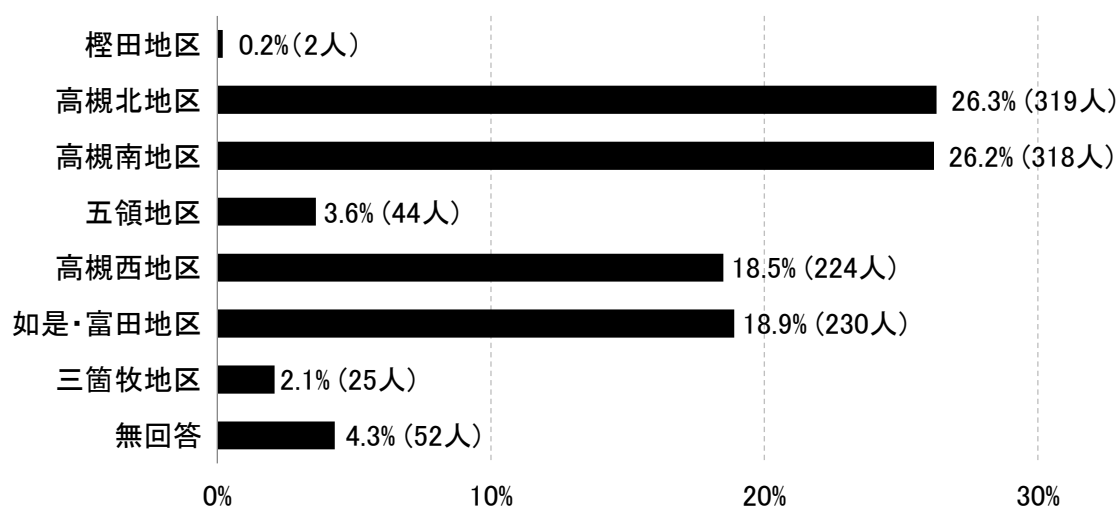


図 5 Q44 居住地域

高槻市内での居住年数に関して、全体の8割以上が10年以上市内に居住していることが分かる。年代別で見ると、10・20代が「20年以上30年未満」が49.5%と最も多く、子どもころから市内に居住していることが分かる。70代以上が「50年以上」が35.4%と最も多い。なお、大きな男女差は見られない(表2)。

表2 Q45 市内居住年数

		(%)									
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
男女別	合計 (N=1214)	2.0	3.5	3.2	6.3	13.7	16.6	16.0	21.1	16.4	1.2
	男性 (N=487)	2.9	2.5	3.1	6.2	13.8	16.8	16.6	21.8	15.8	0.6
	女性 (N=703)	1.4	4.4	3.3	6.5	13.8	16.5	15.8	21.1	16.8	0.4
年代別	10・20代 (N=107)	6.5	10.3	4.7	9.3	18.7	49.5	0.0	0.0	0.0	0.9
	30代 (N=123)	8.1	10.6	14.6	17.9	13.8	5.7	29.3	0.0	0.0	0.0
	40代 (N=196)	1.0	3.6	2.0	13.3	33.2	10.2	10.7	25.5	0.0	0.5
	50代 (N=218)	0.5	2.3	2.8	3.7	12.4	25.7	12.8	21.1	18.3	0.5
	60代 (N=191)	1.6	2.1	2.1	2.6	6.8	16.8	27.2	25.1	15.7	0.0
	70代以上 (N=359)	0.3	0.6	0.3	1.4	6.4	8.9	15.6	30.9	35.4	0.3

市民の住居は、男女別・年代別のすべての層で「一戸建て」の方が「集合住宅（アパート・マンションなど）」よりも高い割合である。（図 6）。

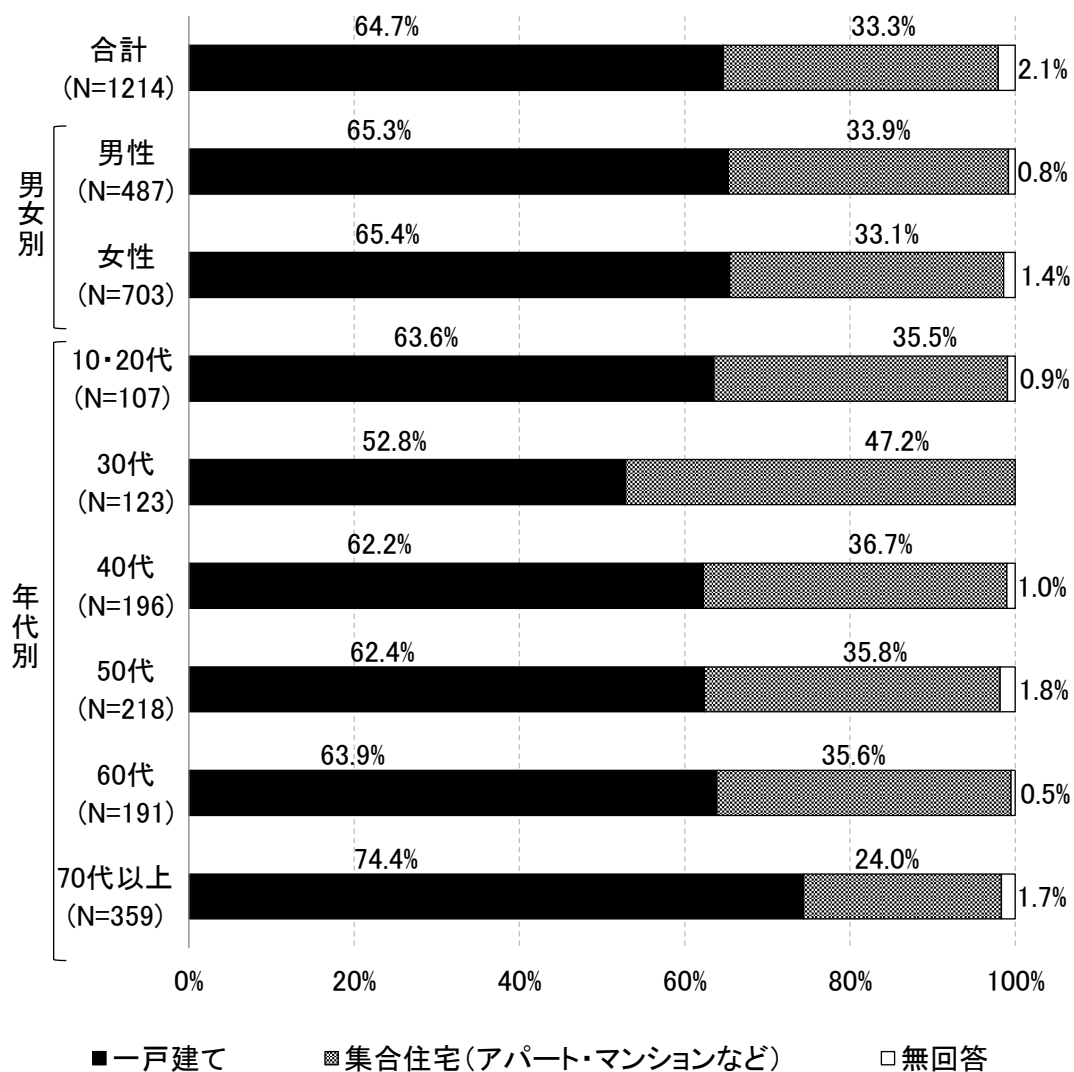


図 6 Q46 住居

居住形態は、男女別・年代別のすべての層で「持ち家」が6割以上と最も高い割合である。40代以上は7割以上が「持ち家」である。「民間の賃貸住宅」では、10・20代が24.3%と一定割合いるが、年代が上がるにつれて減少傾向にあり、70代以上で5.0%になる。「公社・公団等の公営の賃貸住宅」の割合は、70代以上が10.3%と最も高く、次いで60代の7.3%である（図7）。

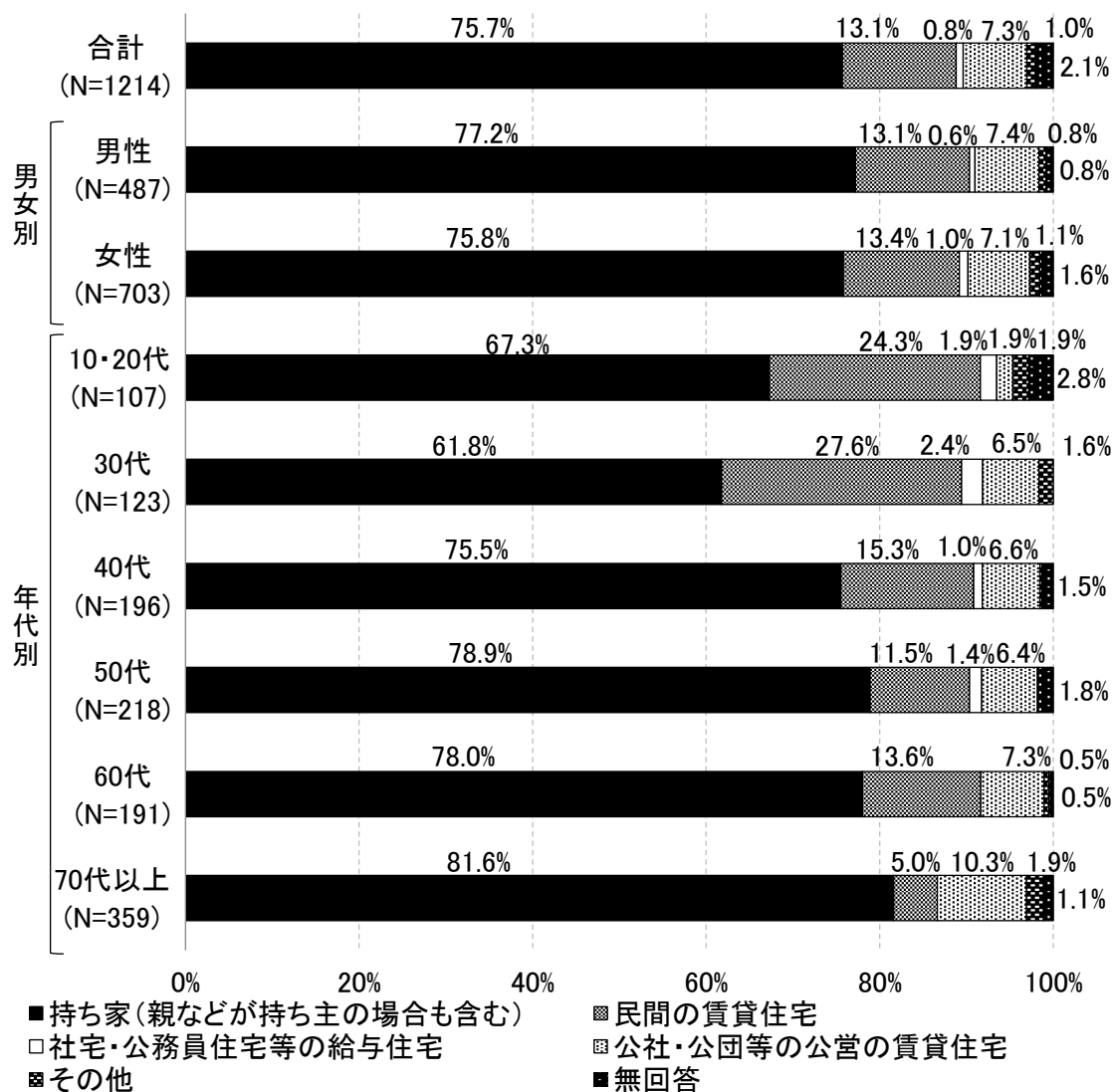


図7 Q47 居住形態

婚姻状況に関して、男女別・年代別の30代以上の層で、「既婚（配偶者あり）」が最も高い割合を占める。10・20代は「未婚」の割合が8割以上である。男女別で見ると、「既婚（離別・死別）」の割合は、男性で6.4%、女性で16.1%と、女性の方が9.7ポイント高い（図8）。

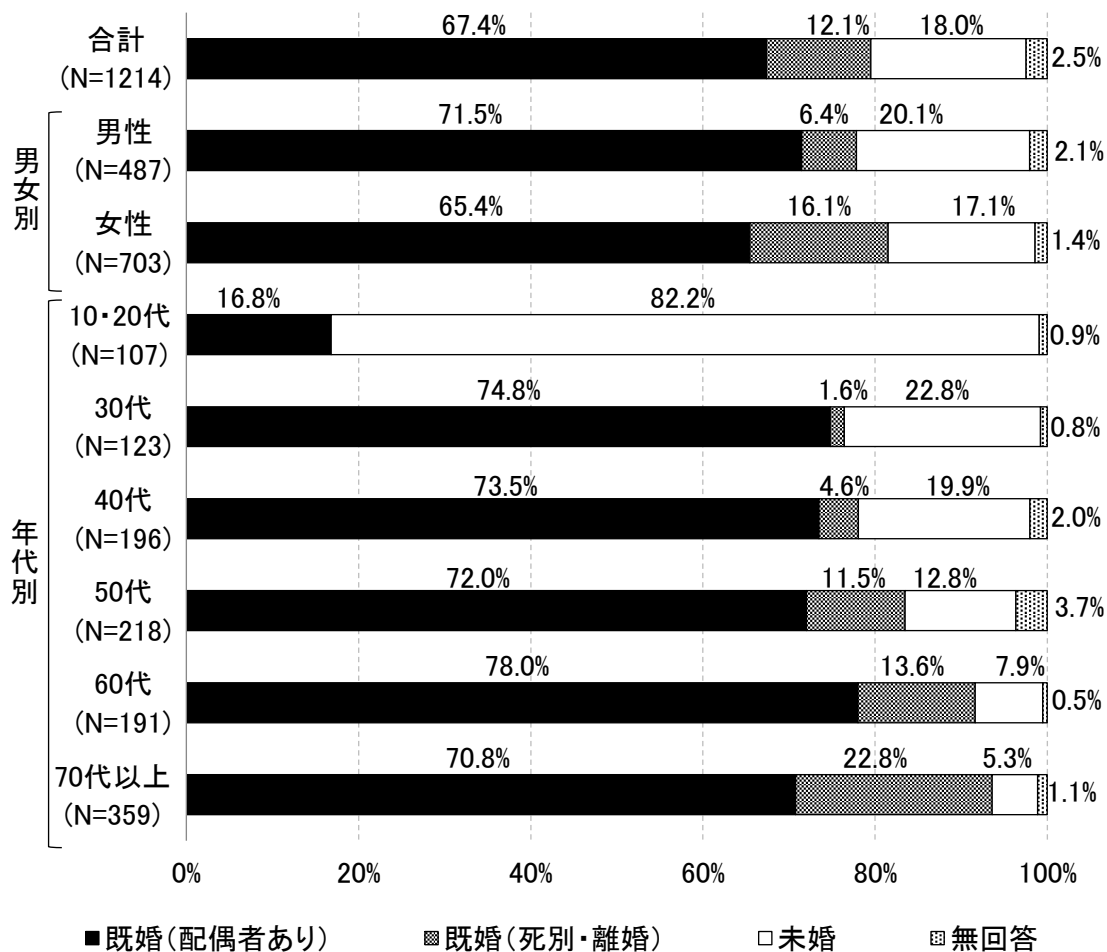


図 8 Q48 婚姻状況

子どもの有無に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、「いる」と回答した人の割合が「いない」と回答した人の割合より高い。10・20代は「いない」割合が8割以上である。なお、「いる」と回答した人の割合は、女性の方が男性よりも2.3ポイント高い(図9)。

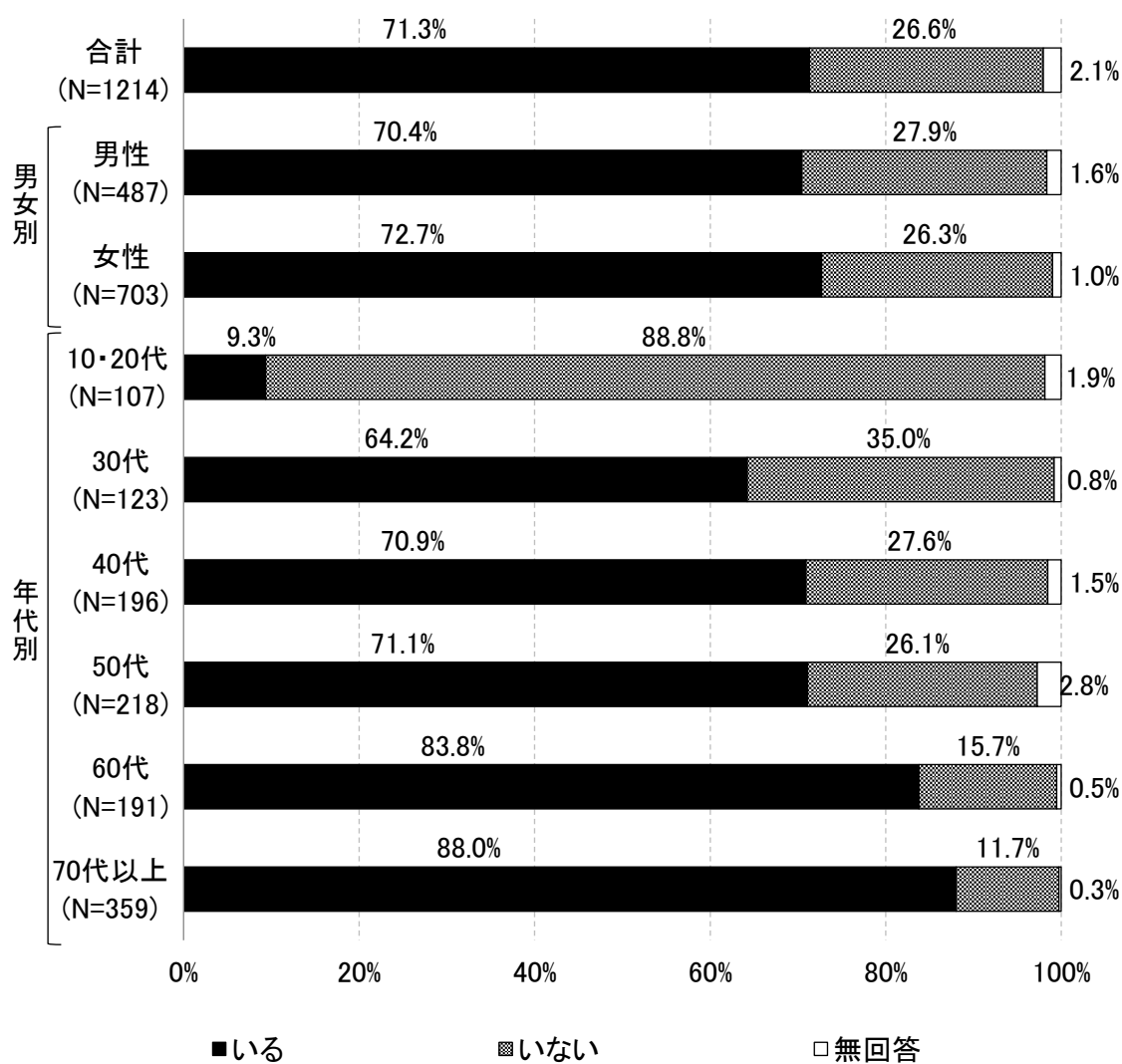


図9 Q49 子どもの有無

世帯人数に関して、その多くは2～4人世帯である。年代別で見ると、10・20代、30代は3人世帯が最も多い。一方で40代と50代は4人世帯が最も多い。また、70代以上は2人世帯が約5割である（表3）。

表3 Q50 世帯人数

		1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人 8人 9人 11人 12人 無回答											(%)
男女別	合計 (N=1214)	11.7	33.0	23.1	19.7	5.7	1.7	0.4	0.1	0.1	0.2	0.1	4.2
	男性 (N=487)	11.3	34.3	23.2	20.9	4.3	2.1	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	3.1
	女性 (N=703)	12.1	32.4	23.5	19.1	6.8	1.6	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	3.7
年代別	10・20代 (N=107)	3.7	15.9	28.0	27.1	8.4	5.6	3.7	0.0	0.0	0.0	0.9	6.5
	30代 (N=123)	8.1	17.1	30.9	30.1	9.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
	40代 (N=196)	8.2	13.8	20.9	37.8	12.2	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	50代 (N=218)	9.2	26.6	21.1	29.8	6.0	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	60代 (N=191)	12.0	51.8	23.6	8.9	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	2.1
	70代以上 (N=359)	18.7	49.0	22.0	3.9	2.8	1.1	0.0	0.3	0.3	0.3	0.0	1.7

世帯年収は、合計および男性・女性が「200～400万円未満」が最も多い。年代別で見ると、「わからない」を除いて割合が最も高いのは、10・20代が「200万円～400万円未満」、30代～50代が「400万円～600万円未満」と、年代が上がるごとに年収が高額になっている。ただし、60代と70代以上は「200万円～400万円未満」の割合が最も高い（表4）。

表4 Q51 世帯年収

		100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1000万円未満	1000万円～1500万円未満	1500万円以上	わからない	無回答	(%)
男女別	合計 (N=1214)	6.0	8.0	24.3	15.6	10.9	9.3	5.9	2.1	8.6	9.4	
	男性 (N=487)	4.3	7.2	25.3	18.3	11.7	9.0	7.0	2.1	8.0	7.2	
	女性 (N=703)	7.3	8.4	24.0	14.1	10.5	9.7	5.4	2.1	9.1	9.4	
年代別	10・20代 (N=107)	6.5	5.6	14.0	10.3	8.4	5.6	6.5	3.7	33.6	5.6	
	30代 (N=123)	2.4	0.8	14.6	20.3	19.5	14.6	8.1	1.6	10.6	7.3	
	40代 (N=196)	3.6	3.1	12.8	20.4	17.9	16.8	10.2	2.6	6.1	6.6	
	50代 (N=218)	5.0	2.3	15.6	13.8	15.1	16.1	10.6	3.2	6.0	12.4	
	60代 (N=191)	8.4	8.9	30.4	19.9	8.4	4.7	4.7	1.6	4.2	8.9	
	70代以上 (N=359)	8.1	16.7	39.6	12.5	4.2	3.1	0.8	1.1	5.6	8.4	



## 2. 各質問項目の結果

ここからは回答者個人の属性だけでなく、意識や行動などの項目についての結果の概要を示す。ここでも基本的には性別・年齢によるクロス集計を提示する。なお、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。回答者の性別と年齢の分布については、図1と図2を参照のこと。

なお、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。

Q1の生活満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「満足」または「やや満足」と回答している。年代別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が71.0%と最も高く、50代が59.6%と最も低い(図10)。

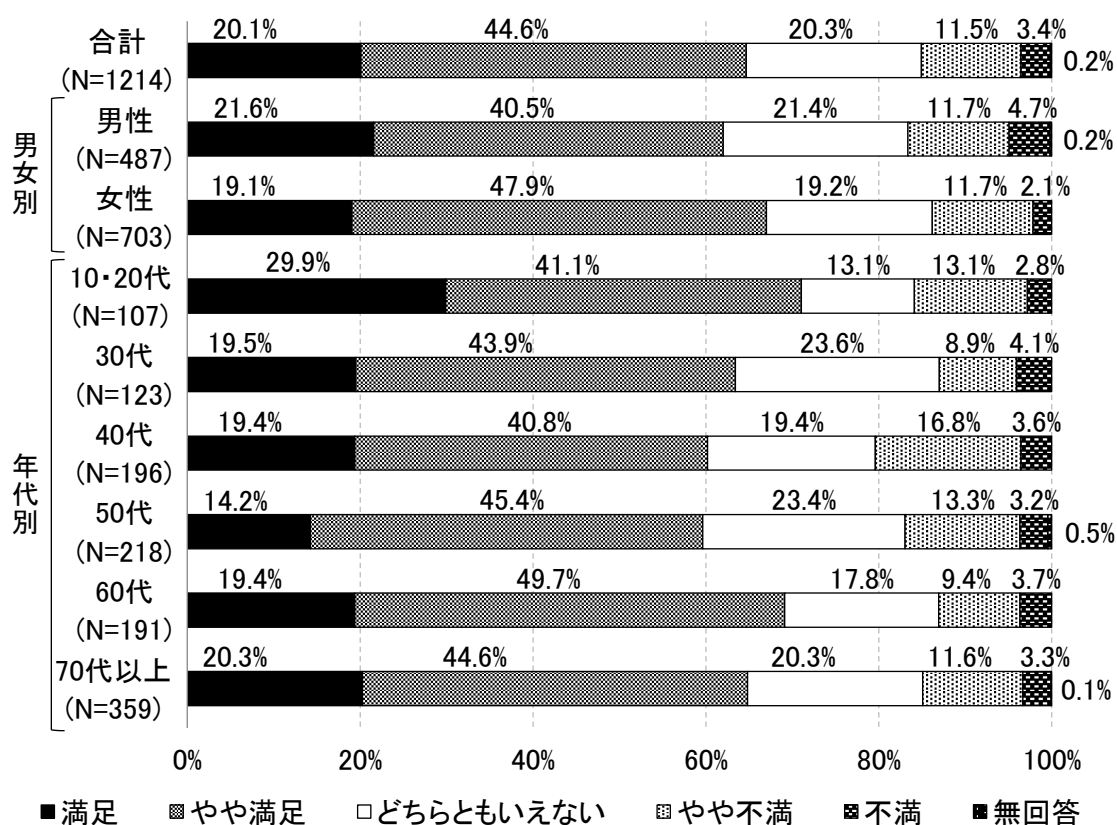


図10 Q1 生活満足度

Q2の幸福度に関して、男女別で見ると、男女ともに「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は7割程度である。年代別で見ると、「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合はすべての層で6割を超えており、30代が80.5%と最も高い(図11)。

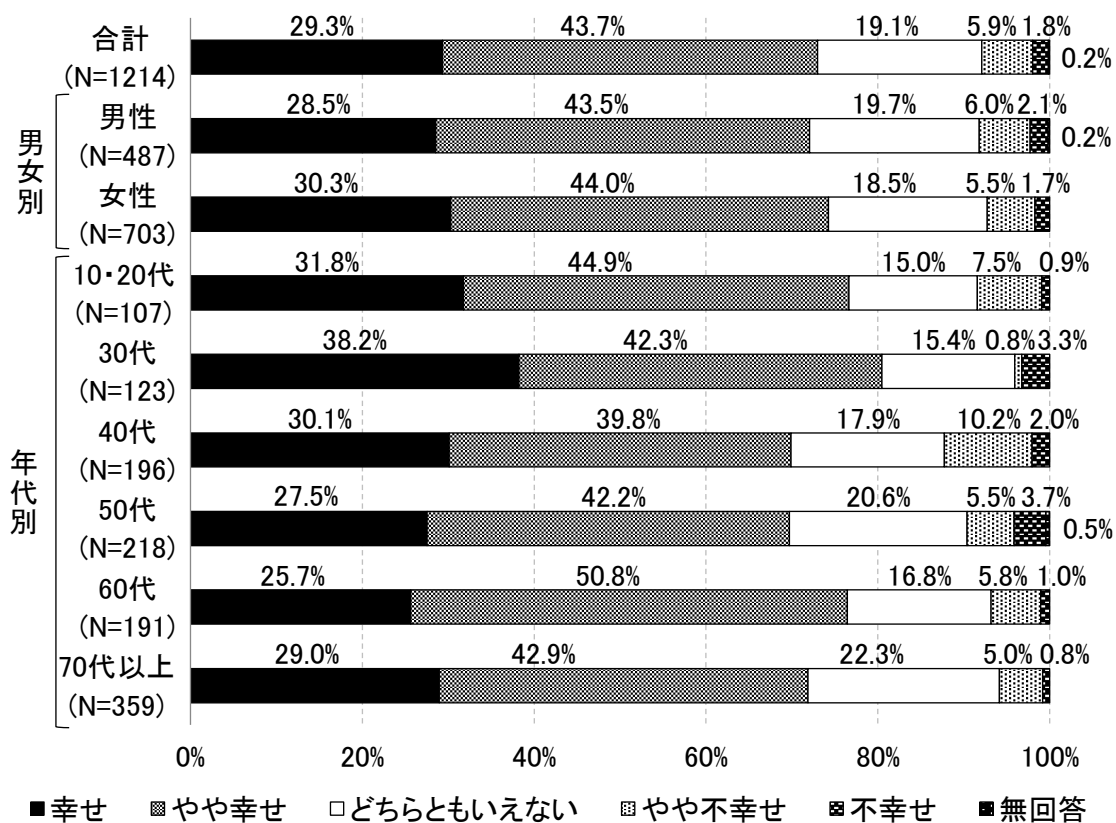


図 11 Q2 幸福度

Q3 の居住地は暮らしやすいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が89.7%と最も高い。反対に40代が78.0%と最も低い（図12）。

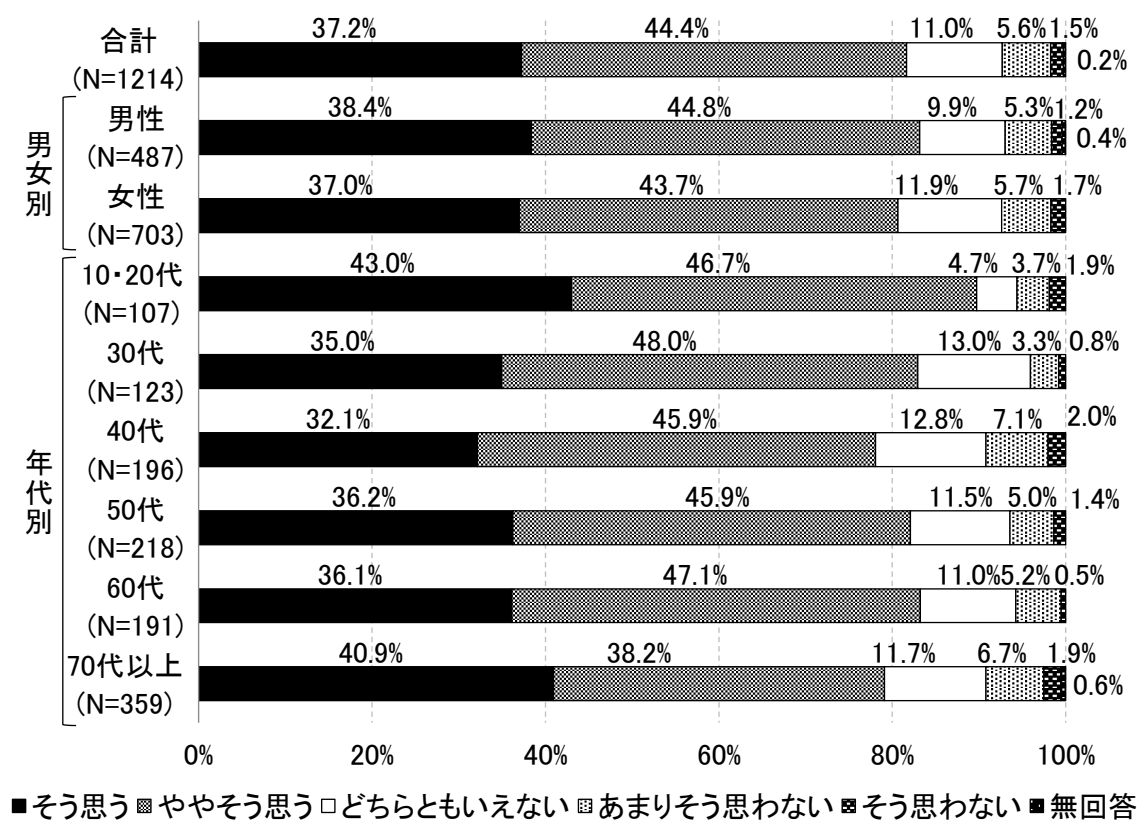


図12 Q3 居住地は暮らしやすいか

Q4の地域に住み続けたいかに関して、男女別・年代別のすべての層で4割以上が「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答している。年代別で見ると、「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答した人の割合は70代以上が68.5%と最も高い。反対に、10・20代は47.7%と最も低い(図13)。

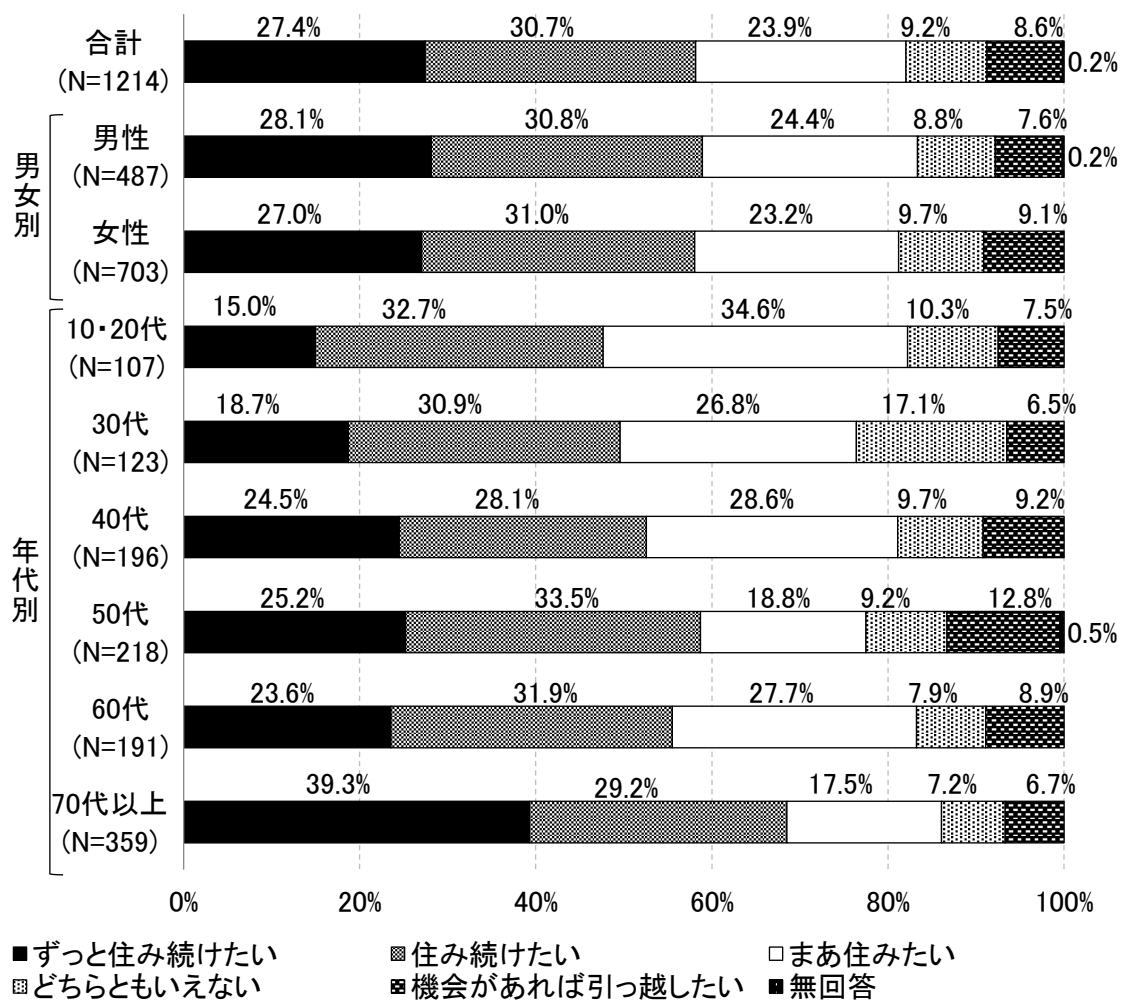


図13 Q4 地域に住み続けたいか

Q5の高槻市に地域ブランドがあると思うかに関して、男女別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合が男性で44.6%、女性が37.3%であり、男性の方が7.3ポイントほど高い。年代別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は30代が43.1%と最も高い。反対に、50代と60代は37.7%と最も低い(図14)。

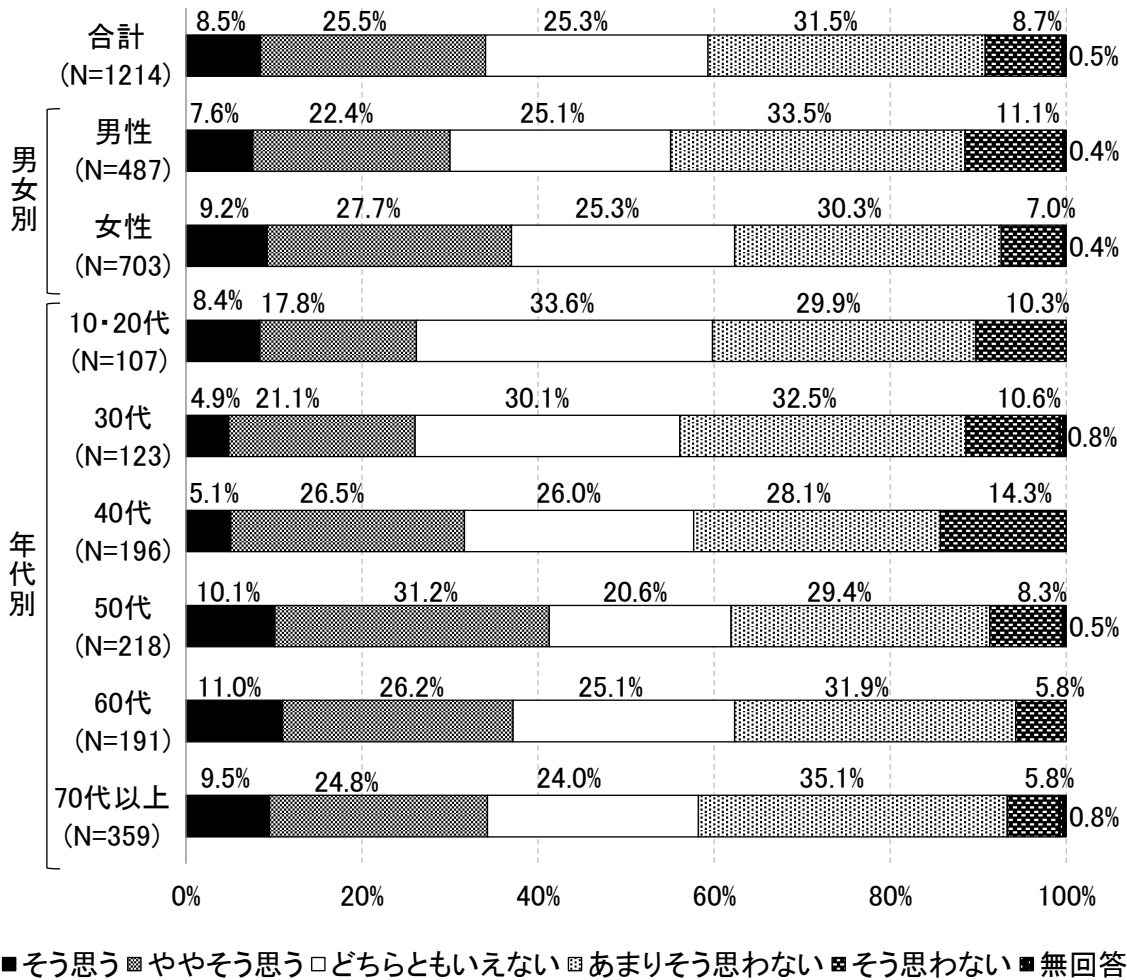


図 14 Q5 高槻市に地域ブランドがあると思うか

Q6の中心市街地に行く頻度が5年前と比べて増加したかに関して、年代別で見ると、10・20代と30代を除くすべての年代で、「減少した」または「少し減少した」と回答した人の割合の方が「増加した」または「少し増加した」と回答した人の割合よりも高い。10・20代は「増加した」、「少し増加した」と回答した人の割合が45.8%と最も高い。反対に、60代が19.3%と最も低い(図15)。

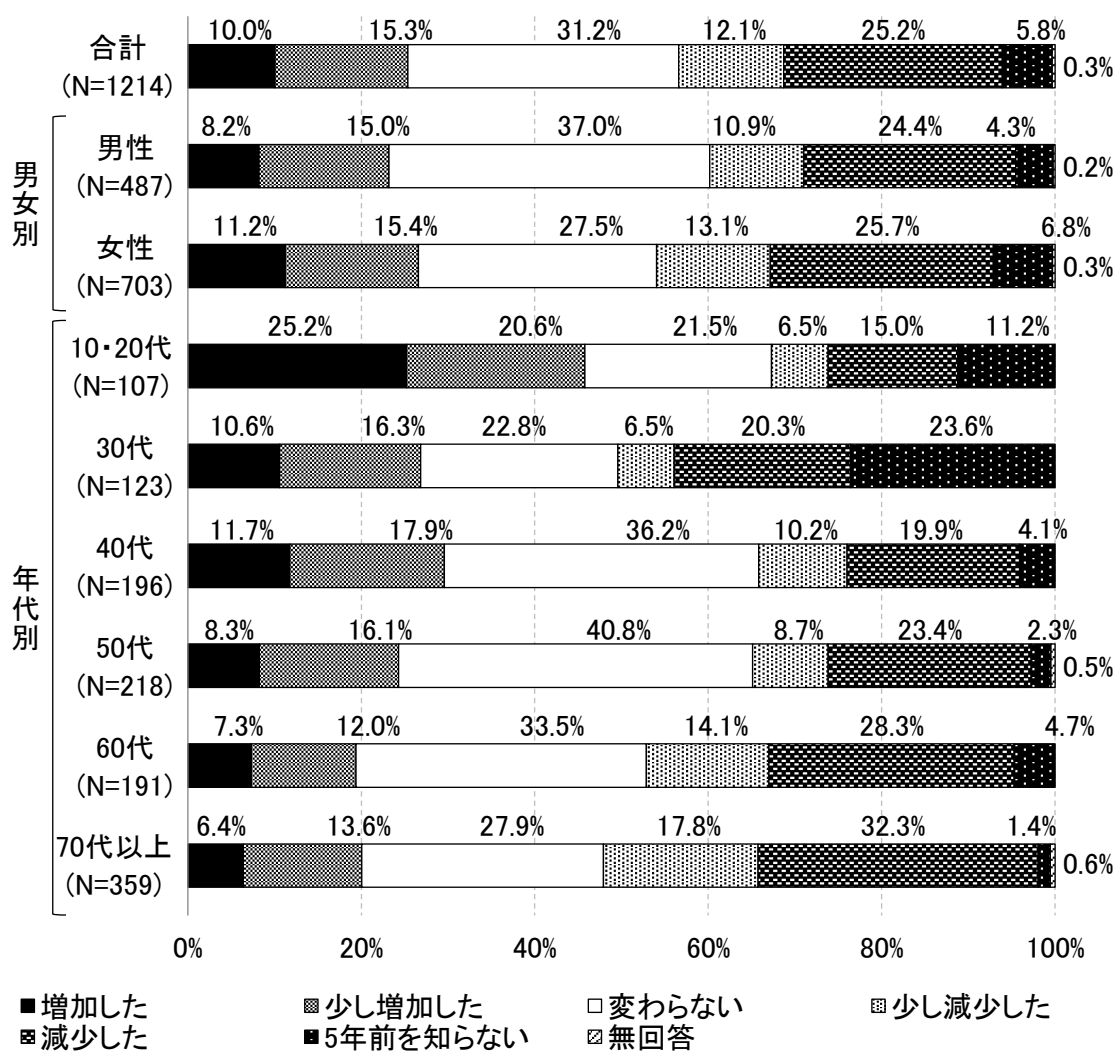


図15 Q6 中心市街地に行く頻度が5年前と比べて増加したか

Q7A～Q7F は、中心市街地において、各項目が5年前と比べて向上したか、低下したかを質問している。

Q7A の5年前と比べた場合の中心市街地の防災面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が1割以下である。さらに「向上した」の割合を年代別で見ると、30代が2割未満であるが、それ以外の年代が2割以上である（図16）。

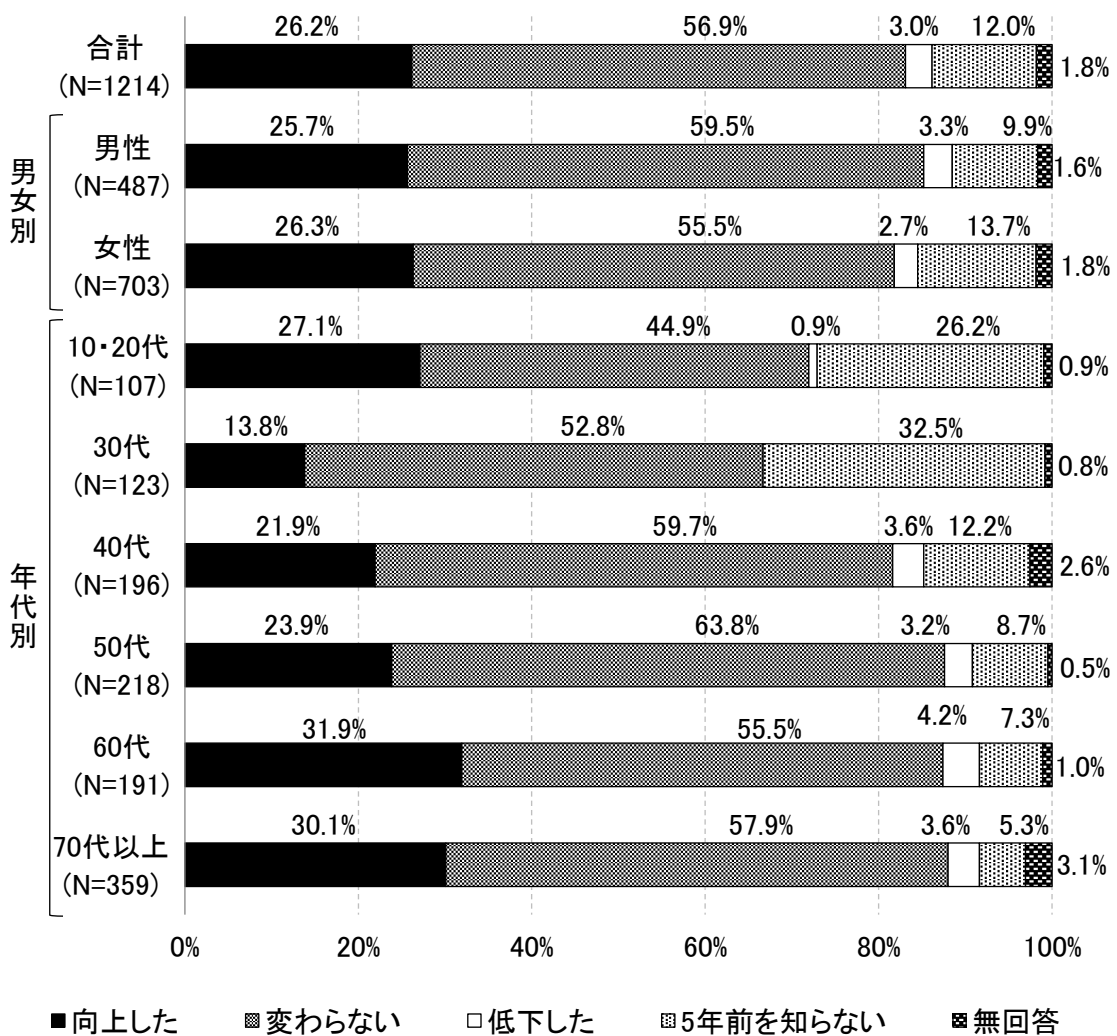


図16 Q7A 中心市街地で5年前と比べて向上したか（防災面での安全性や快適性）

Q7B の5年前と比べた場合の中心市街地の防犯面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合を年代別で見ると、10・20代が19.6%と最も高く、30代が12.2%と最も低い（図17）。

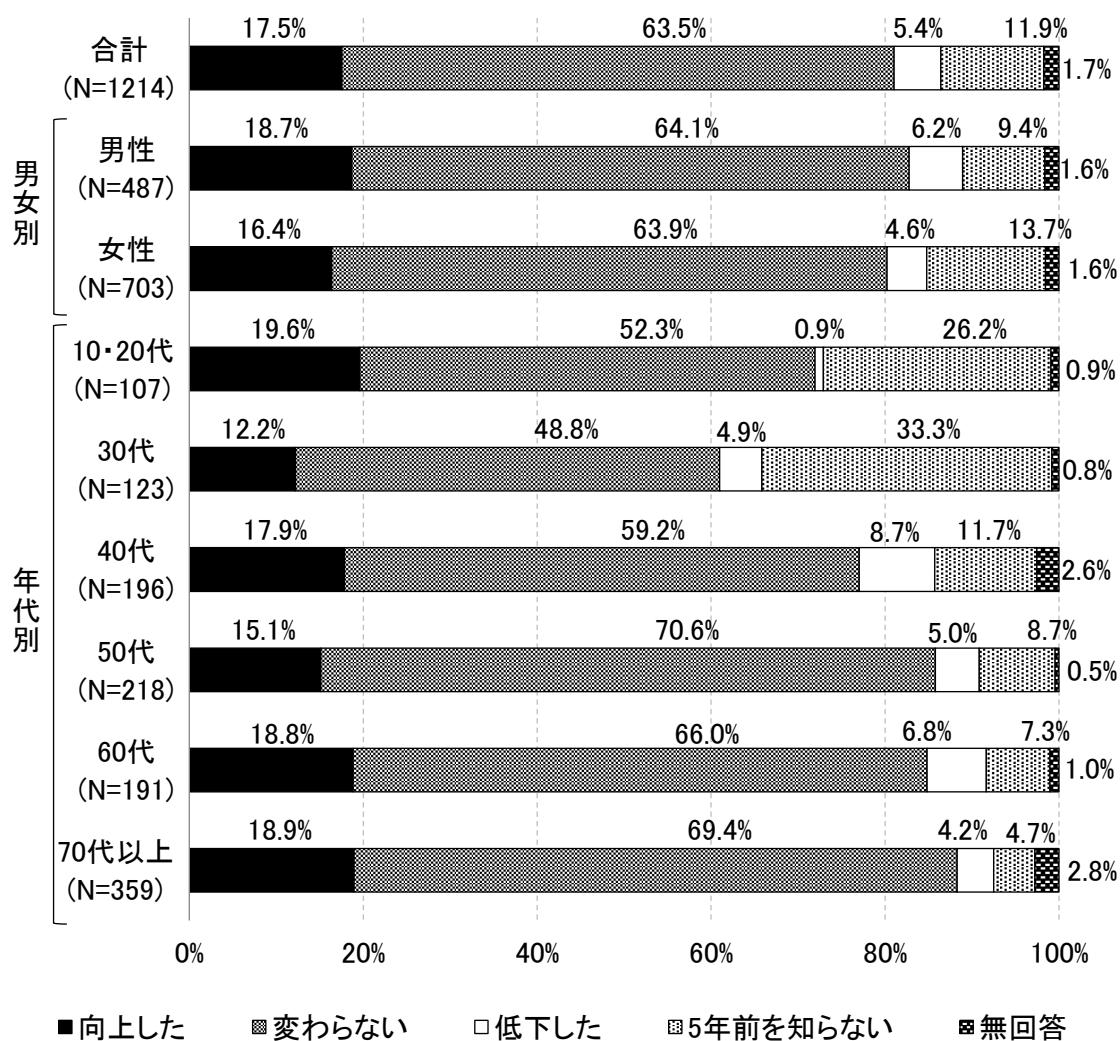


図 17 Q7B 中心市街地で5年前と比べて向上したか（防犯面での安全性や快適性）



Q7C の5年前と比べた場合の中心市街地の居住環境に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が1割以下である。「向上した」の割合を年代別で見ると10・20代を除くすべての層で約2割である。10・20代は27.4%である（図18）。

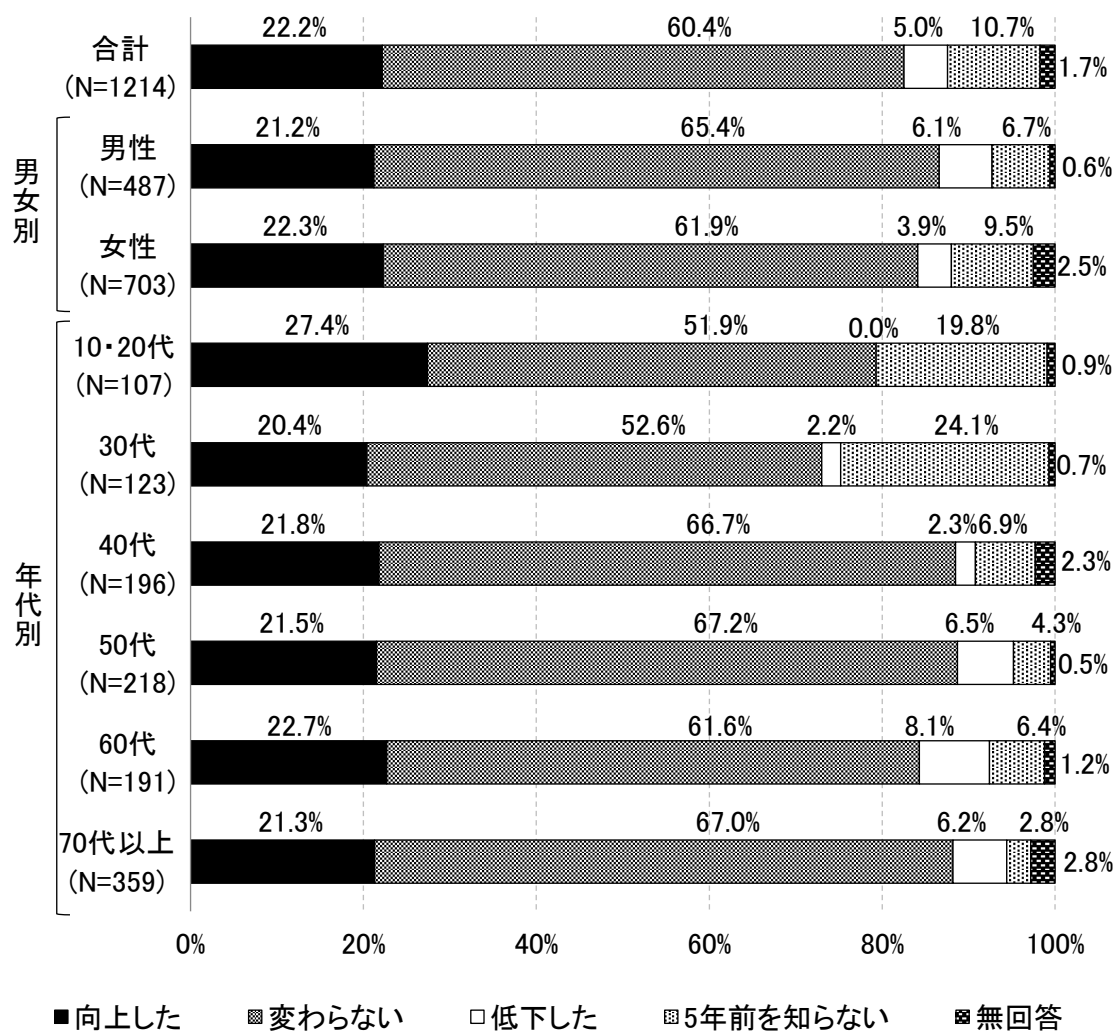


図18 Q7C 中心市街地で5年前と比べて向上したか（居住環境）

Q7D の5年前と比べた場合の中心市街地の公共交通機関の利便性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合は、男女ともに約2割である。年代別で見ると、「向上した」の割合は、10・20代と70代以上が2割以上であり、70代以上が23.7%と最も高く、反対に60代が15.2%と最も低い(図19)。

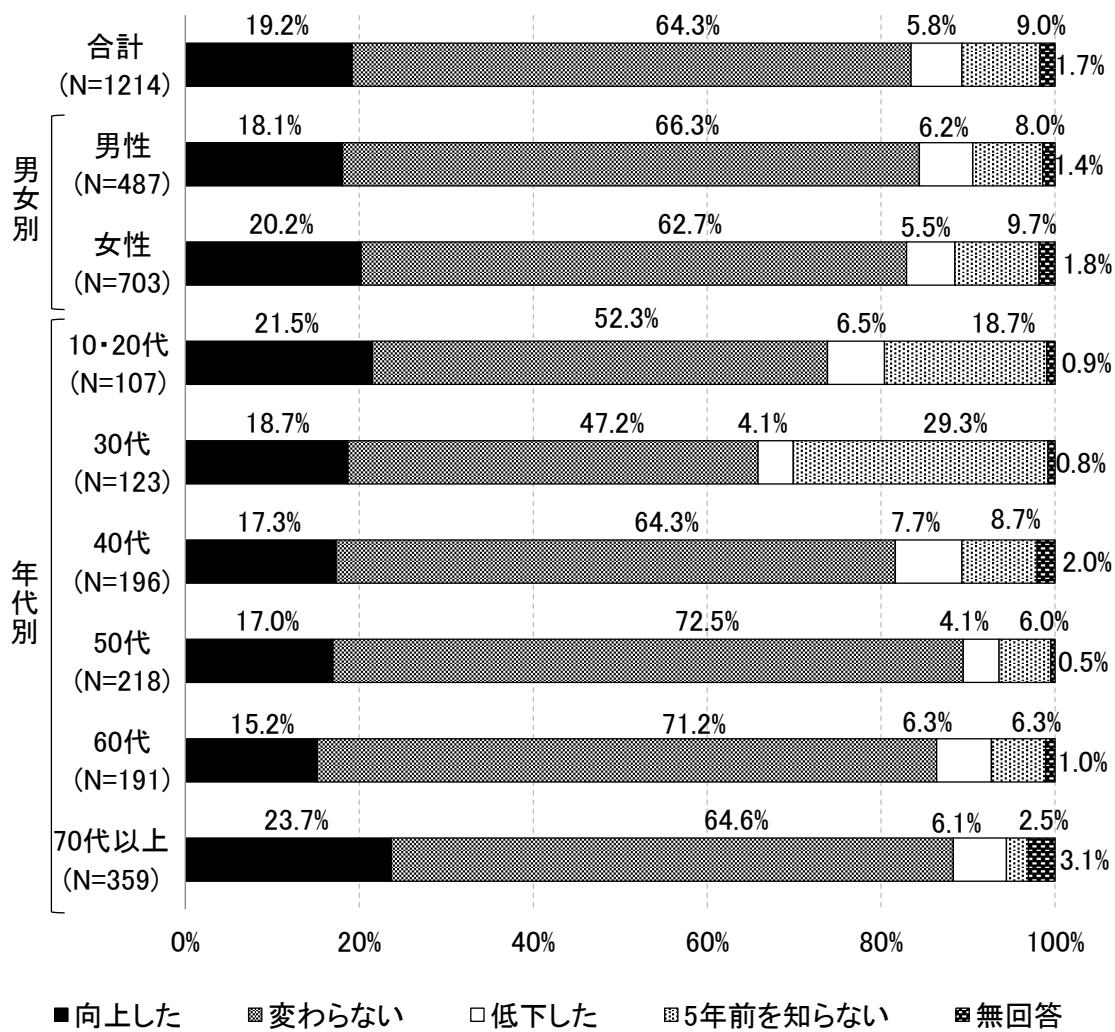


図19 Q7D 中心市街地で5年前と比べて向上したか (公共交通機関の利便性)

Q7E の5年前と比べた場合の中心市街地の歩行者にとっての歩きやすさに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「向上した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割以上である。年代別で見ると、「向上した」の割合は、10・20代が23.4%と最も高い。反対に70代以上が、13.6%と最も低い（図20）。

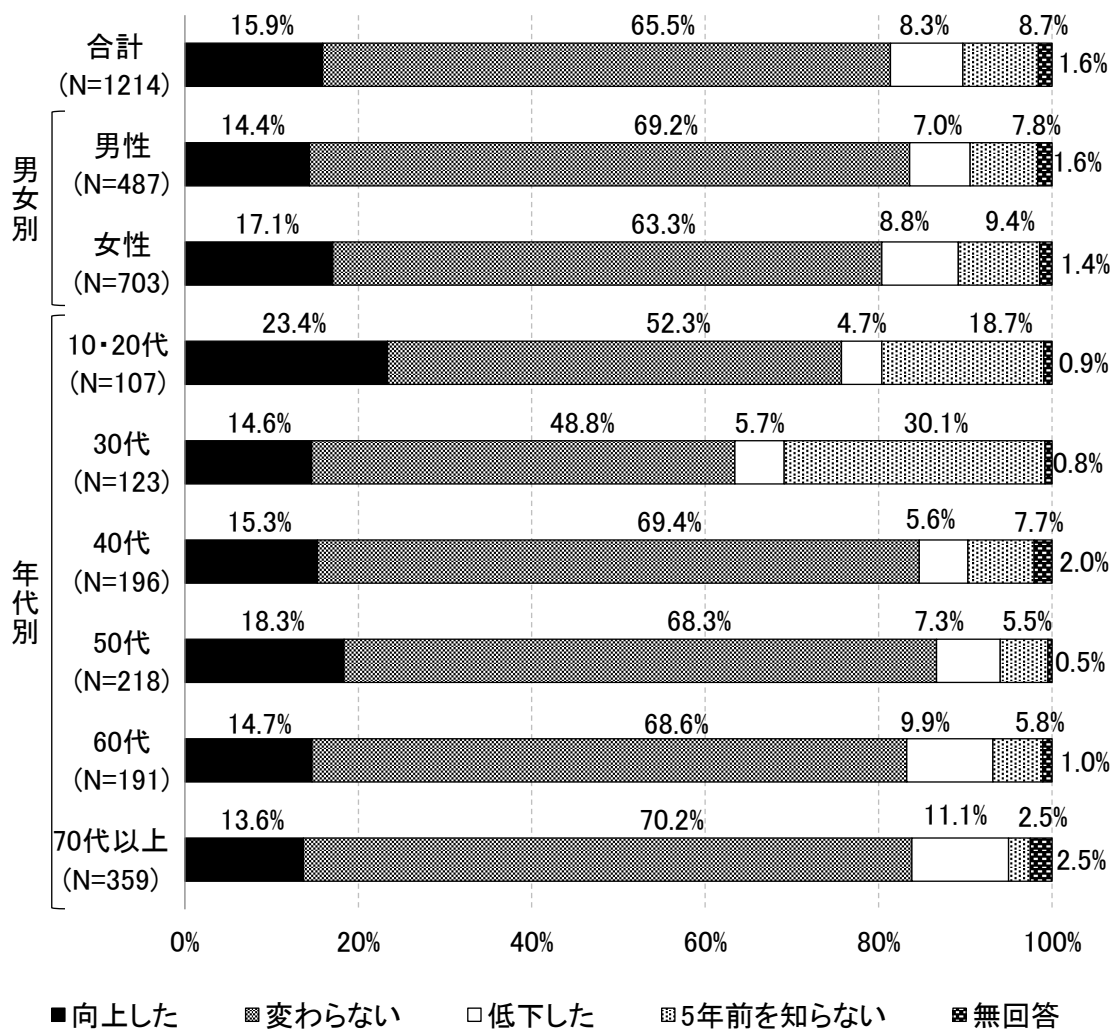


図20 Q7E 中心市街地で5年前と比べて向上したか（歩行者にとっての歩きやすさ）

Q7F の5年前と比べた場合の中心市街地の風紀や治安に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、年代別で見ると、「向上した」の割合は、50代と60代を除くすべての層で1割以上となっている。「向上した」の割合は、10・20代が15.9%と最も高く、50代が7.8%と最も低い。(図 21)。

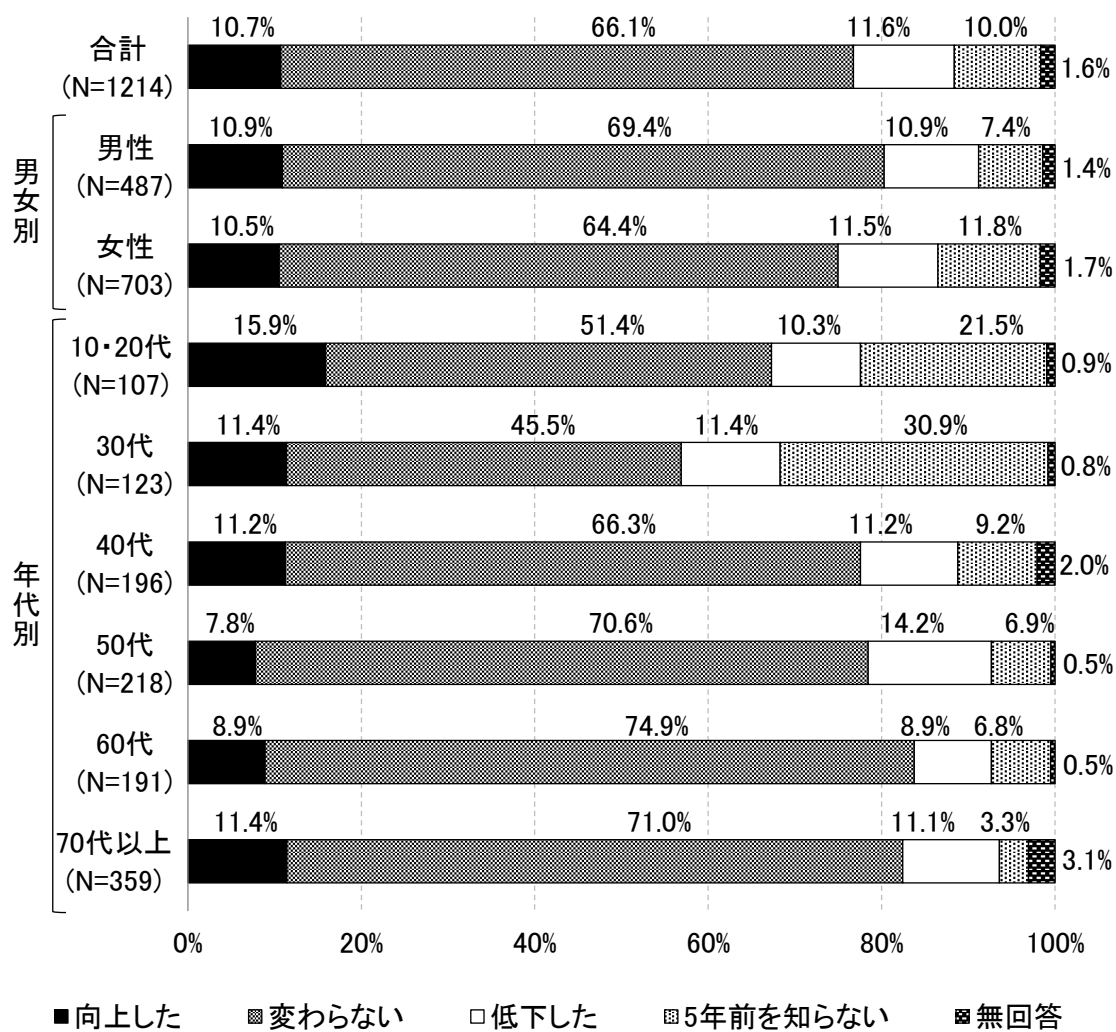


図 21 Q7F 中心市街地で5年前と比べて向上したか (風紀や治安)

Q8A～Q8L が、中心市街地において、それぞれが5年前と比べて増加したか減少したかを質問している。なお、Q8A～Q8K のいずれにおいても、10・20代と30代で「5年前を知らない」の割合が高くなっている。

Q8A の文化活動に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割に満たない（図 22）。

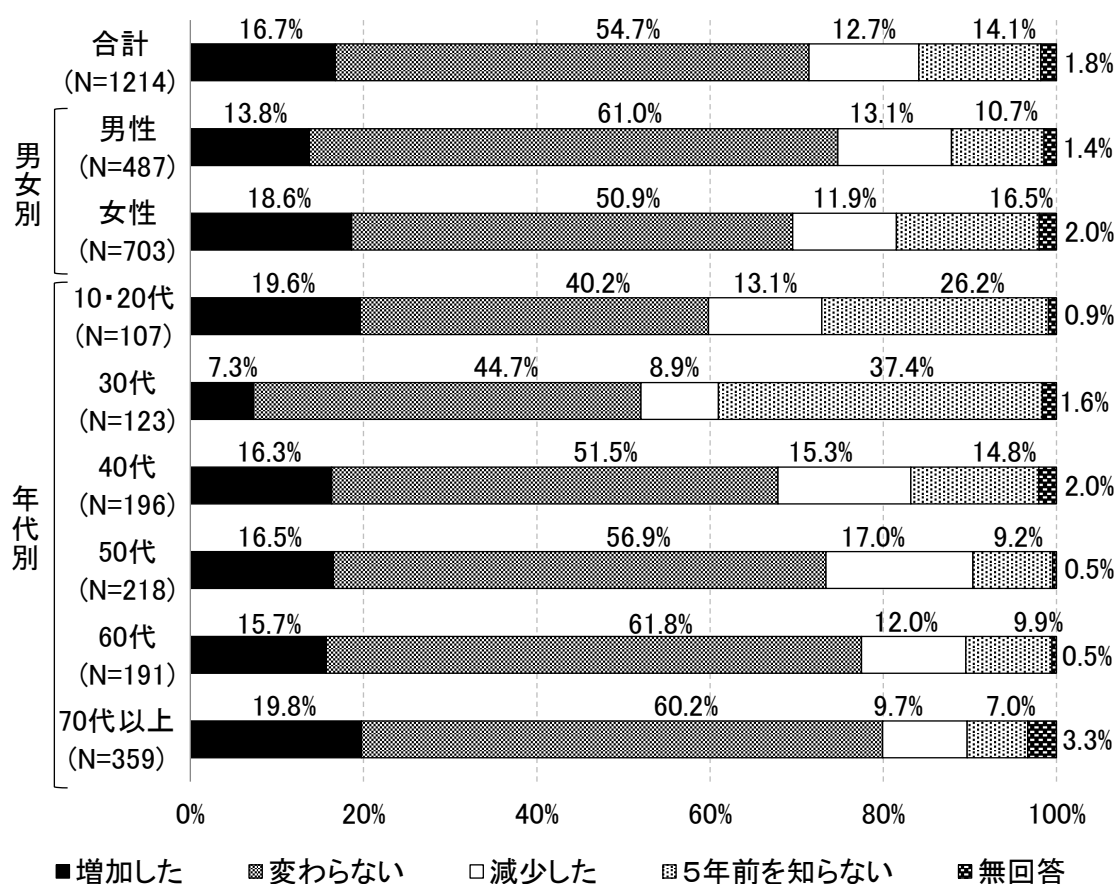


図 22 Q8A 中心市街地で5年前と比べて増加したか（文化活動）

Q8B のコミュニティ活動に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、すべての年代で2割未満である。「減少した」の割合も、男女別・年代別のすべての層で2割未満である（図 23）。

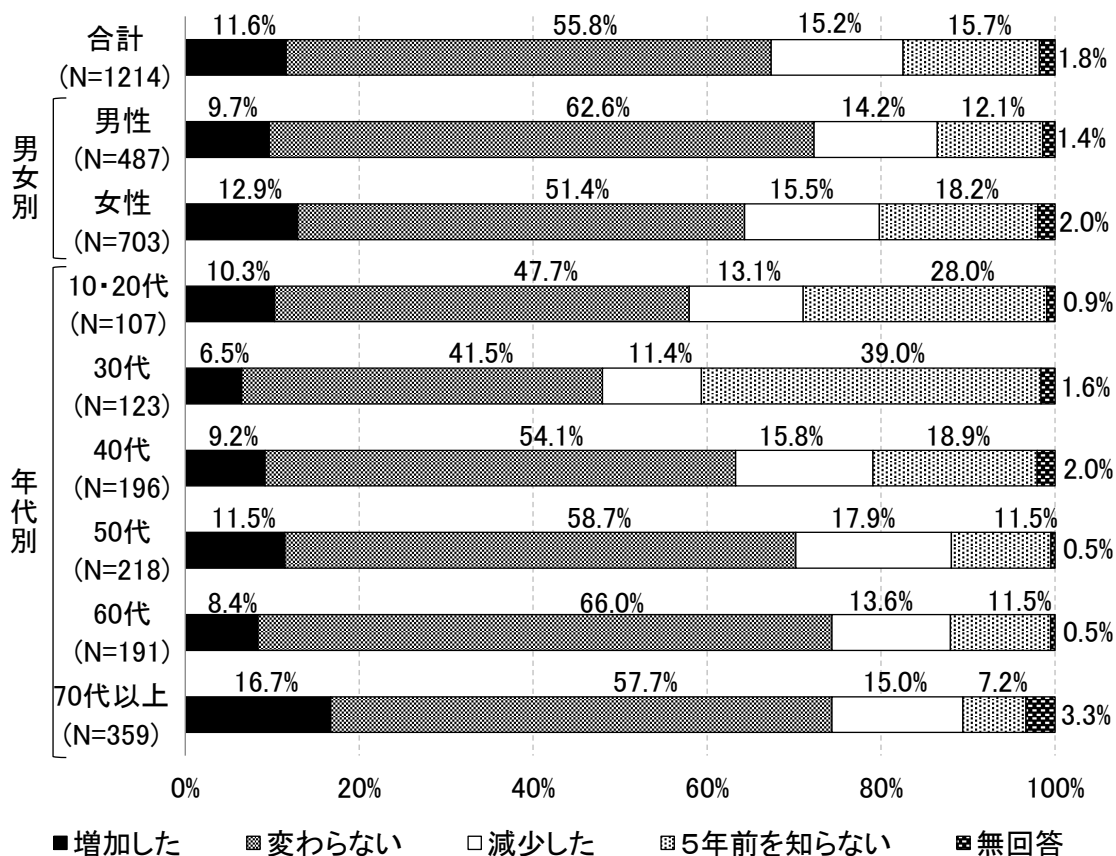


図 23 Q8B 中心市街地で5年前と比べて増加したか（コミュニティ活動）

Q8C の商店街の魅力に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である。「減少した」の割合は、30代は12.2%で最低であり、60代は28.8%で最高である（図24）。

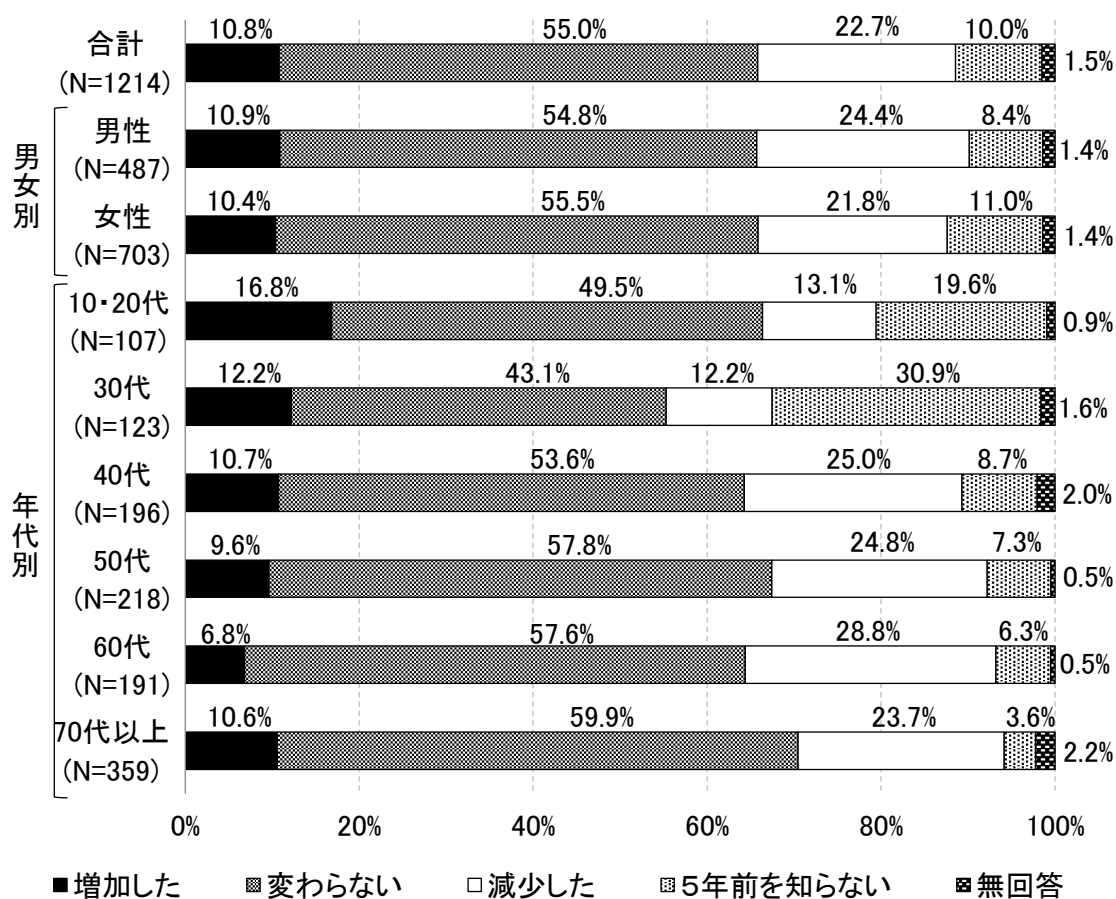


図 24 Q8C 中心市街地で5年前と比べて増加したか（商店街の魅力）

Q8D の百貨店などの大型店の魅力に関して、10・20代、30代で「増加した」が、50代、60代、70代以上で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、すべての年代で2割以上であり、10・20代が43.0%と最も高い。「減少した」の割合は、60代が27.7%と最も高く、反対に30代が6.5%と最も低い（図25）。

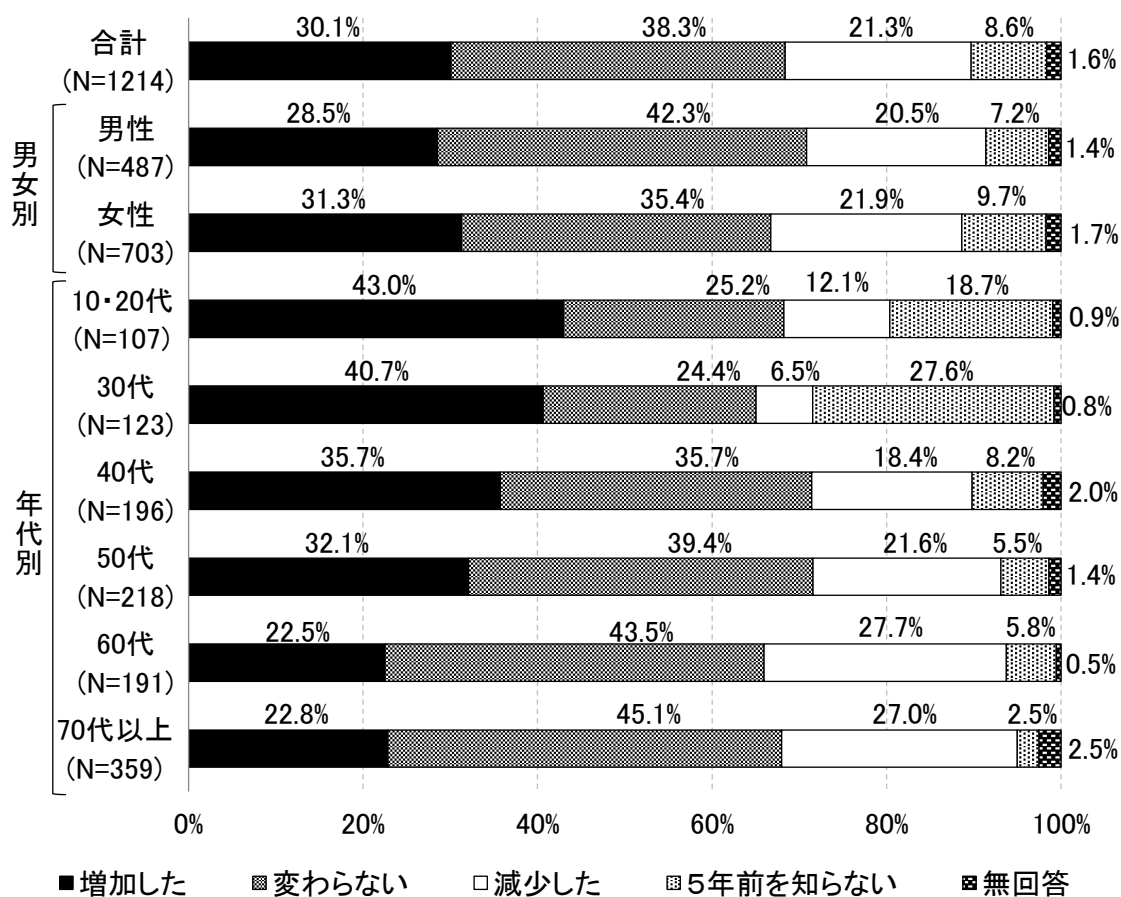


図 25 Q8D 中心市街地で5年前と比べて増加したか（百貨店などの大型店の魅力）



Q8E の買い物やイベントでのにぎわいに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、すべての年代で3割未満である。「減少した」の割合は、30代以下は2割未満であり、40代以上は3割程度である（図26）。

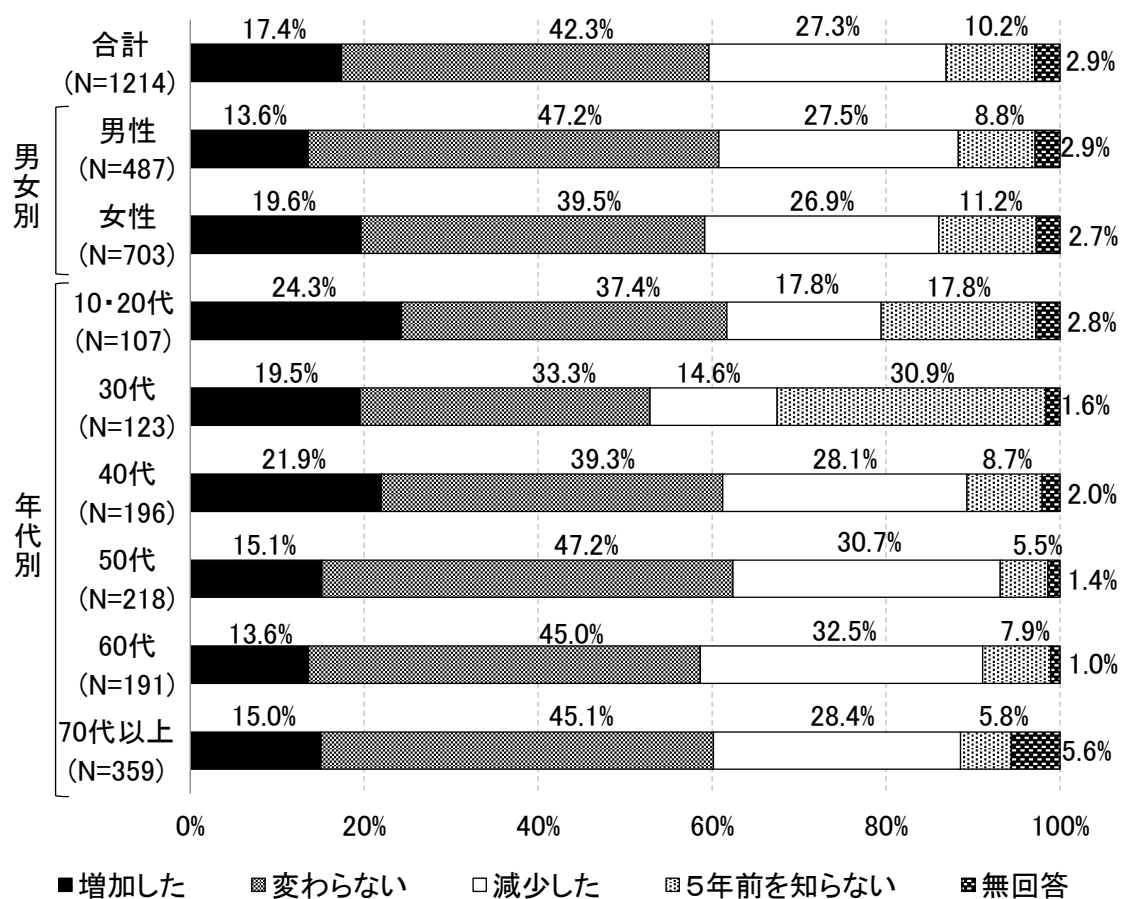


図 26 Q8E 中心市街地で5年前と比べて増加したか  
(買い物やイベントでのにぎわい)

Q8Fの魅力的な飲食店に関して、30代を除くすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、10・20代が33.6%と最も高く、反対に70代以上で13.6%と最も低い（図27）。

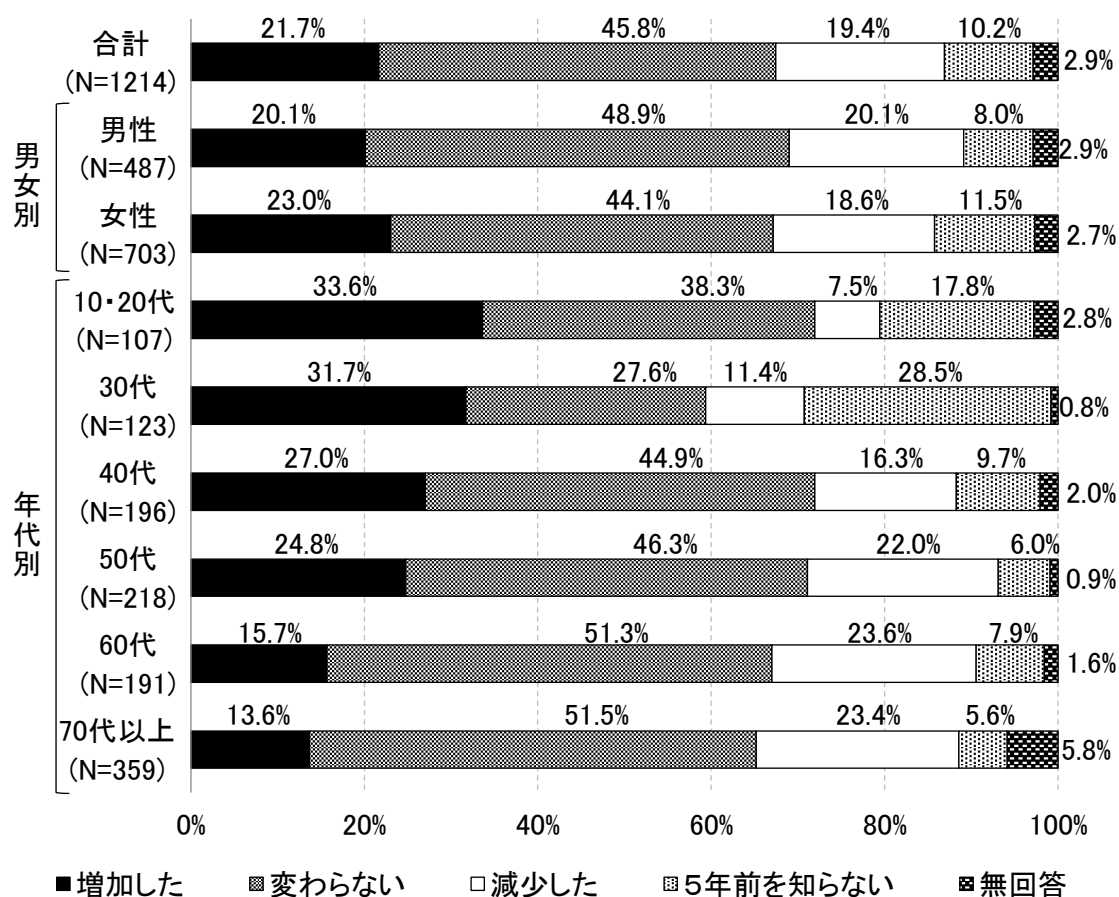


図27 Q8F 中心市街地で5年前と比べて増加したか（魅力的な飲食店）

Q8G のオフィスなどの業務施設に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、年代別の 10・20 代の 10.3%を除くと男女別・年代別のすべての層でいずれも 1 割未満である（図 28）。

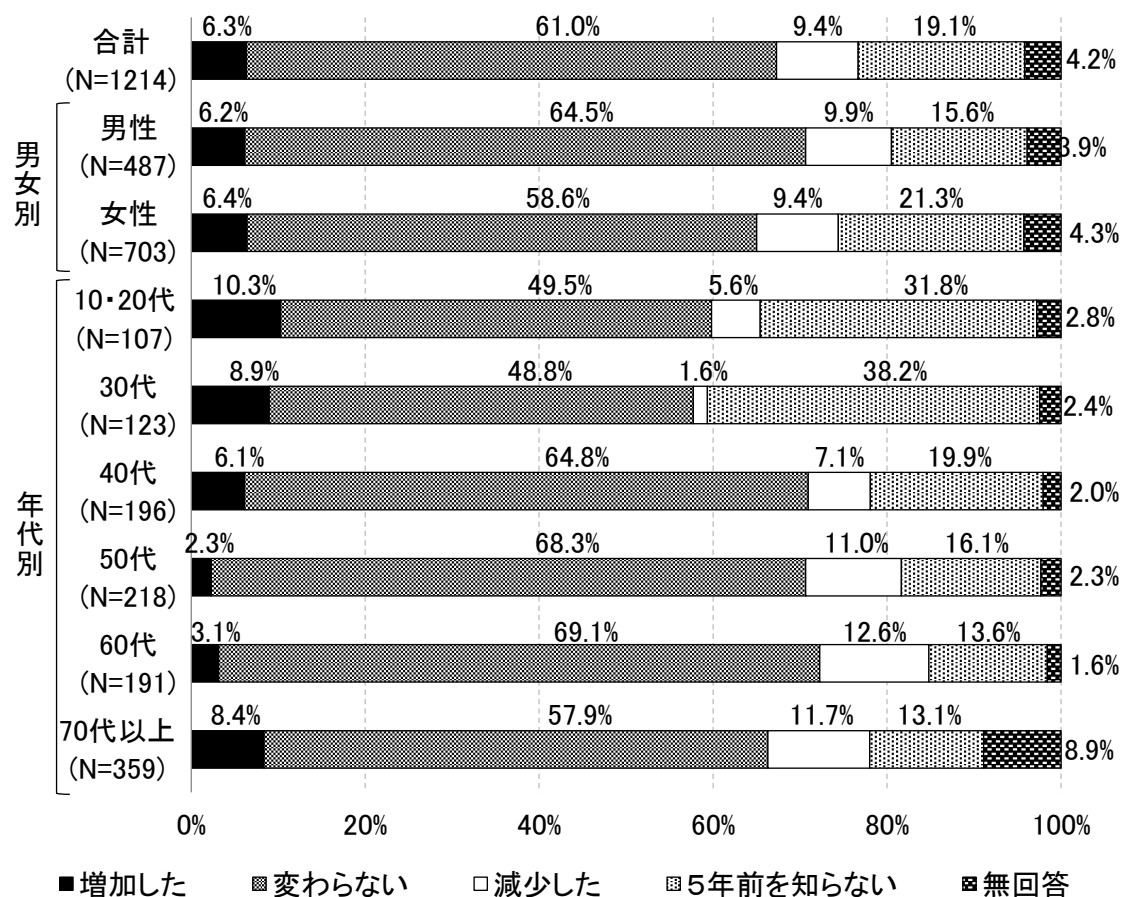


図 28 Q8G 中心市街地で 5 年前と比べて増加したか（オフィスなど業務施設）

Q8H の病院などの医療機関に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、年代別で見ると、「増加した」の割合は40代、50代、70代以上は2割を超えているが、30代は17.9%と最も低い。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図 29）。

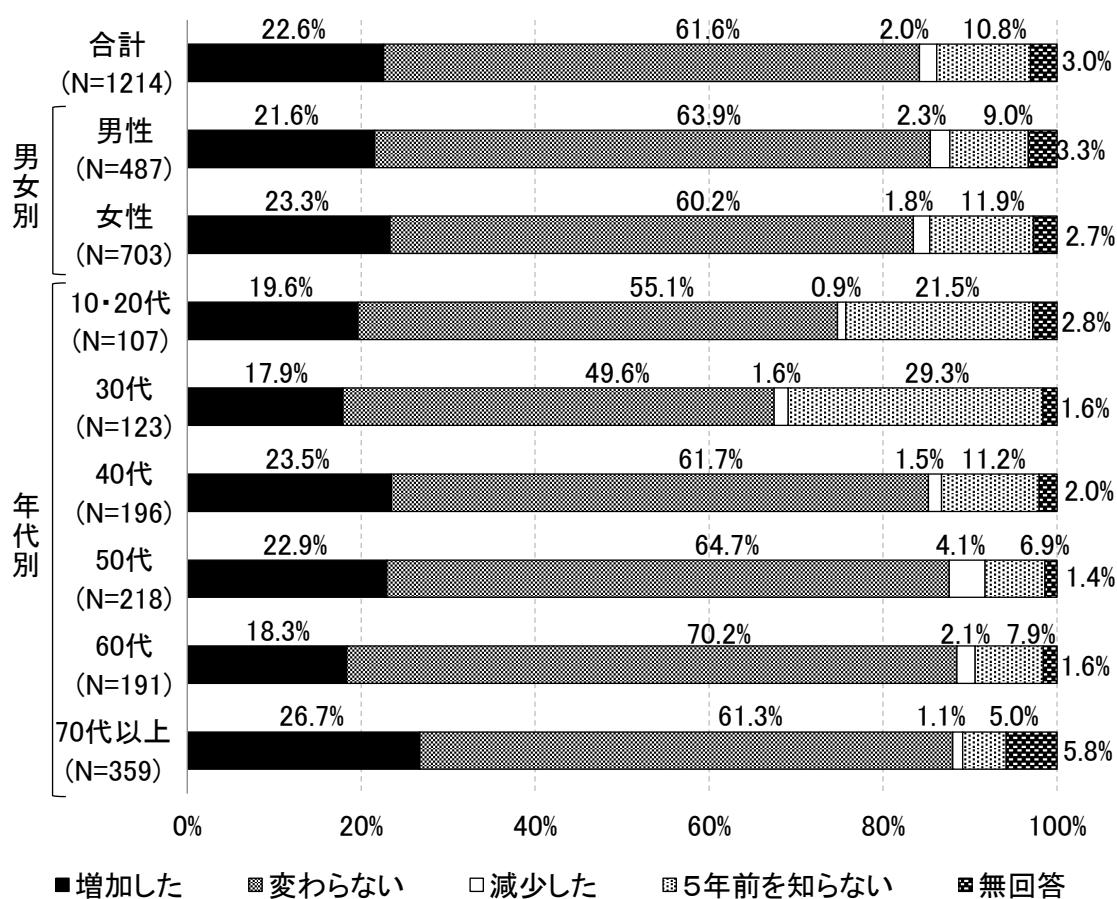


図 29 Q8H 中心市街地で5年前と比べて増加したか（病院などの医療機関）

Q8I の道路の渋滞に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、40代と70代以上を除くすべての年代で2割未満である。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である（図30）。

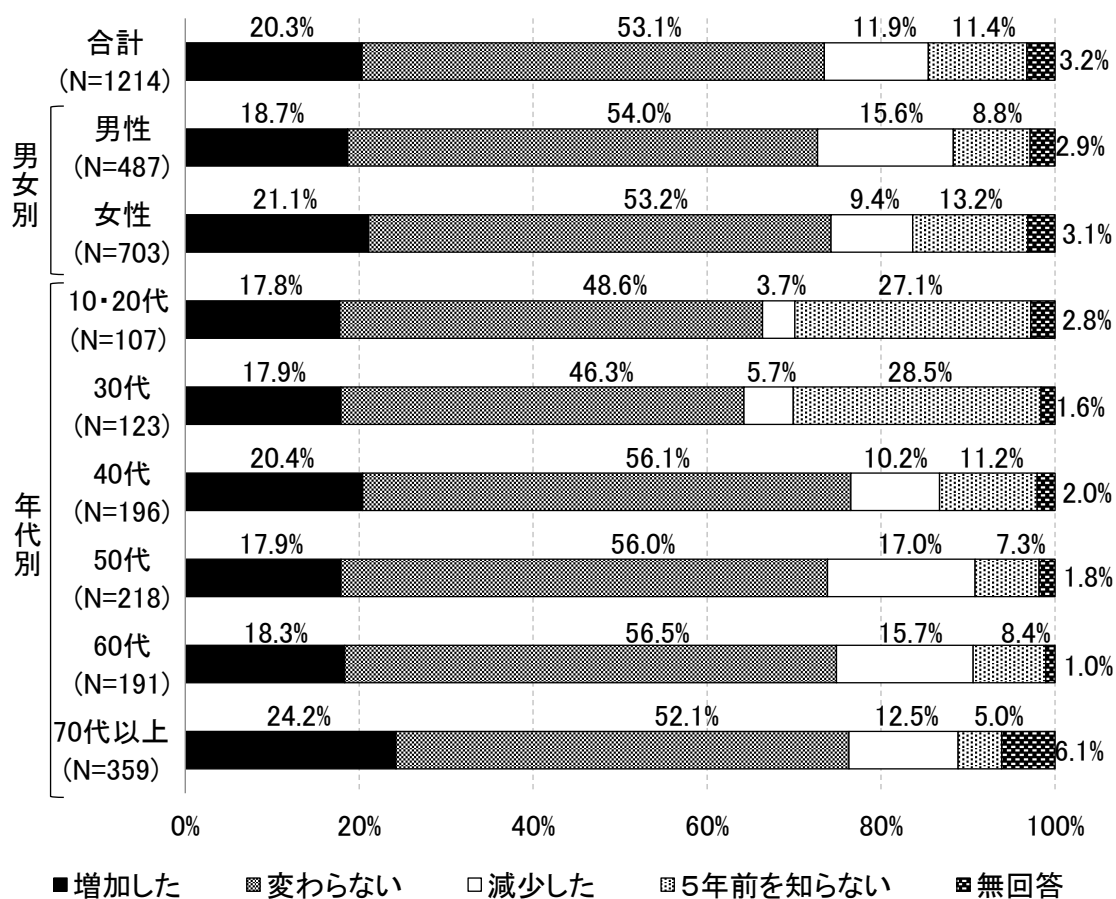


図30 Q8I 中心市街地で5年前と比べて増加したか（道路の渋滞）

Q8J の駐輪場に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、30代が22.8%と最も高く、反対に60代が16.8%と最も低い。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図31）。

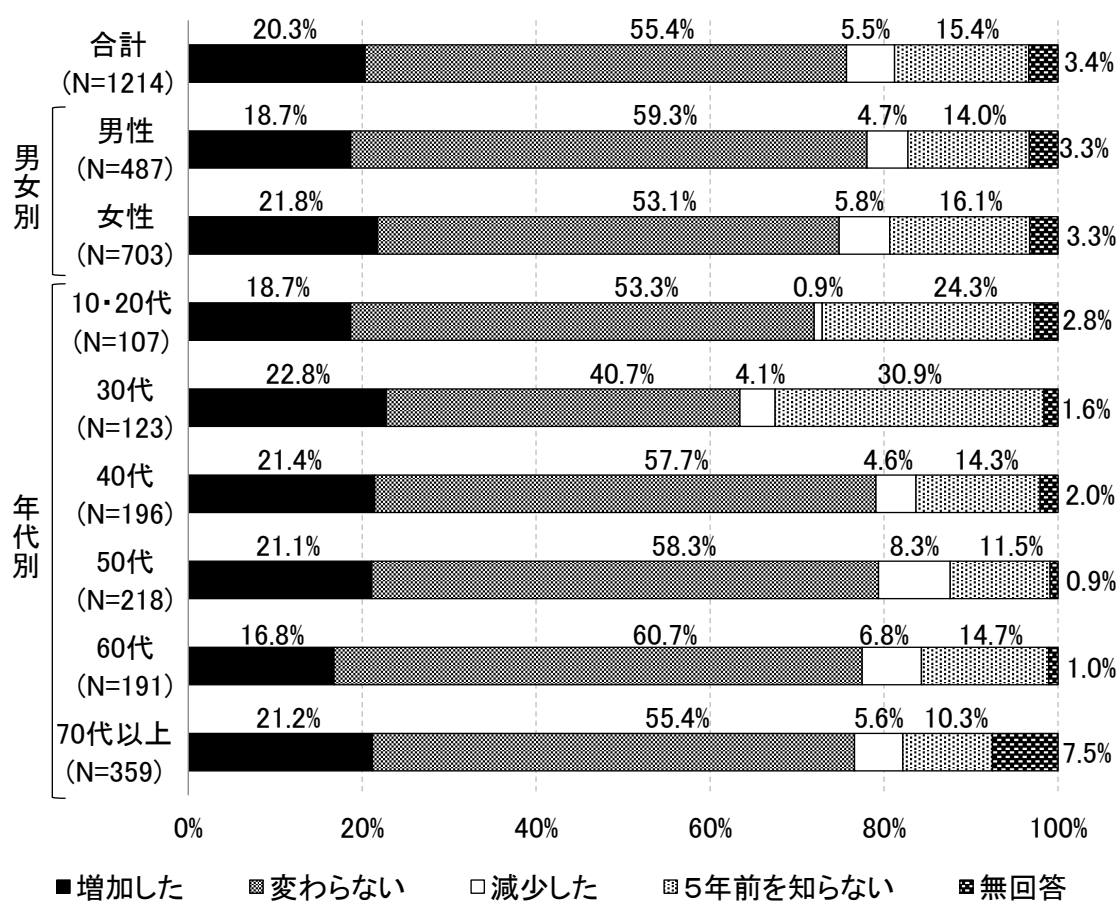


図31 Q8J 中心市街地で5年前と比べて増加したか（駐輪場）

Q8 K の駐車場に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、70代以上が21.7%と最も高く、反対に10・20代が12.1%と最も低い。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図32）。

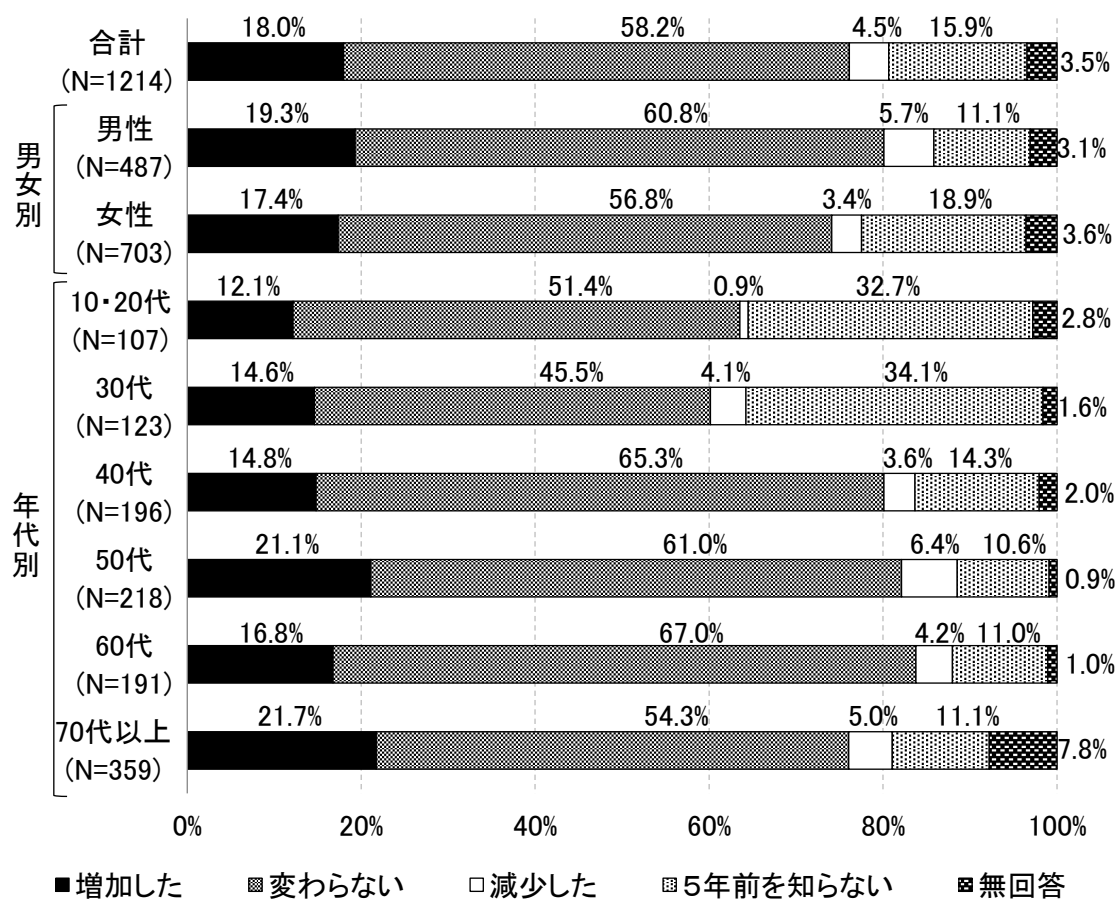


図 32 Q8 K 中心市街地で5年前と比べて増加したか（駐車場）

Q8L の街なかの緑や潤いに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、60代が15.7%と最も高く、50代が9.2%と最も低い。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満であり、70代以上が15.3%と最も高く、30代が7.3%と最も低い（図33）。

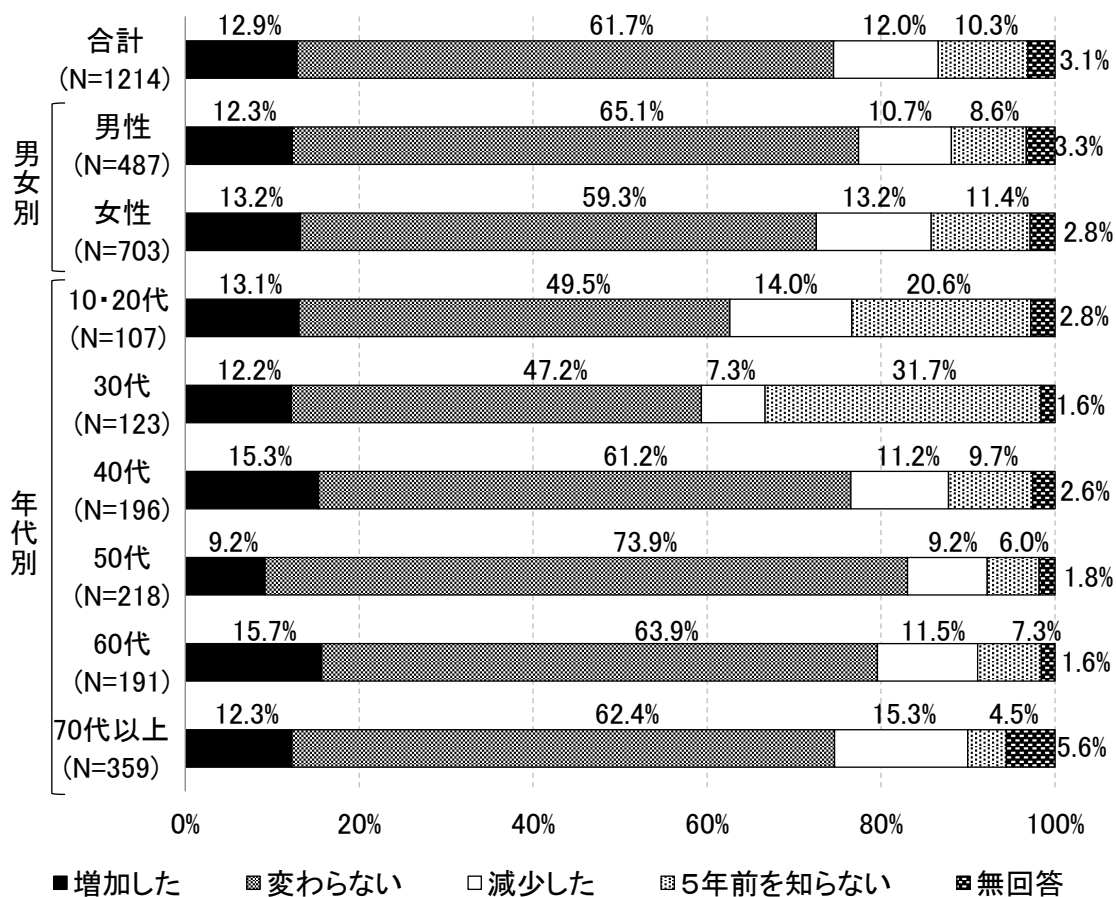


図 33 Q8L 中心市街地で5年前と比べて増加したか（街なかの緑や潤い）



Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、「治安・防犯の向上」が 53.1%と最も高く、「医療機能の充実」が 52.6%と続く（図 34）。

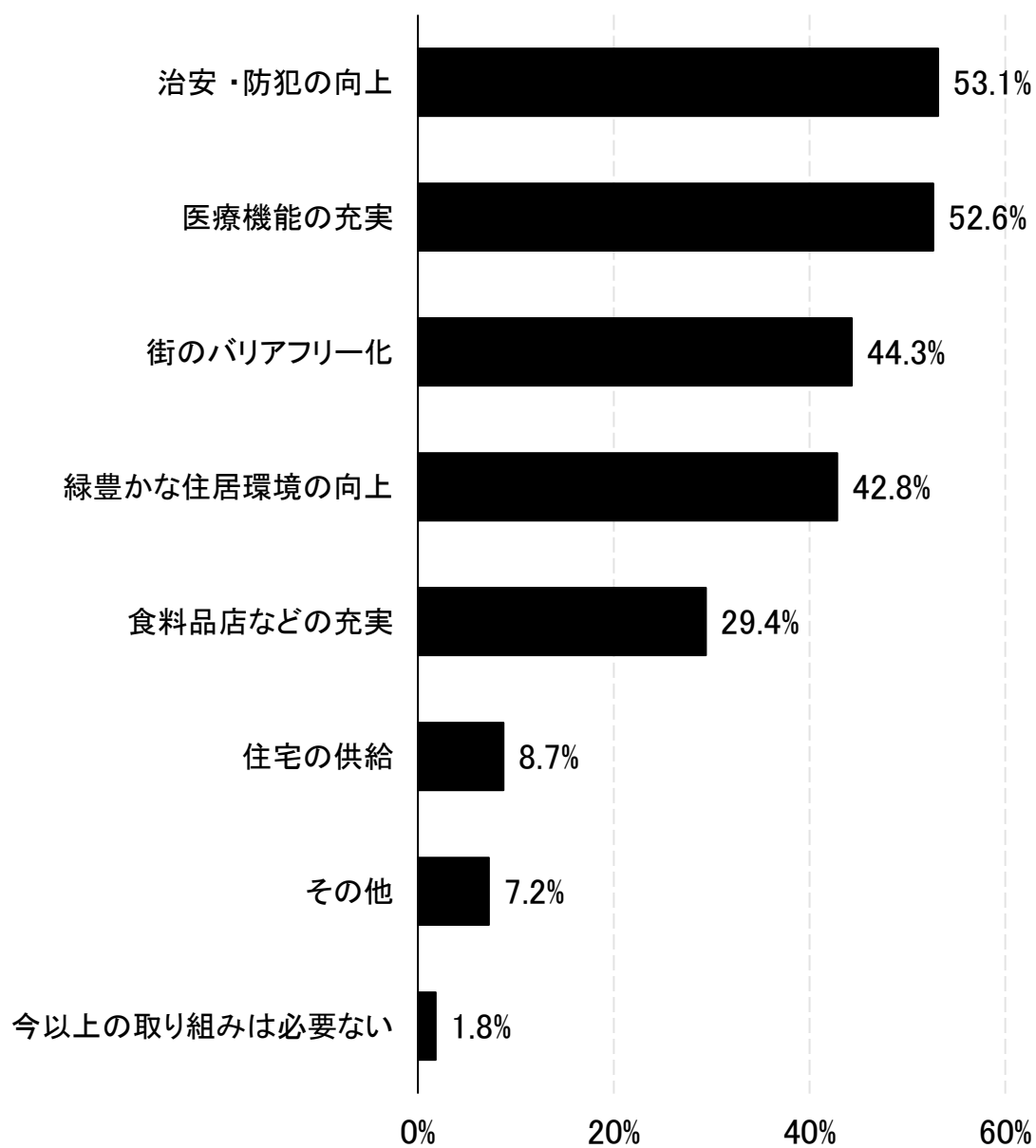


図 34 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・全体 N=1224）

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、男女別で見ると、「医療機能の充実」は、男性よりも女性の方が 10.6 ポイント高い（図 35）。

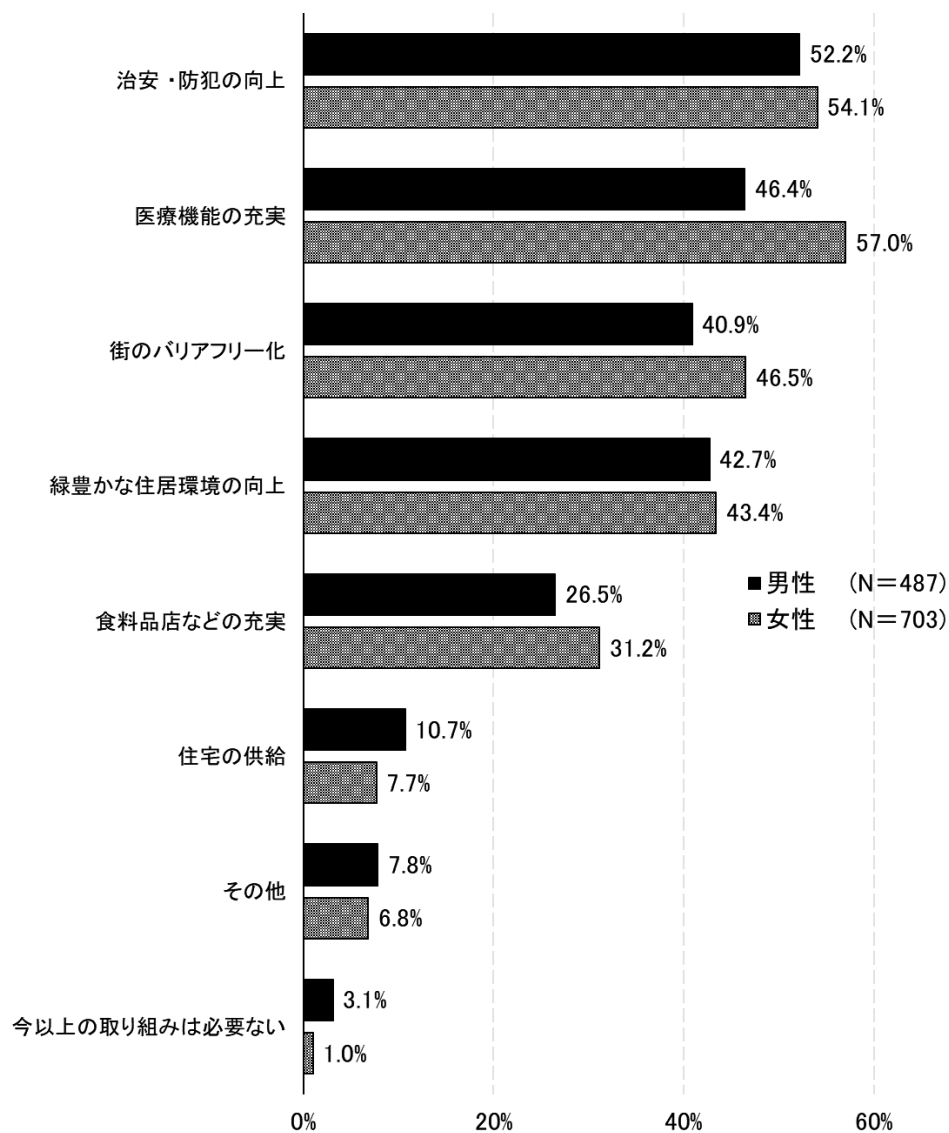


図 35 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・男女別）

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、年代別で見ると、「街のバリアフリー化」は 40 代以下と 50 代以上で差があり、70 代以上が 53.8%と高く、反対に 30 代は 26.8%と低い（図 36）。

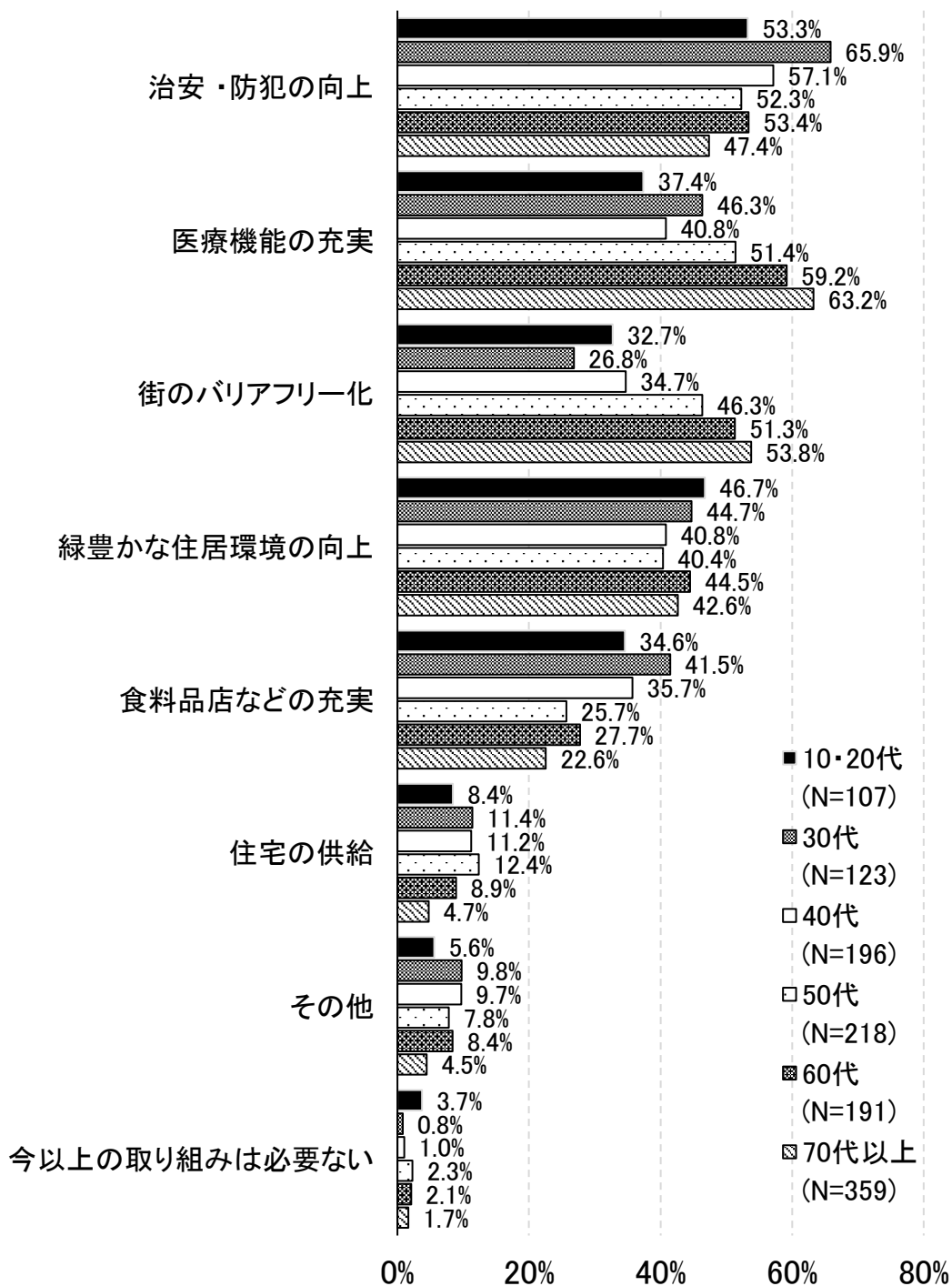


図 36 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・年代別）

Q10A の徒歩における歩道の整備の状況の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代と40代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が40.8%と最も高い。反対に、10・20代は19.6%と最も低い（図37）。

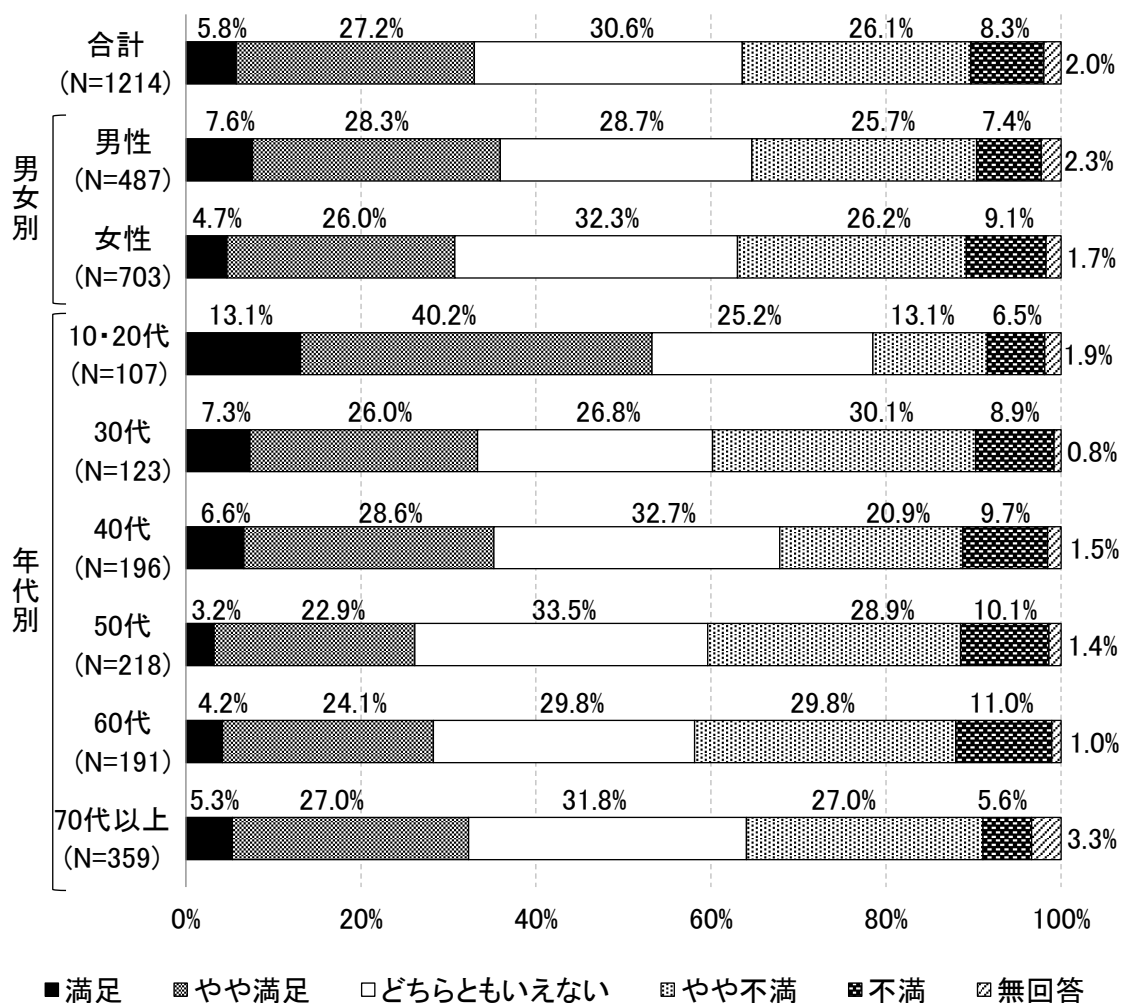


図 37 Q10A 交通手段満足度（徒歩：歩道の整備の状況）

Q10Bの徒歩におけるバリアフリー化の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上が22.3%と最も高い(図38)。

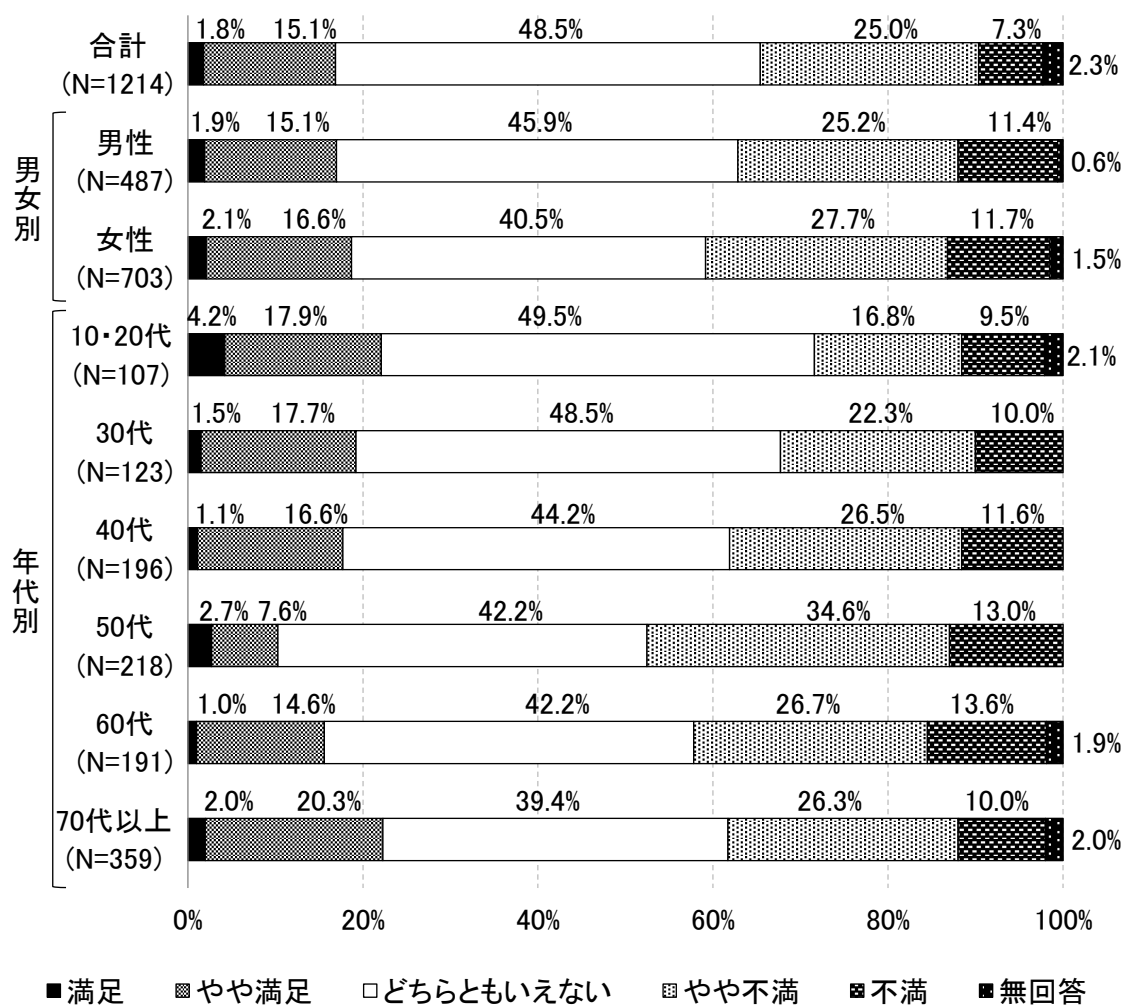


図38 Q10B 交通手段満足度 (徒歩：バリアフリー化)

Q10Cの自転車が通行するために必要なスペースの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は50代が61.0%と最も高い。反対に、10・20代は36.4%と最も低い(図39)。

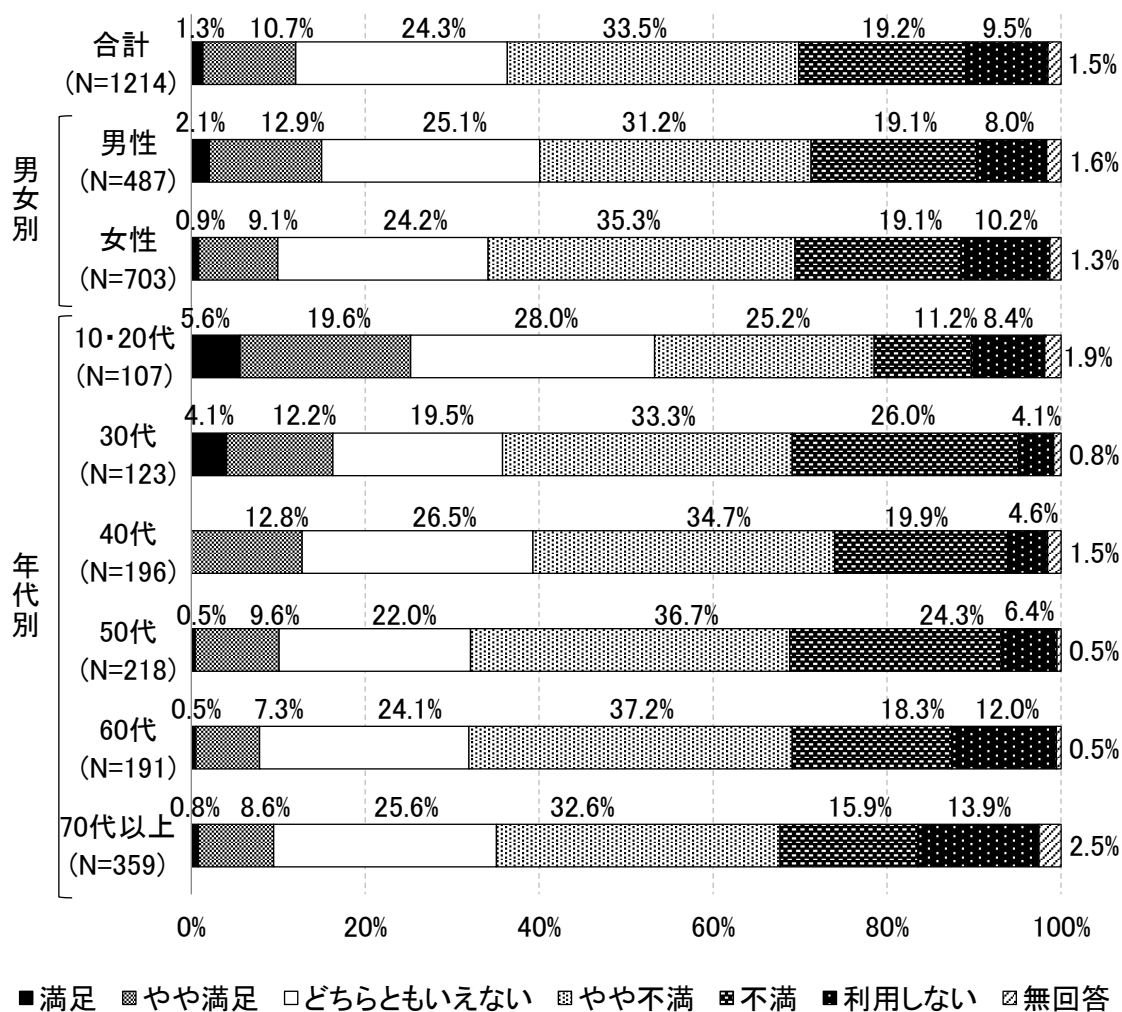


図39 Q10C 交通手段満足度 (自転車: 通行するために必要なスペース)

Q10D の自転車の駐輪場の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代と30代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合より高い。それ以外の年代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は30代が36.6%と最も高い。反対に、60代は14.6%と最も低い(図40)。

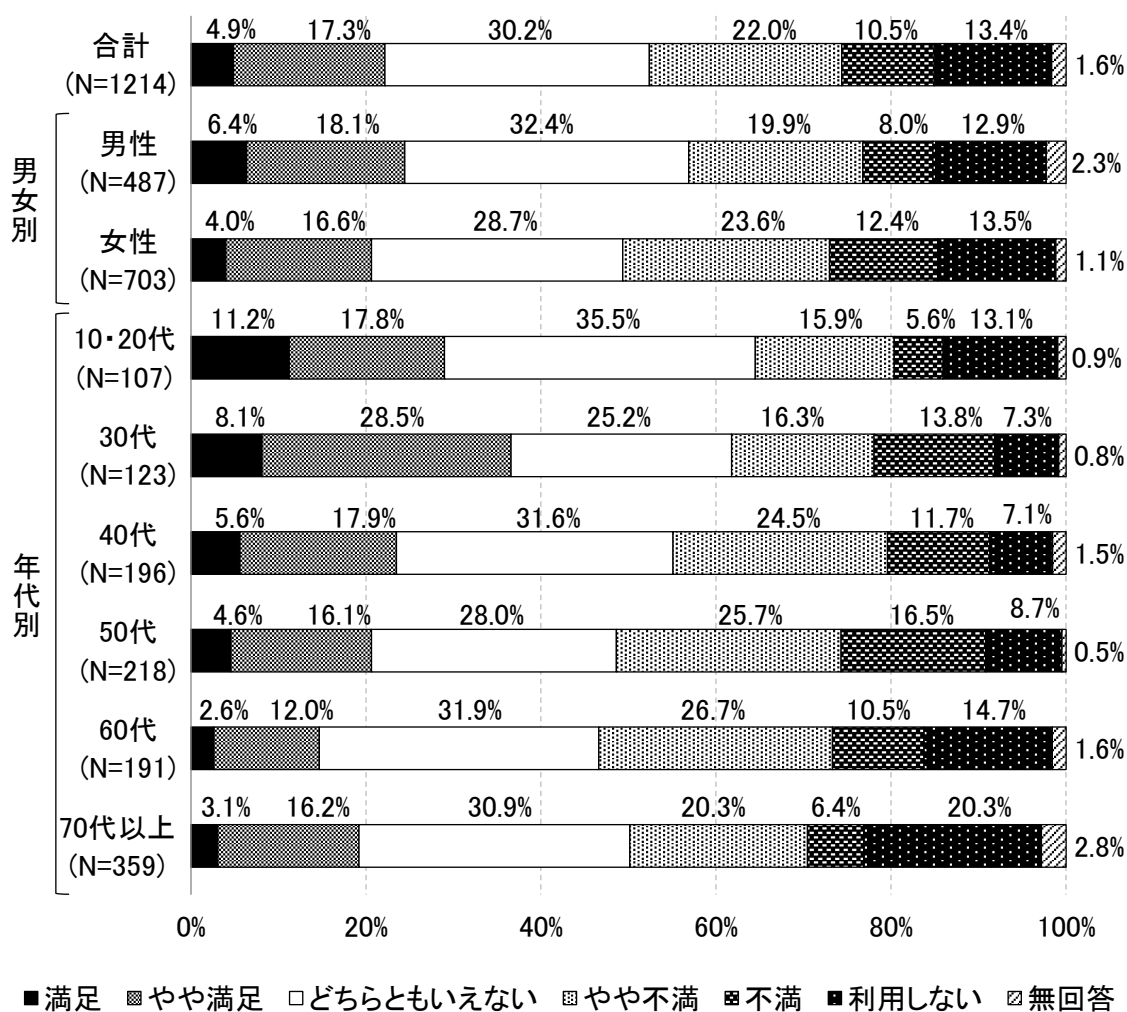


図40 Q10D 交通手段満足度 (自転車：駐輪場)

Q10Eの自転車に乗っている人々のマナーの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が69.1%と最も高い。反対に10・20代が、45.8%と最も低い(図41)。

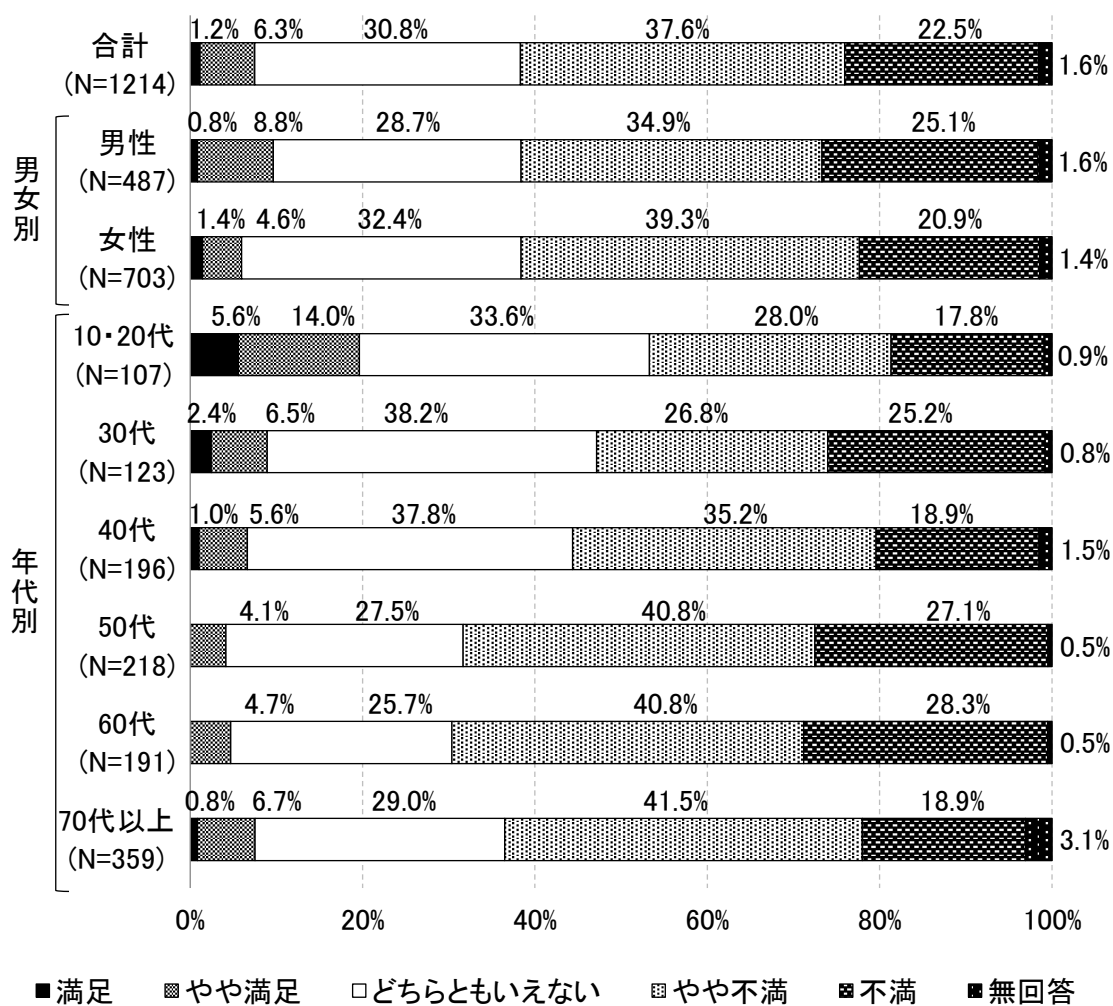


図 41 Q10E 交通手段満足度 (自転車：乗っている人々のマナー)



Q10Fのバイクが通行するために必要なスペースの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が7.5%と最も高い。反対に60代が、2.0%と最も低い(図42)。

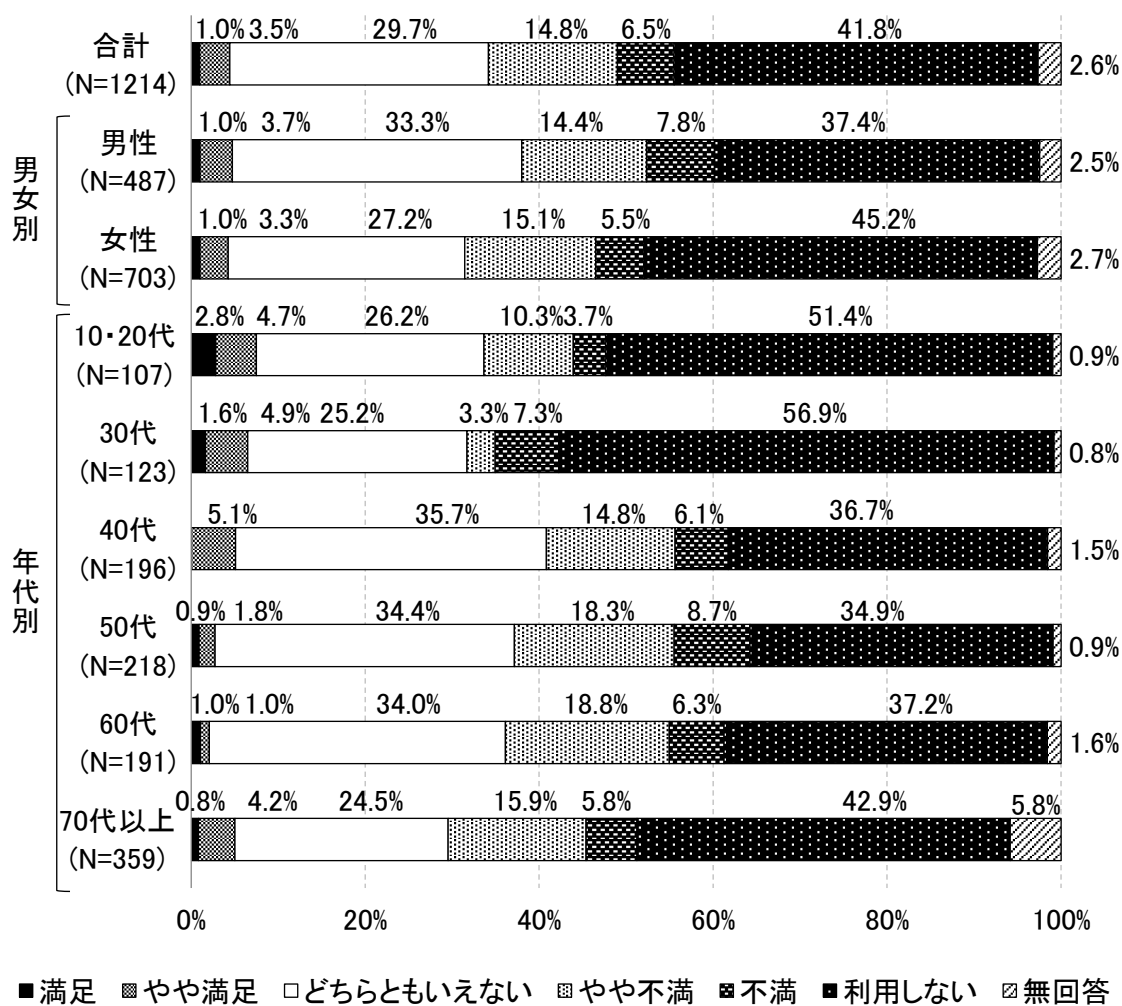


図42 Q10F 交通手段満足度 (バイク：通行するために必要なスペース)

Q10Gのバイクの駐車場の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が8.4%と最も高い。反対に50代が、2.8%と最も低い(図43)。

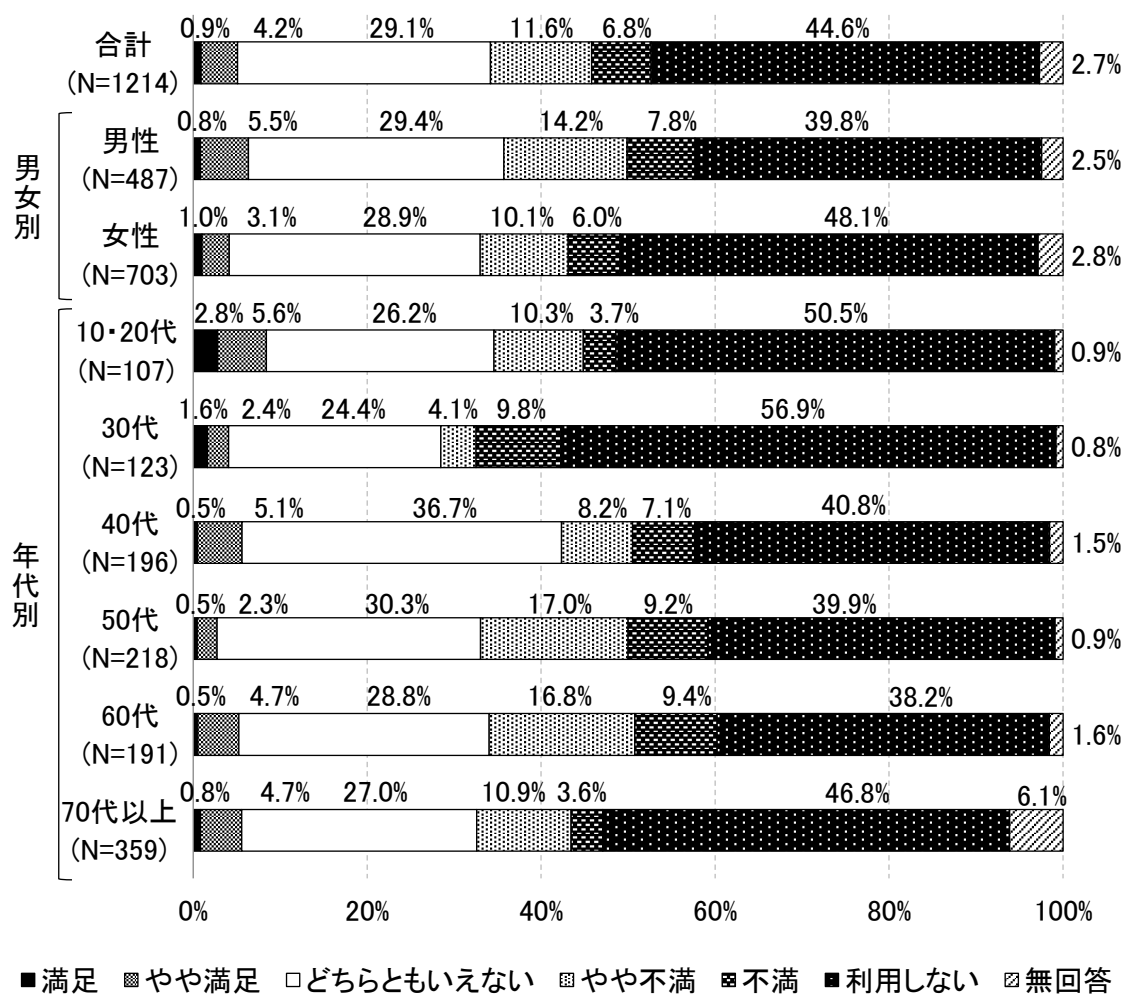


図43 Q10G 交通手段満足度 (バイク：駐車場)

Q10Hのバイクに乗っている人々のマナーの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が18.7%と最も高い。反対に40代が、4.1%と最も低い(図44)。

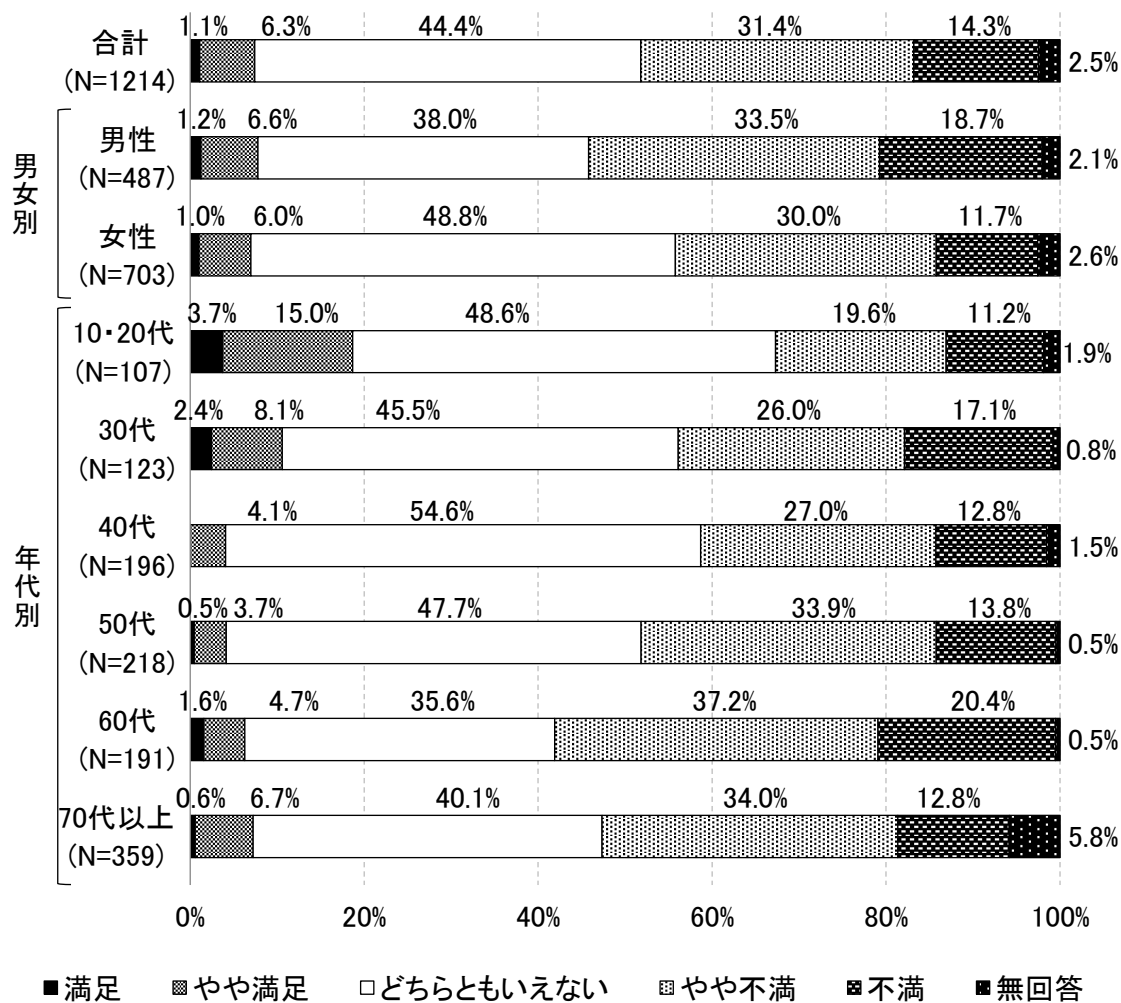


図 44 Q10H 交通手段満足度 (バイク：乗っている人々のマナー)

Q10I のバスの路線・系統の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で44.5%と最も高い。反対に50代が28.5%と最も低い(図45)。

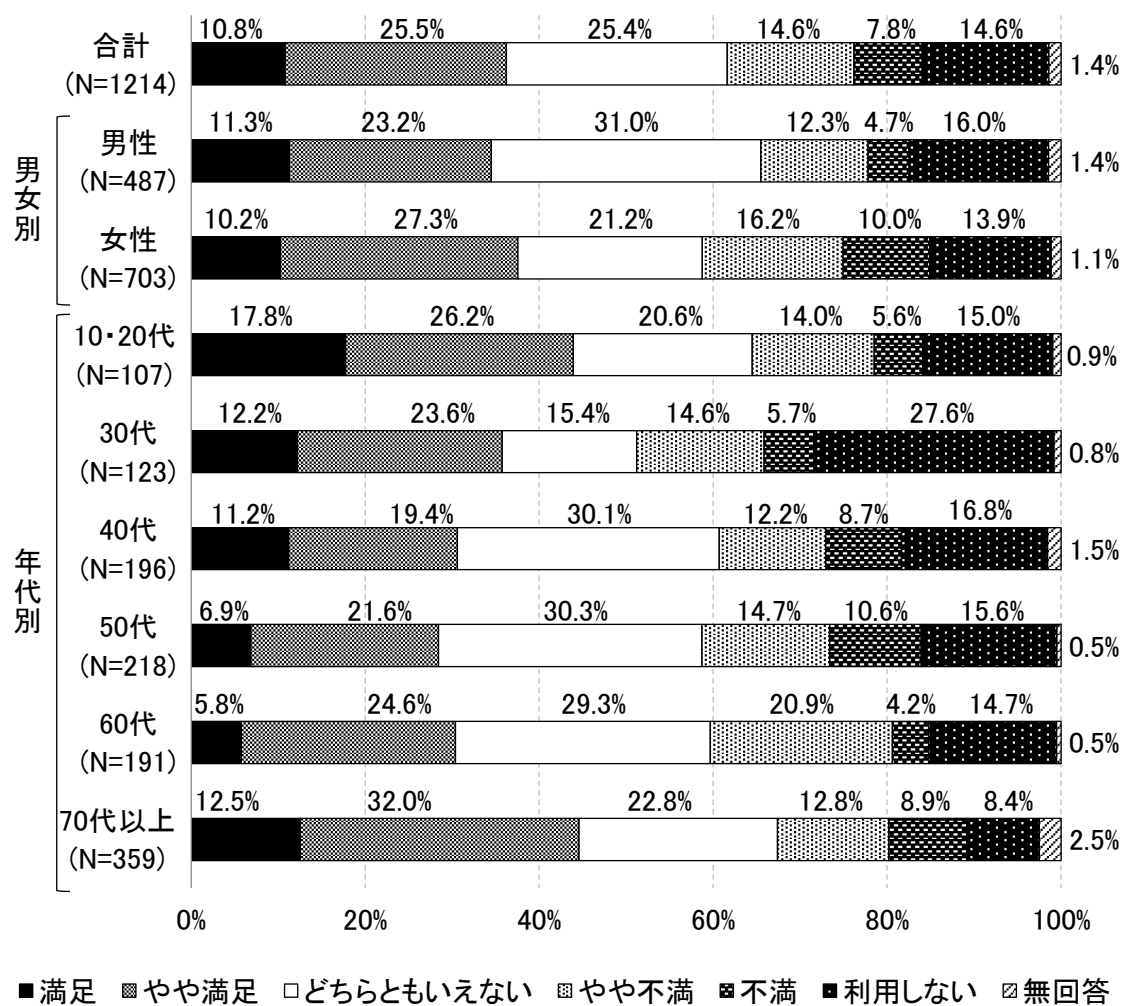


図45 Q10I 交通手段満足度 (バス: 路線・系統)

Q10J のバスのダイヤの満足度に関して、年代別で見ると、40代と50代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で38.4%と最も高い。反対に、40代が23.0%と最も低い(図46)。

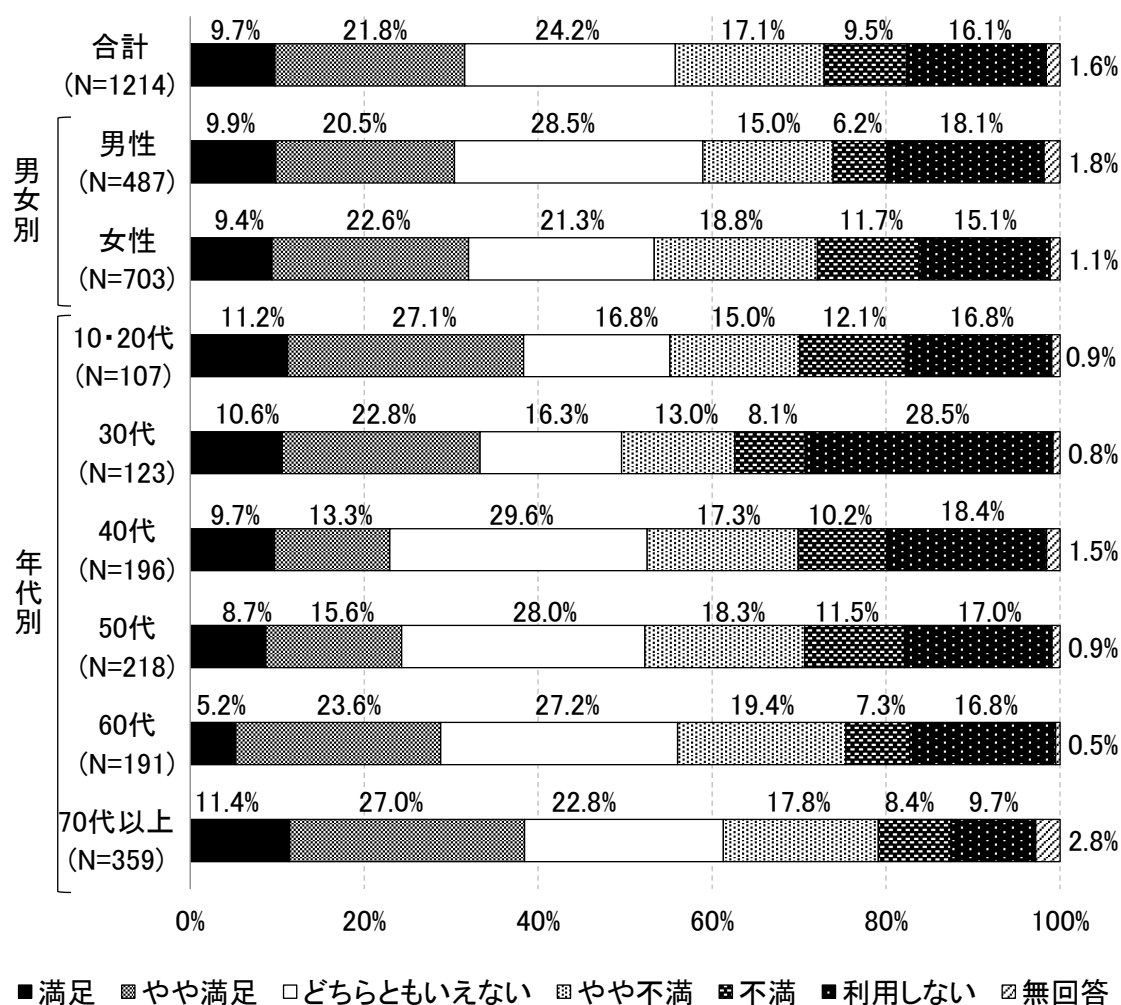


図 46 Q10J 交通手段満足度 (バス：ダイヤ)

Q10Kのバス停の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が49.5%と最も高い。反対に40代が29.1%と最も低い(図47)。

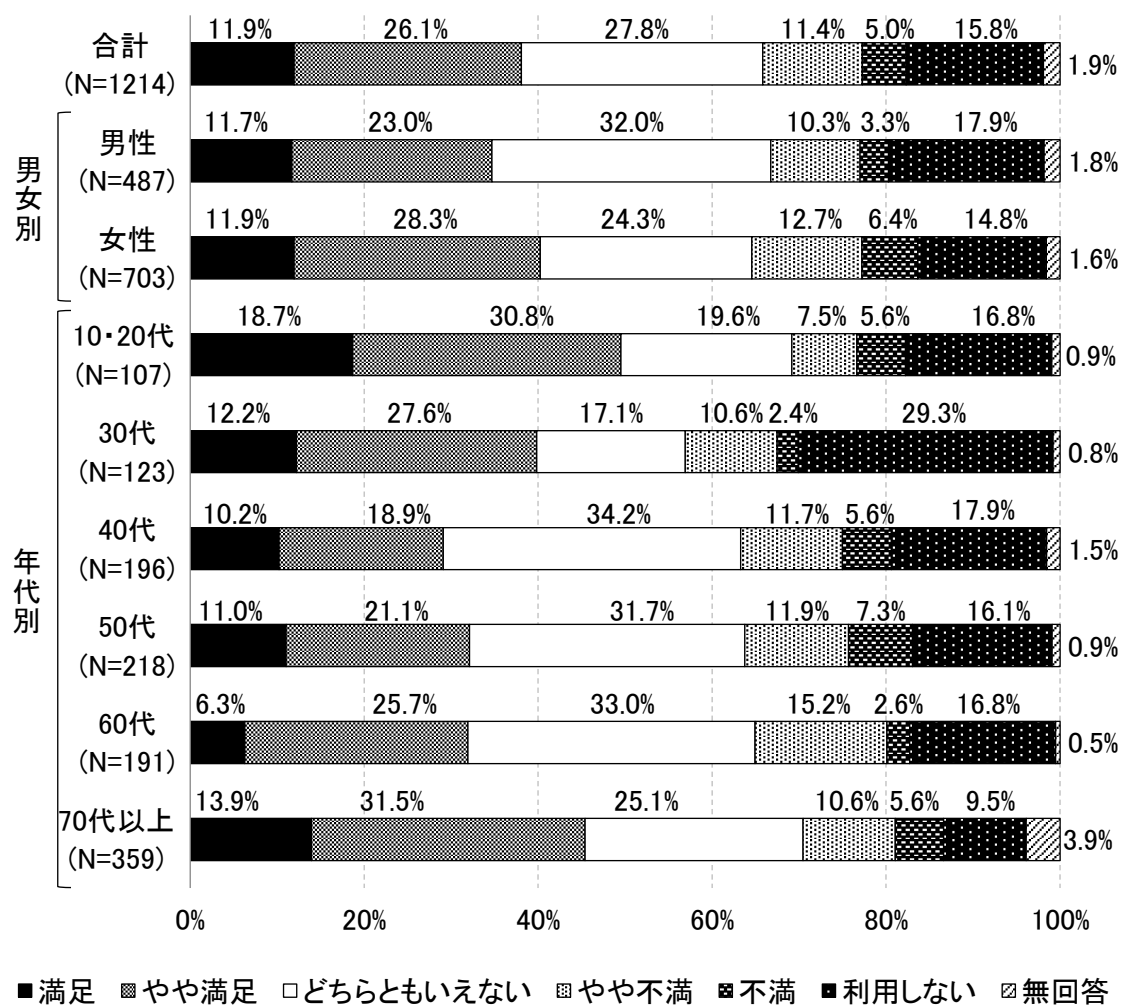


図 47 Q10K 交通手段満足度 (バス:バス停)

Q10Lのバスの乗り方の分かりやすさの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で49.6%と最も高い。反対に、50代が33.5%と最も低い(図48)。

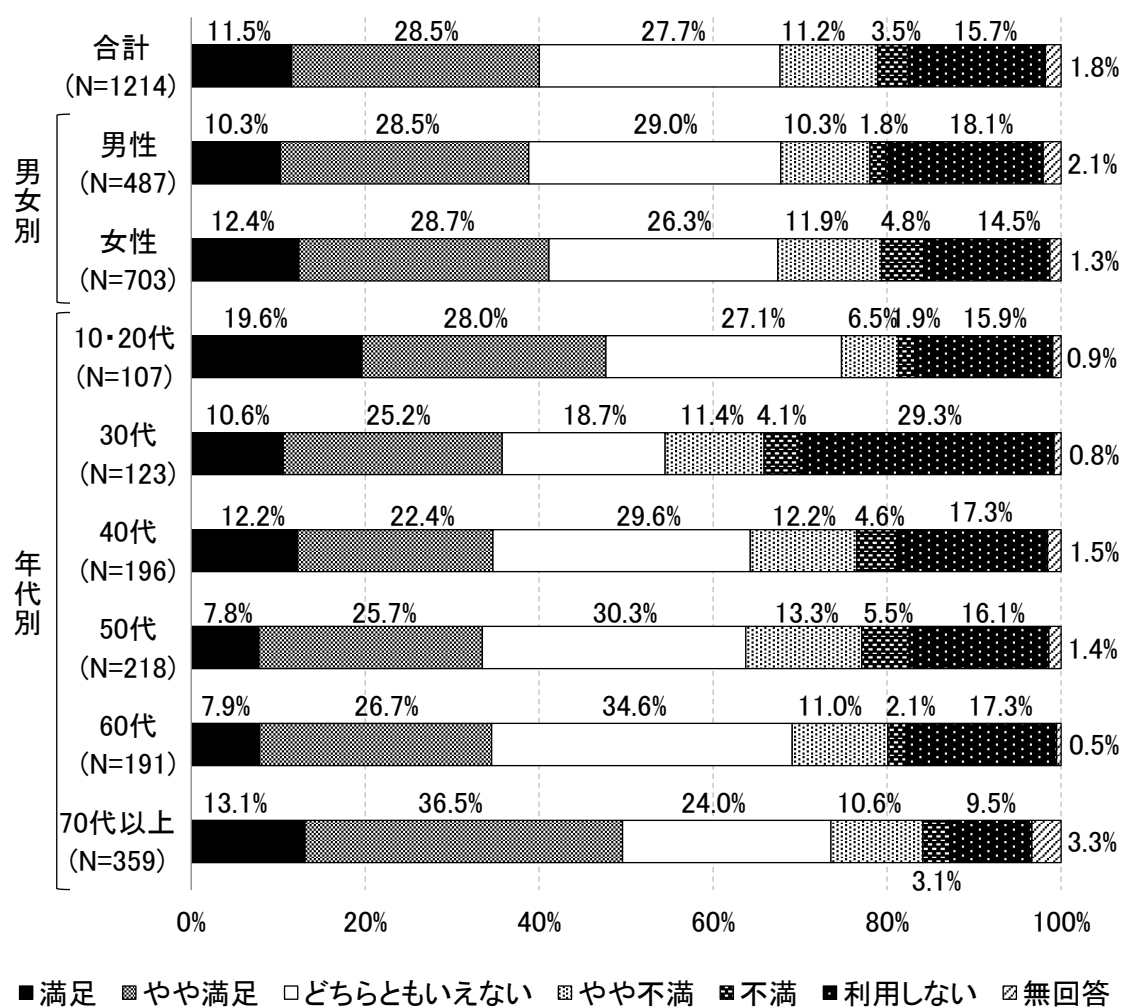


図48 Q10L 交通手段満足度 (バス：乗り方の分かりやすさ)

Q10M の鉄道の駅の使いやすさの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が81.3%と最も高い。反対に50代が58.7%と最も低い（図49）。

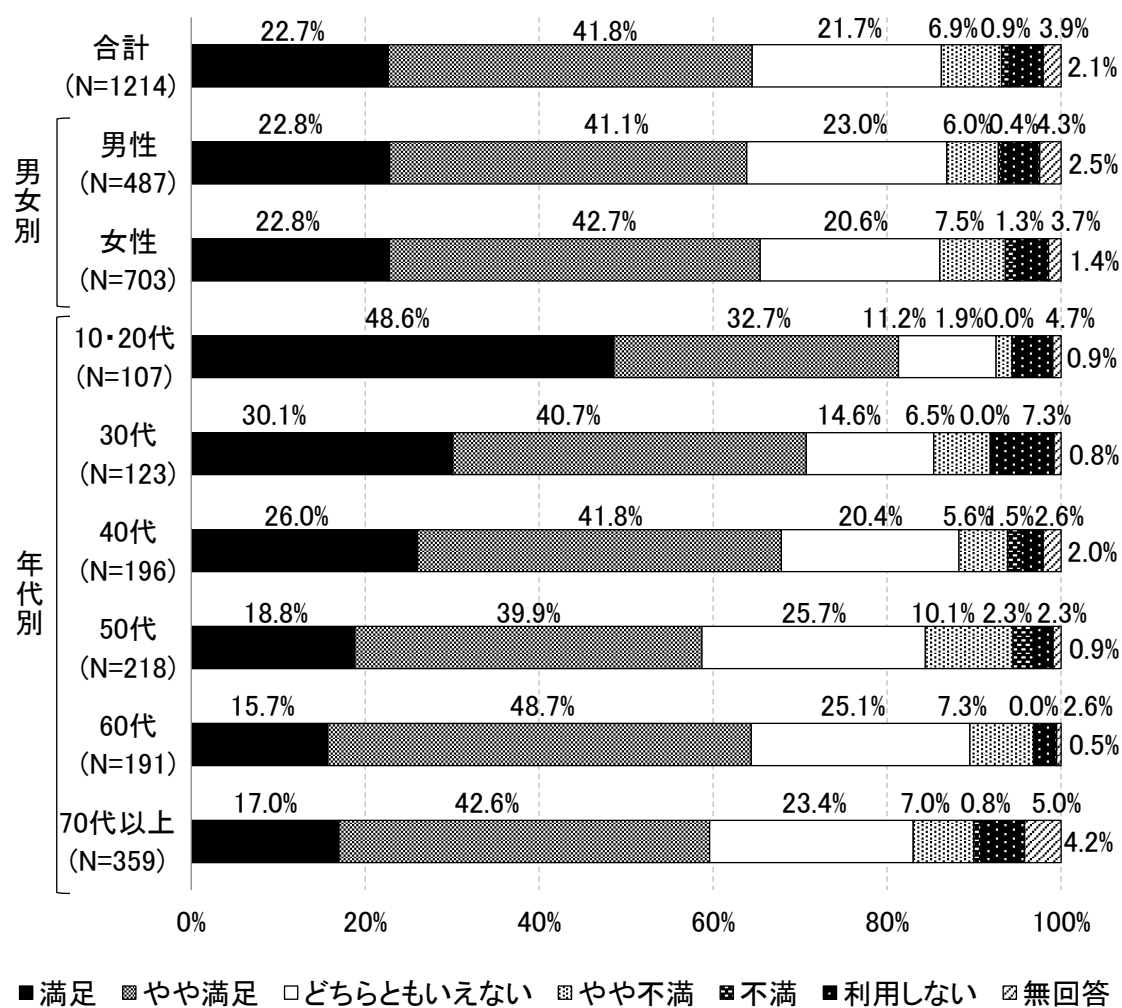


図49 Q10M 交通手段満足度（鉄道：駅の使いやすさ）



Q10Nの鉄道の列車ダイヤの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が81.3%と最も高い。反対に、70代以上が57.4%と最も低い（図50）。

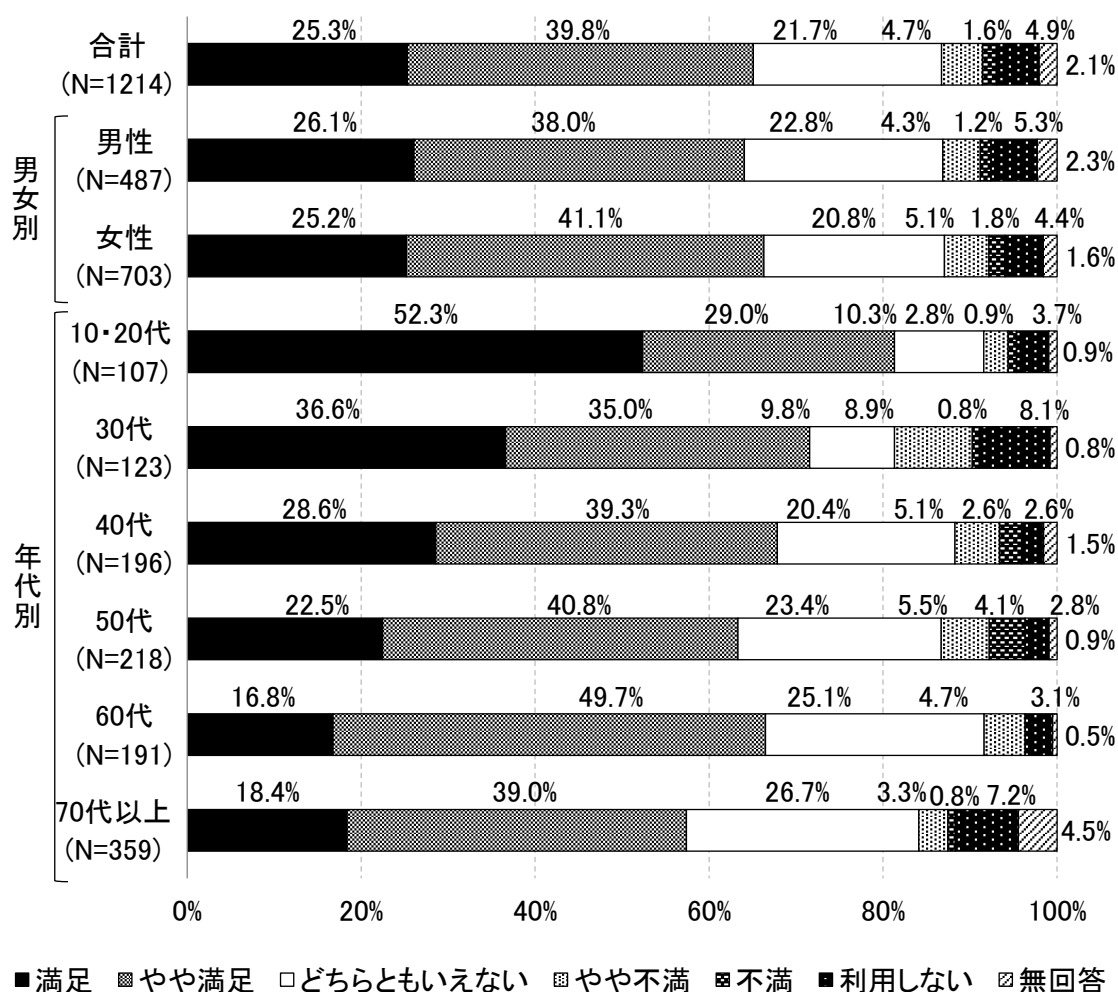


図50 Q10N 交通手段満足度（鉄道：列車ダイヤ）

Q100 の自動車が通行する道路の整備状況の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代および40代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。30代および50代以上では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が30.0%と最も高い。反対に、60代が16.2%と最も低い（図51）。

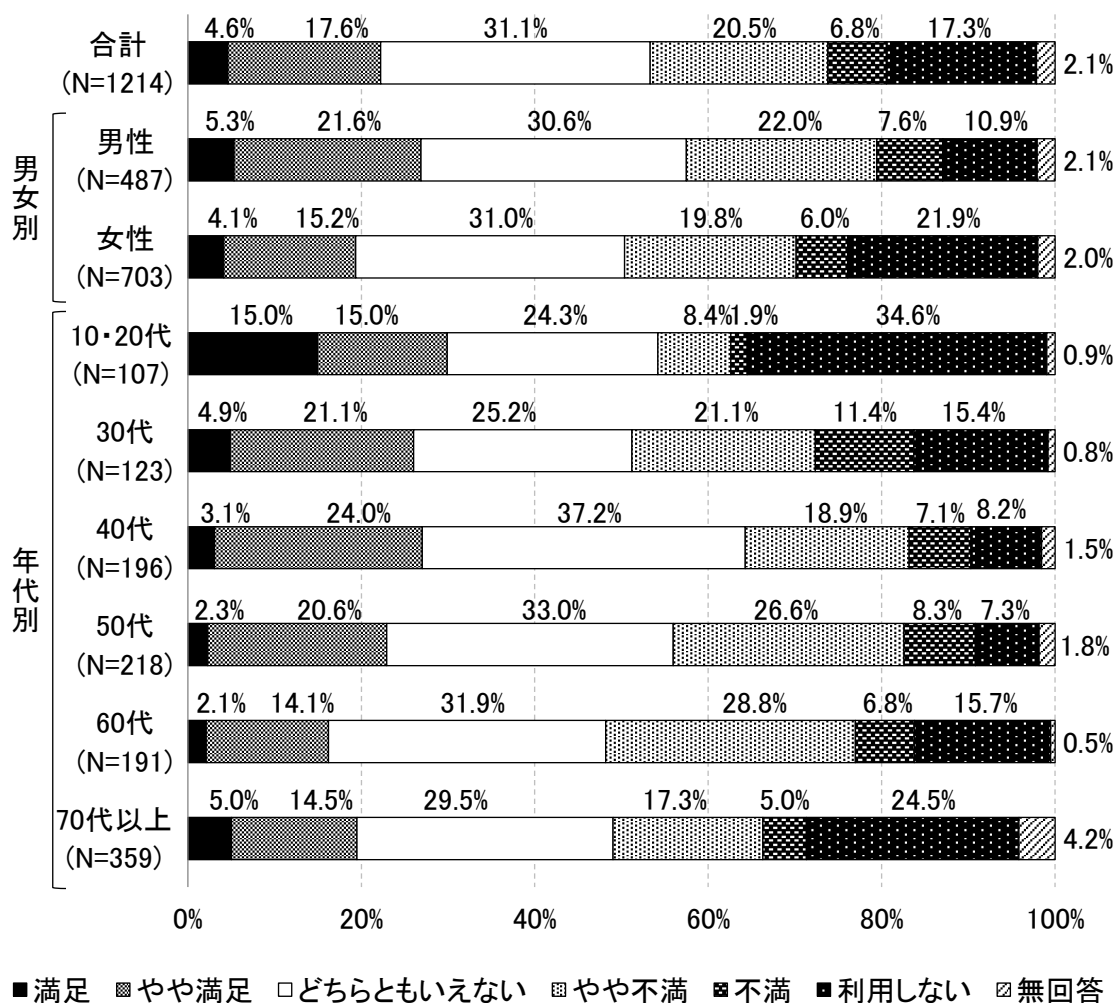


図51 Q100 交通手段満足度（自動車：道路の整備の状況）

Q10Pの自動車の駐車場の満足度に関して、年代別で見ると、30代以上で、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が33.0%と最も高い。反対に、10・20代が10.3%と最も低い（図52）。

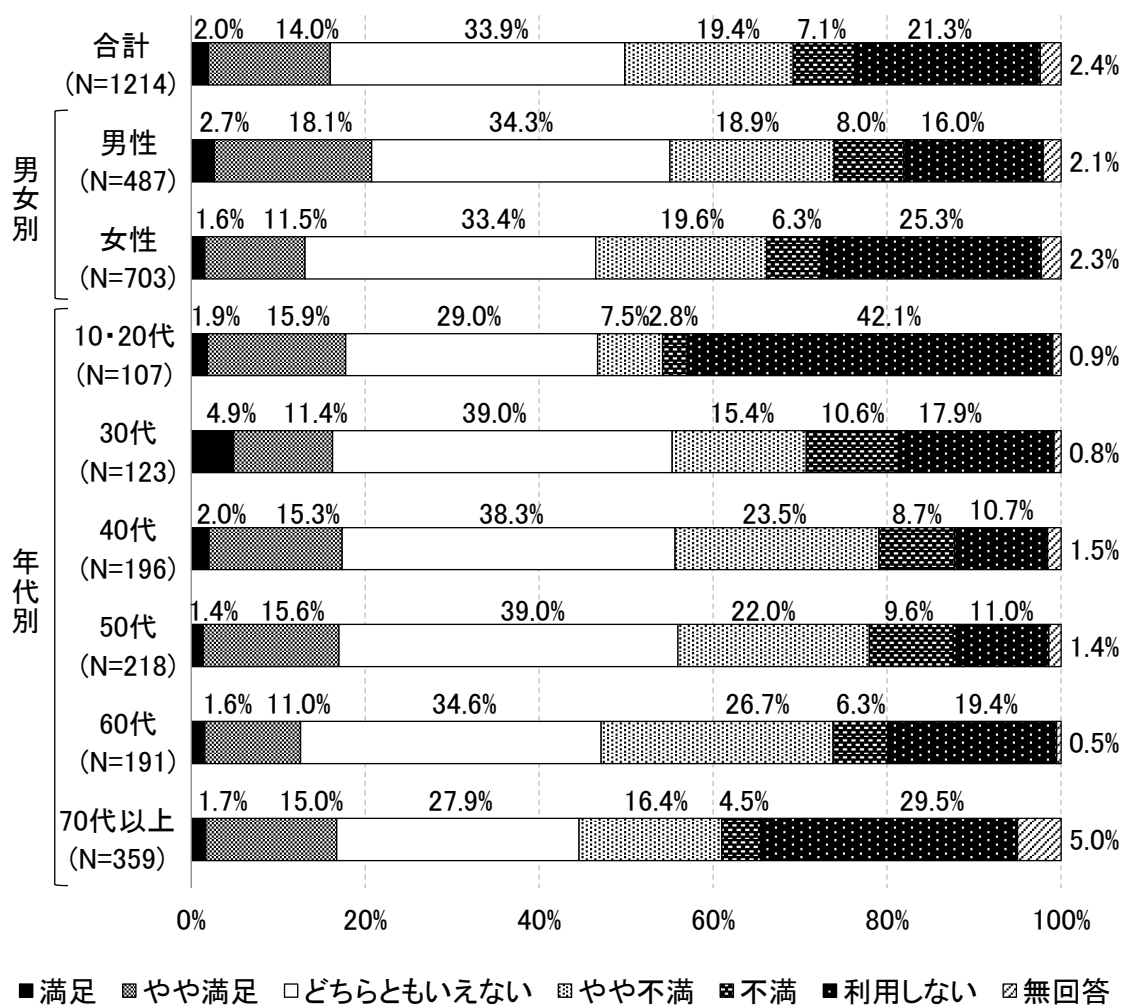


図 52 Q10P 交通手段満足度（自動車：駐車場）

Q10 Q のタクシーの利用しやすさの満足度に関して、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は 70 代以上で 30.6%と最も高い。反対に 50 代が 20.6%と最も低い（図 53）。

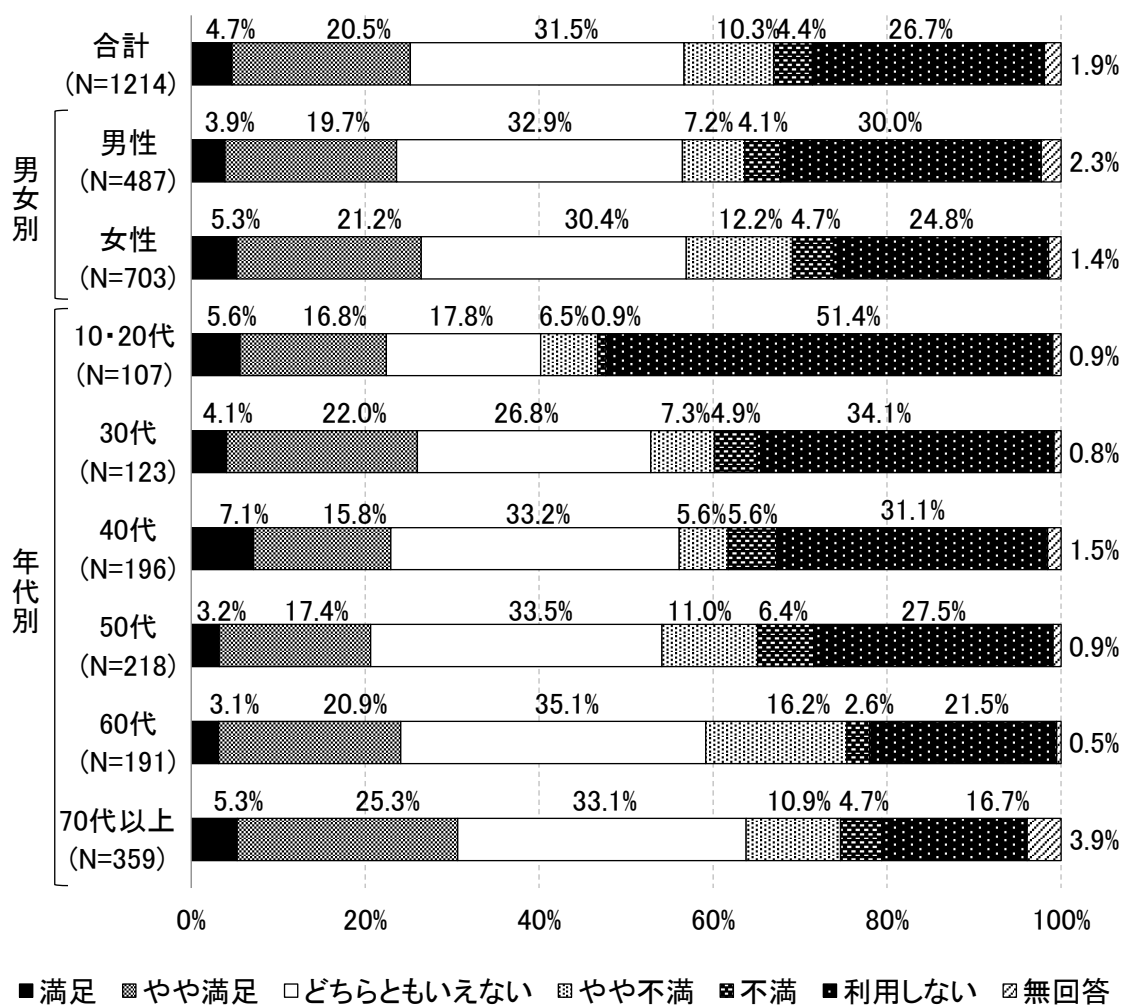


図 53 Q10Q 交通手段満足度（タクシー：利用しやすさ）

Q11の1日あたりの歩行時間に関して、男女別で見ると、「30分未満」（「10分未満」または「10分以上20分未満」または「20分以上30分未満」）と回答した人の割合は、男性では40.1%、女性では47.7%である。年代別で見ると、「30分未満」と回答した人の割合は30代が52.8%と最も高い。反対に50代が40.4%と最も低い（図54）。

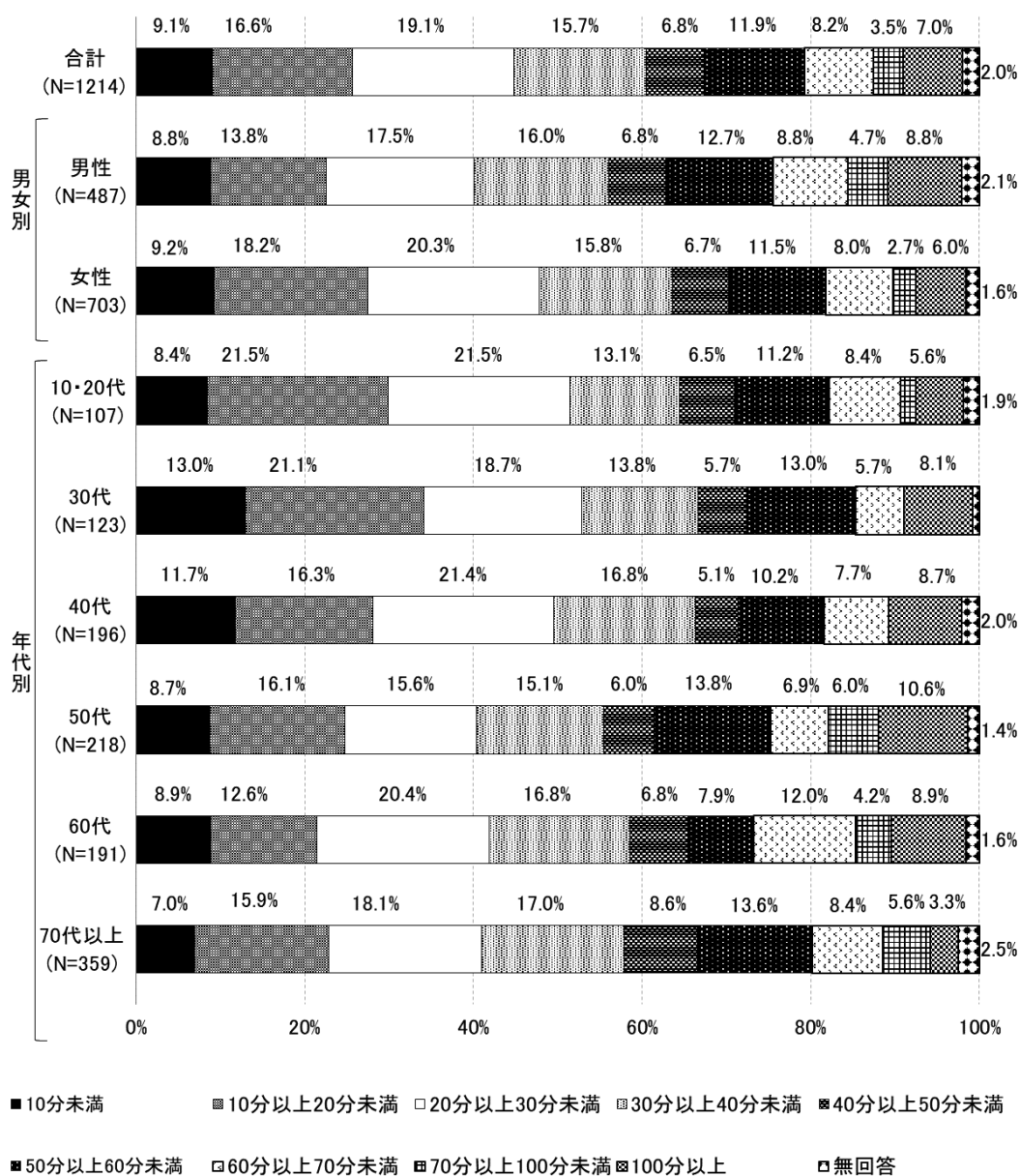


図 54 Q11 1日あたりの歩行時間

Q12 の環境に関する問題への関心度に関して、「異常気象」が 48.8%で最も高く、「地球温暖化」が 48.4%と続く（図 55）。

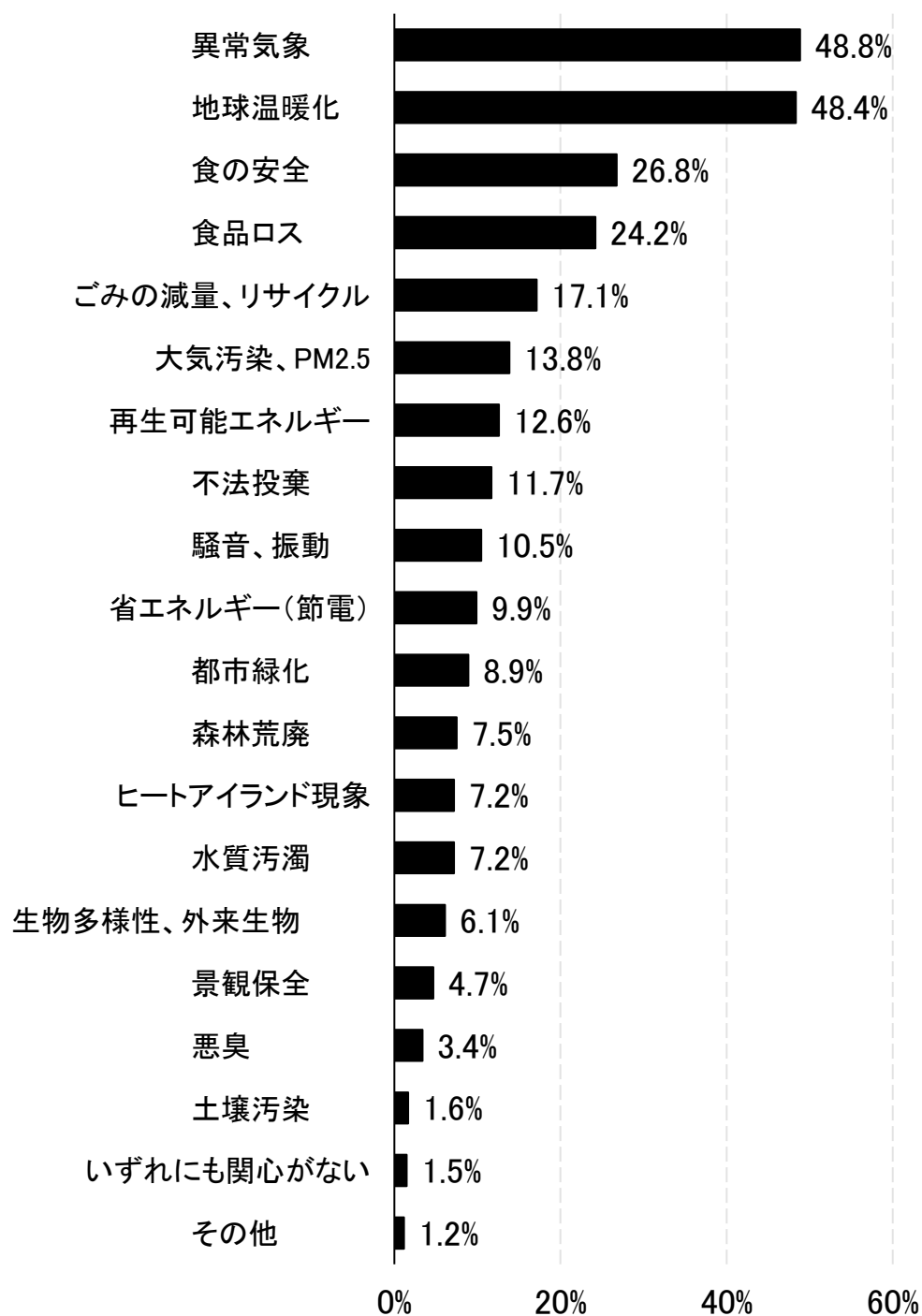


図 55 Q12 環境に関する問題への関心度（複数回答・全体 N=1214）

Q12 の環境に関する問題への関心度に関して、男女別で見ると、「食の安全」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 12.4 ポイント高い（図 56）。

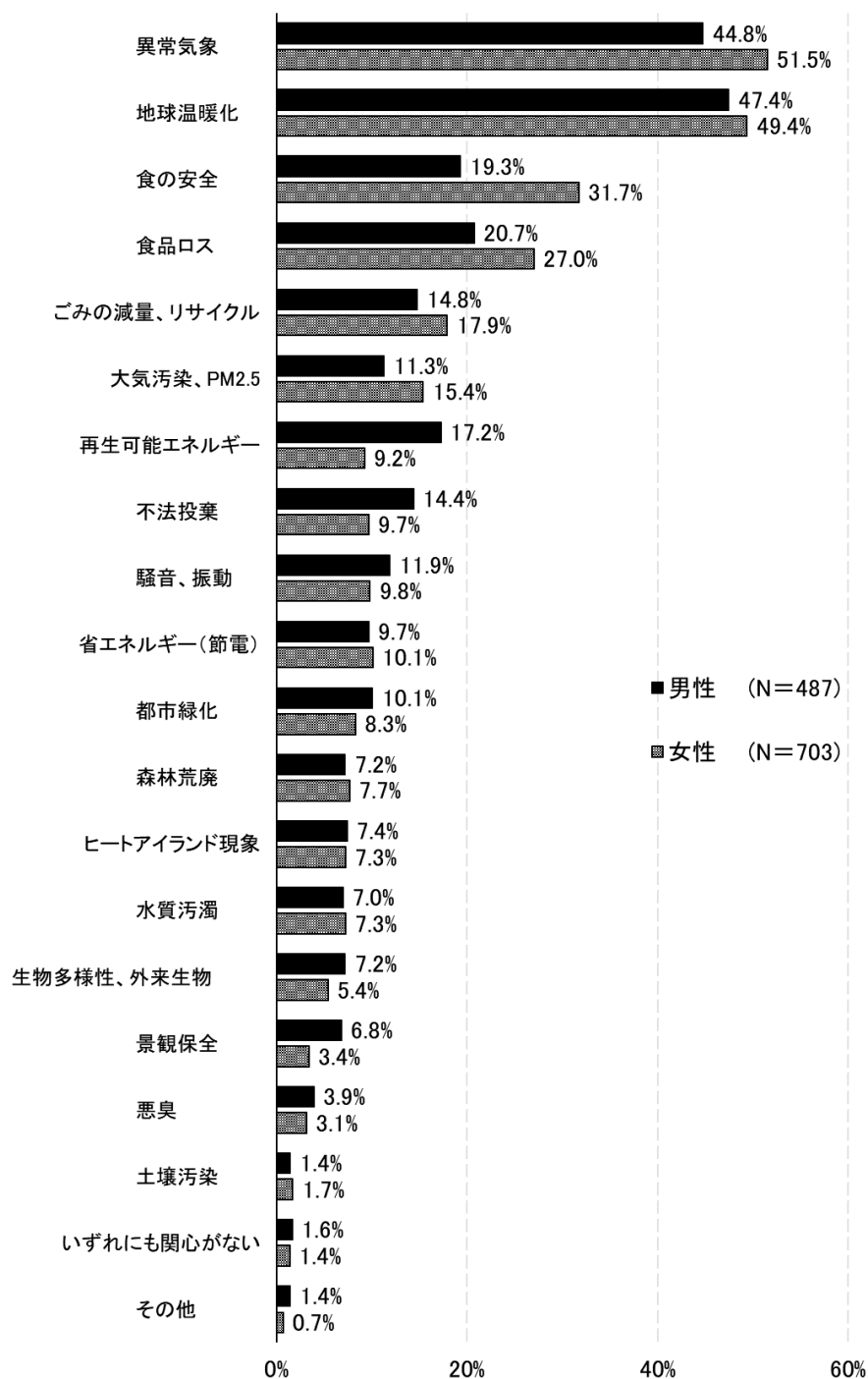


図 56 Q12 環境に関する問題への関心度（複数回答・男女別）

Q12 の環境に関する問題への関心度に関して、年代別で見ると、「食品ロス」は年代で差があり、10・20代が 35.5%と最も高く、反対に 70 代以上は 20.1%と最も低い（図 57）。

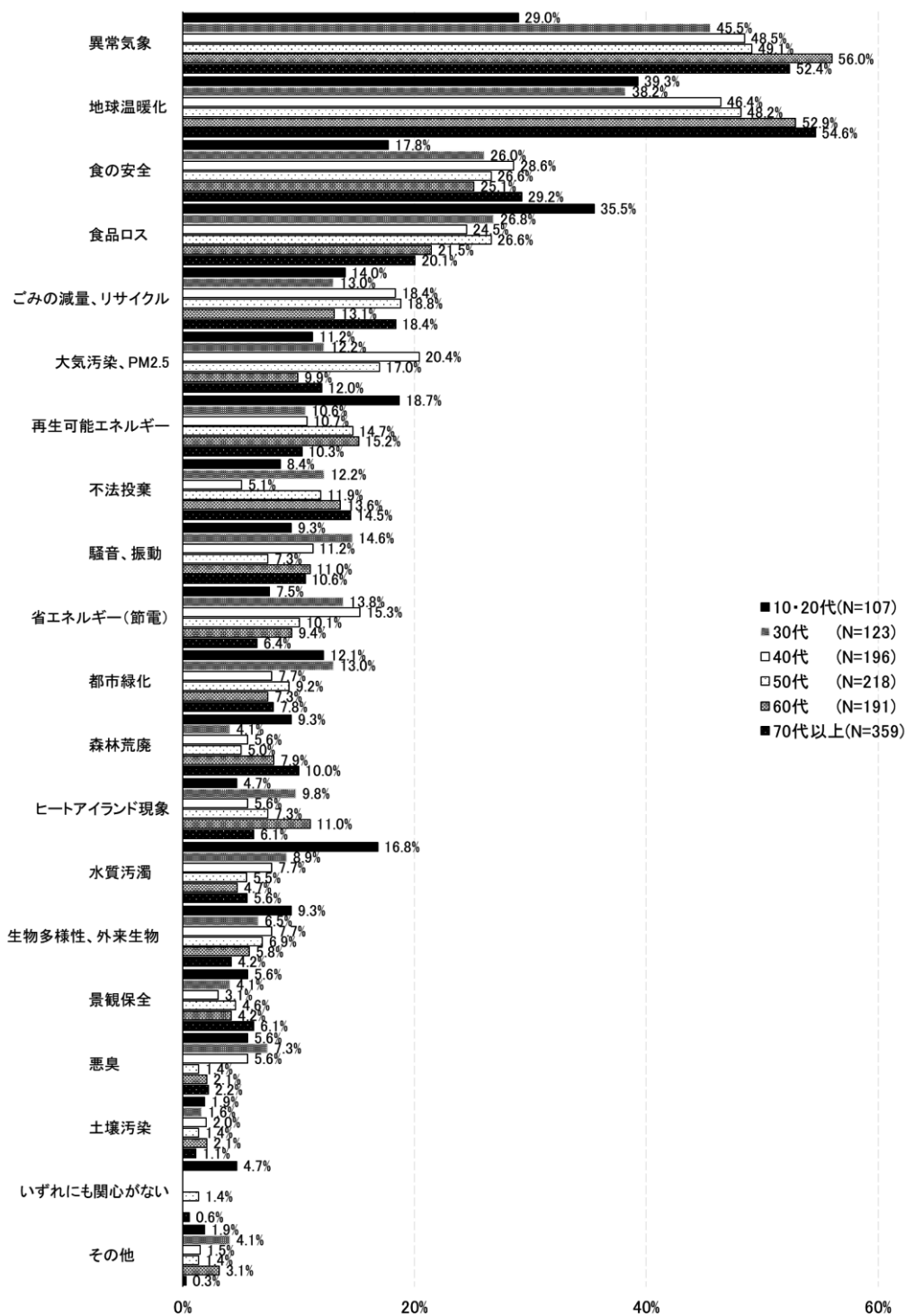
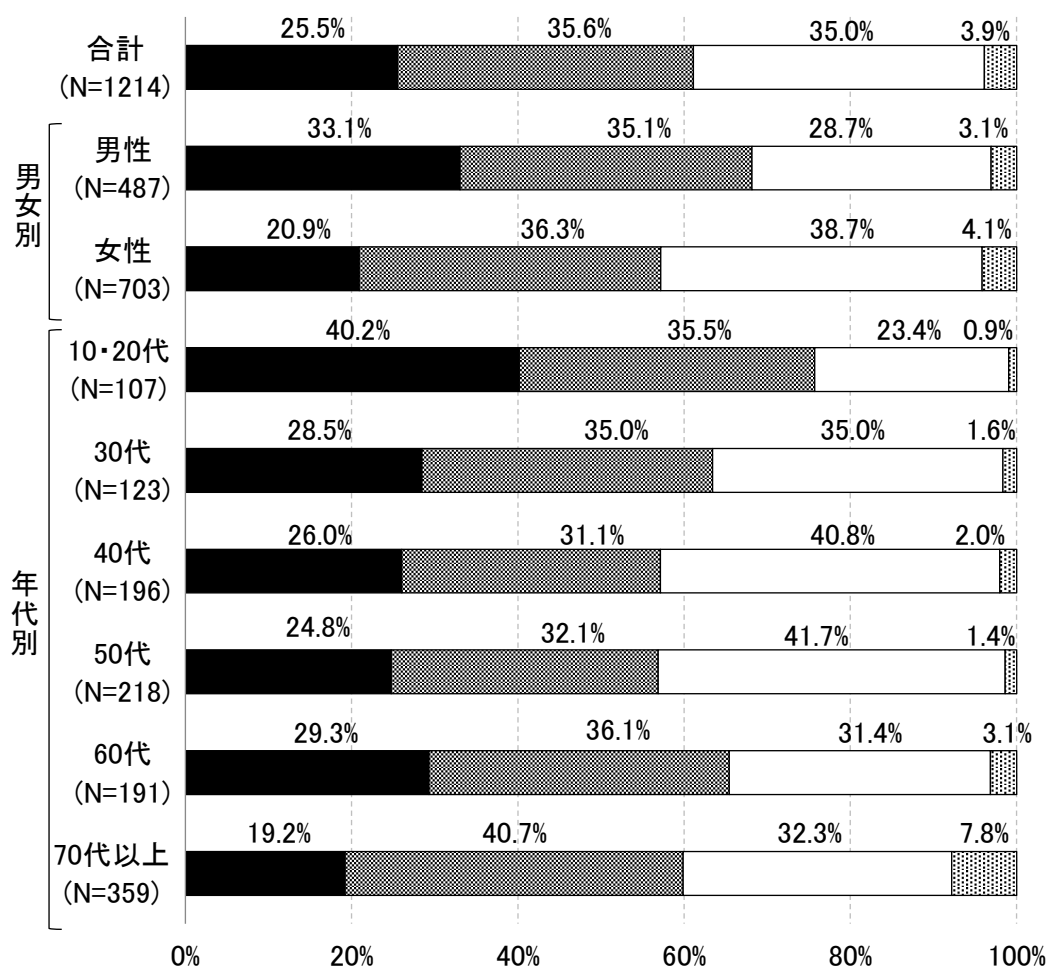


図 57 Q12 環境に関する問題への関心度（複数回答・年代別）



Q13の「生物多様性」という言葉とその意味を知っているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「言葉も意味も知っている」または「言葉は知っているが意味は知らない」と回答した人が合わせて5割以上である。年代別で見ると、「言葉も意味も知っている」または「言葉は知っているが意味は知らない」と回答した人の割合は10・20代が75.7%と最も高く、反対に50代が56.9%と最も低い(図58)。



■言葉も意味も知っている ■言葉は知っているが意味は知らない □知らない ▨無回答

図 58 Q13 「生物多様性」という言葉とその意味を知っているか

Q14 の 1 年以内に摂津峡・三好山周辺を訪れたかに関して、男女別・年代別のすべての層で「訪れた」と回答した人が 40%に満たない。年代別で見ると、「訪れた」と回答した人の割合は 30 代が 39.0%と最も高く、反対に 10・20 代が 22.4%と最も低い（図 59）。

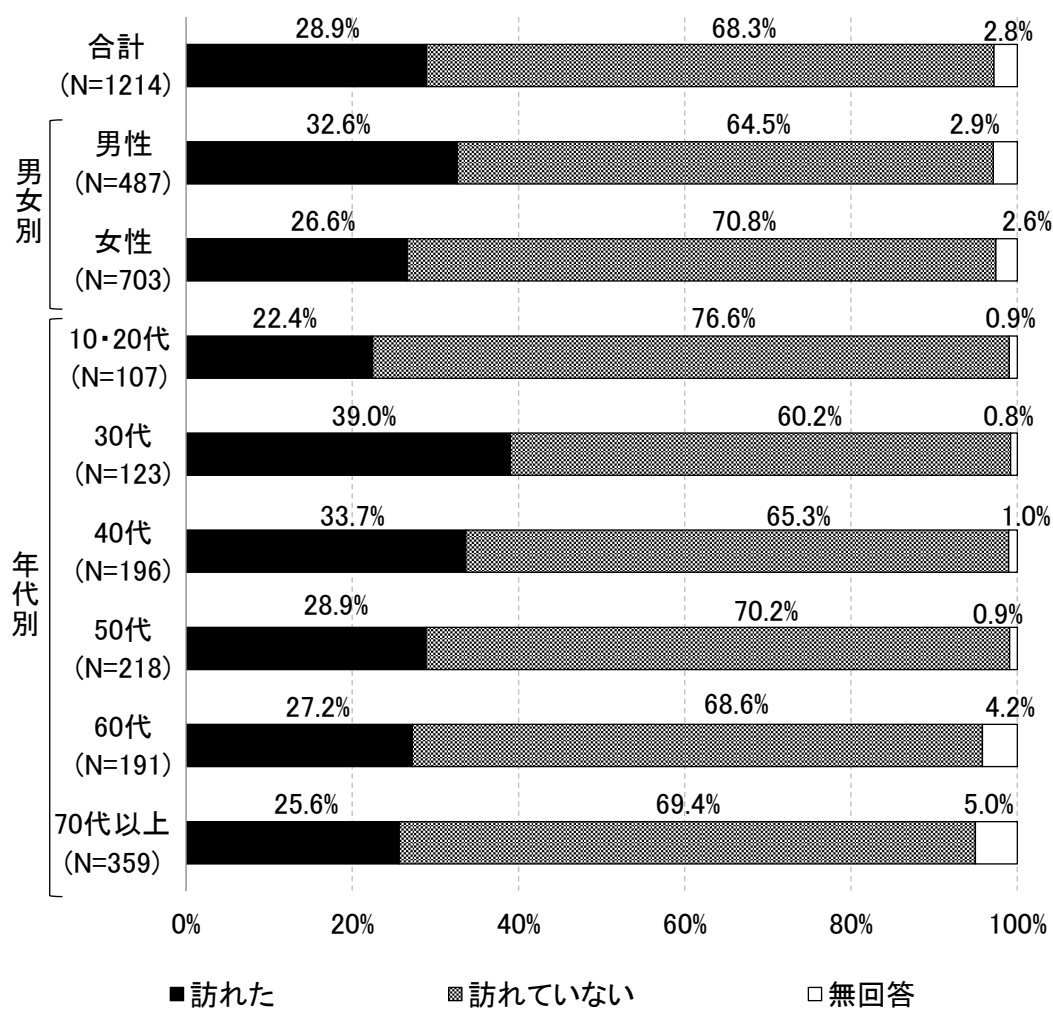


図 59 Q14 1 年以内に摂津峡・三好山周辺を訪れたか

Q15の摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、「花見(桜など)」が44.7%で最も高く、「ハイキング」が27.6%と続く(図60)(Q15はQ14「1. 訪れた」と回答した人のみが回答している)。

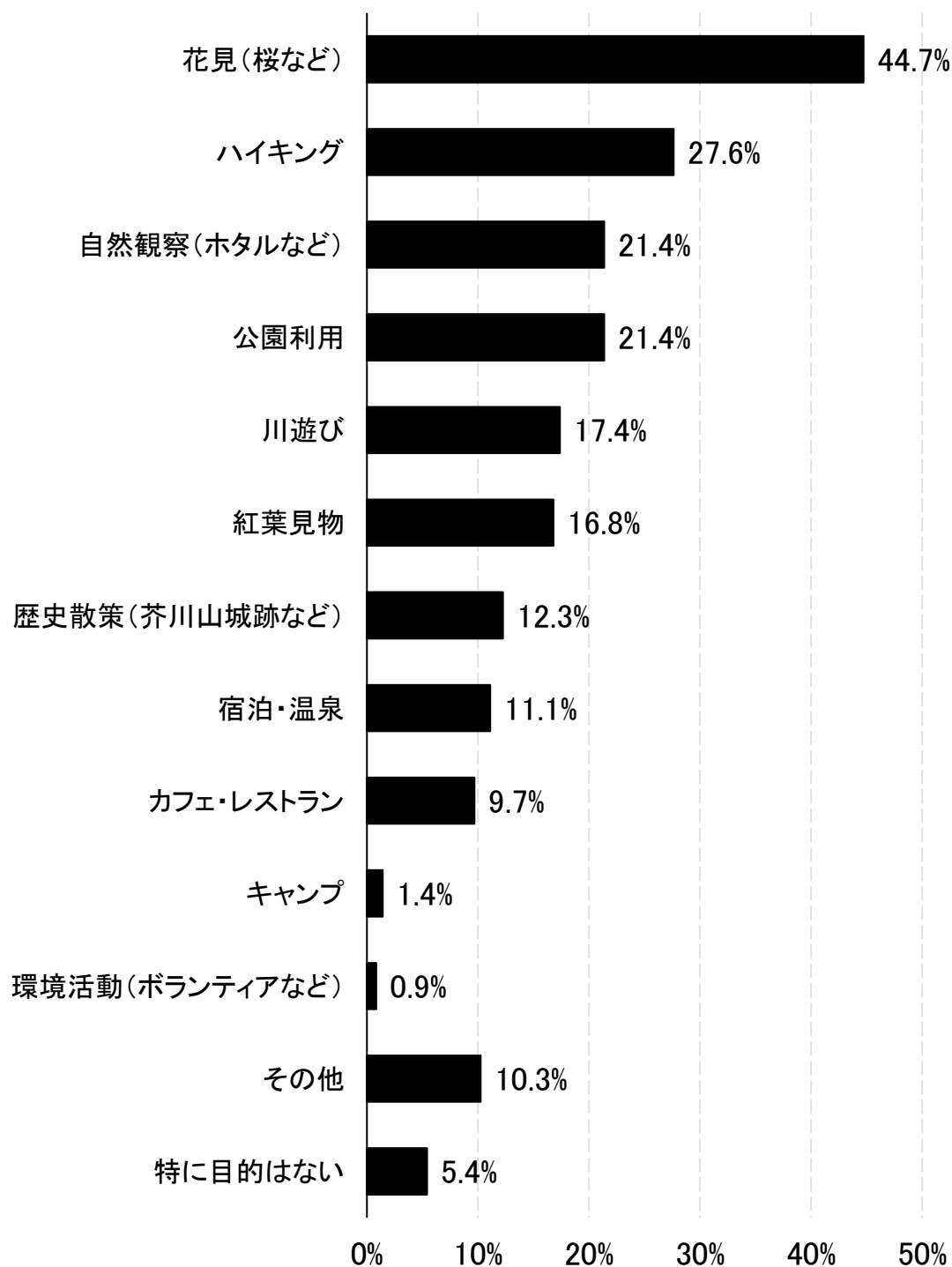


図60 Q15 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的(複数回答・全体 N=351)

Q15 の摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、男女別で見ると、「花見（桜など）」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 14.2 ポイント高い（図 61）（Q15 は Q14 「1. 訪れた」と回答した人のみが回答している）。

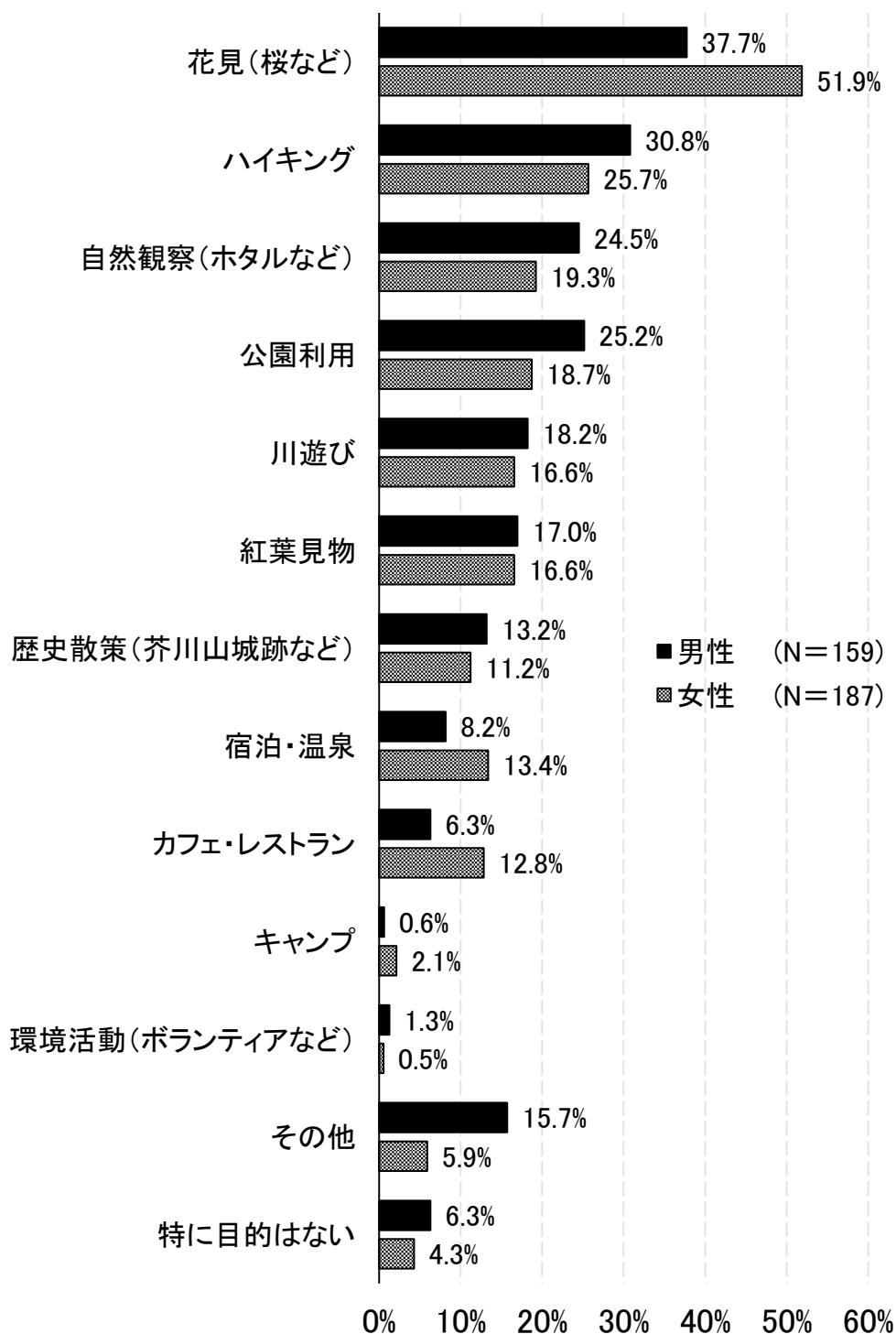


図 61 Q15 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的（複数回答・男女別）

Q15 の摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、年代別で見ると、「花見（桜など）」は年代で差があり、70代以上が 62.0%と最も高く、反対に 30代以上は 31.3%と最も低い（図 62）（Q15 は Q14 「1. 訪れた」と回答した人のみが回答している）。

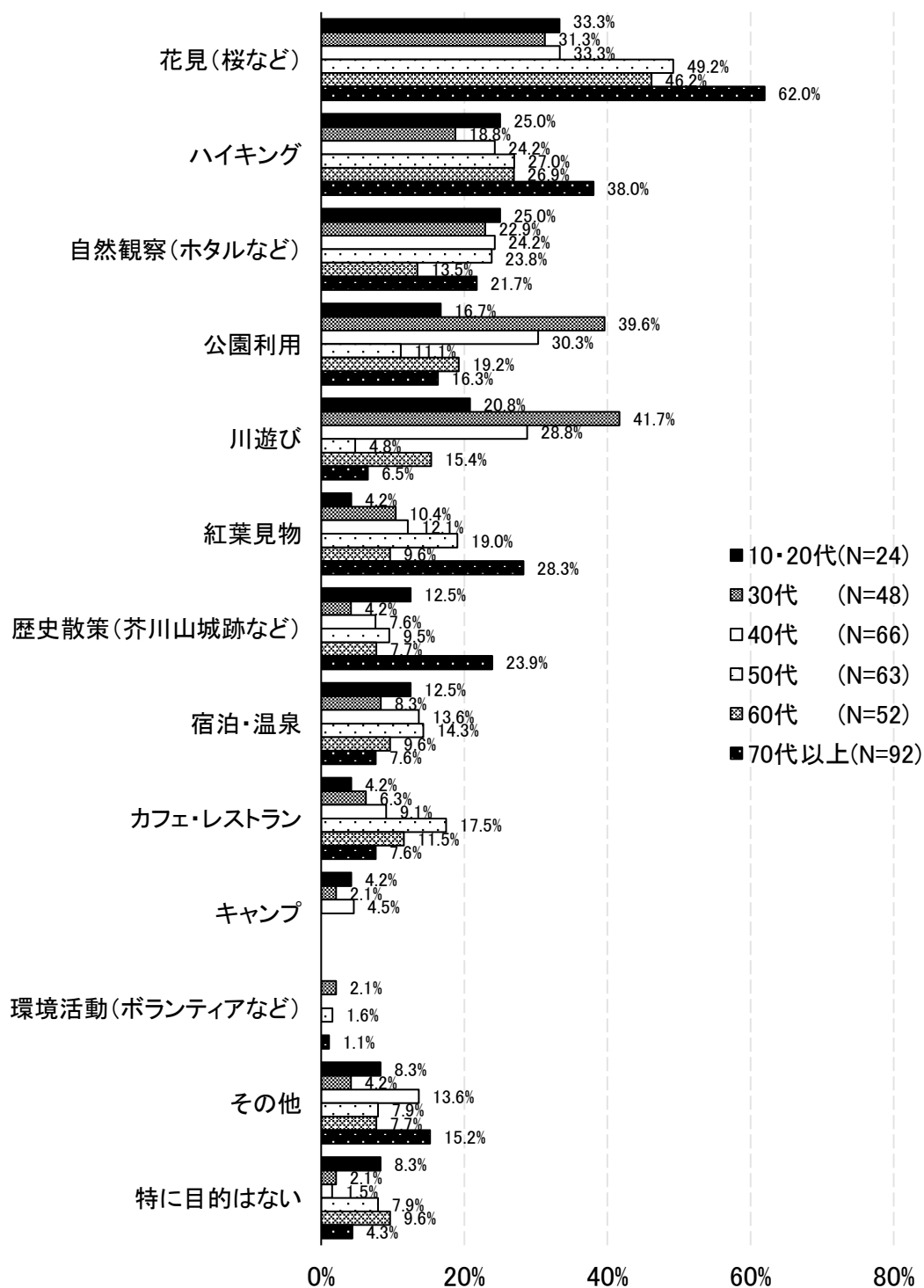


図 62 Q15 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的（複数回答・年代別）

Q16Aの高槻市には身近な自然環境とのふれあいがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は50代が82.5%と最も高く、反対に10・20代が73.8%と最も低い(図63)。

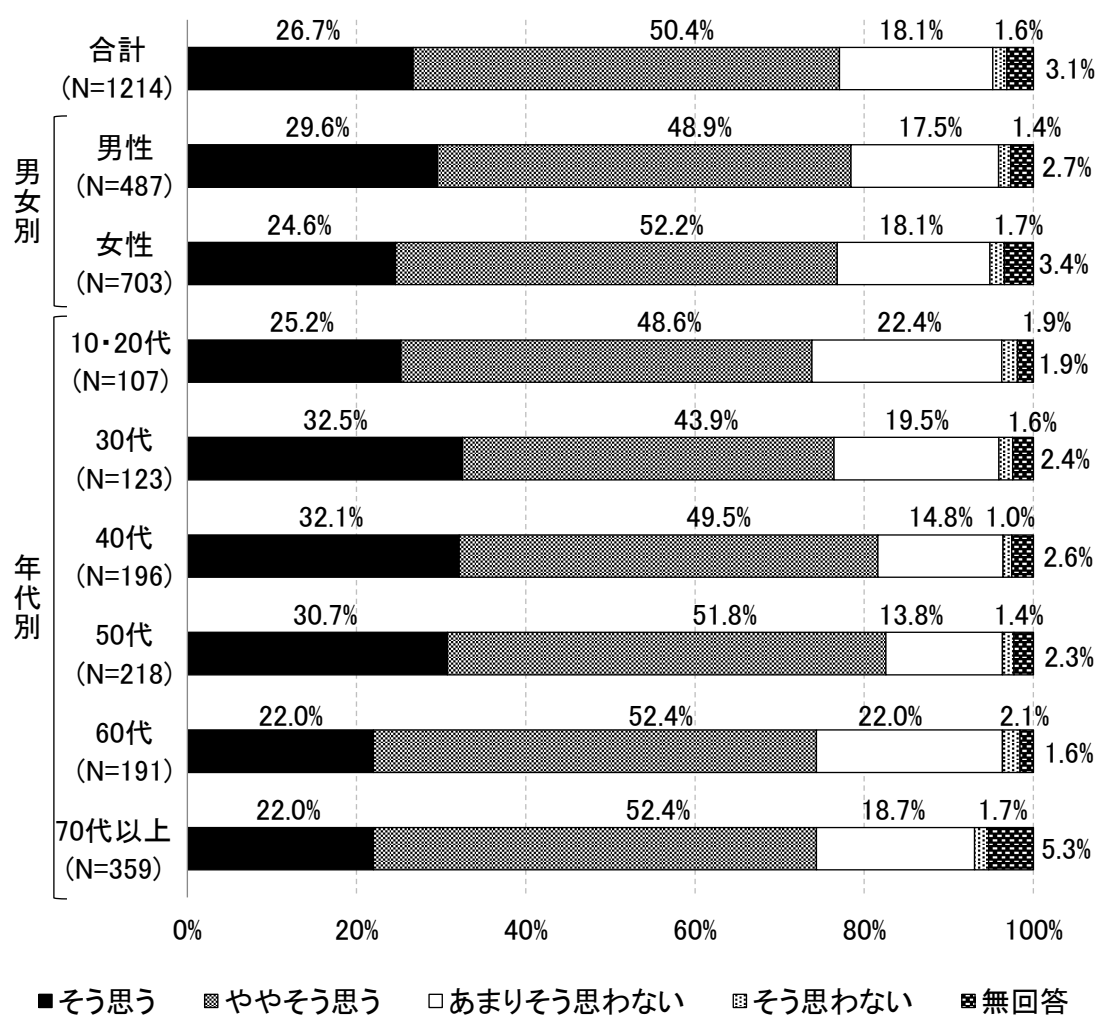


図 63 Q16A 高槻市の環境：身近な自然環境とのふれあいがあるか

Q16Bの高槻市は不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は40代以上が52.0%と最も高く、反対に30代が46.4%と最も低い(図64)。

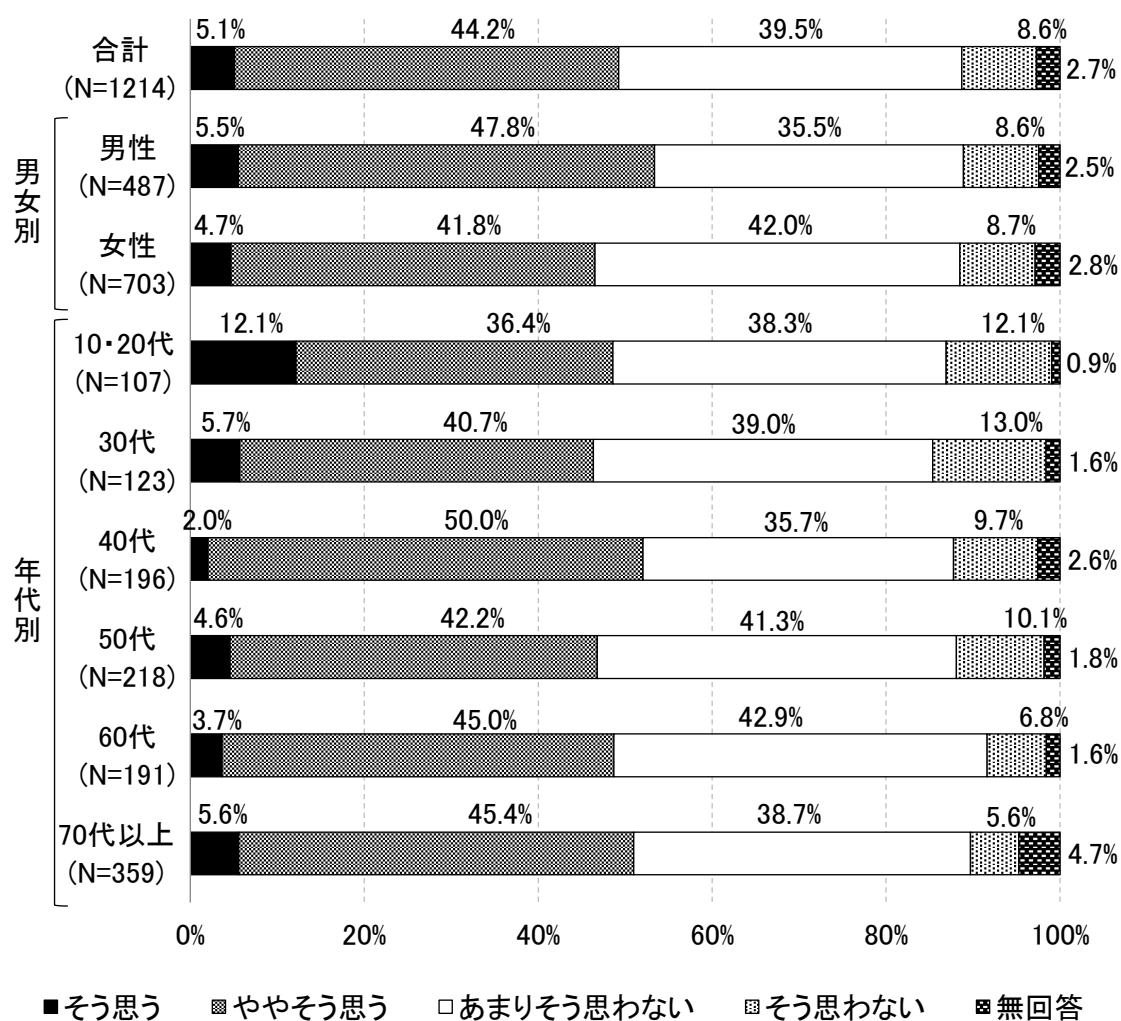


図 64 Q16B 高槻市の環境：不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちか

Q16C の高槻市は良好な環境づくりを目指した活動が豊富かに関して、男女別・年代別では 50 代を除いて、すべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が 4 割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 10・20 代以上が 52.4%と最も高く、反対に 50 代が 39.5%と最も低い（図 65）。

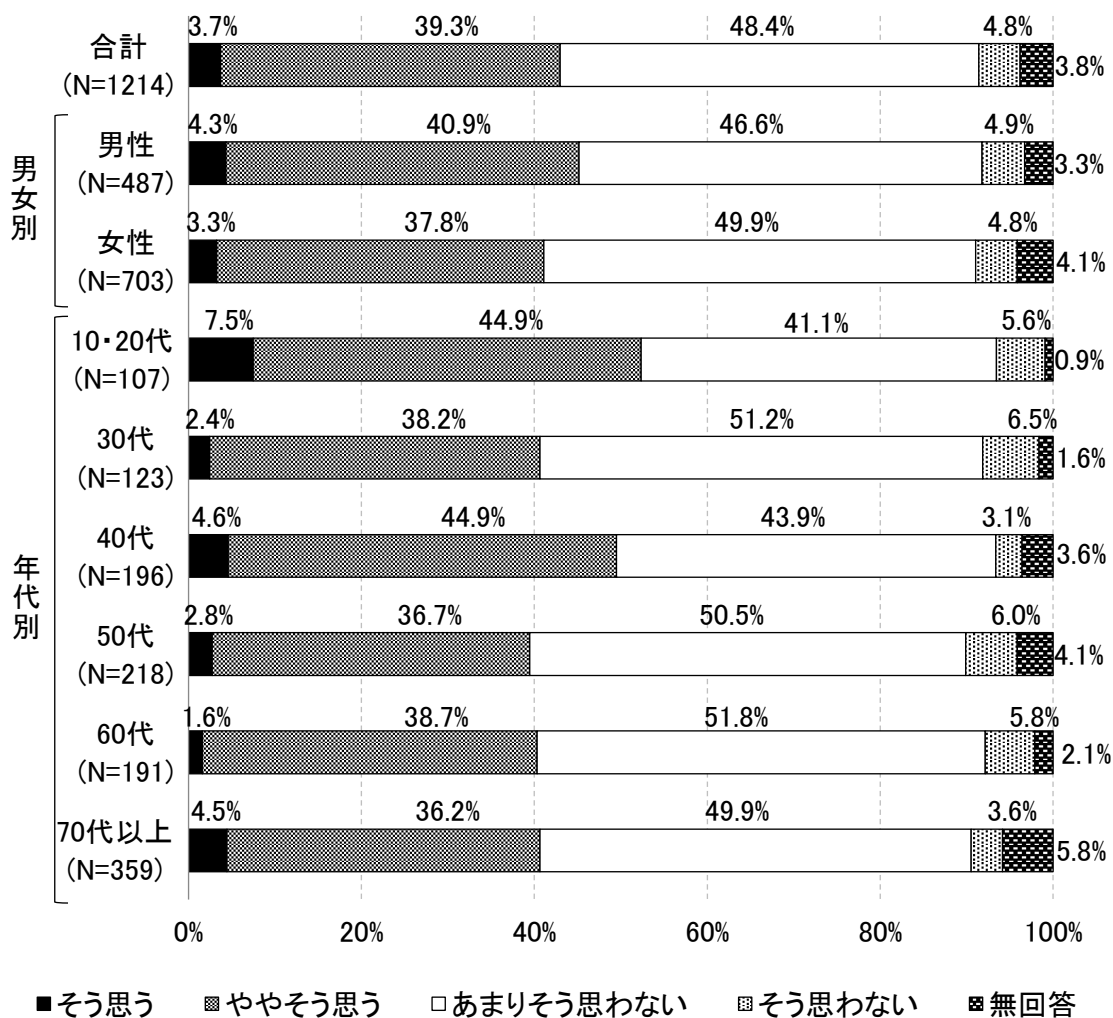


図 65 Q16C 高槻市の環境：良好な環境づくりを目指した活動が豊富か



Q16D の高槻市は環境活動に関する情報や呼びかけが十分かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が2割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代以上が35.5%と最も高く、反対に30代が20.3%と最も低い(図66)。

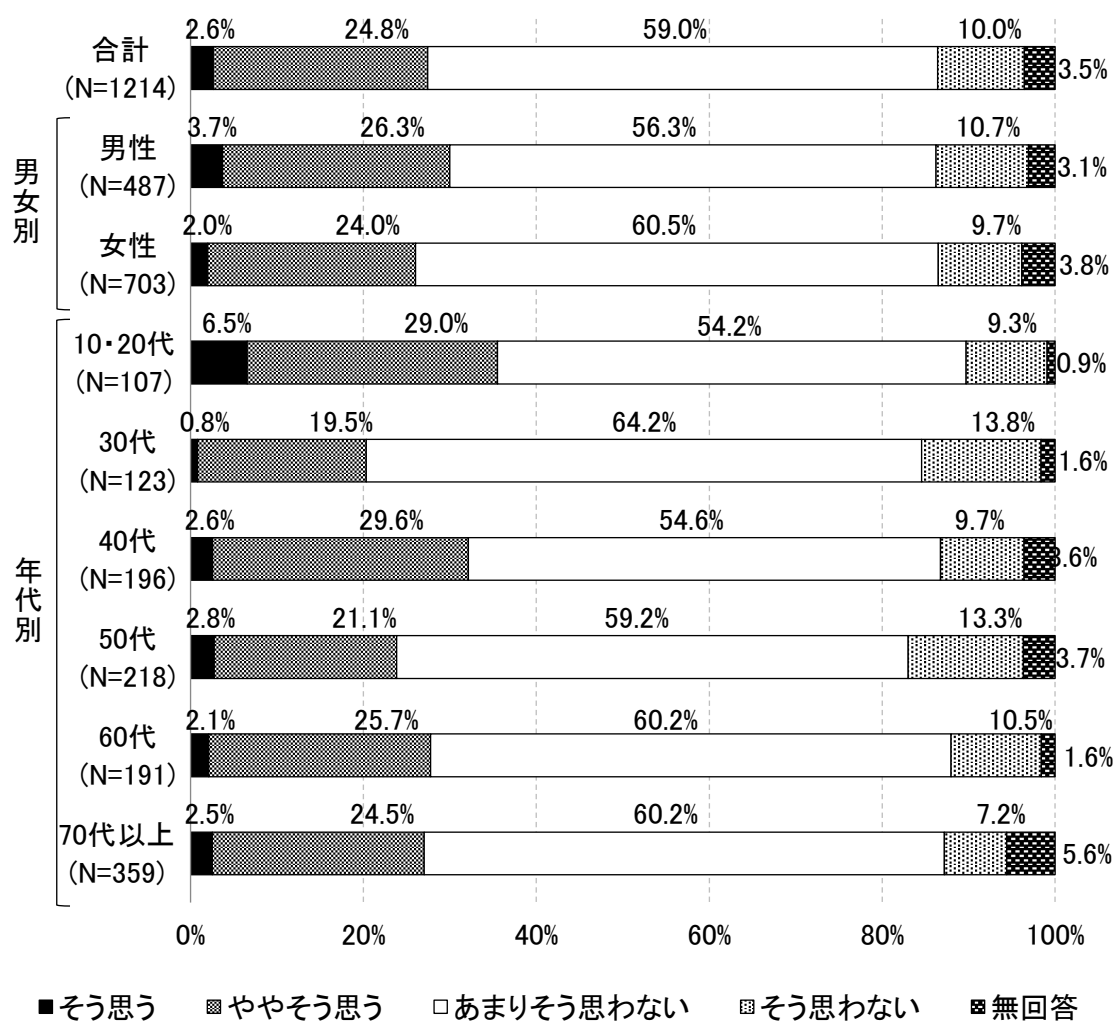


図66 Q16D 高槻市の環境：環境活動に関する情報や呼びかけが十分か

Q17 の森林レクリエーション活動のための整備案（仮）の実施にお金を負担するかに関して、男女別・年代別のすべての層で「適当な金額ならば負担する」と回答した人が 3 割以上である。年代別で見ると、「適当な金額ならば負担する」と回答した人の割合は 60 代と 70 代以上が 56.0%と最も高く、反対に 10・20 代が 37.4%と最も低い（図 67）。

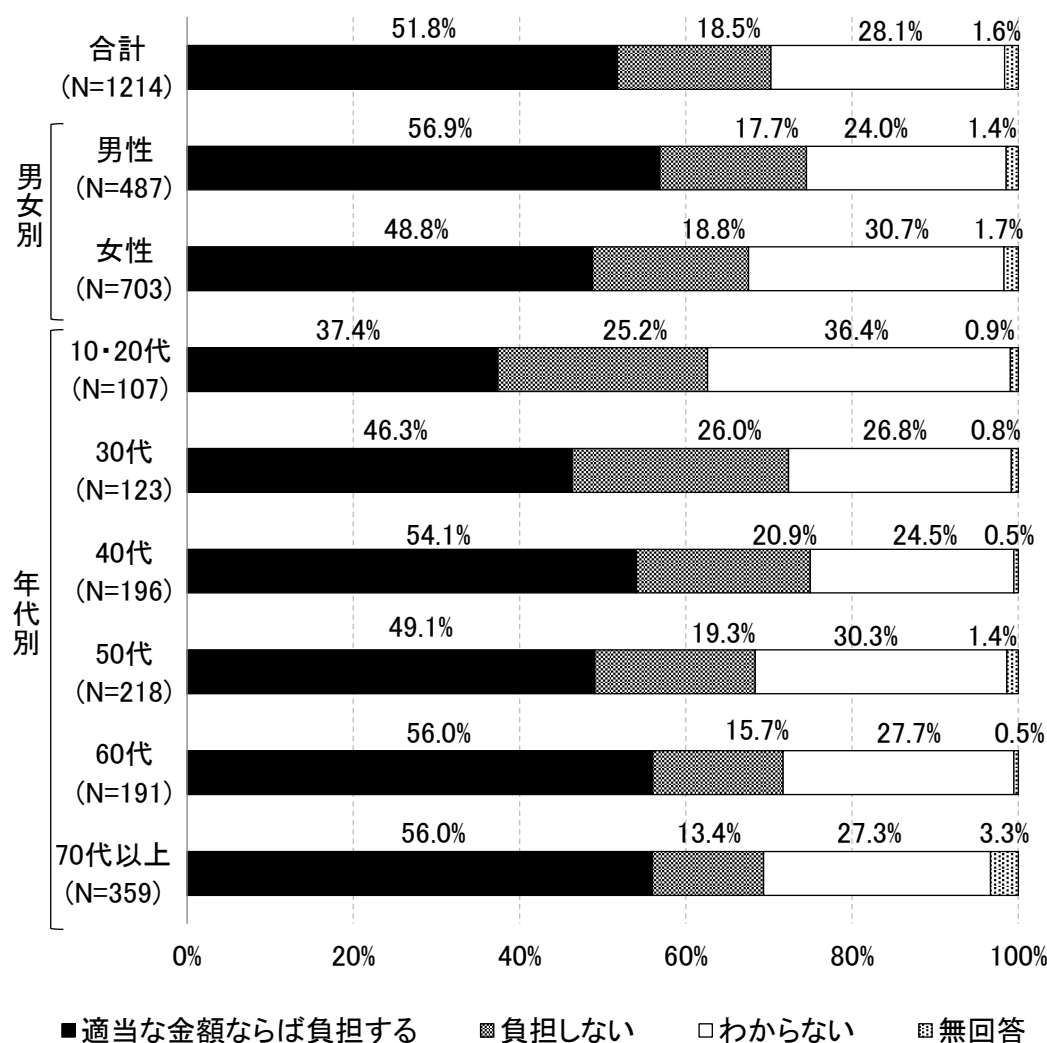


図 67 Q17 森林レクリエーション活動のための整備案（仮）の実施にお金を負担するか

Q18A の1年あたりの負担金額が200円の場合に関して、男女別・年代別のすべての層で「賛成する」と回答した人が9割以上である。年代別で見ると、「賛成する」と回答した人の割合は30代以下では100.0%であり、40代以上では9割を超える（図68）。

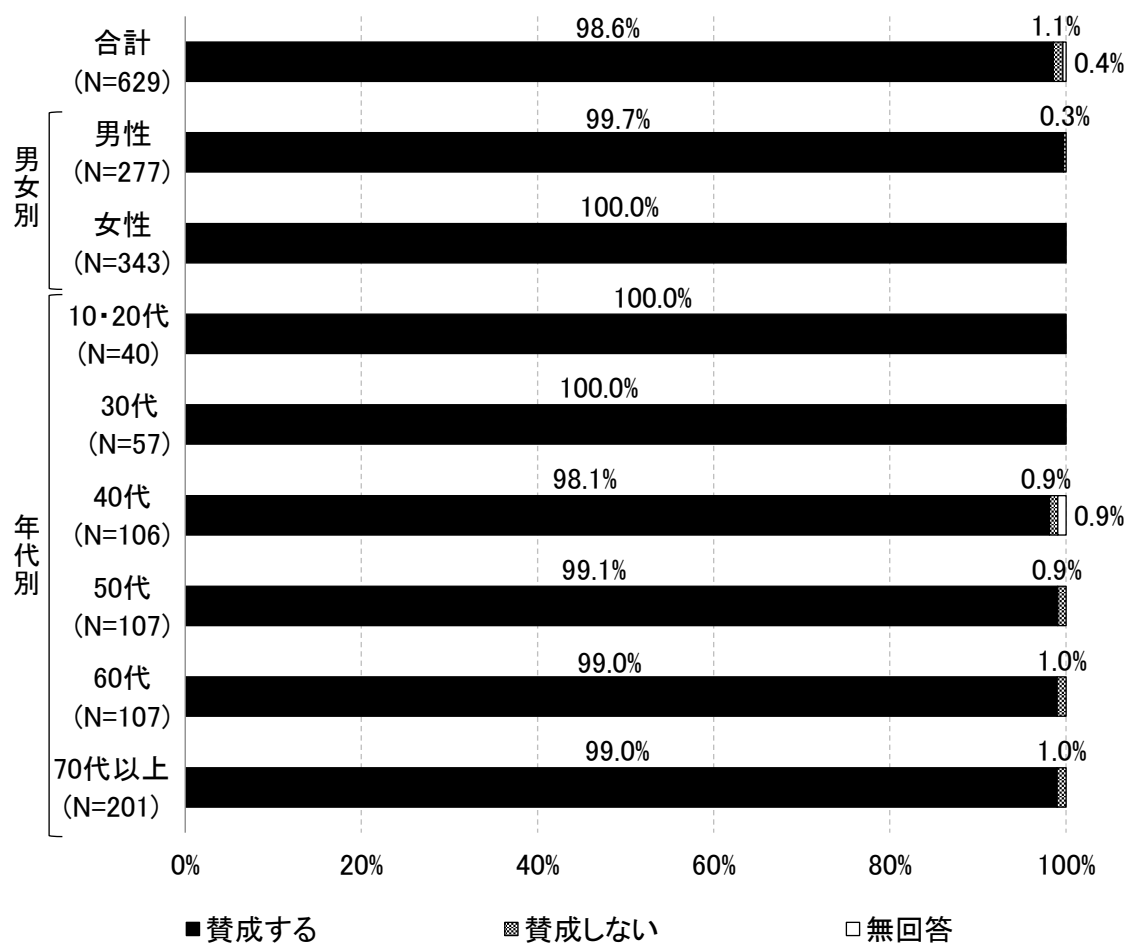


図 68 Q18A 1年あたりの負担金額が200円の場合

Q18B の1年あたりの負担金額が 400 円の場合に関して、男女別・年代別のすべての層で「賛成する」と回答した人が 8 割以上である。年代別で見ると、「賛成する」と回答した人の割合は 10・20 代が 95.0%と最も高く、反対に 40 代が 89.6%と最も低い（図 69）。

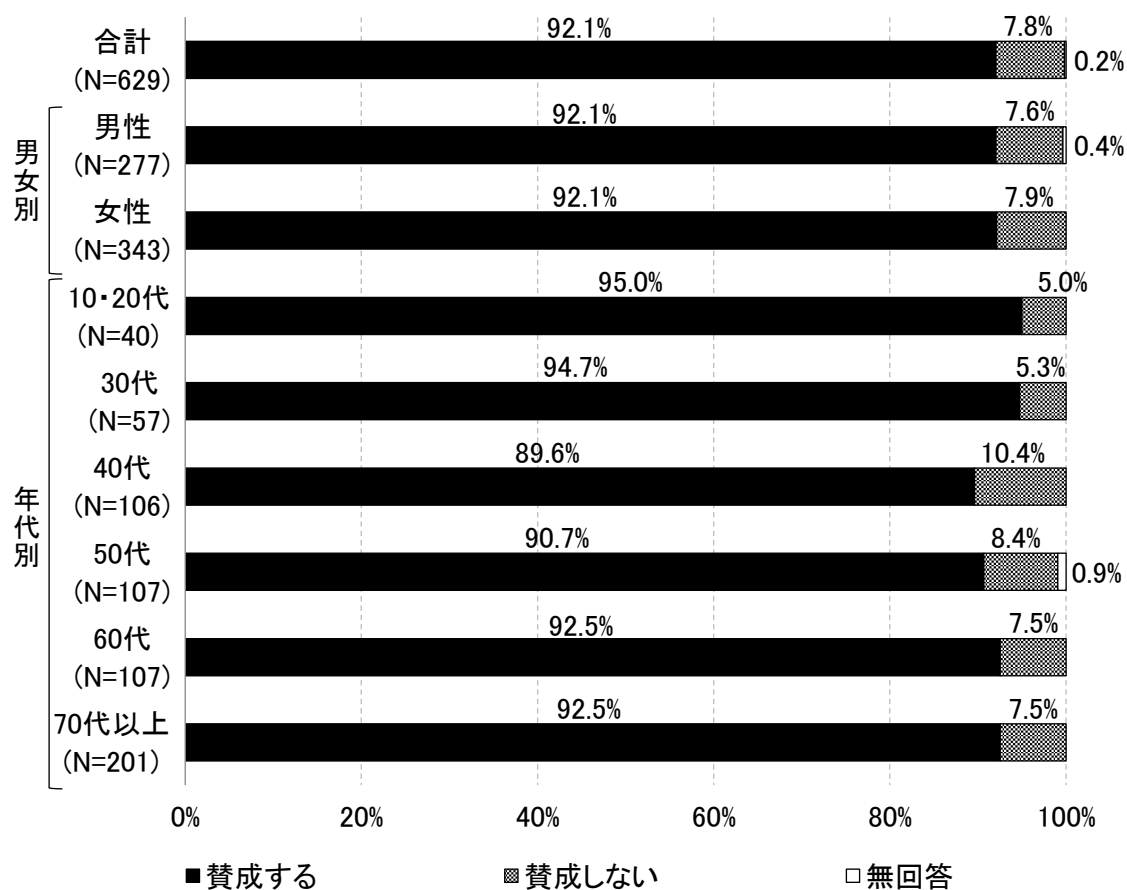


図 69 Q18B 1年あたりの負担金額が 400 円の場合

Q18Cの1年あたりの負担金額が1000円の場合に関して、男女別・年代別のすべての層で「賛成する」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「賛成する」と回答した人の割合は70代以上が73.1%と最も高く、反対に40代が58.5%と最も低い(図70)。

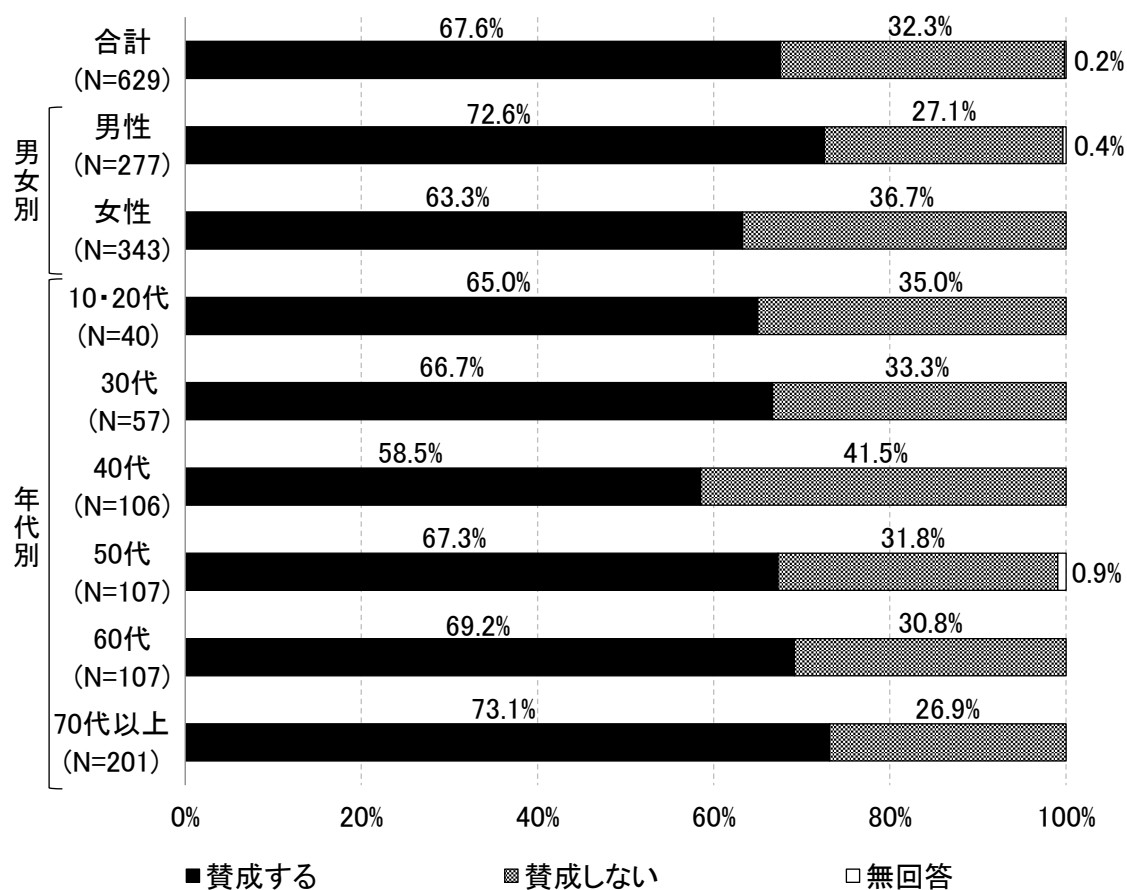


図70 Q18C 1年あたりの負担金額が1000円の場合

Q18Dの1年あたりの負担金額が2000円の場合に関して、男女別・年代別のすべての層で「賛成しない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「賛成しない」と回答した人の割合は30代が78.9%と最も高く、反対に50代が75.7%と最も低い(図71)。

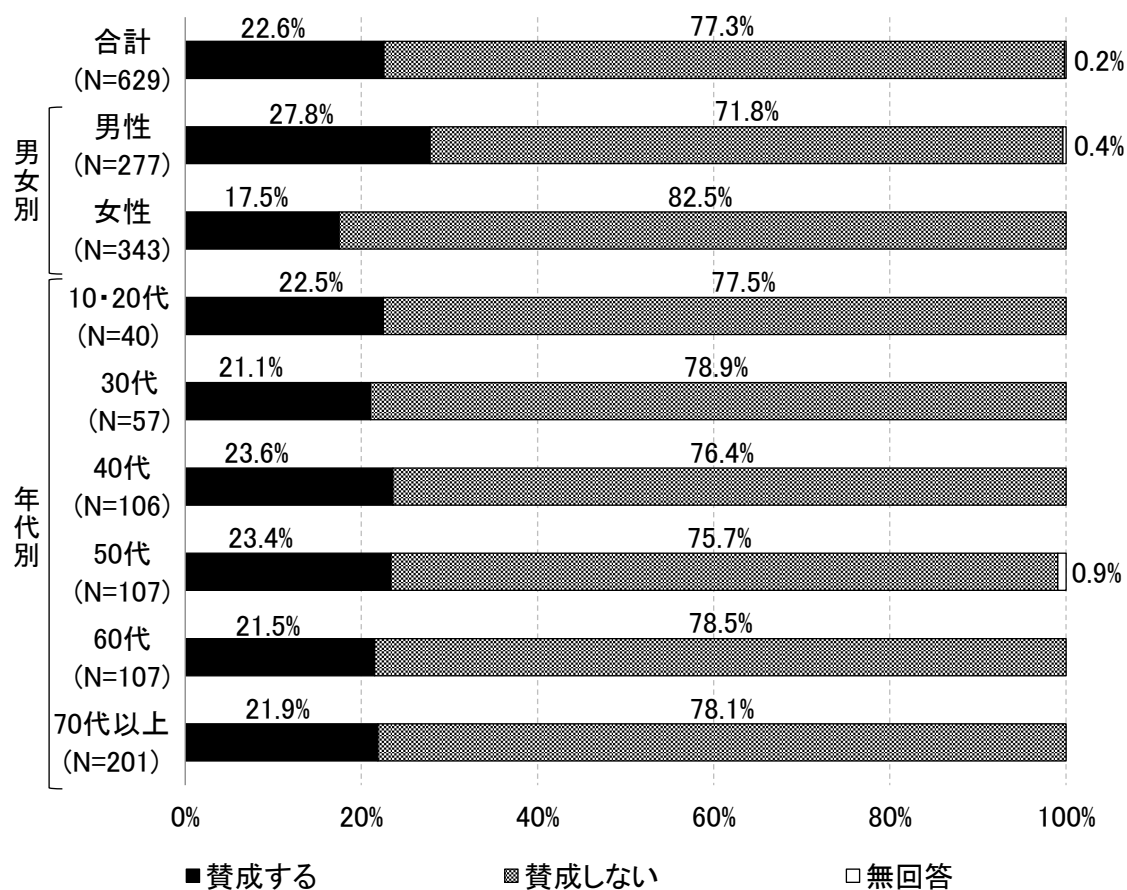


図71 Q18D 1年あたりの負担金額が2000円の場合

Q18E の1年あたりの負担金額が3000円の場合に関して、男女別・年代別のすべての層で「賛成しない」と回答した人が8割以上である。年代別で見ると、「賛成しない」と回答した人の割合は60代が87.9%と最も高く、反対に50代が83.2%と最も低い（図72）。

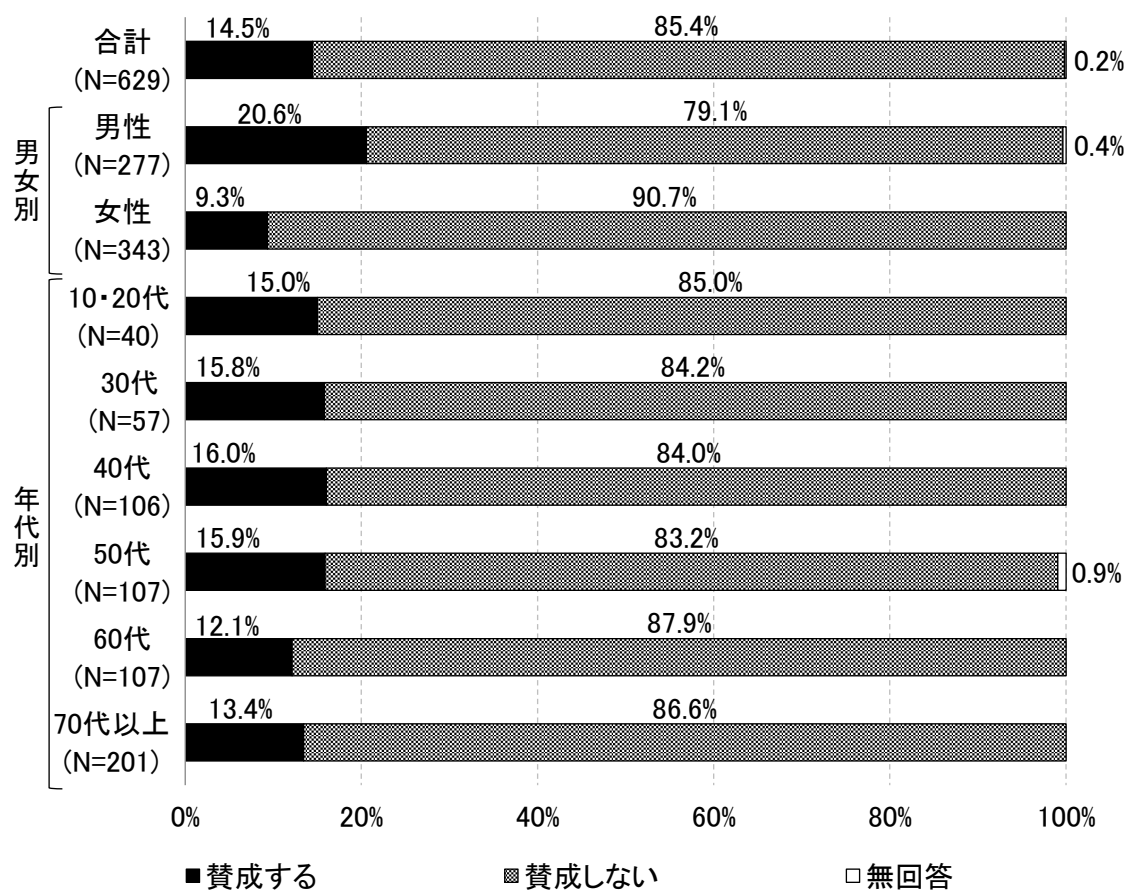


図72 Q18E 1年あたりの負担金額が3000円の場合

Q19の「共生社会」という考え方を知っているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は50代が54.1%と最も高く、反対に70代以上が44.3%と最も低い(図73)。

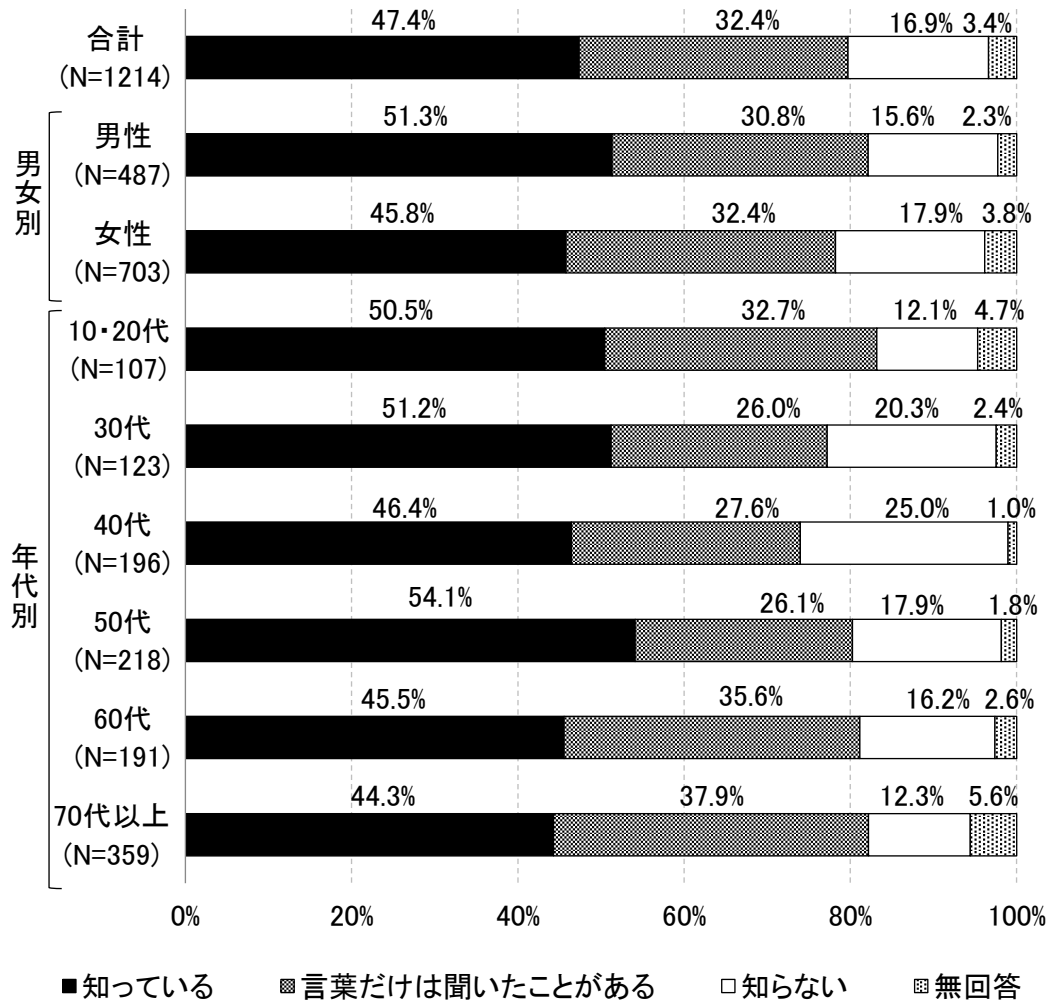


図73 Q19 「共生社会」という考え方を知っているか



Q20 の気が沈んだり、気が重くなることあるかに関して、男女別で見ると、男女ともに「全くない」または「少しだけある」と回答した人の割合は 3 割以上である。年代別で見ると、「全くない」または「少しだけある」と回答した人の割合は 60 代が 62.3%と最も高く、反対に 50 代が 39.9%と最も低い（図 74）。

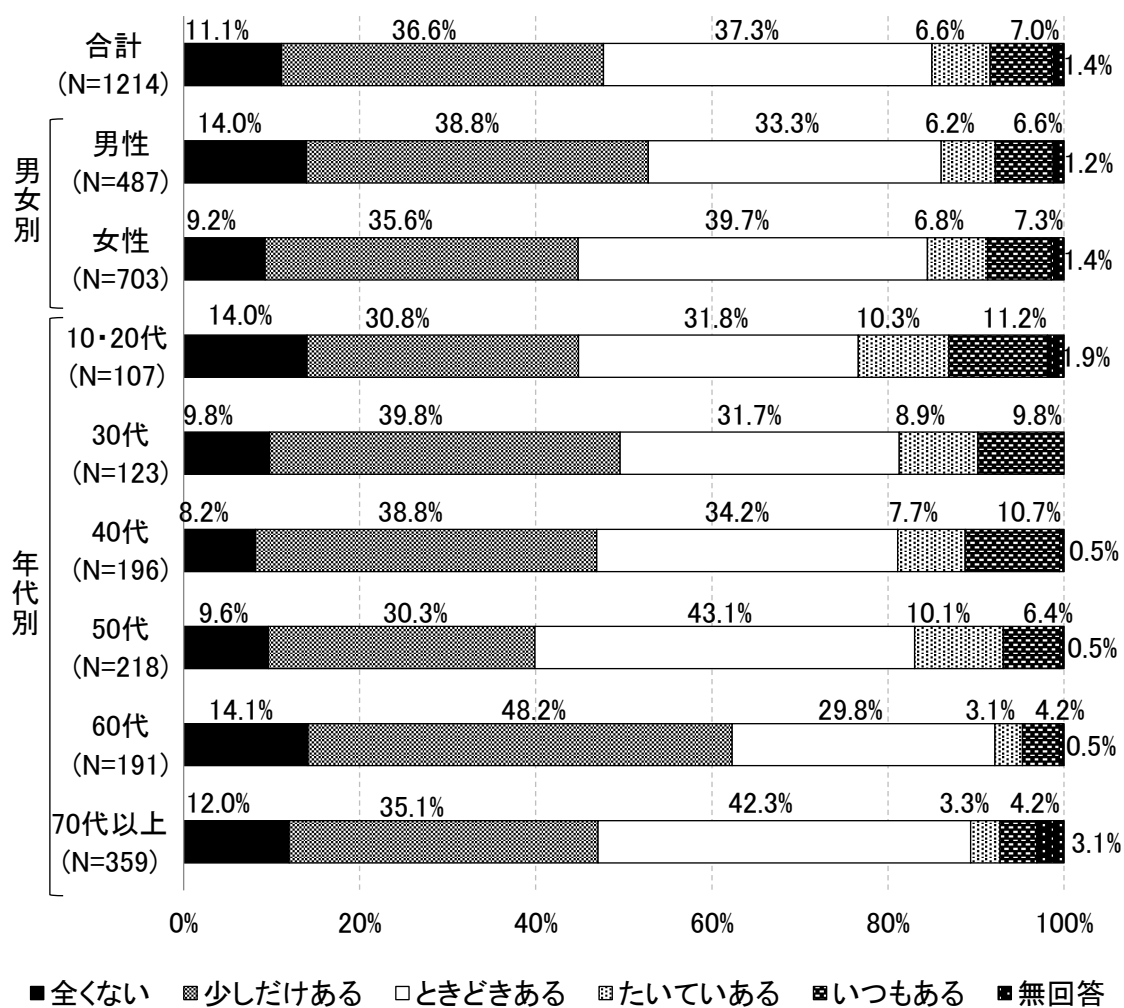
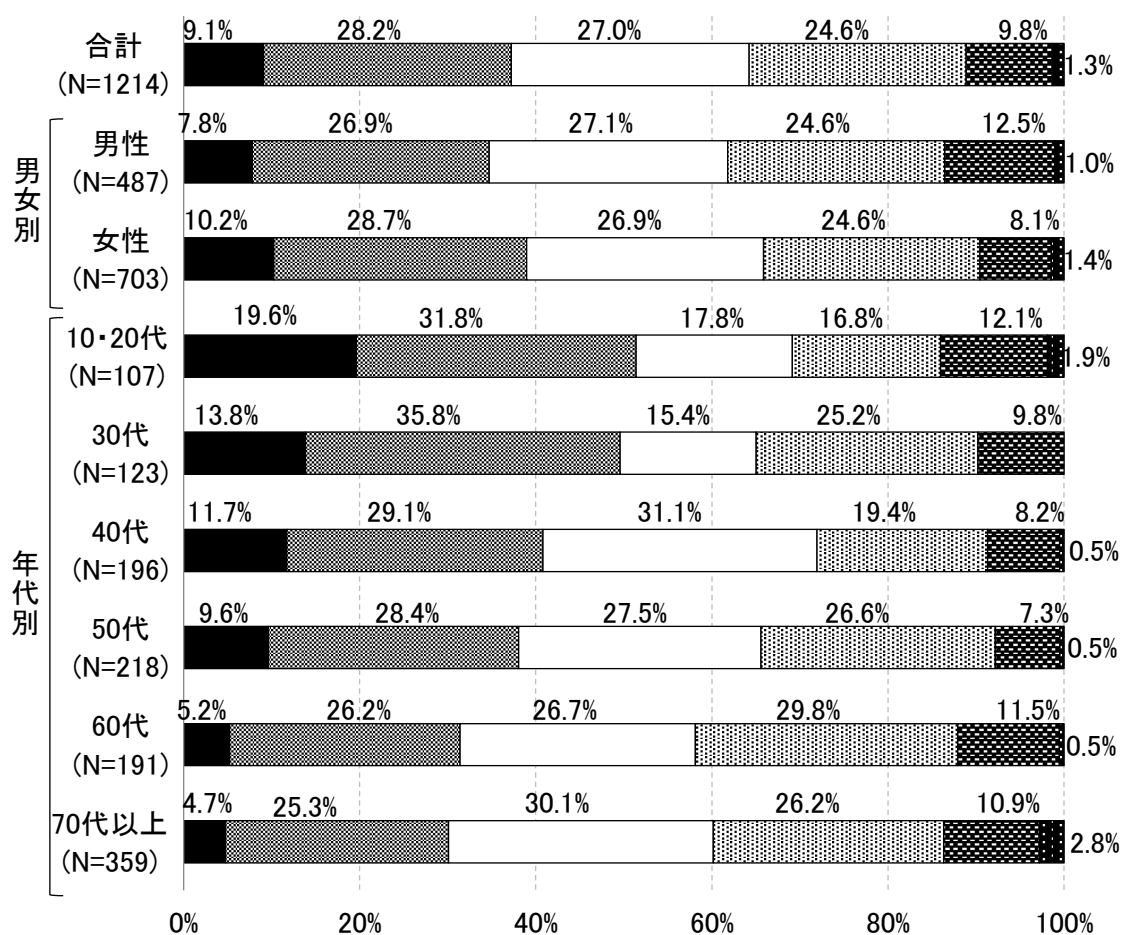


図 74 Q20 気が沈んだり、気が重くなることあるか

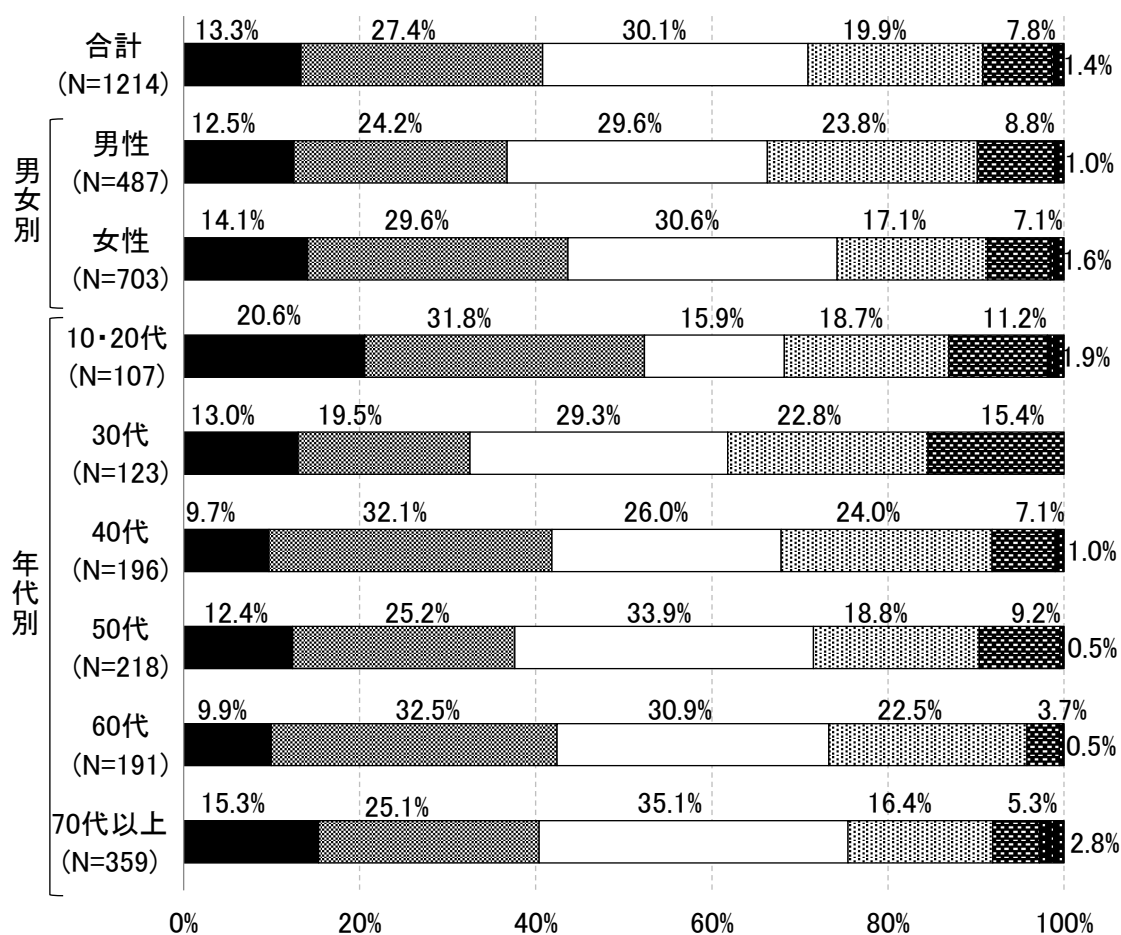
Q21 の心配事が多く、不安になりやすいかに関して、男女別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は、男性で 34.7%、女性で 38.9%と、女性の方が 4.2 ポイント高い。年代別で見ると、年代が下がるにつれて減少傾向にあり、70 代以上で 30.0% になる。(図 75)。



■そう思う ■ややそう思う □どちらともいえない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答

図 75 Q21 心配事が多く、不安になりやすいか

Q22 の初対面の相手と会話を楽しむことができるかに関して、男女別で見ると、男女ともに「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は4割程度である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が52.4%と最も高く、反対に30代が32.5%と最も低い(図76)。



■そう思う ■ややそう思う □どちらともいえない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答

図76 Q22 初対面の相手と会話を楽しむことができるか

Q23の年間の自殺者数の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は40代が78.6%と最も高く、反対に10・20代が65.4%と最も低い(図77)。

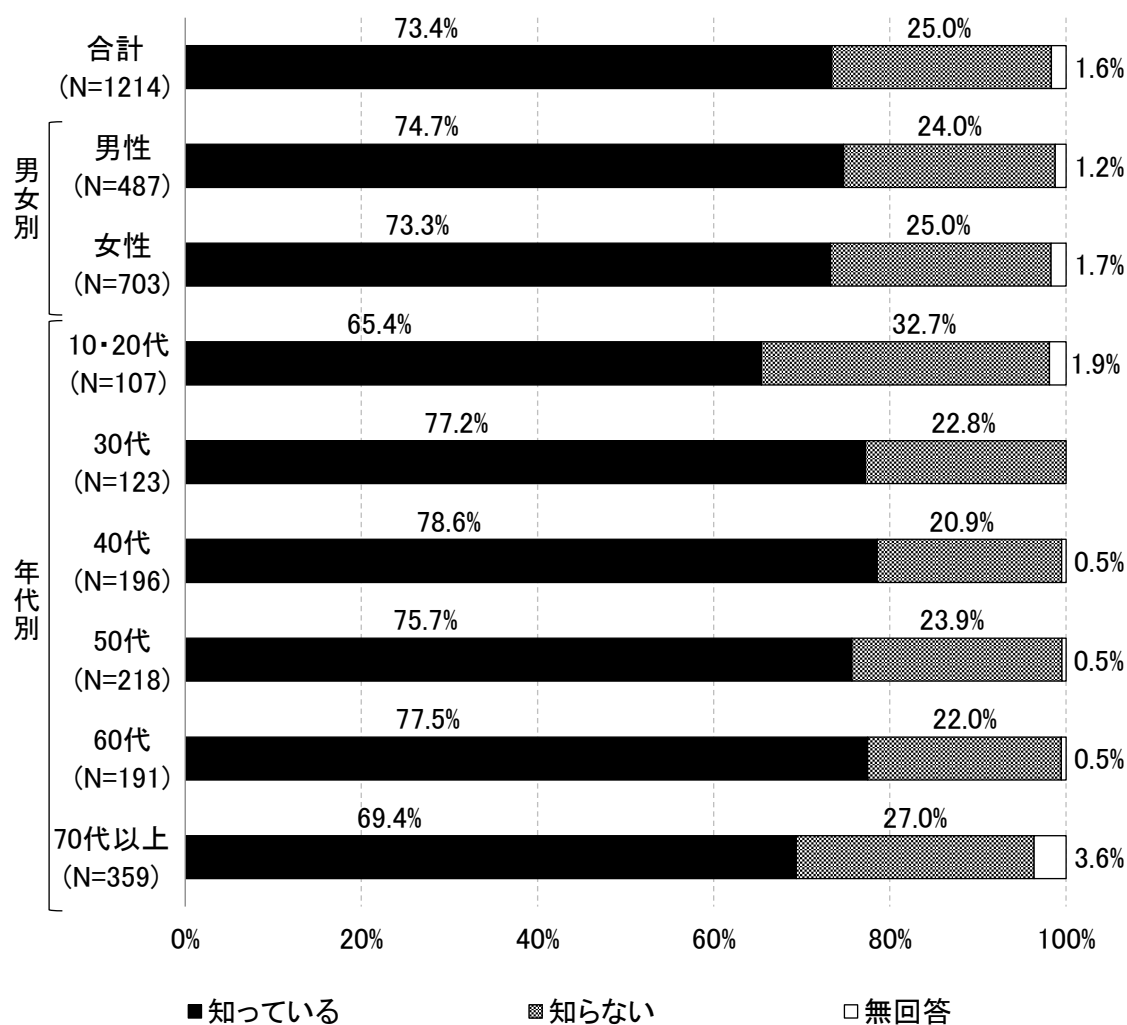


図 77 Q23 年間の自殺者数の認知度

Q24の自殺に関する相談機関の認知度に関して、男女別・年代別で見ると、70代以上を除いて、すべての層で7割以上が「知っている」と回答している。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は30代が87.0%と最も高く、反対に70代以上が59.6%と最も低い(図78)。

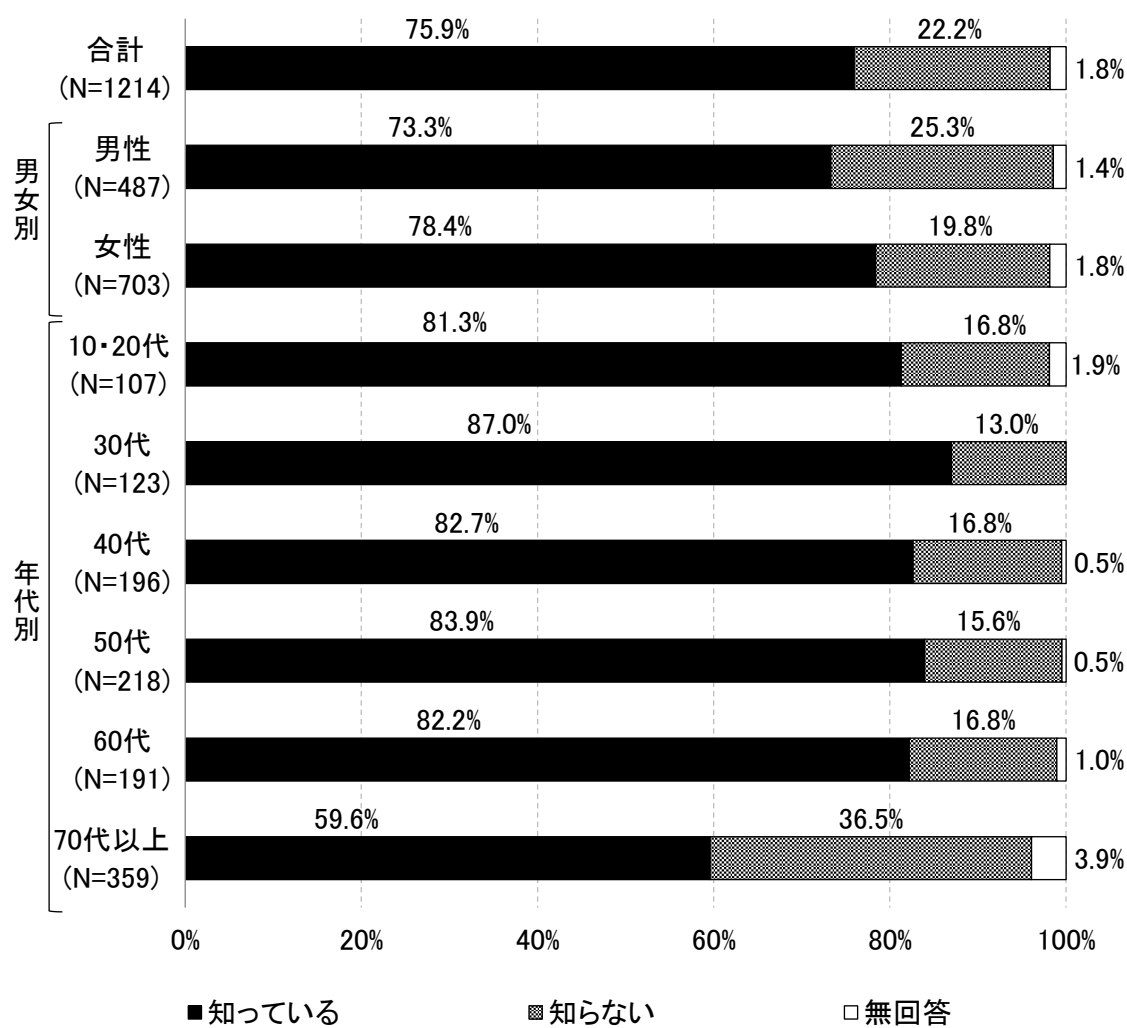


図 78 Q24 自殺に関する相談機関の認知度

Q25 の本気で自殺を考えたことがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「ない」と回答した人の割合は70代以上が85.2%と最も高く、反対に10・20代が78.5%と最も低い(図79)。

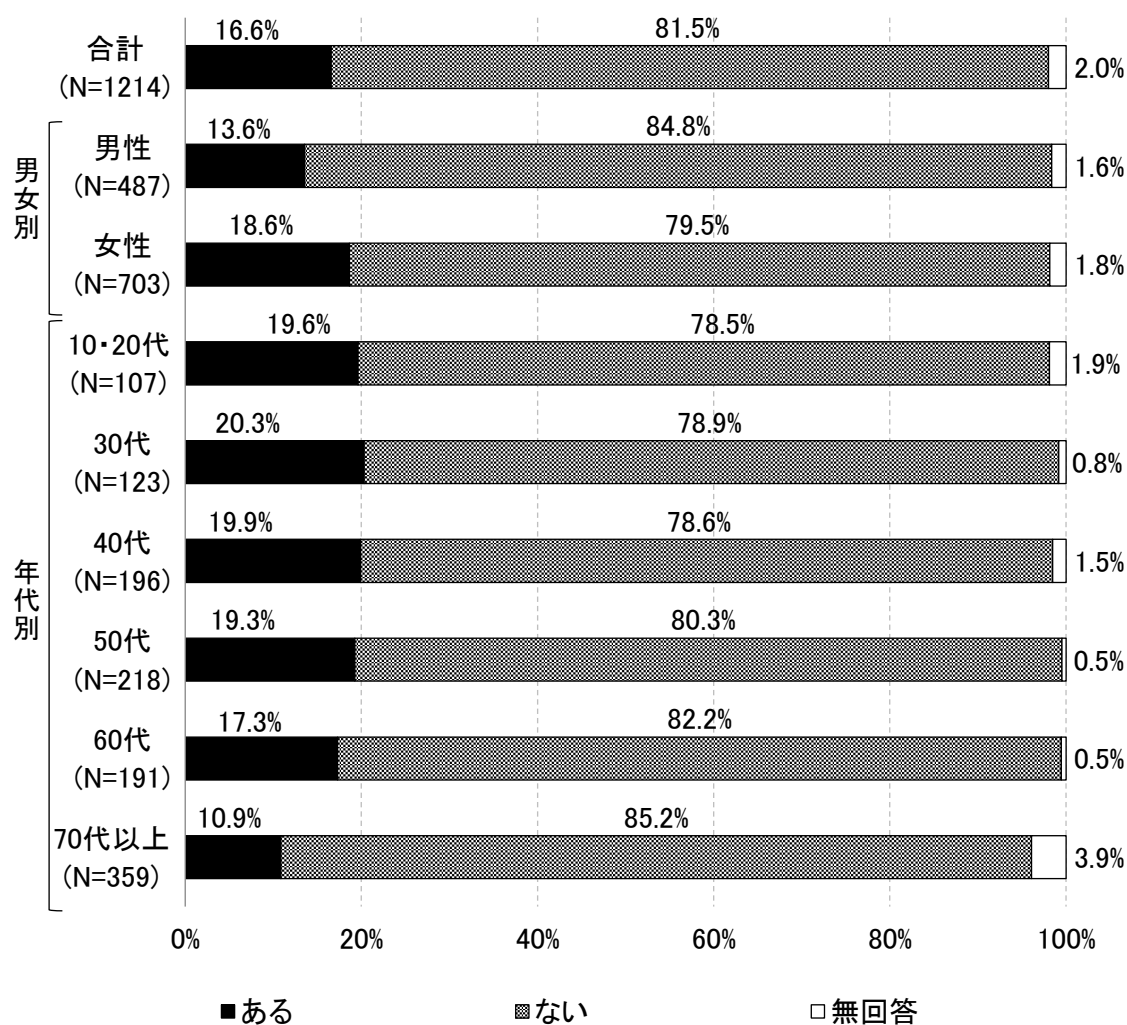


図 79 Q25 本気で自殺を考えたことがあるか

Q26 の自殺願望を聞いたときの対応に関して、「耳を傾けて聞く」が 62.1%で最も高く、「共感を示す」が 50.1%と続く（図 80）。

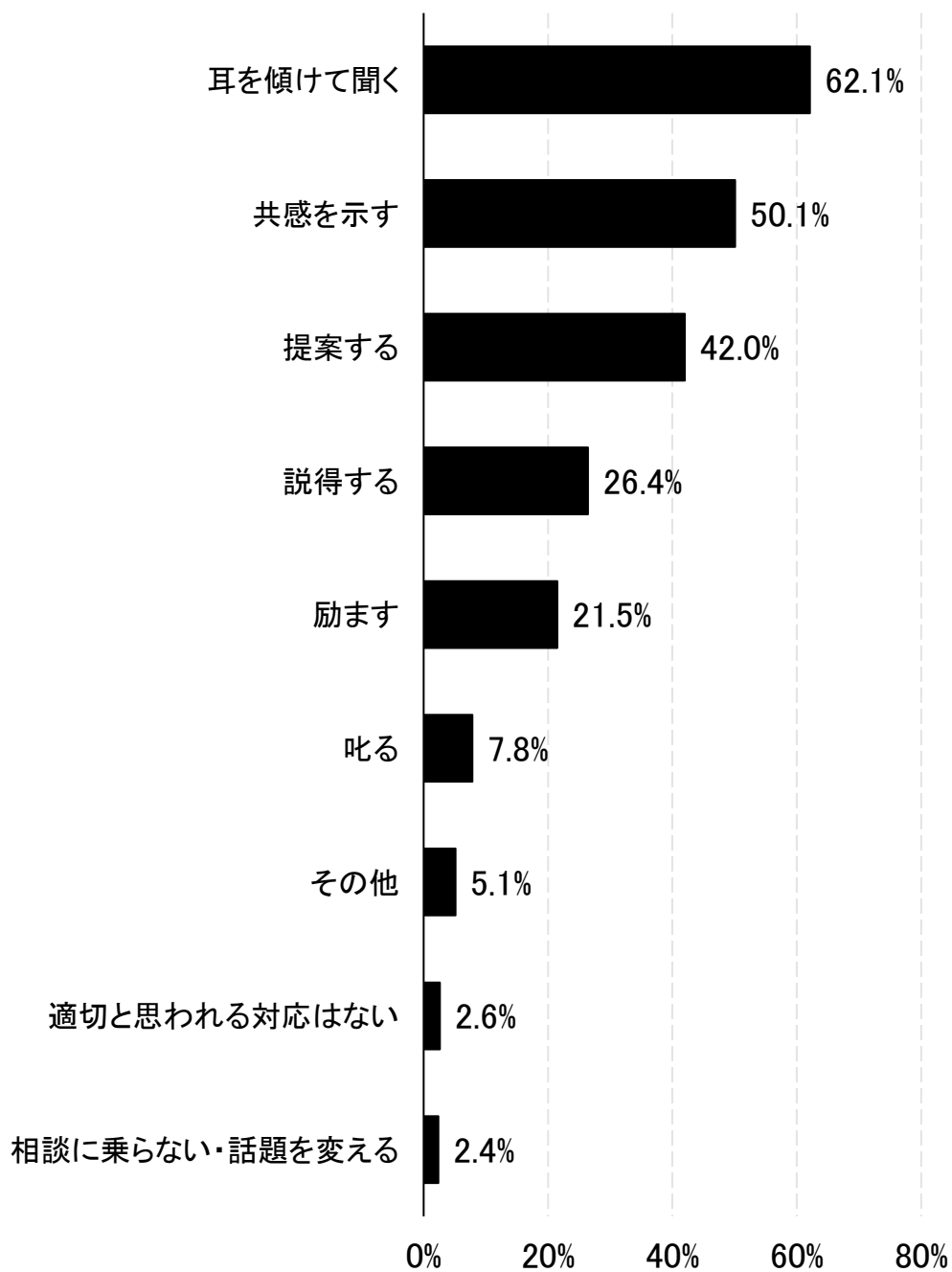


図 80 Q26 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・全体 N=1214）

Q26の自殺願望を聞いたときの対応に関して、男女別で見ると、「共感を示す」は男女で差があり、男性よりも女性の方が17.8ポイント高い（図81）。

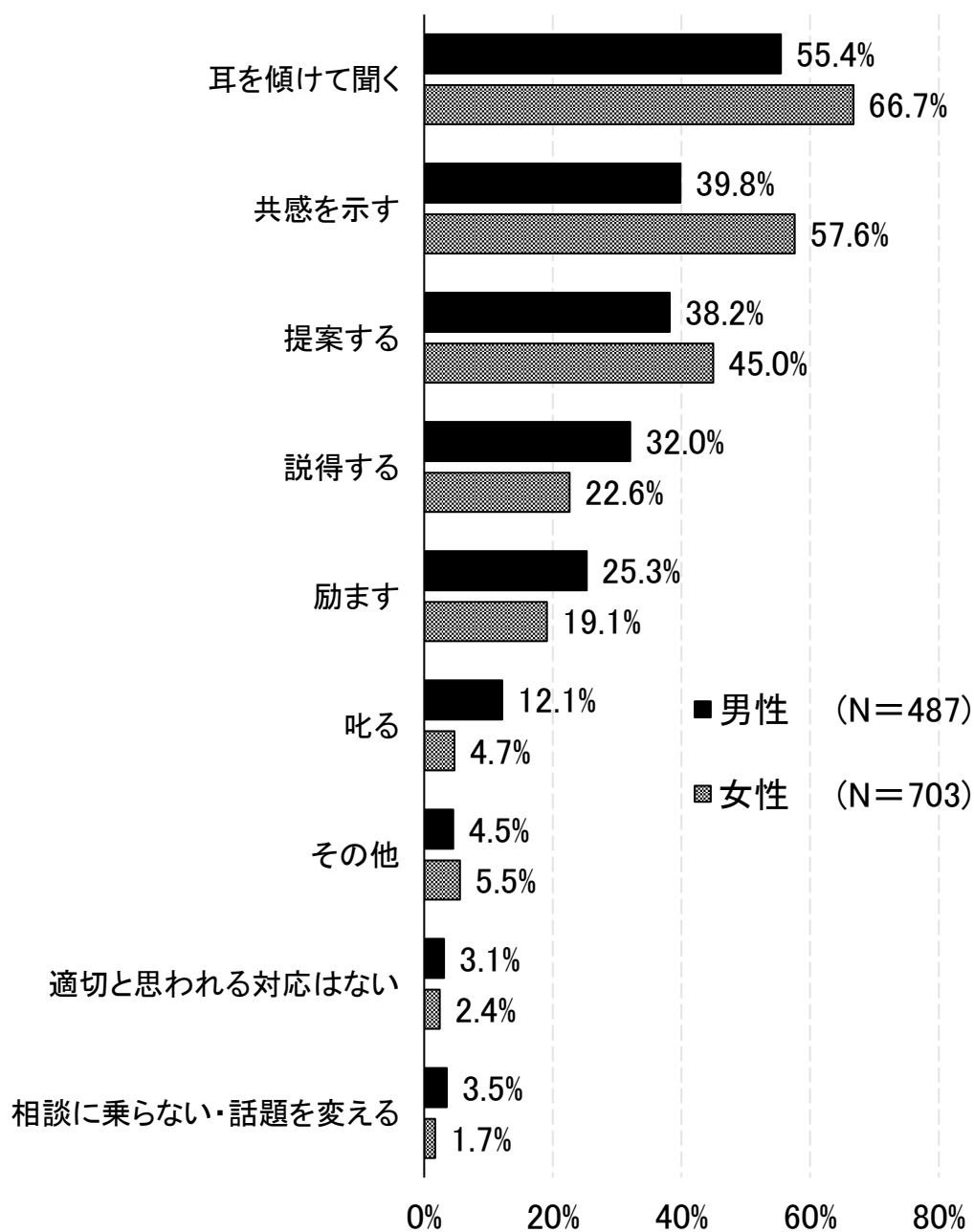


図 81 Q26 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・男女別）



Q26の自殺願望を聞いたときの対応に関して、年代別で見ると、「耳を傾けて聞く」は年代で差があり、10・20代が81.3%と最も高く、反対に70代以上は47.4%と最も低い（図82）。

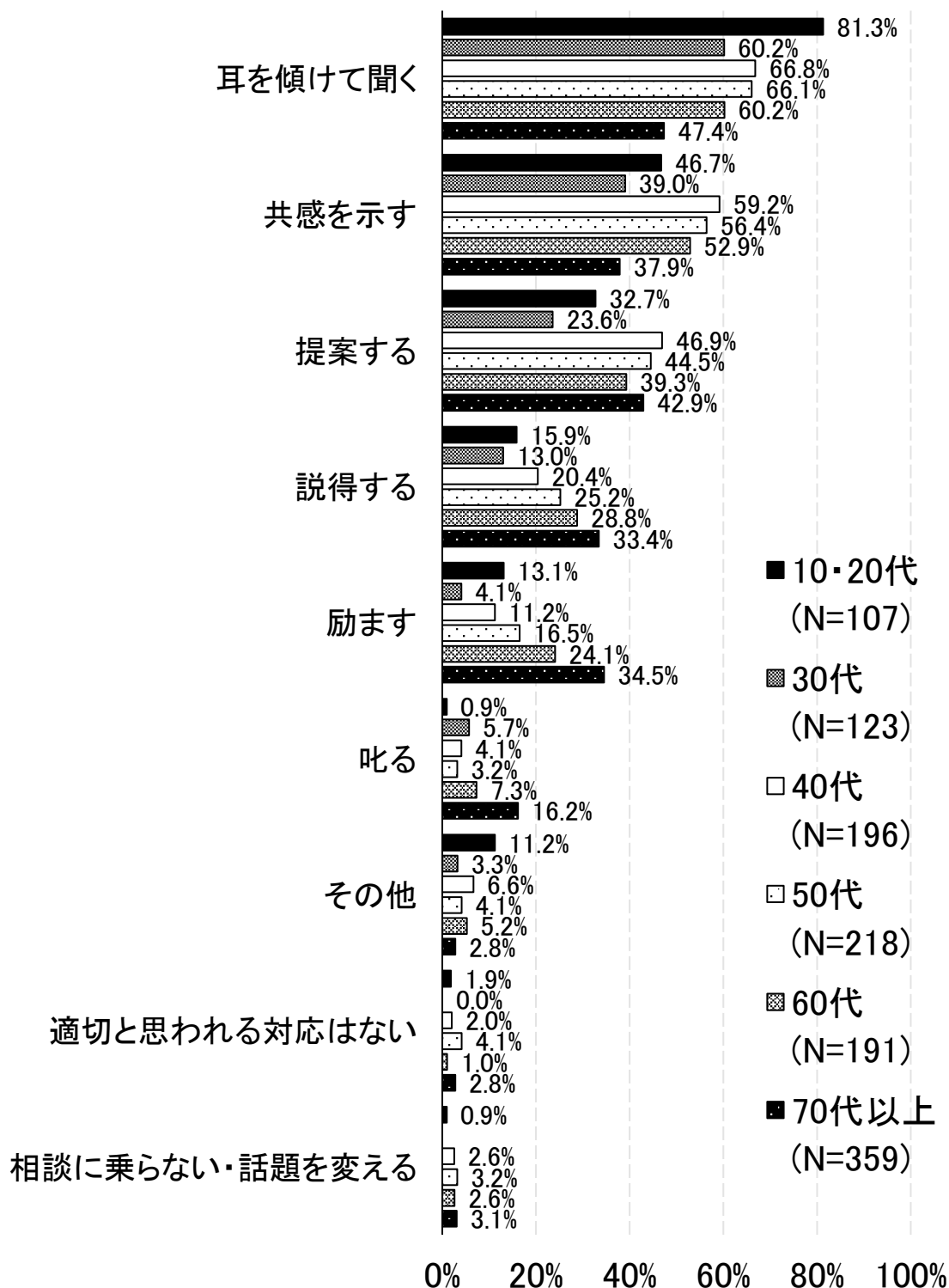


図 82 Q26 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・年代別）

Q27 の今後求められる自殺対策に関して、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 47.8%で最も高く、「子どもの自殺予防」が 42.4%と続く（図 83）。

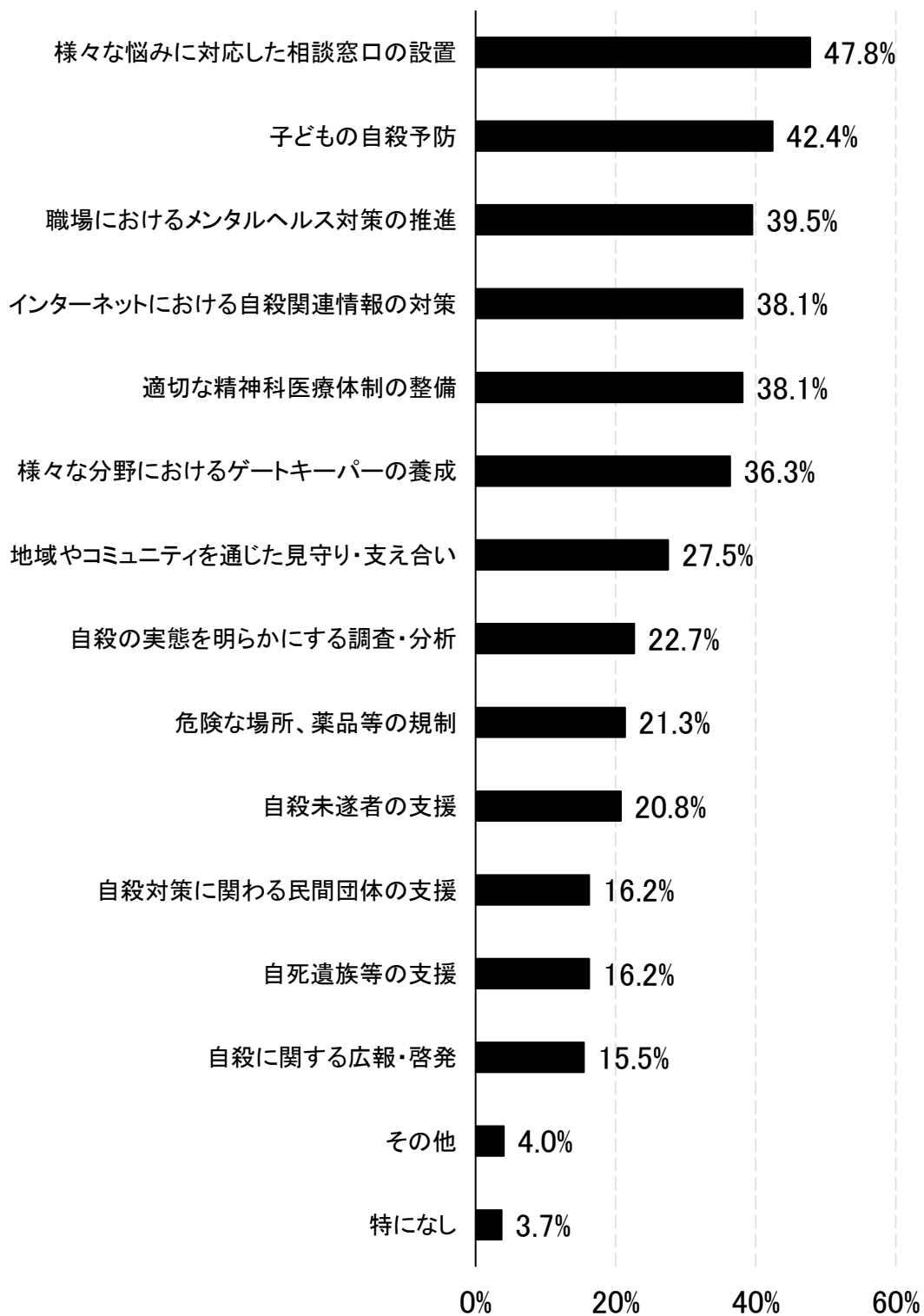


図 83 Q27 今後求められる自殺対策（複数回答・全体 N=1214）

Q27 の今後求められる自殺対策に関して、男女別で見ると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 10.1 ポイント高い（図 84）。

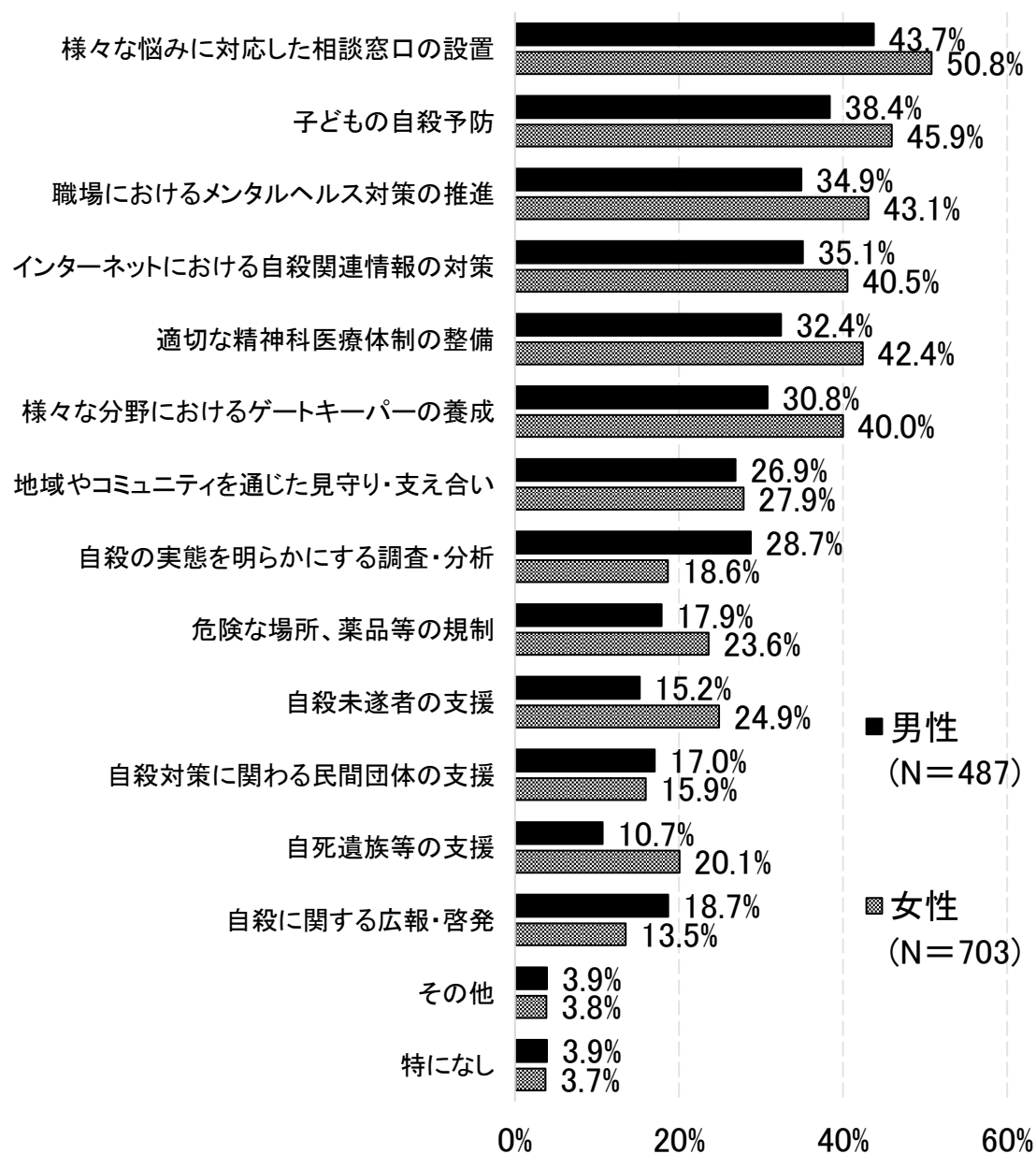


図 84 Q27 今後求められる自殺対策（複数回答・男女別）

Q27 の今後求められる自殺対策に関して、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」は年代で差があり、30代が 56.1%と最も高く、70代以上は 27.9%と最も低い（図 85）。

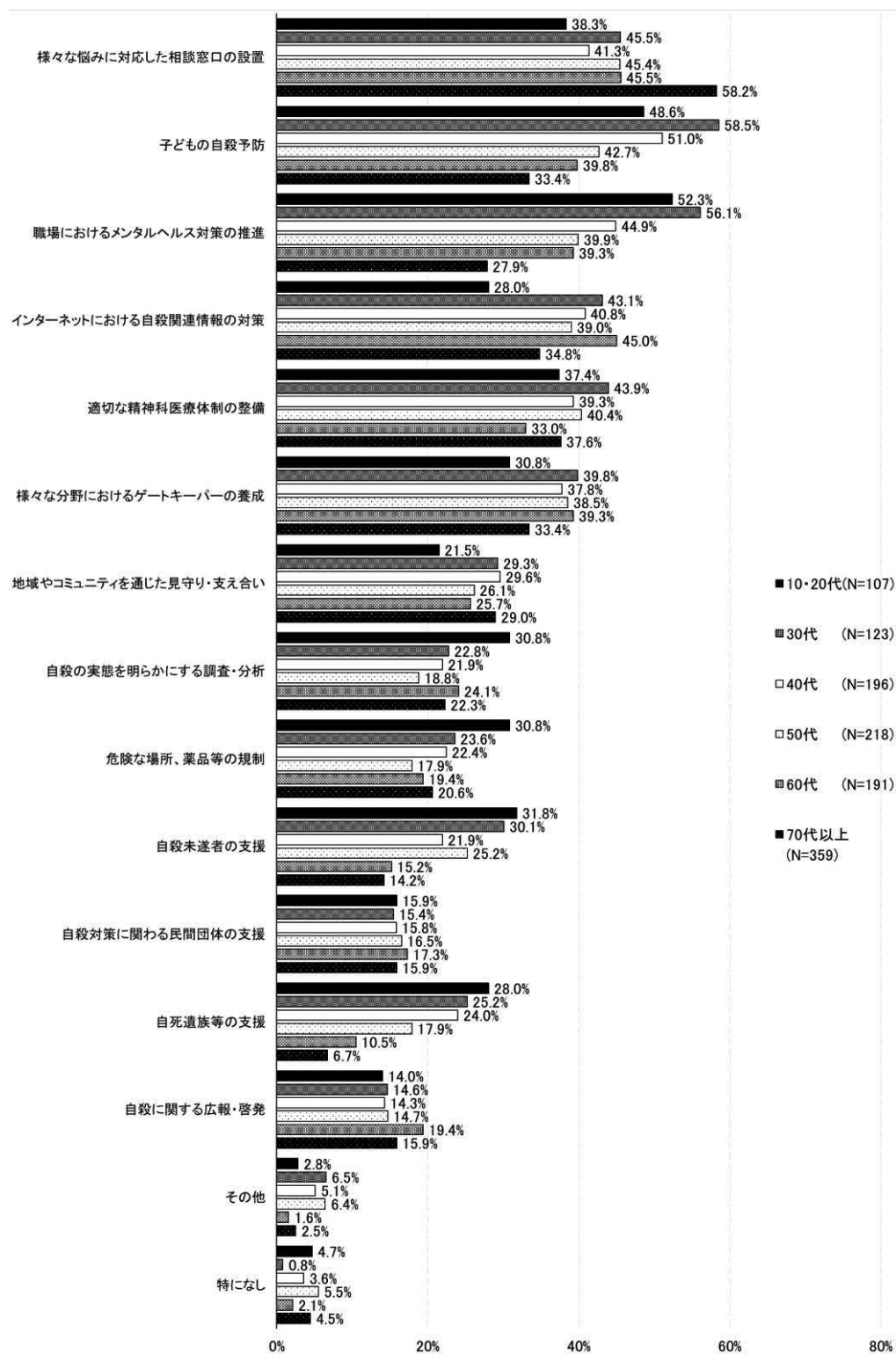


図 85 Q27 今後求められる自殺対策（複数回答・年代別）

Q28 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、「身近な人に悩みを聞いてもらう」が 63.4%で最も高く、「心の専門家に相談する」が 58.8%と続く（図 86）。

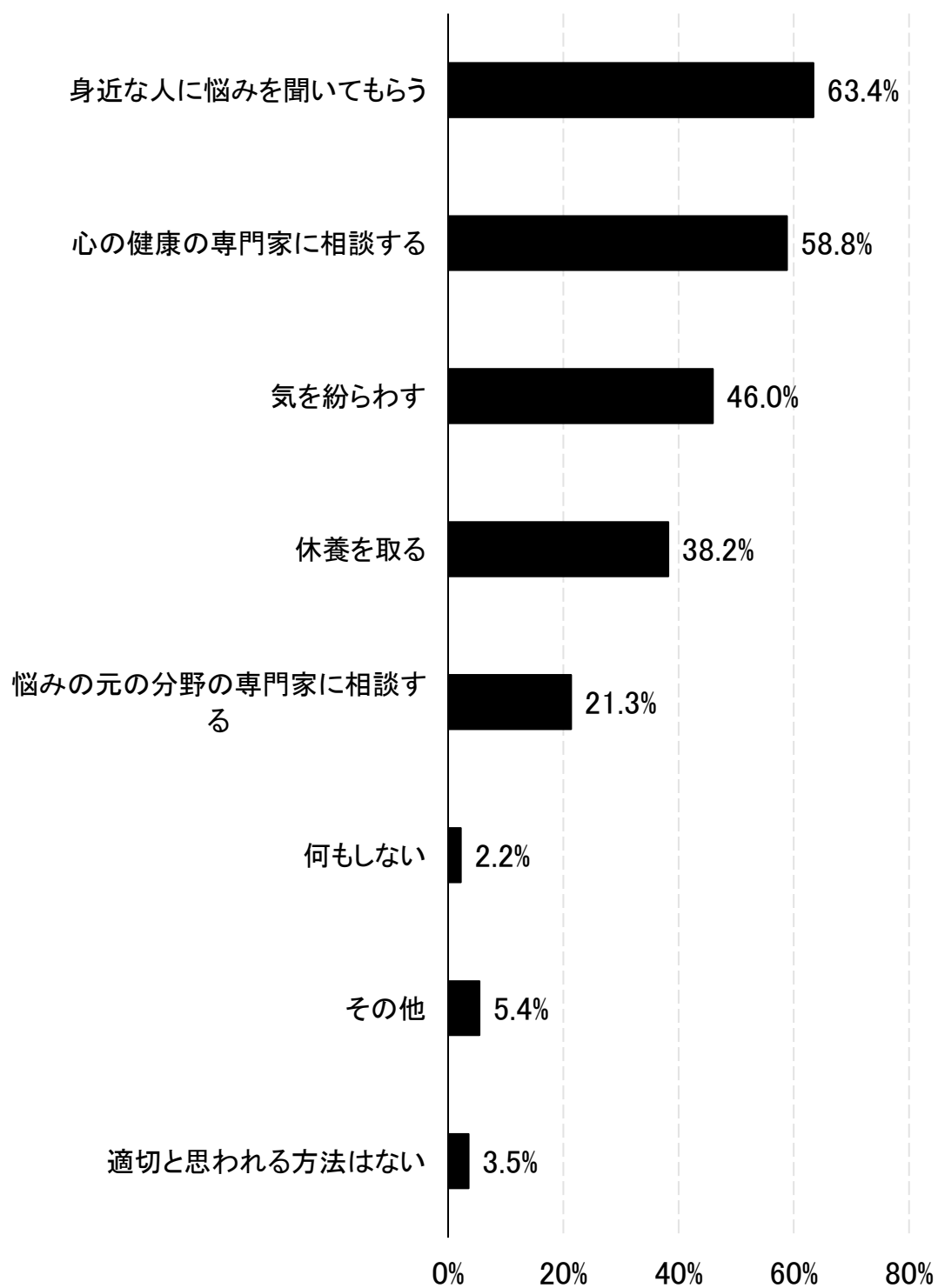


図 86 Q28 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・全体 N=1214）

Q28の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、男女別で見ると、「心の健康の専門家に相談する」は男女で差があり、男性よりも女性の方が9.4ポイント高い（図87）。

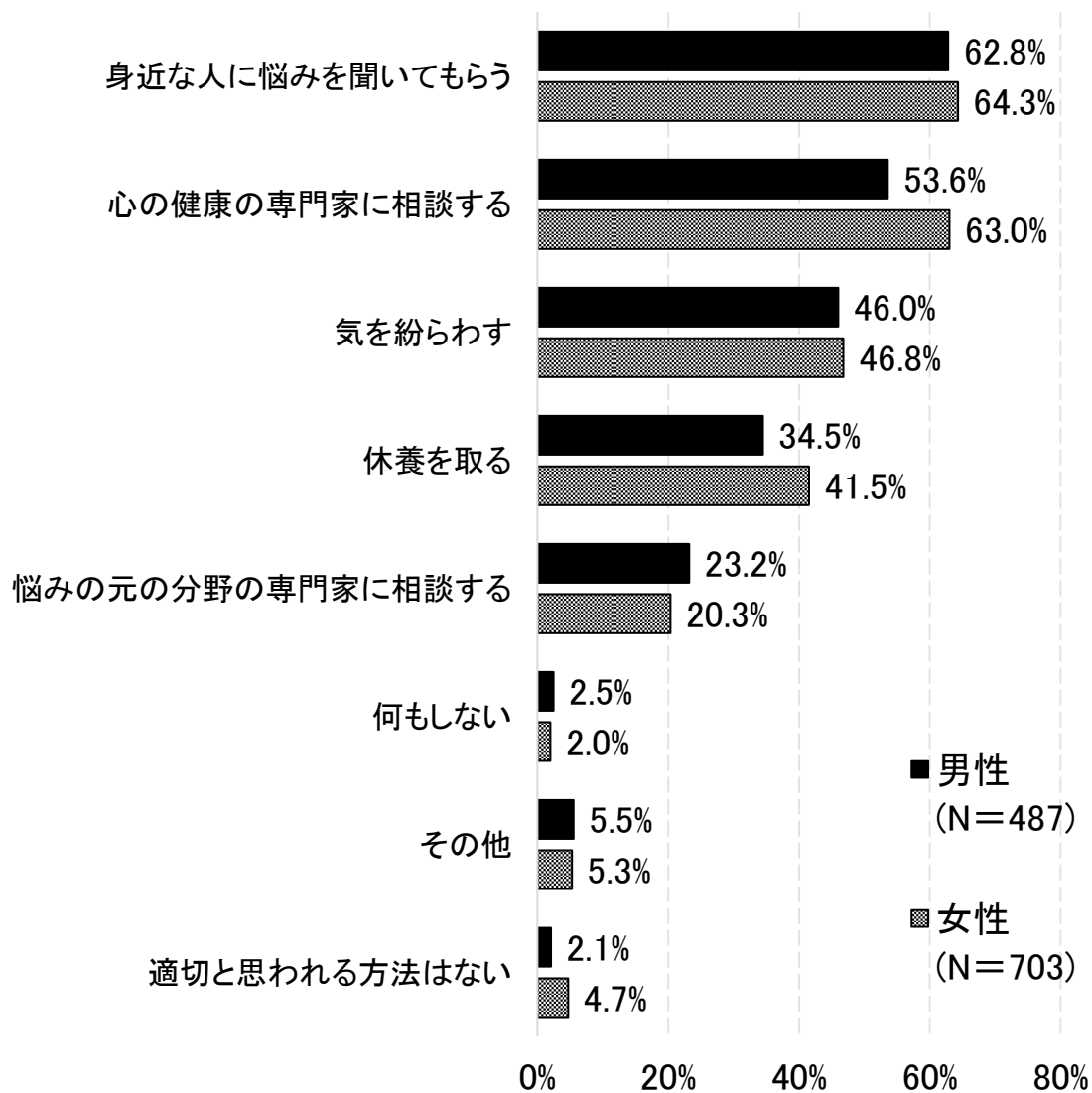


図 87 Q28 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・男女別）

Q28の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、年代別で見ると、「休養を取る」は年代で差があり、10・20代が61.7%と最も高く、反対に70代以上は26.5%と最も低い(図88)。

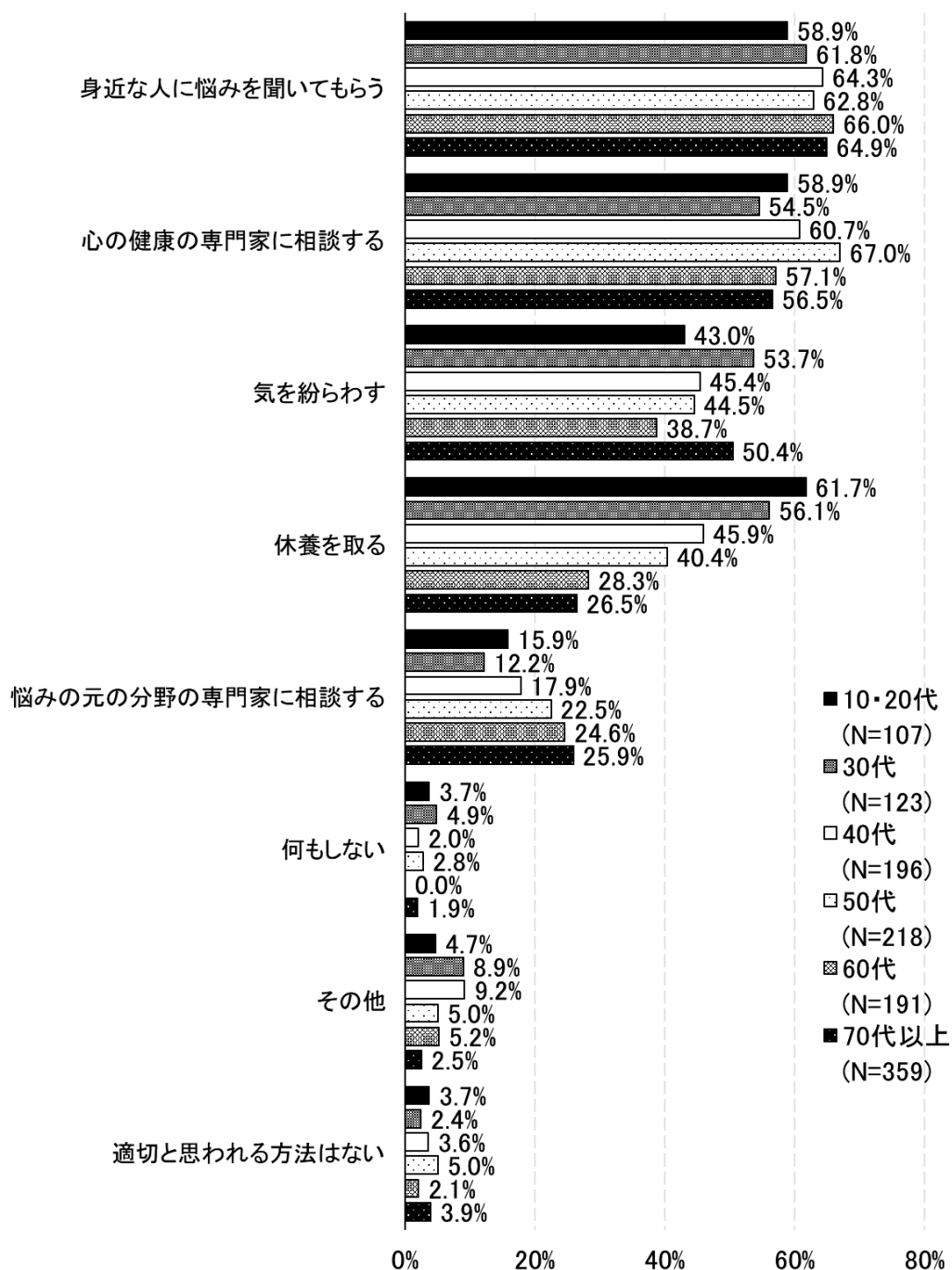


図 88 Q28 自殺したい気持ちを乗り越える方法 (複数回答・年代別)

Q29①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、「公園の整備や自然・緑の保全」が28.9%と最も高く、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」が24.2%と続く（図89）。

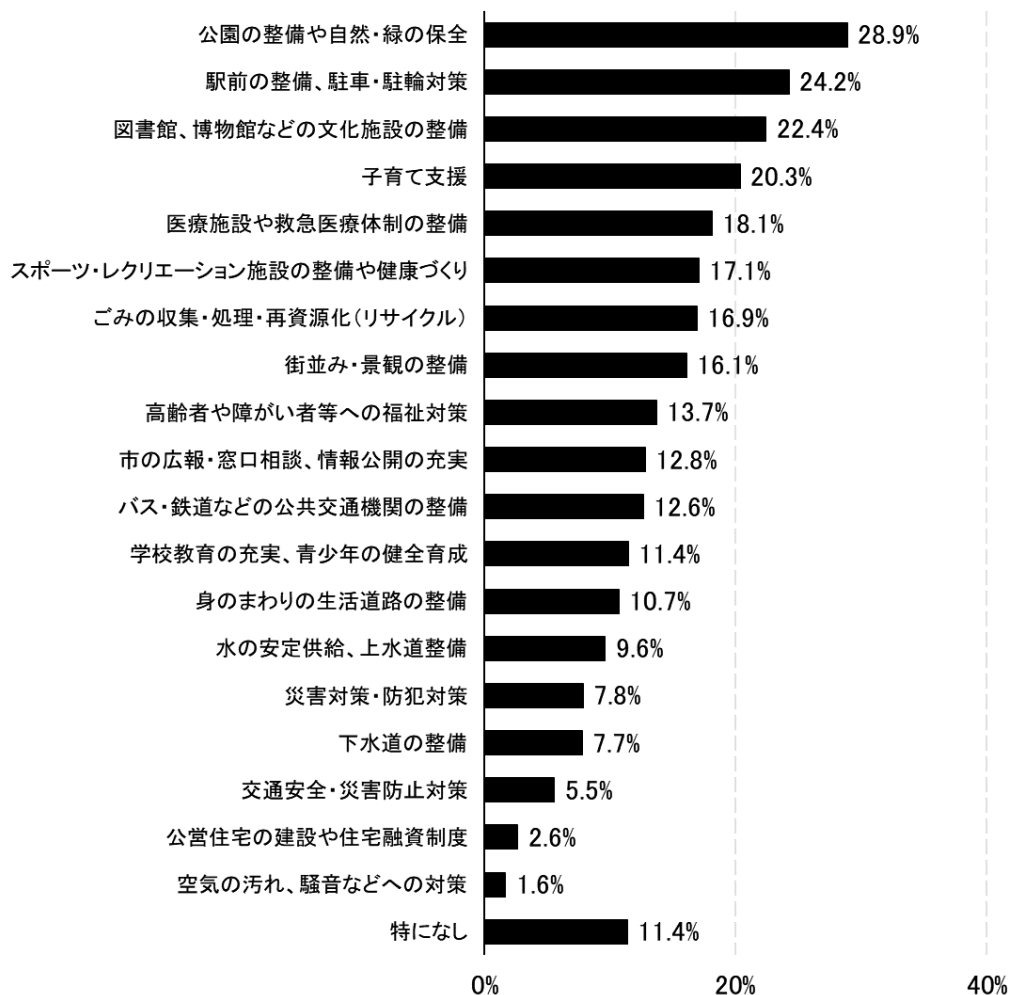


図 89 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの  
（複数回答・全体 N=1214）



Q29①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、男女別で見ると、「ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）」では、男性よりも女性の方が4.9ポイント高い（図90）。

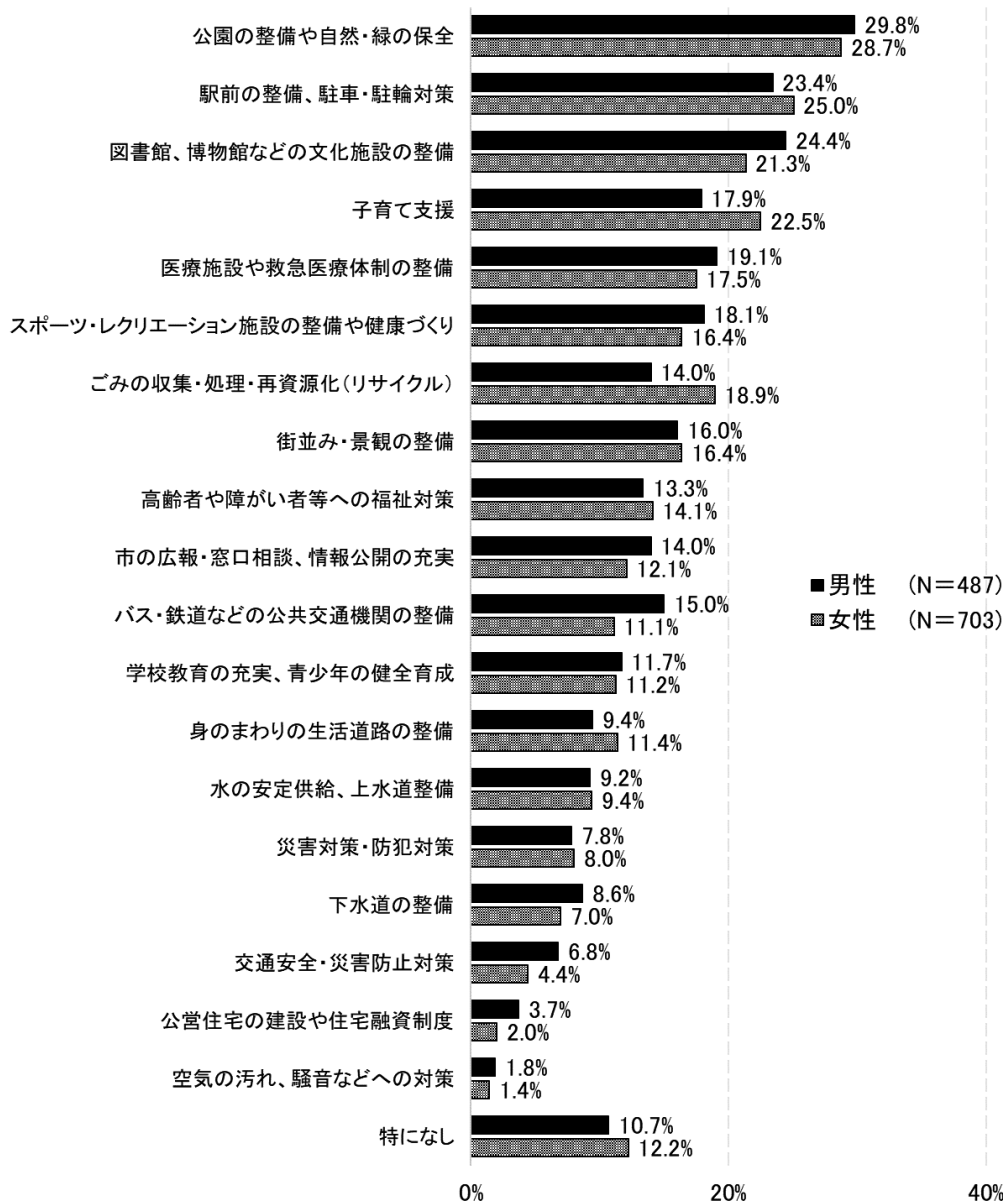


図90 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・男女別）

Q29①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、年代別で見ると、「ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）」は、40代が36.7%と最も高く、10・20代は23.4%と最も低い（表5、図91）。

表5 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

	公園の整備や自然・緑の保全	駅前整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	子育て支援	医療施設や救急医療体制の整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）
10・20代 (N=107)	15.0	16.8	20.6	20.6	14.0	29.0	23.4
30代 (N=123)	8.9	19.5	16.3	8.9	17.1	2.4	28.5
40代 (N=196)	15.8	22.4	12.8	7.1	15.3	0.5	36.7
50代 (N=218)	10.1	19.7	14.7	7.8	11.0	2.3	30.7
60代 (N=191)	8.4	22.5	18.8	12.6	22.0	0.5	26.7
70代以上 (N=359)	11.1	26.7	19.8	21.2	24.0	2.5	25.6

	街並み・景観の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	水の安定供給、上下水道整備
10・20代 (N=107)	18.7	11.2	6.5	5.6	20.6	20.6	7.5
30代 (N=123)	17.9	20.3	11.4	4.9	4.9	8.1	13.0
40代 (N=196)	17.9	29.1	9.7	3.1	5.1	12.2	14.3
50代 (N=218)	17.0	22.9	10.6	7.3	9.6	8.7	6.9
60代 (N=191)	14.1	28.3	18.8	6.3	7.9	9.9	7.9
70代以上 (N=359)	13.1	23.7	27.3	12.5	15.3	15.6	8.9

	災害対策・防犯対策	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
10・20代 (N=107)	3.7	11.2	8.4	15.9	22.4	0.0
30代 (N=123)	7.3	4.9	10.6	6.5	30.1	16.3
40代 (N=196)	6.6	1.5	14.3	8.2	30.1	9.2
50代 (N=218)	4.1	2.3	9.6	8.7	20.2	14.2
60代 (N=191)	6.3	1.6	8.4	8.4	18.3	13.1
70代以上 (N=359)	3.9	3.1	17.8	7.2	14.5	5.6

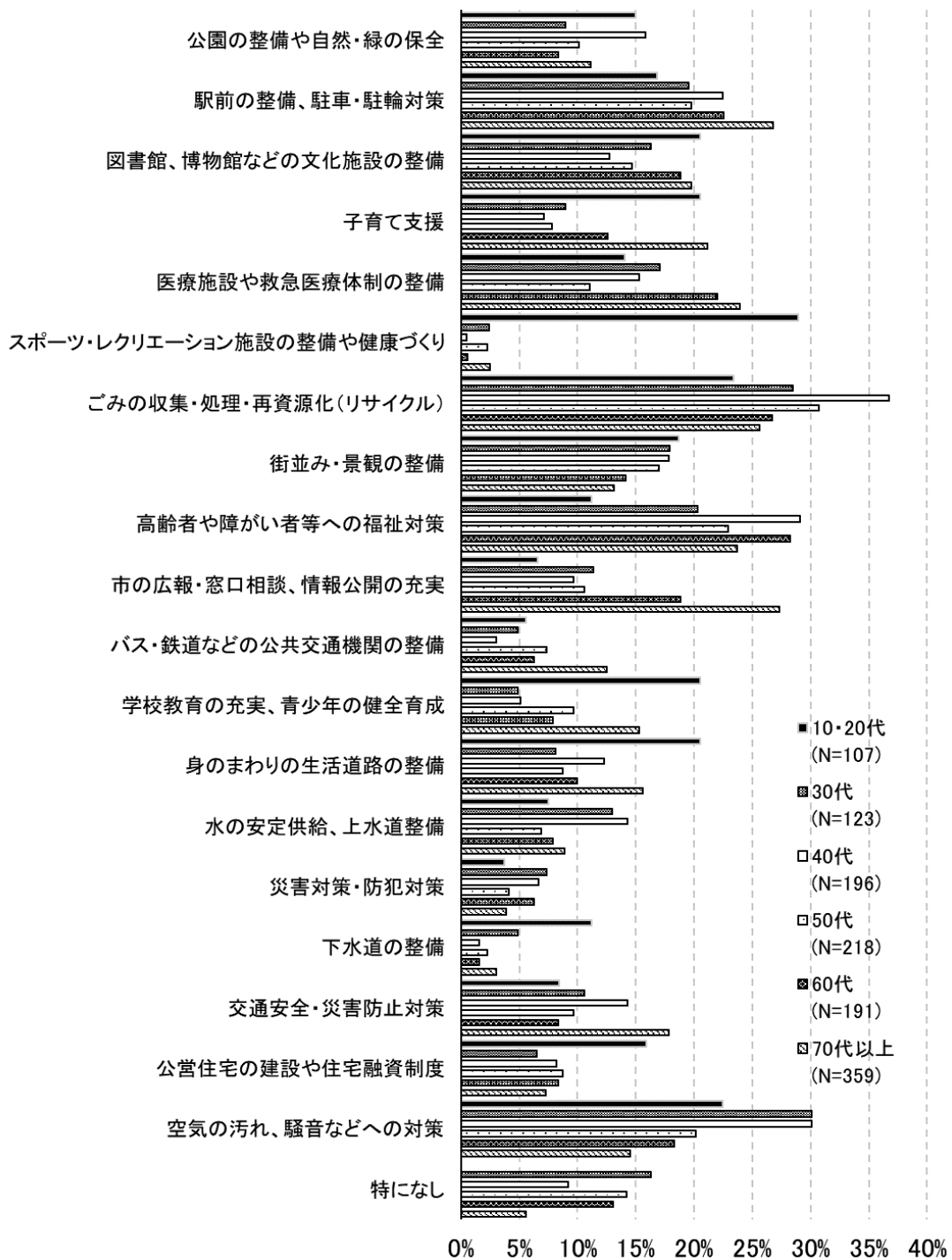


図 91 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

Q29①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住地域別で見ると、「公園の整備や自然・緑の保全」は五領地区では、36.4%と最も高く、三箇牧地区では12.0%と最も低い（表6、図92）。

表6 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住地域別）

	公園の整備や自然・緑の保全	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	子育て支援	医療施設や救急医療体制の整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）
高槻北地区 (N=319)	32.3	31.0	31.7	19.1	21.9	17.2	16.9
高槻南地区 (N=318)	31.8	23.6	14.2	22.6	17.6	16.0	13.5
五領地区 (N=44)	36.4	20.5	20.5	15.9	20.5	20.5	13.6
高槻西地区 (N=224)	29.0	21.9	26.8	21.9	15.6	17.9	18.3
如是・富田地区 (N=230)	23.5	21.7	17.4	20.9	15.7	17.8	21.7
三箇牧地区 (N=25)	12.0	16.0	40.0	16.0	12.0	20.0	28.0

	街並み・景観の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	水の安定供給、上水道整備
高槻北地区 (N=319)	23.2	12.2	13.2	12.2	11.0	10.3	9.4
高槻南地区 (N=318)	11.6	12.9	10.4	12.6	11.3	10.1	6.3
五領地区 (N=44)	20.5	15.9	20.5	27.3	25.0	9.1	6.8
高槻西地区 (N=224)	16.5	15.6	16.5	13.4	12.1	12.5	10.7
如是・富田地区 (N=230)	12.6	16.5	11.3	12.2	10.4	12.6	12.6
三箇牧地区 (N=25)	12.0	8.0	8.0	4.0	12.0	8.0	20.0

	災害対策・防犯対策	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
高槻北地区 (N=319)	7.2	9.7	5.0	1.6	2.5	8.5
高槻南地区 (N=318)	7.9	5.3	5.0	3.1	0.9	11.6
五領地区 (N=44)	11.4	6.8	9.1	2.3	2.3	15.9
高槻西地区 (N=224)	9.8	7.6	5.8	3.6	1.8	8.9
如是・富田地区 (N=230)	7.8	7.8	6.1	3.0	1.3	14.8
三箇牧地区 (N=25)	8.0	20.0	4.0	4.0	0.0	12.0

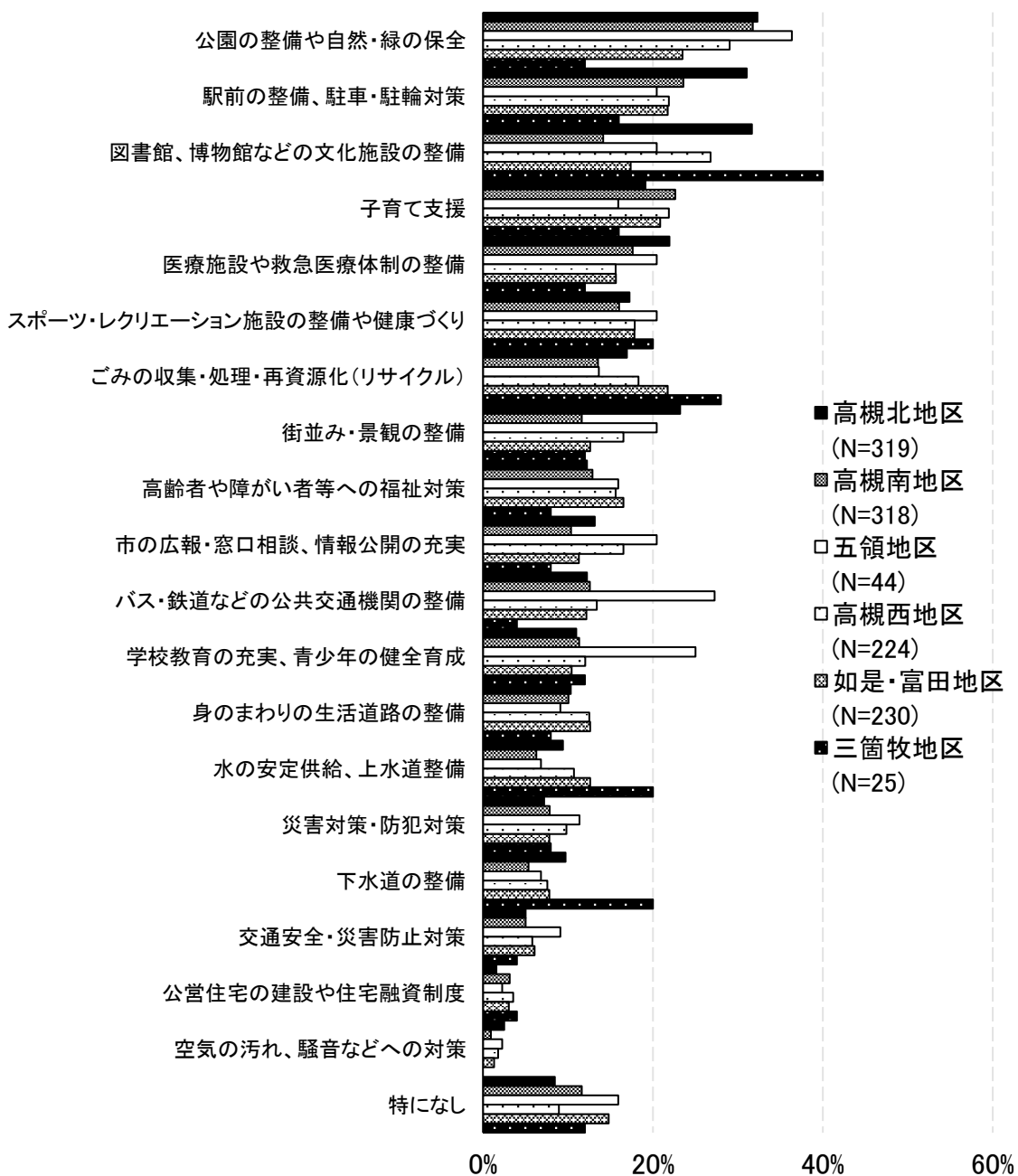


図 92 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの  
(複数回答・居住地域別)

Q29①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住年数別で見ると、「図書館、博物館などの文化施設の整備」は1年未満と1年以上3年未満では10%未満であるが、3年以上では10%を超え、10年以上の人々は20%を超える（表7、図93）。

表7 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住年数別）

	（%）						
	公園の整備や自然・緑の保全	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	子育て支援	医療施設や救急医療体制の整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	ごみの収集・処理・資源化（リサイクル）
1年未満 (N=24)	20.8	12.5	8.3	16.7	8.3	8.3	16.7
1年以上3年未満 (N=43)	25.6	23.3	2.3	11.6	9.3	7.0	9.3
3年以上5年未満 (N=39)	25.6	15.4	15.4	0.0	15.4	10.3	7.7
5年以上10年未満 (N=76)	28.9	13.2	15.8	19.7	7.9	11.8	9.2
10年以上20年未満 (N=166)	40.4	29.5	24.7	25.9	18.1	15.7	12.0
20年以上30年未満 (N=202)	27.7	27.2	23.3	18.8	16.3	20.3	15.3
30年以上40年未満 (N=194)	26.3	23.2	25.8	24.7	25.3	17.0	17.5
40年以上50年未満 (N=256)	29.3	27.3	21.5	21.9	19.9	22.3	16.8
50年以上 (N=199)	24.1	22.6	26.6	14.6	19.6	15.6	29.1

	街並み・景観の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	水の安定供給、水道整備
	1年未満 (N=24)	8.3	20.8	8.3	16.7	8.3	8.3
1年以上3年未満 (N=43)	9.3	4.7	11.6	2.3	2.3	2.3	4.7
3年以上5年未満 (N=39)	12.8	2.6	7.7	12.8	5.1	5.1	0.0
5年以上10年未満 (N=76)	15.8	6.6	10.5	10.5	14.5	7.9	2.6
10年以上20年未満 (N=166)	22.3	16.3	9.0	11.4	13.9	13.9	7.8
20年以上30年未満 (N=202)	17.8	14.4	14.4	15.3	13.4	14.4	9.4
30年以上40年未満 (N=194)	19.6	10.3	13.9	11.9	13.4	12.4	8.8
40年以上50年未満 (N=256)	13.7	13.7	12.9	14.8	9.0	8.6	10.9
50年以上 (N=199)	12.1	20.6	16.1	11.1	11.6	9.5	16.1

	災害対策・防犯対策	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
	1年未満 (N=24)	4.2	12.5	4.2	4.2	0.0
1年以上3年未満 (N=43)	2.3	0.0	2.3	2.3	0.0	27.9
3年以上5年未満 (N=39)	20.5	0.0	7.7	2.6	2.6	30.8
5年以上10年未満 (N=76)	7.9	1.3	6.6	2.6	0.0	18.4
10年以上20年未満 (N=166)	9.0	2.4	7.2	1.2	1.8	7.8
20年以上30年未満 (N=202)	9.4	8.4	5.0	2.5	1.5	8.9
30年以上40年未満 (N=194)	11.3	9.8	5.7	3.6	2.1	11.9
40年以上50年未満 (N=256)	7.4	7.0	4.7	4.3	1.6	7.8
50年以上 (N=199)	5.5	15.6	6.0	1.0	2.5	9.5

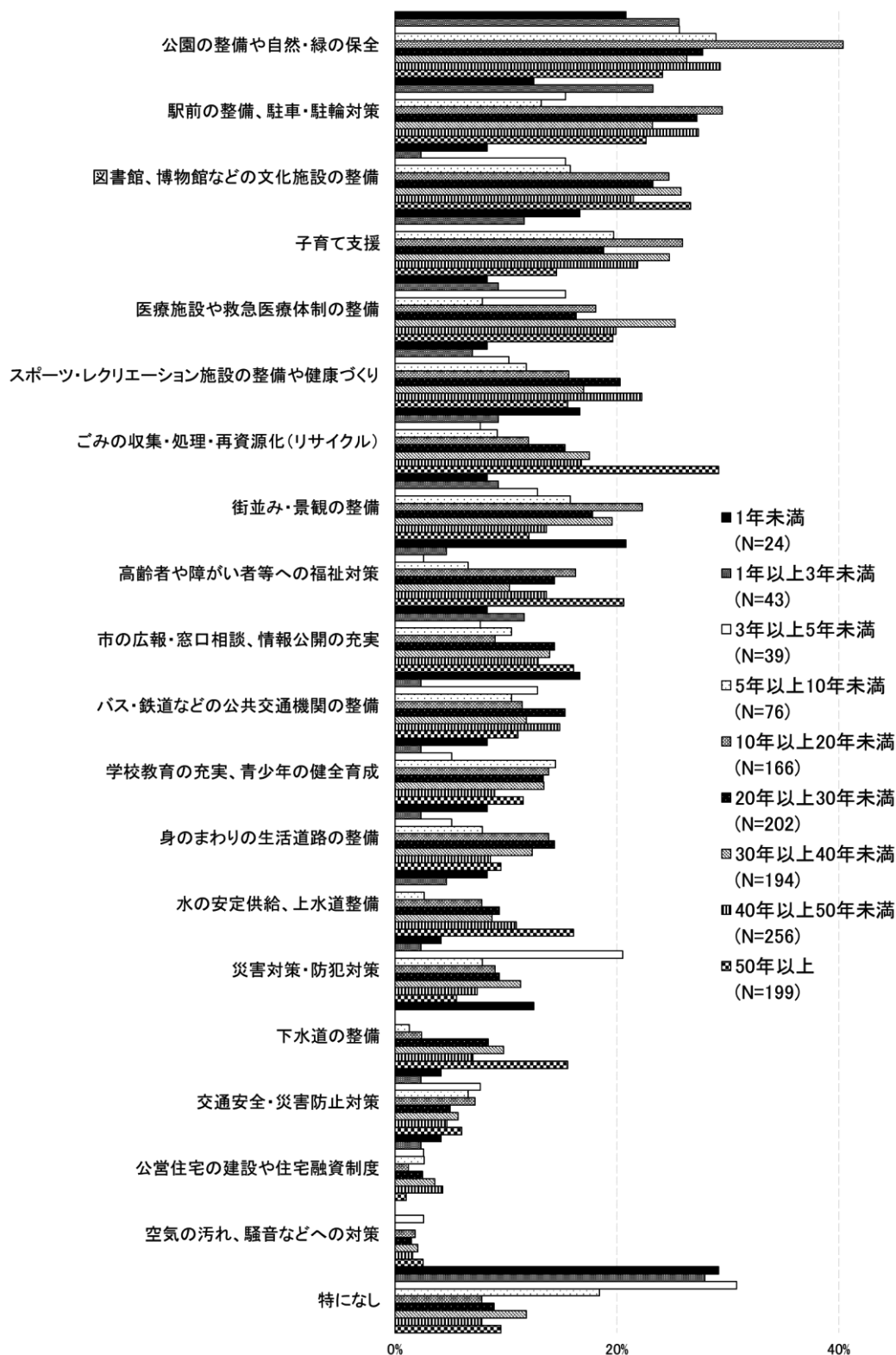


図 93 Q29① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの  
(複数回答・居住年数別)

Q29②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、「医療施設や救急医療体制の整備」が29.9%と最も高く、「高齢者や障がい者等への福祉対策」が23.4%と続く（図94）。

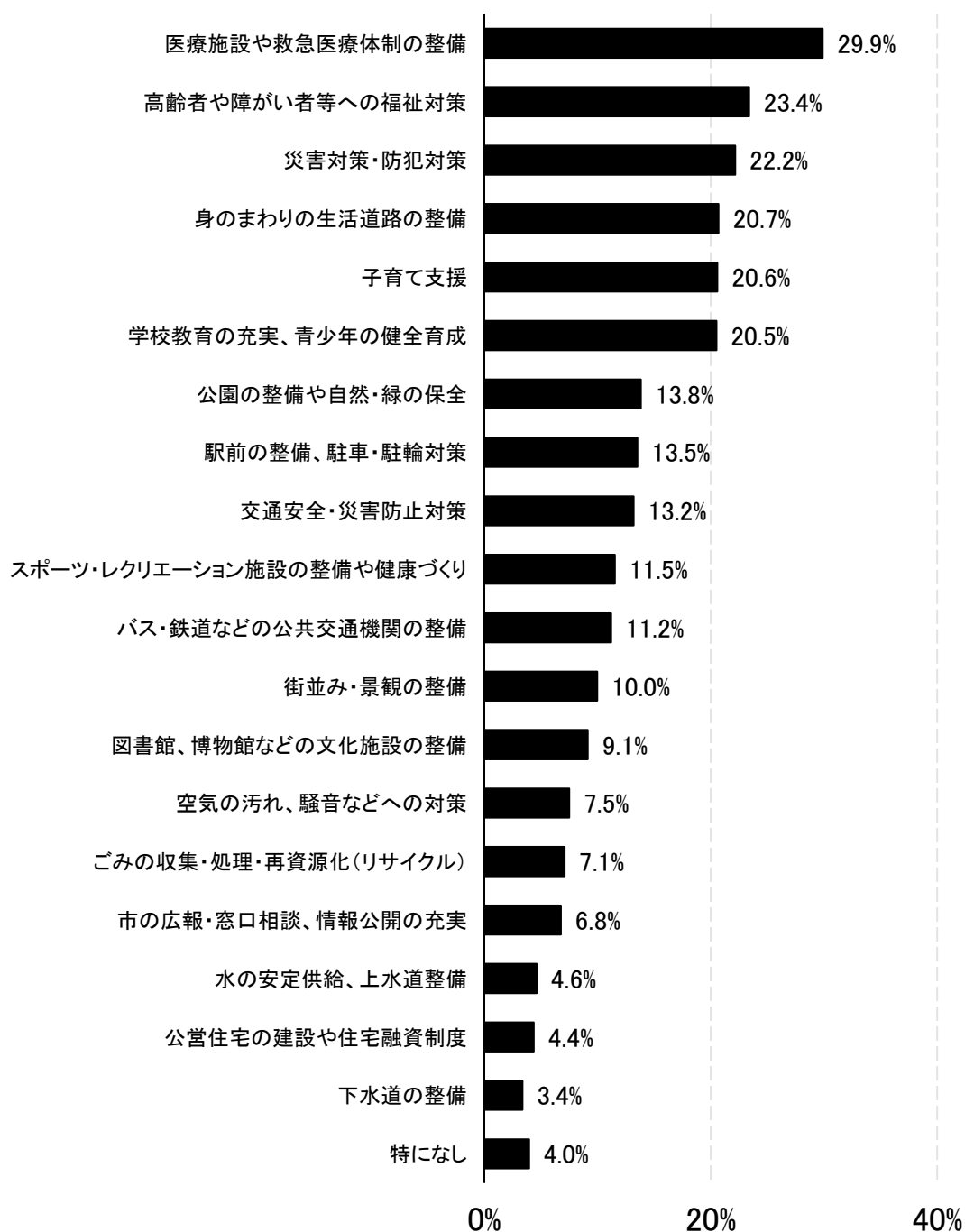


図 94 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・全体 N=1214）



Q29②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、男女別で見ると、「スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり」では、女性よりも男性の方が5.6ポイント高い（図95）。

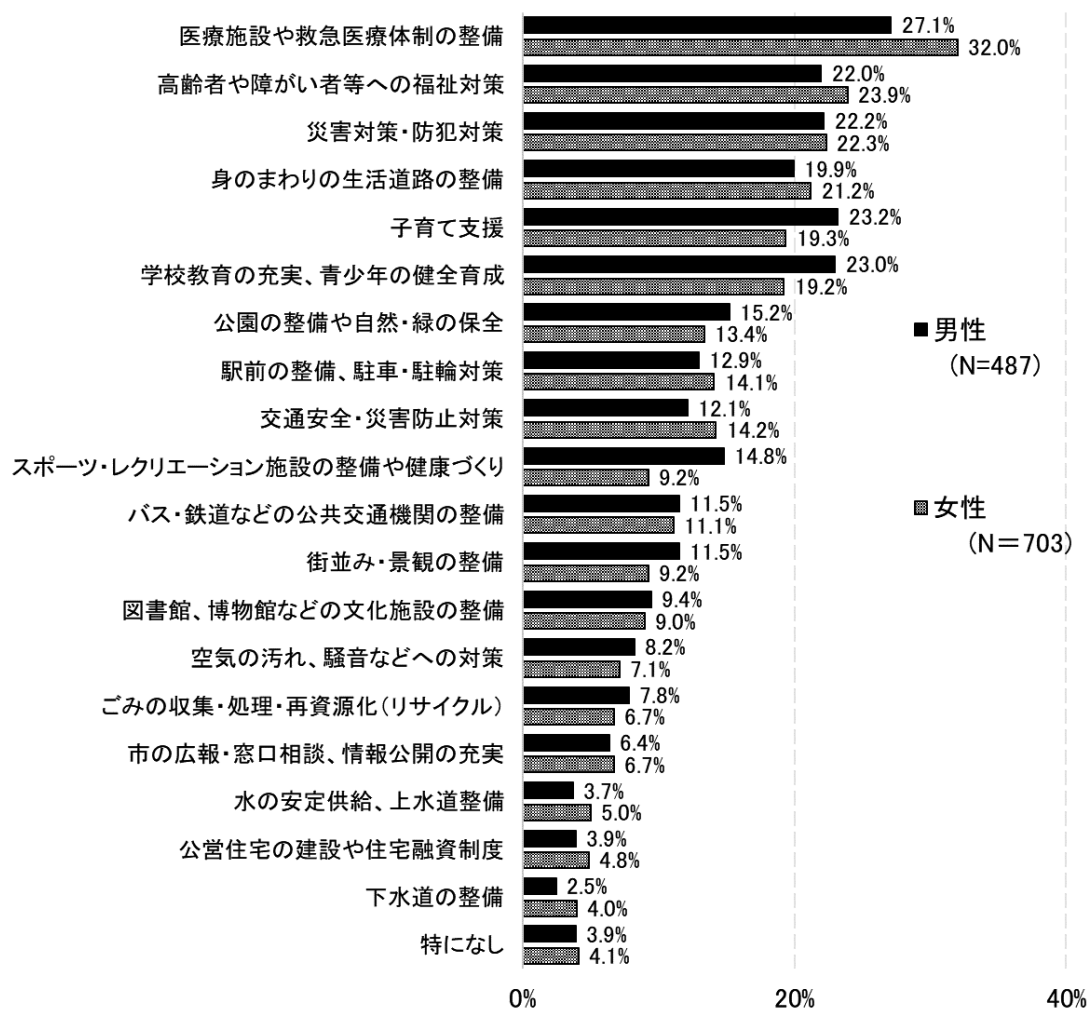


図95 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・男女別）

Q29②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、年代別で見ると、「子育て支援」は若い世代で高く、30代は43.9%と最も高い（表8, 図96）。

表8 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	災害対策・防犯対策	身のまわりの生活道路の整備	子育て支援	学校教育の充実、青少年の健全育成	公園の整備や自然・緑の保全	(%)
10・20代 (N=107)	14.0	10.3	17.8	20.6	32.7	19.6	14.0	
30代 (N=123)	22.0	8.1	19.5	31.7	43.9	33.3	16.3	
40代 (N=196)	33.7	12.2	27.6	18.9	30.6	30.1	14.3	
50代 (N=218)	30.3	23.4	27.1	19.3	15.1	15.6	11.9	
60代 (N=191)	30.9	34.0	23.6	20.4	13.6	17.3	11.5	
70代以上 (N=359)	35.1	32.6	18.4	19.5	11.1	16.7	15.3	

	駅前の整備、駐車・駐輪対策	交通安全・災害防止対策	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	街並み・景観の整備	図書館、博物館などの文化施設の整備	空気の汚れ、騒音などへの対策	(%)
10・20代 (N=107)	15.9	11.2	13.1	14.0	17.8	13.1	14.0	
30代 (N=123)	13.0	17.1	8.1	6.5	8.9	10.6	7.3	
40代 (N=196)	12.8	16.3	14.8	11.7	6.1	11.2	9.2	
50代 (N=218)	15.1	12.8	13.3	12.8	11.0	7.8	7.8	
60代 (N=191)	16.2	8.9	11.5	11.5	11.0	11.0	7.9	
70代以上 (N=359)	11.4	13.1	9.7	10.0	9.5	5.8	4.5	

	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、上水道整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし	(%)
10・20代 (N=107)	8.4	3.7	1.9	3.7	1.9	9.3	
30代 (N=123)	8.1	4.1	2.4	4.9	0.8	4.1	
40代 (N=196)	6.1	4.1	7.7	3.6	5.6	2.6	
50代 (N=218)	7.8	4.6	2.8	8.7	4.1	6.4	
60代 (N=191)	6.3	11.0	3.7	3.7	3.1	1.6	
70代以上 (N=359)	7.2	8.6	6.1	2.8	3.3	3.1	

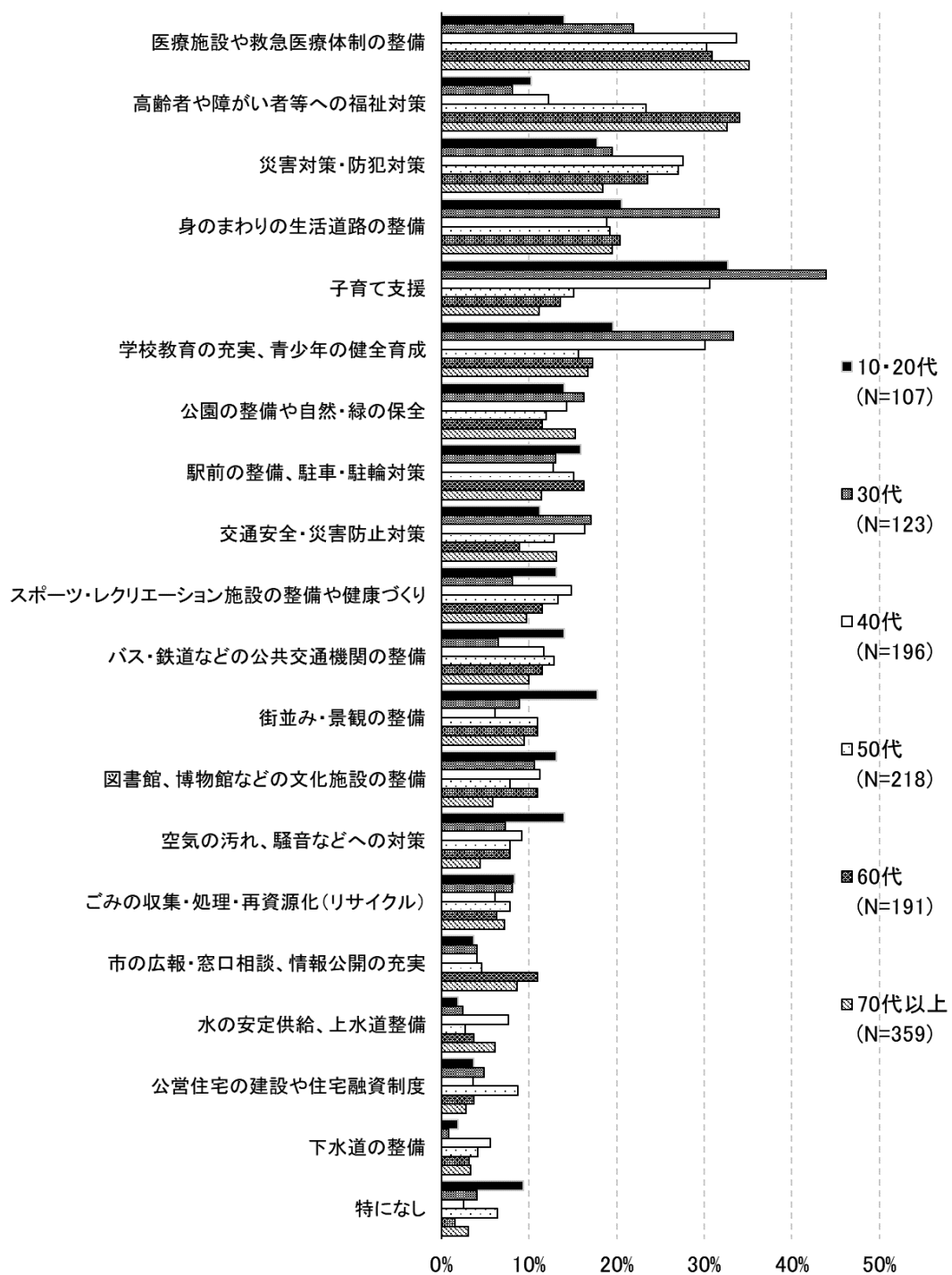


図 96 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

Q29②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住地域別で見ると、「医療施設や救急医療体制の整備」は、どの地域でも最も高い（表 9、図 97）。

表 9 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	災害対策・防犯対策	身のまわりの生活道路の整備	子育て支援	学校教育の充実、青少年の健全育成	公園の整備や自然・緑の保全	(%)
高槻北地区 (N=319)	27.9	23.2	23.8	22.9	18.8	20.1	14.4	
高槻南地区 (N=318)	26.7	21.7	21.1	21.1	19.2	21.1	12.3	
五領地区 (N=44)	29.5	25.0	20.5	11.4	11.4	18.2	15.9	
高槻西地区 (N=224)	35.7	23.2	20.1	17.4	29.0	21.9	18.8	
如是・富田地区 (N=230)	32.6	25.7	22.6	24.8	21.7	22.6	11.7	
三箇牧地区 (N=25)	32.0	32.0	32.0	24.0	16.0	16.0	16.0	

	駅前の整備、駐車・駐輪対策	交通安全・災害防止対策	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	街並み・景観の整備	図書館、博物館などの文化施設の整備	空気の汚れ、騒音などへの対策
高槻北地区 (N=319)	14.1	12.9	13.2	11.6	12.5	8.5	7.2
高槻南地区 (N=318)	17.0	12.9	11.3	10.1	9.1	11.6	10.7
五領地区 (N=44)	6.8	11.4	13.6	11.4	6.8	11.4	11.4
高槻西地区 (N=224)	12.9	16.5	8.9	10.3	11.6	9.8	6.7
如是・富田地区 (N=230)	8.7	12.2	13.0	12.2	9.1	7.4	4.8
三箇牧地区 (N=25)	8.0	12.0	8.0	24.0	0.0	0.0	12.0

	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、水道整備	上水 公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし
高槻北地区 (N=319)	5.6	8.5	4.1	3.4	3.1	4.1
高槻南地区 (N=318)	6.6	3.8	5.0	5.3	3.5	3.5
五領地区 (N=44)	13.6	15.9	4.5	4.5	4.5	4.5
高槻西地区 (N=224)	5.8	5.8	4.9	3.1	4.0	2.2
如是・富田地区 (N=230)	10.0	7.4	5.2	4.8	2.6	3.9
三箇牧地区 (N=25)	12.0	4.0	4.0	8.0	4.0	8.0

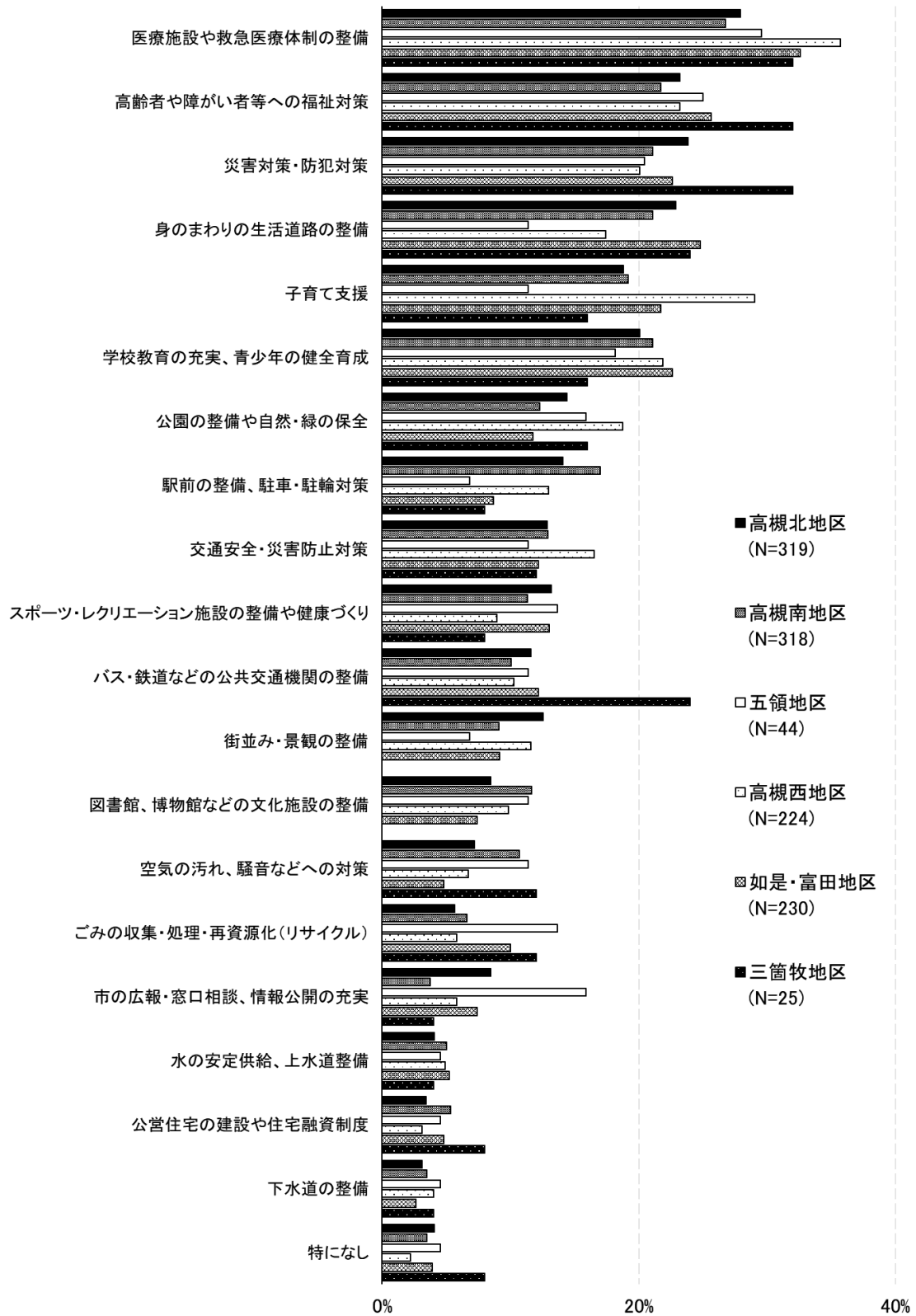


図 97 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

Q29②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住年数別で見ると、「子育て支援」は20年未満の各区分では3割程度で、50年以上では1割程度である（表10、図98）。

表10 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	災害対策・防犯対策	身のまわりの生活道路の整備	子育て支援	学校教育の充実、青少年の健全育成	公園の整備や自然・緑の保全	(%)
1年未満 (N=24)	29.2	8.3	16.7	16.7	33.3	12.5	16.7	
1年以上3年未満 (N=43)	20.9	4.7	20.9	27.9	27.9	20.9	9.3	
3年以上5年未満 (N=39)	12.8	10.3	30.8	33.3	30.8	33.3	12.8	
5年以上10年未満 (N=76)	26.3	7.9	13.2	31.6	28.9	23.7	14.5	
10年以上20年未満 (N=166)	29.5	13.9	25.3	25.3	28.9	24.1	12.7	
20年以上30年未満 (N=202)	25.7	24.3	21.3	15.8	21.8	19.3	16.8	
30年以上40年未満 (N=194)	30.9	24.7	21.1	18.0	18.6	19.1	17.5	
40年以上50年未満 (N=256)	32.8	34.0	23.8	19.1	16.8	21.5	9.8	
50年以上 (N=199)	37.7	29.6	22.1	19.6	12.6	17.6	14.6	

	駅前の整備、駐車・駐輪対策	交通安全・災害防止対策	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	街並み・景観の整備	図書館、博物館などの文化施設の整備	空気の汚れ、騒音などへの対策	(%)
1年未満 (N=24)	12.5	8.3	16.7	25.0	12.5	12.5	4.2	
1年以上3年未満 (N=43)	9.3	23.3	11.6	7.0	9.3	14.0	2.3	
3年以上5年未満 (N=39)	12.8	10.3	15.4	2.6	10.3	23.1	5.1	
5年以上10年未満 (N=76)	17.1	5.3	11.8	3.9	13.2	11.8	13.2	
10年以上20年未満 (N=166)	13.9	13.9	11.4	14.5	7.8	7.2	10.2	
20年以上30年未満 (N=202)	11.9	16.8	9.9	14.9	13.4	9.9	7.9	
30年以上40年未満 (N=194)	14.9	13.9	11.9	12.9	8.8	6.2	8.2	
40年以上50年未満 (N=256)	13.7	12.5	10.5	9.8	9.4	7.8	5.9	
50年以上 (N=199)	14.1	10.6	13.1	8.0	9.5	9.0	6.0	

	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、上水道整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし	(%)
1年未満 (N=24)	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	
1年以上3年未満 (N=43)	4.7	0.0	2.3	2.3	2.3	7.0	
3年以上5年未満 (N=39)	5.1	5.1	2.6	7.7	0.0	7.7	
5年以上10年未満 (N=76)	9.2	2.6	6.6	5.3	2.6	7.9	
10年以上20年未満 (N=166)	9.0	6.0	3.0	5.4	1.8	2.4	
20年以上30年未満 (N=202)	8.4	6.9	3.0	3.5	4.5	5.4	
30年以上40年未満 (N=194)	4.1	7.7	5.2	3.1	3.1	3.1	
40年以上50年未満 (N=256)	7.0	8.6	7.4	6.3	3.1	2.0	
50年以上 (N=199)	7.0	6.5	4.0	3.5	6.0	3.5	

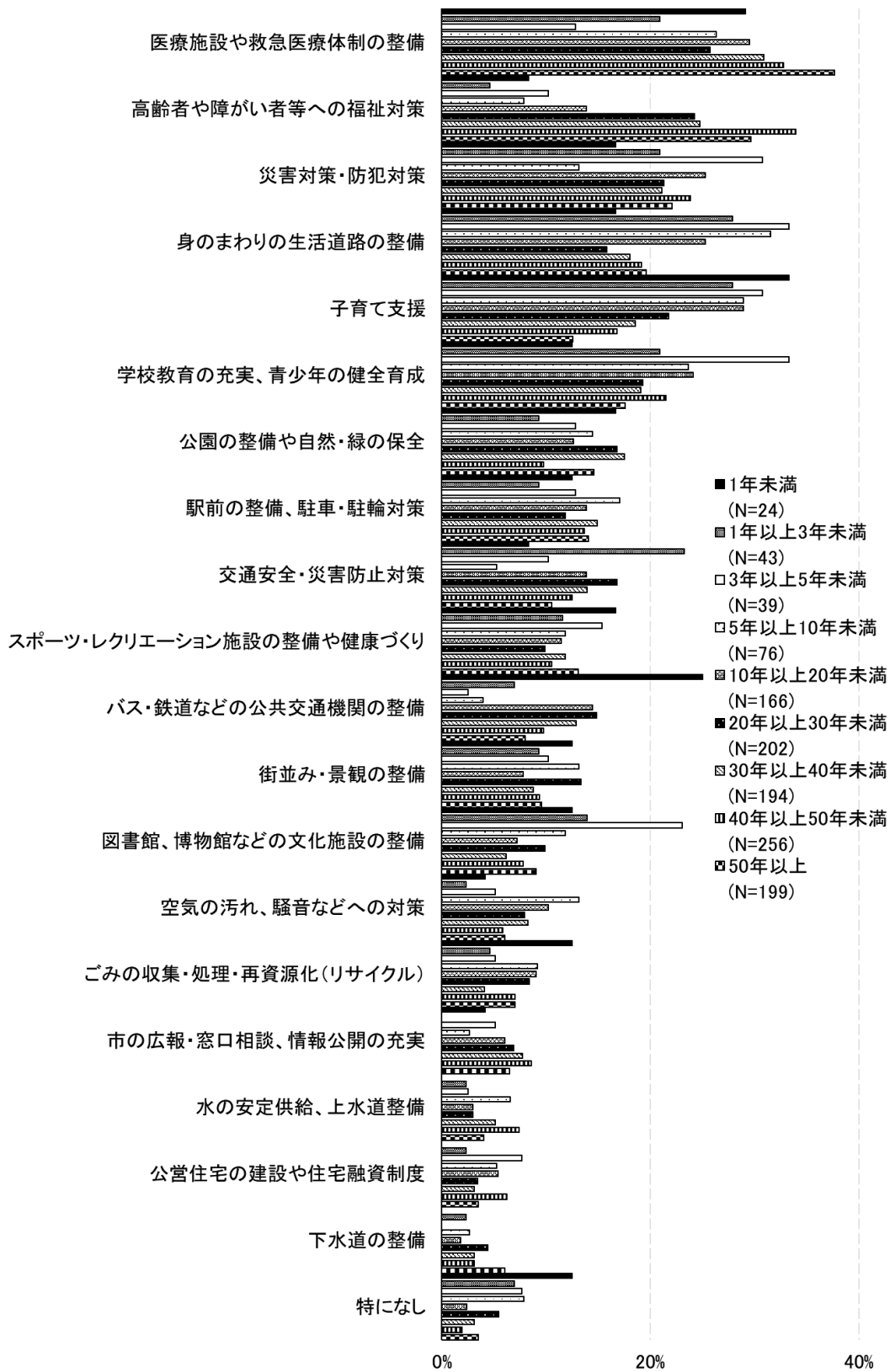


図 98 Q29② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

Q30の『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針の認知に関して、男女別・年代別のすべての層で「知らない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人の割合は70代以上が22.3%と最も高く、30代が6.5%と最も低い(図99)。

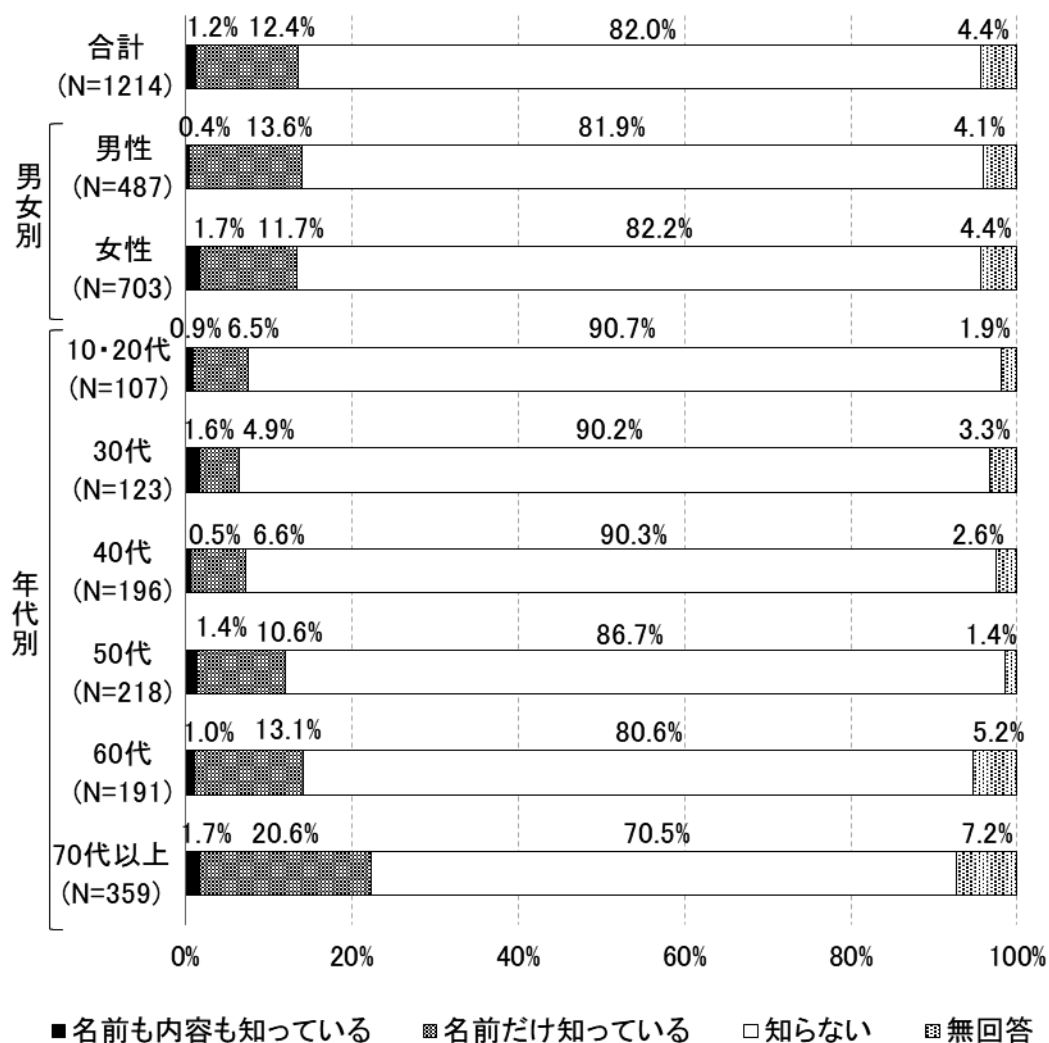


図99 Q30 「『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針」の認知



Q31 の高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきかに関して、男女別・年代別のすべての層で「感じる」または「やや感じる」と回答した人が 7 割以上である。年代別で見ると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は 30 代が 83.7% と最も高く、70 代以上が 74.1% と最も低い（図 100）。

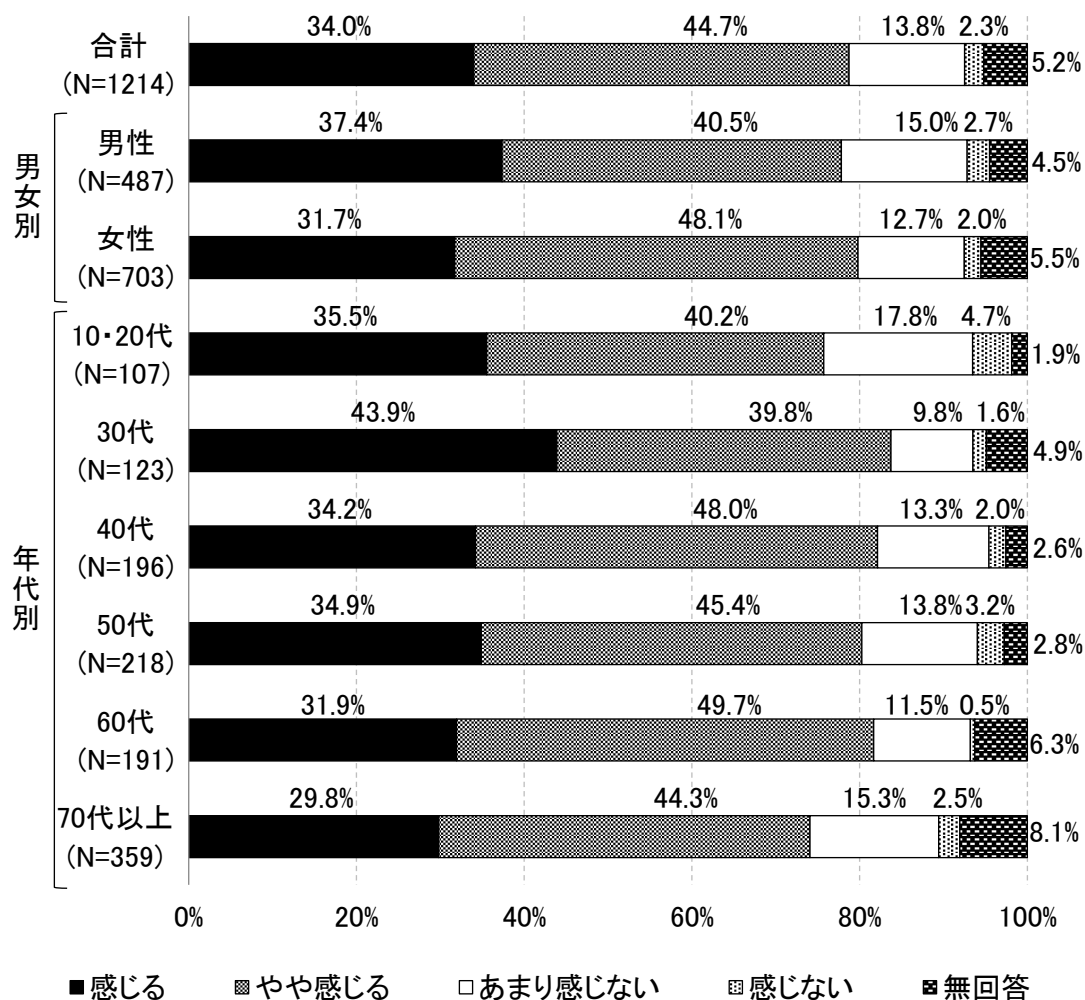


図 100 Q31 高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきか

Q32 の1日あたりの SNS (Twitter、Instagram、Facebook など) 接触時間に関して、「全く使用しない」と回答した人の割合は、合計で見ると 35.2%である。男女別で見ると、男性の方が女性より 3.9 ポイント高い。年代別で見ると、70 代以上が 59.9%と最も高く、反対に 10・20 代は 6.5%と最も低い (図 101)。

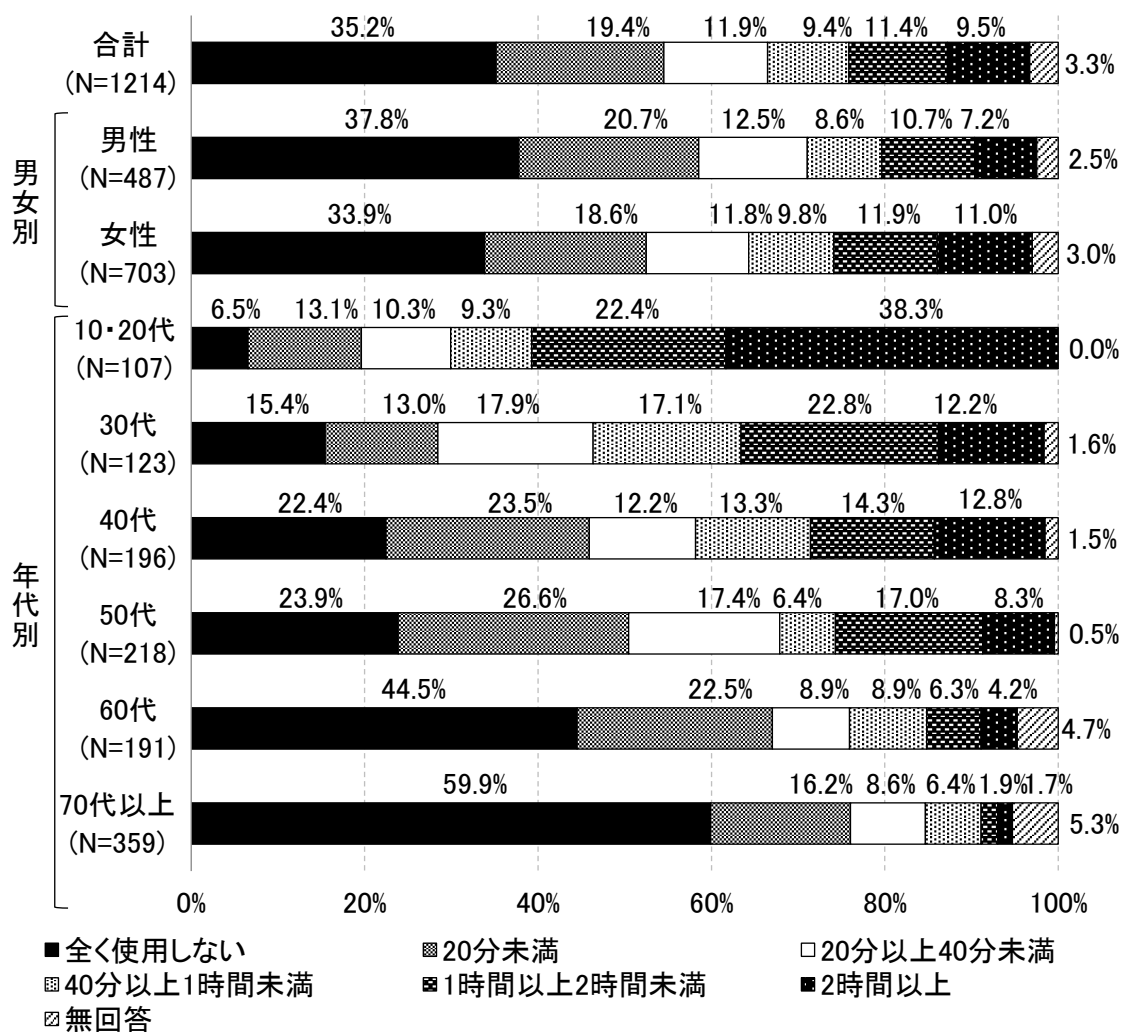


図 101 Q32 1日あたりの SNS (Twitter、Instagram、Facebook など) 接触時間

Q33 の友人や知人と雑談をする場合に好む手段に関して、「対面での会話」が 66.1%で最も高く、「LINE 等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり」が 59.6%と続く（図 102）。

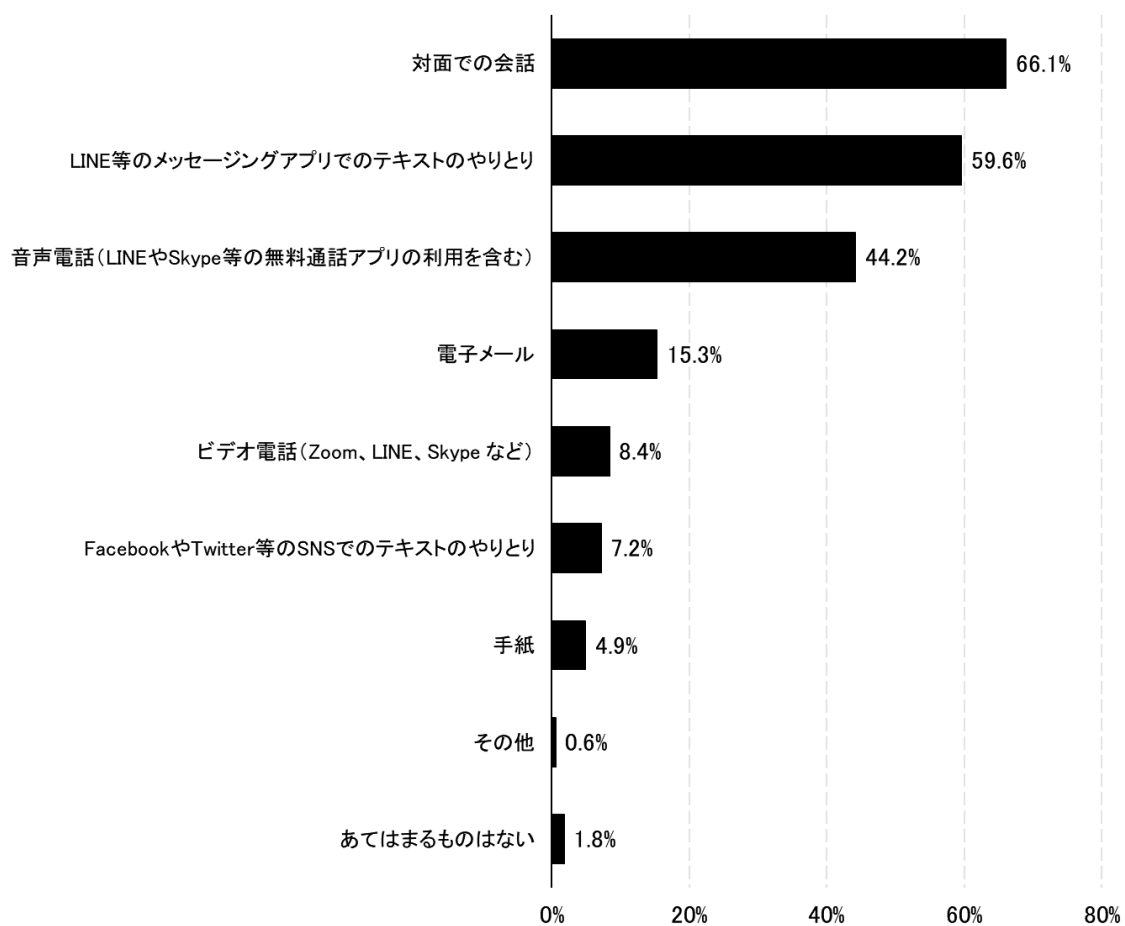


図 102 Q33 友人や知人と雑談をする場合に好む手段（複数回答・全体 N=1214）

Q33 の友人や知人と雑談をする場合に好む手段に関して、男女別で見ると、「LINE 等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 12.7 ポイント高い (図 103)。

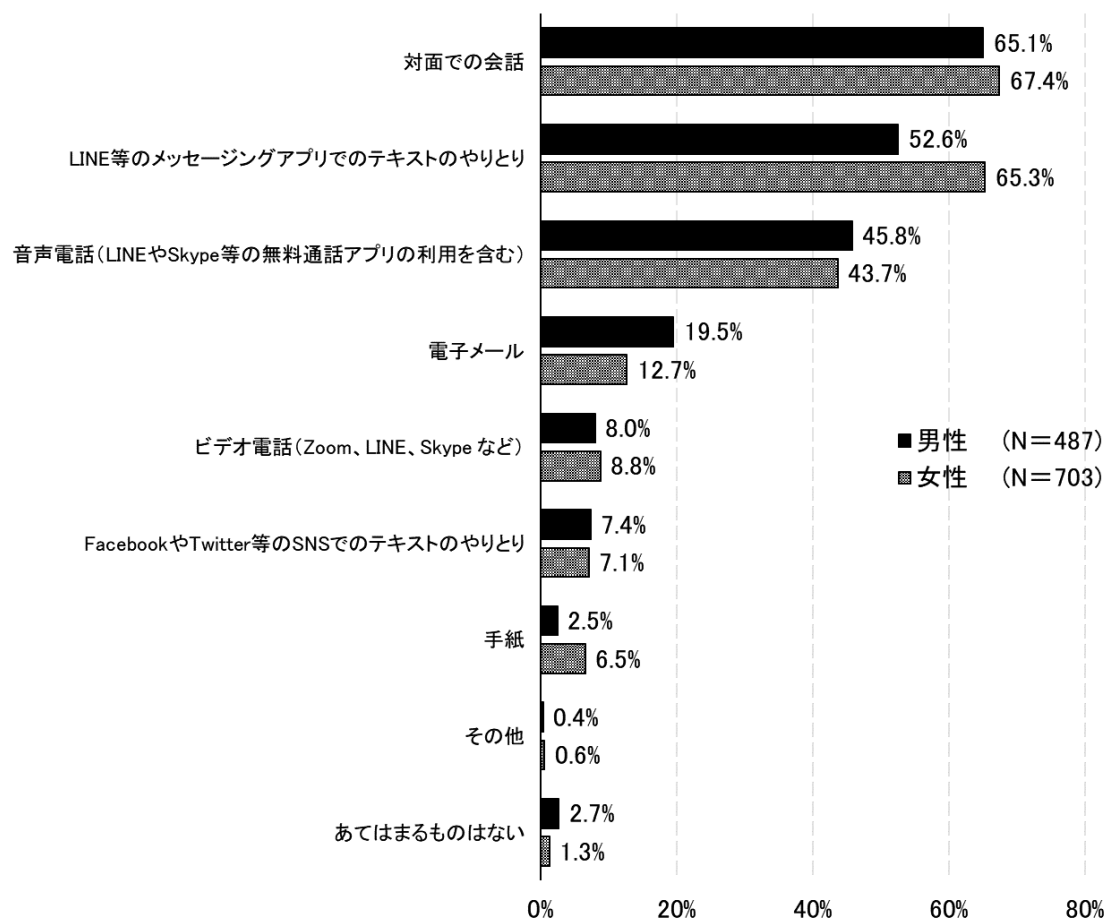


図 103 Q33 友人や知人と雑談をする場合に好む手段 (複数回答・男女別)

Q33の友人や知人と雑談をする場合に好む手段に関して、年代別で見ると、「LINE等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり」は年代で差があり、10・20代が89.7%と最も高く、反対に70代以上は27.9%と最も低い(図104)。

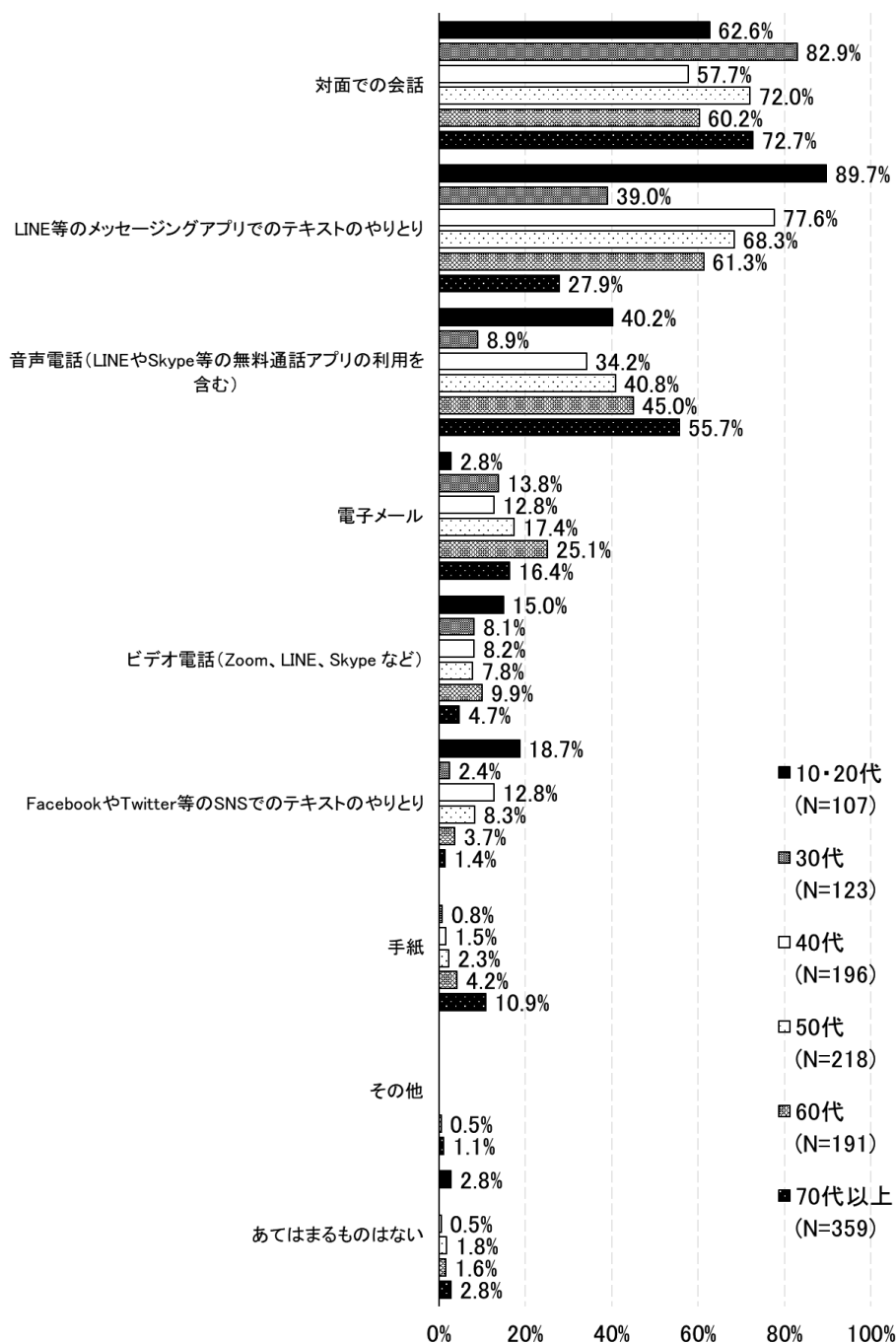


図 104 Q33 友人や知人と雑談をする場合に好む手段(複数回答・年代別)

Q34 の友人関係の満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で 5 割以上が「満足」または「やや満足」と回答している。年代別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は 10・20 代が 74.8%と最も高く、60 代が 55.5%と最も低い（図 105）。

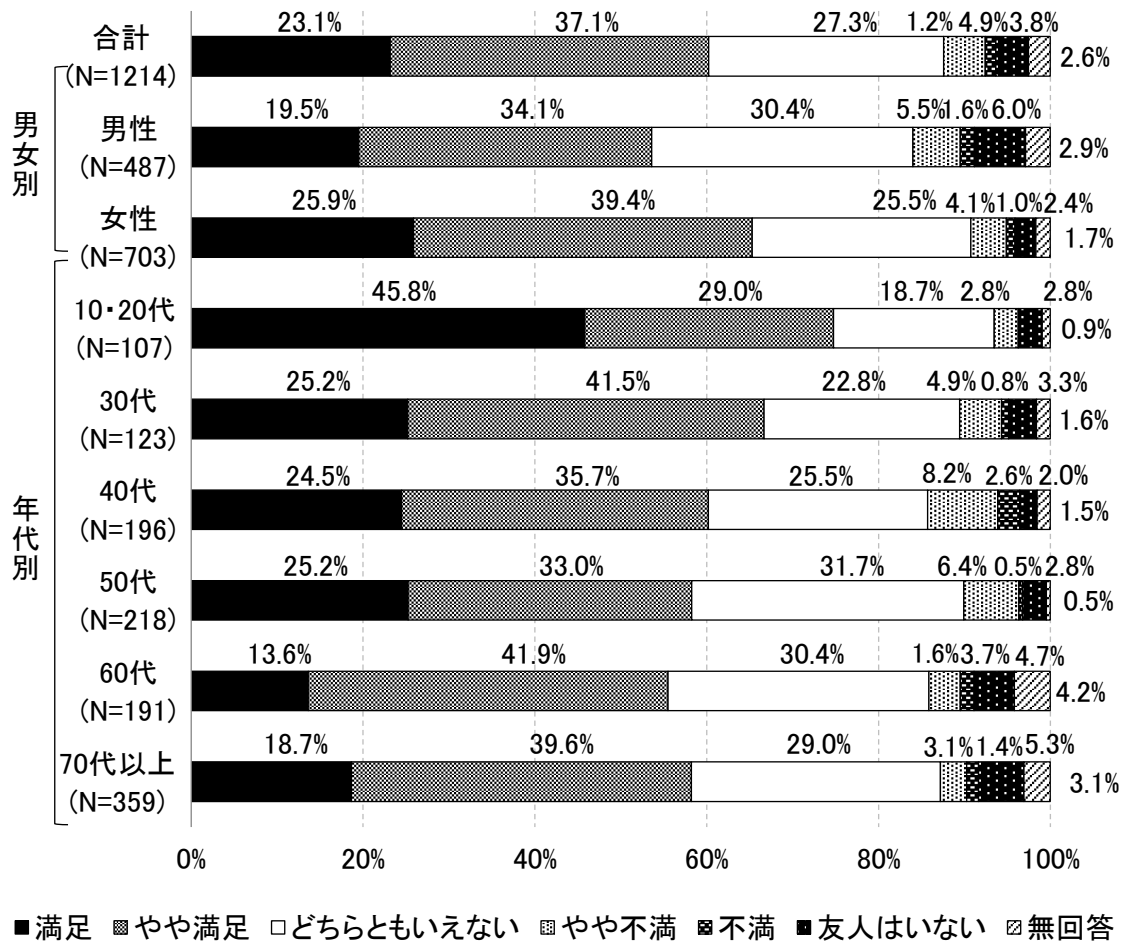


図 105 Q34 友人関係の満足度

Q35 の新型コロナウイルスの感染の不安に関して、男女別・年代別のすべての層で 6 割以上が「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答している。年代別で見ると、「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人の割合は 40 代が 78.5%と最も高く、10・20 代が 63.6%と最も低い（図 106）。

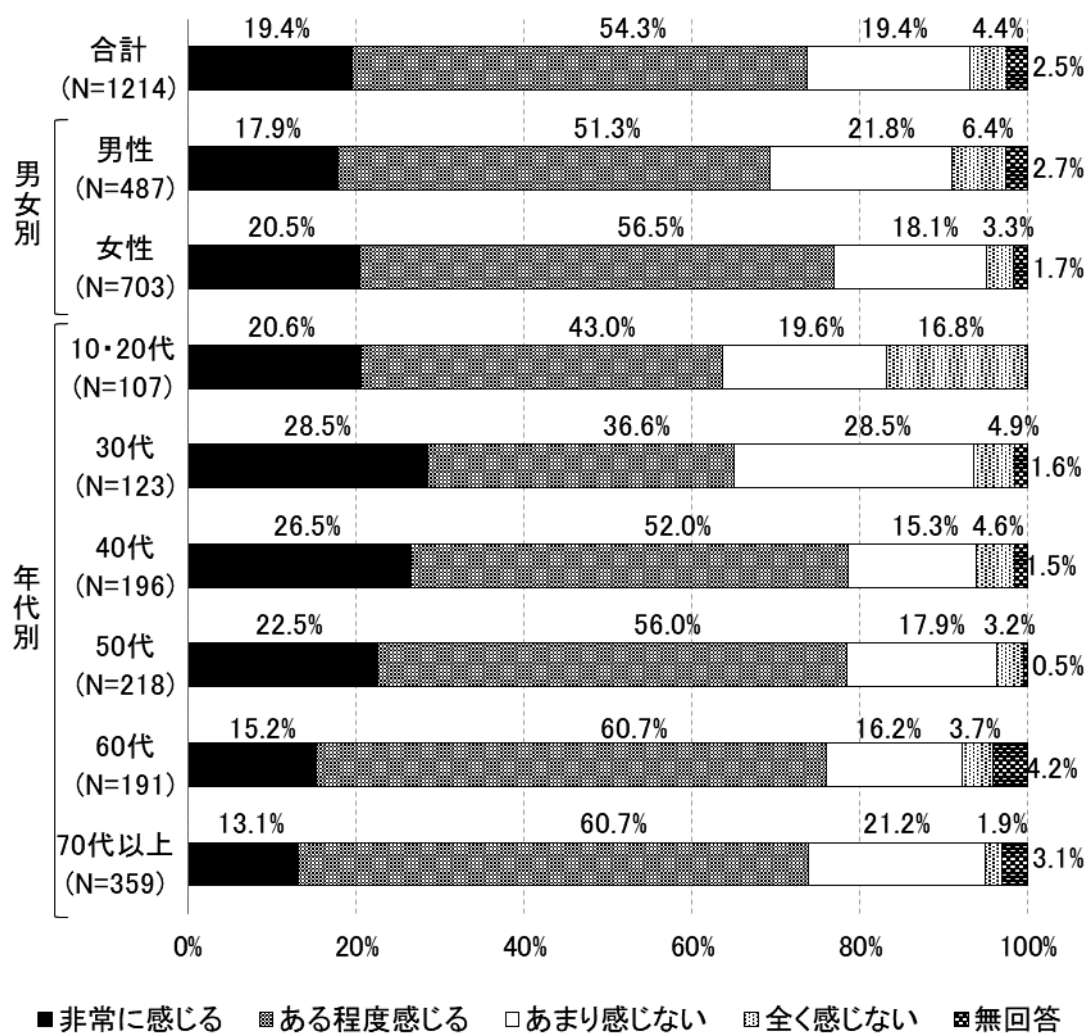


図 106 Q35 新型コロナウイルスの感染の不安

Q36 の屋外にいて人がまばらな時にマスクを着用するかに関して、男女別・年代別のすべての層で6割以上が「常に着用する」または「たいてい着用する」と回答している。年代別で見ると、「常に着用する」または「たいてい着用する」と回答した人の割合は50代が81.2%と最も高く、30代が60.9%と最も低い（図107）。

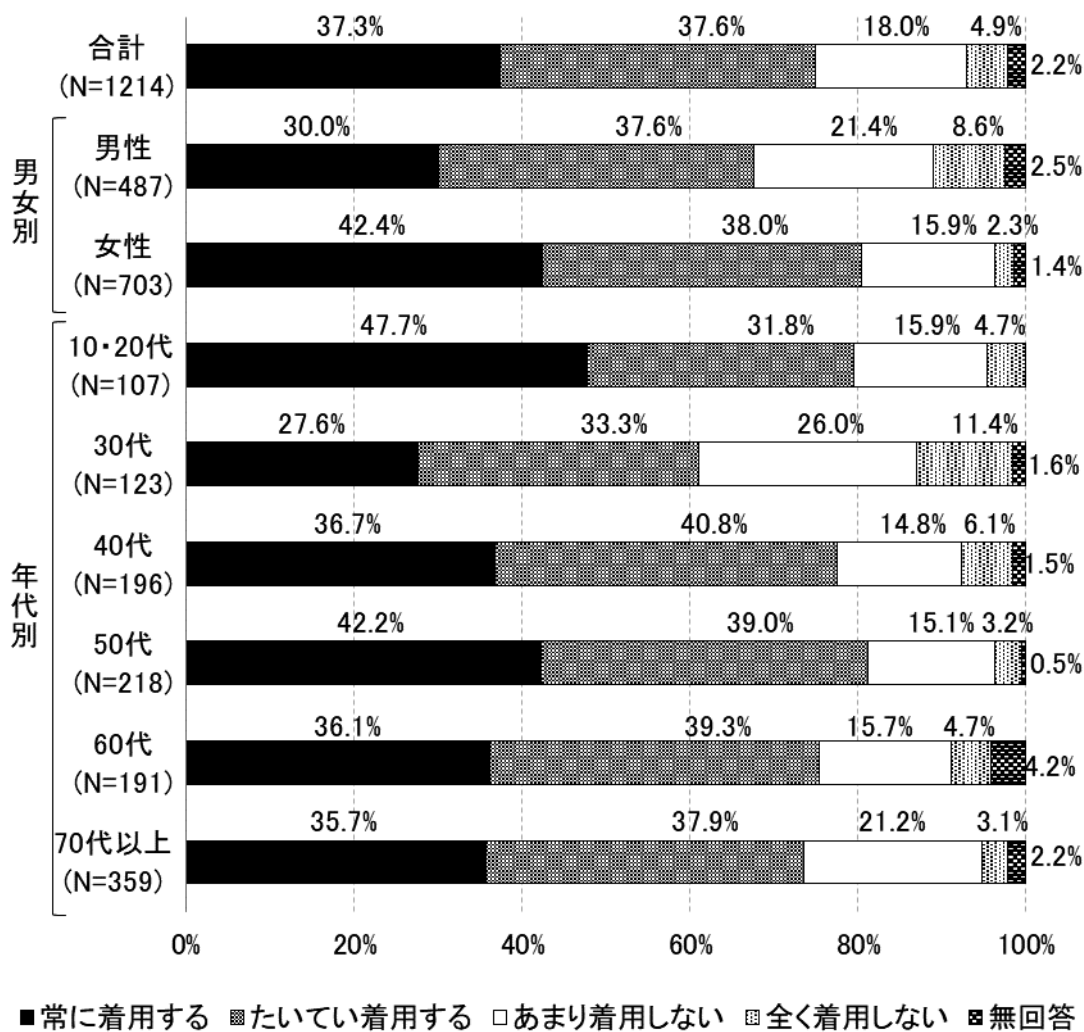


図107 Q36 屋外にいて人がまばらな時にマスクを着用するか



Q37 の過去一か月間における主な就寝時間に関して、午後 9 時台から午前 0 時台と回答した人の割合は、合計で見ると 79.0%である。男女別で見ると、女性の方が男性より 4.6 ポイント高い。年代別で見ると、70 代以上が 87.7%と最も高く、反対に 10・20 代は 59.9%と最も低い（図 108）。

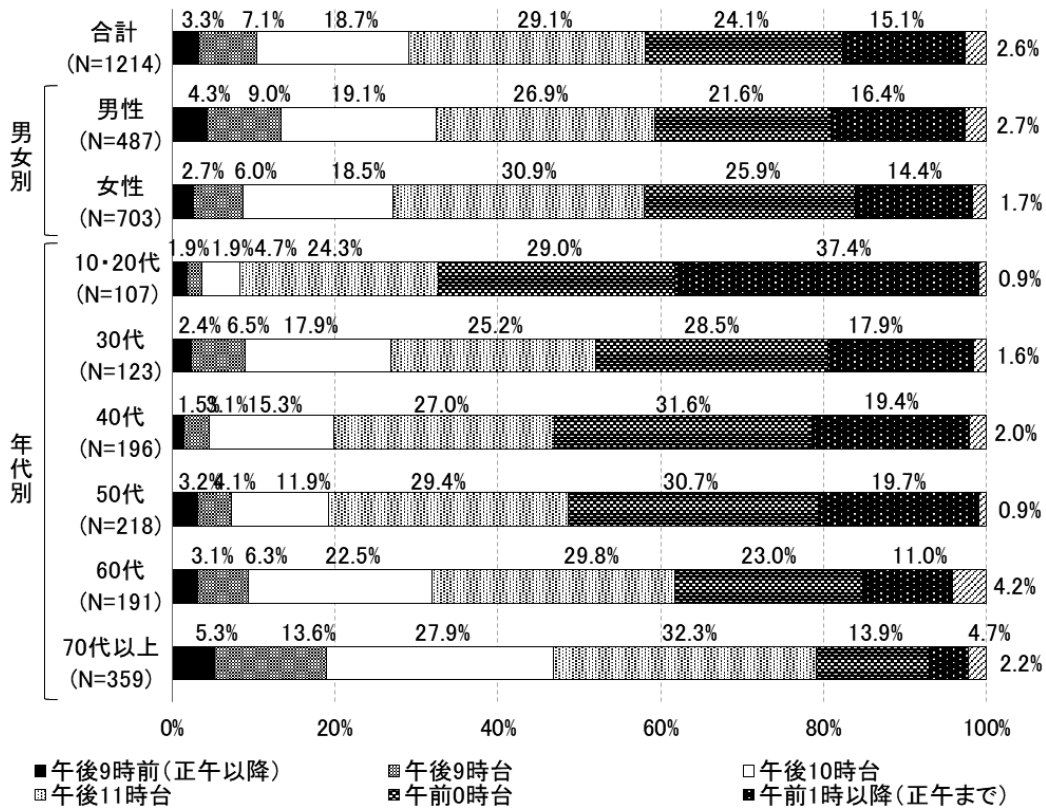


図 108 Q37 過去一か月間における主な就寝時間

Q38 の過去一か月間における眠りの深さに関して、男女別・年代別で見ると、60代を除いて、すべての層で1割以上が「非常に深い」または「比較的深い」と回答している。年代別で見ると、「非常に深い」または「比較的深い」と回答した人の割合は10・20代が28.1%と最も高く、60代が9.5%と最も低い（図 109）。

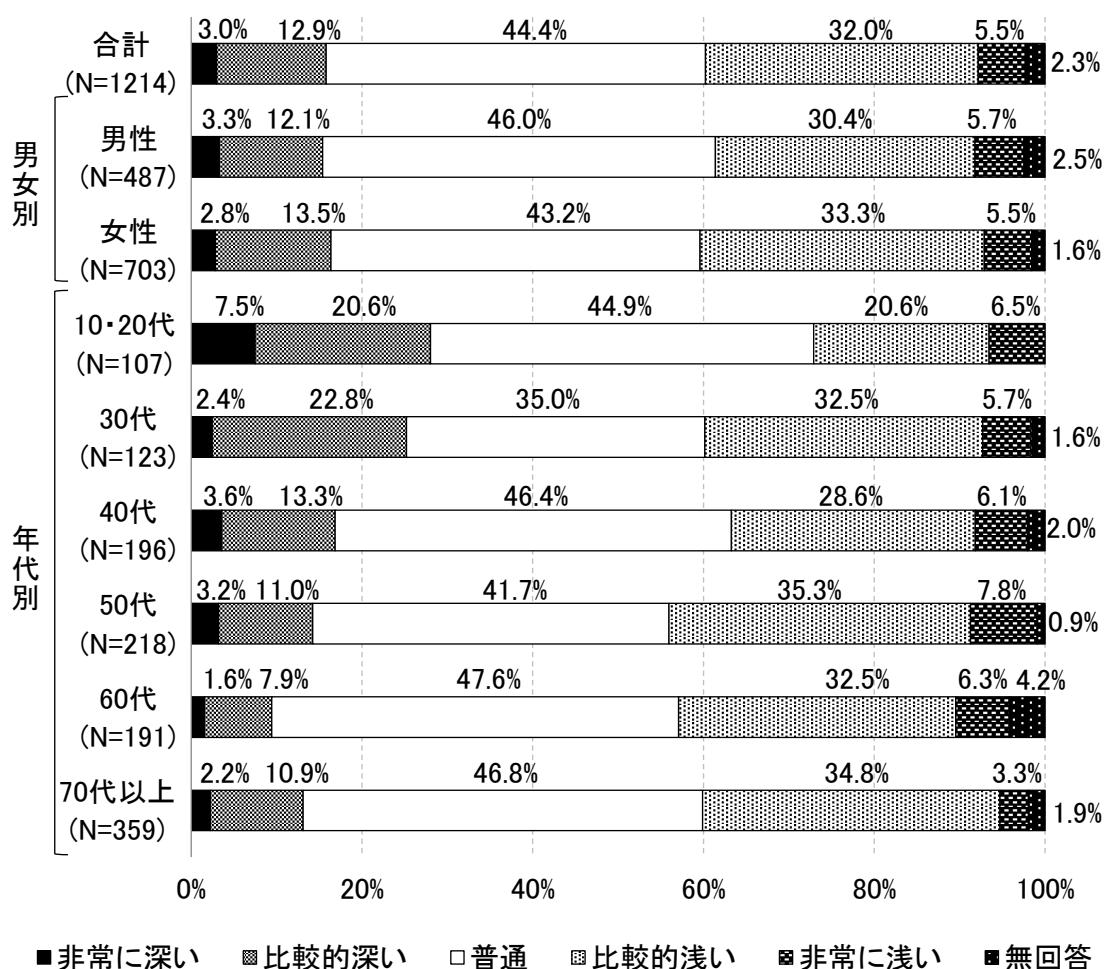


図 109 Q38 過去一か月間における眠りの深さ

Q39 の子どもの頃の習い事に関して、「学習系（学習塾、そろばん、書道、英会話など）」が 64.1%で最も高く、「芸術系（ピアノ、バレエ、絵画、華道・茶道など）」が 31.0%と続く（図 110）。

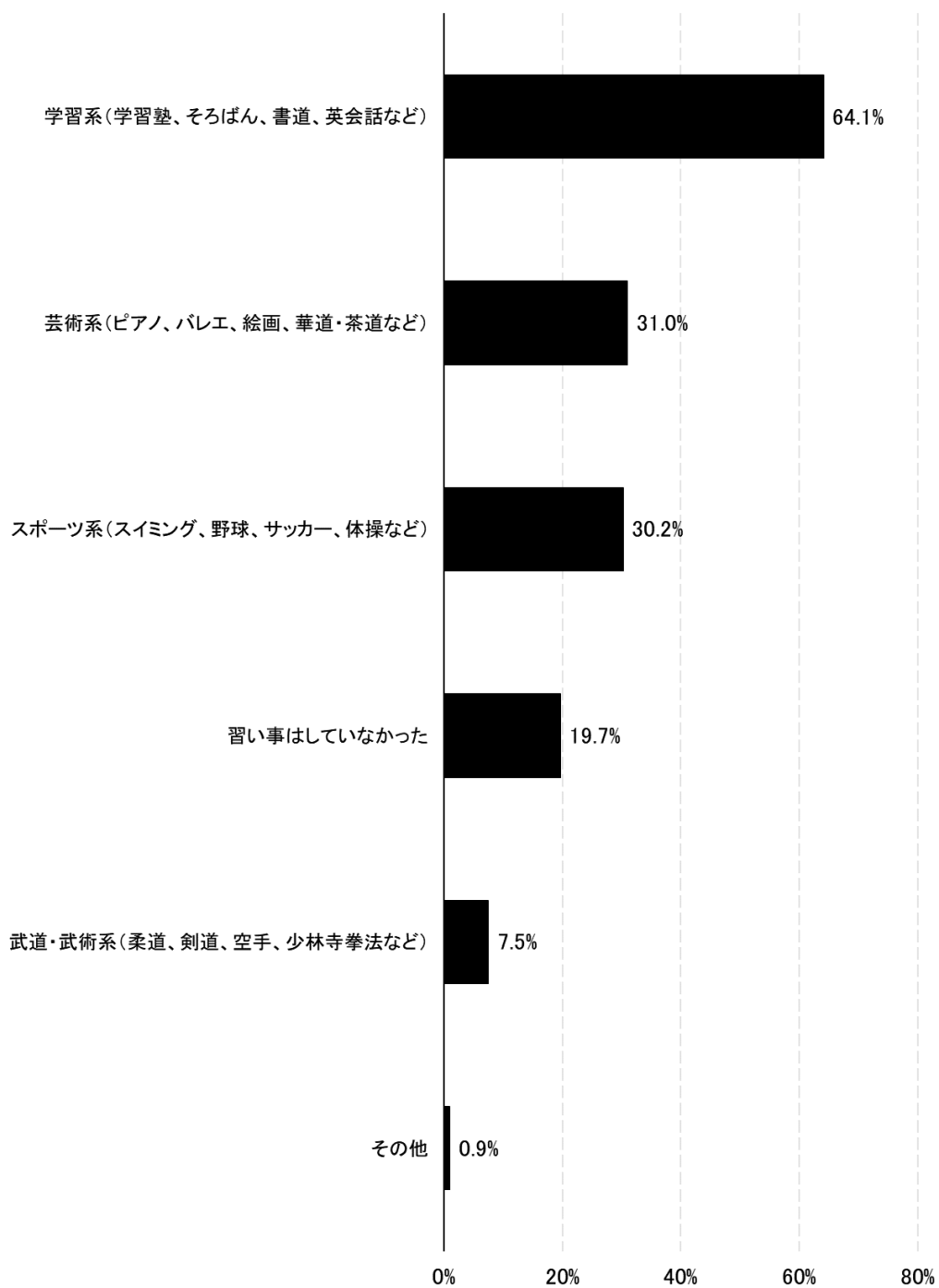


図 110 Q39 子どもの頃の習い事（複数回答・全体 N=1214）

Q39 の子どもの頃の習い事に関して、男女別で見ると、「芸術系（ピアノ、バレエ、絵画、華道・茶道など）」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 16.7 ポイント高い（図 111）。

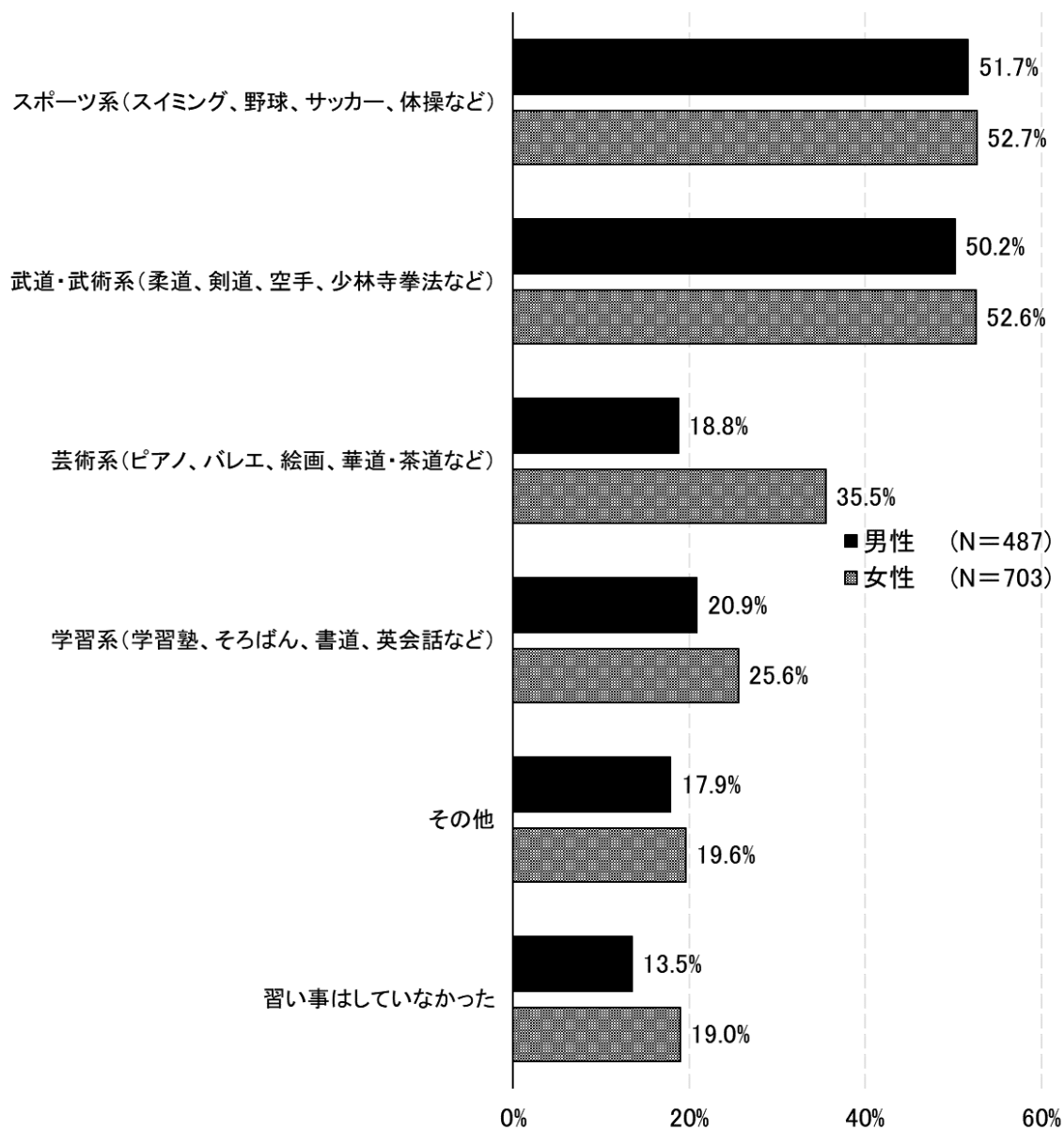


図 111 Q39 子どもの頃の習い事（複数回答・男女別）

Q39 の子どもの頃の習い事に関して、年代別で見ると、「学習系（学習塾、そろばん、書道、英会話など）」は年代で差があり、10・20代が70.1%と最も高く、反対に60代以上は11.0%と最も低い（図 112）。

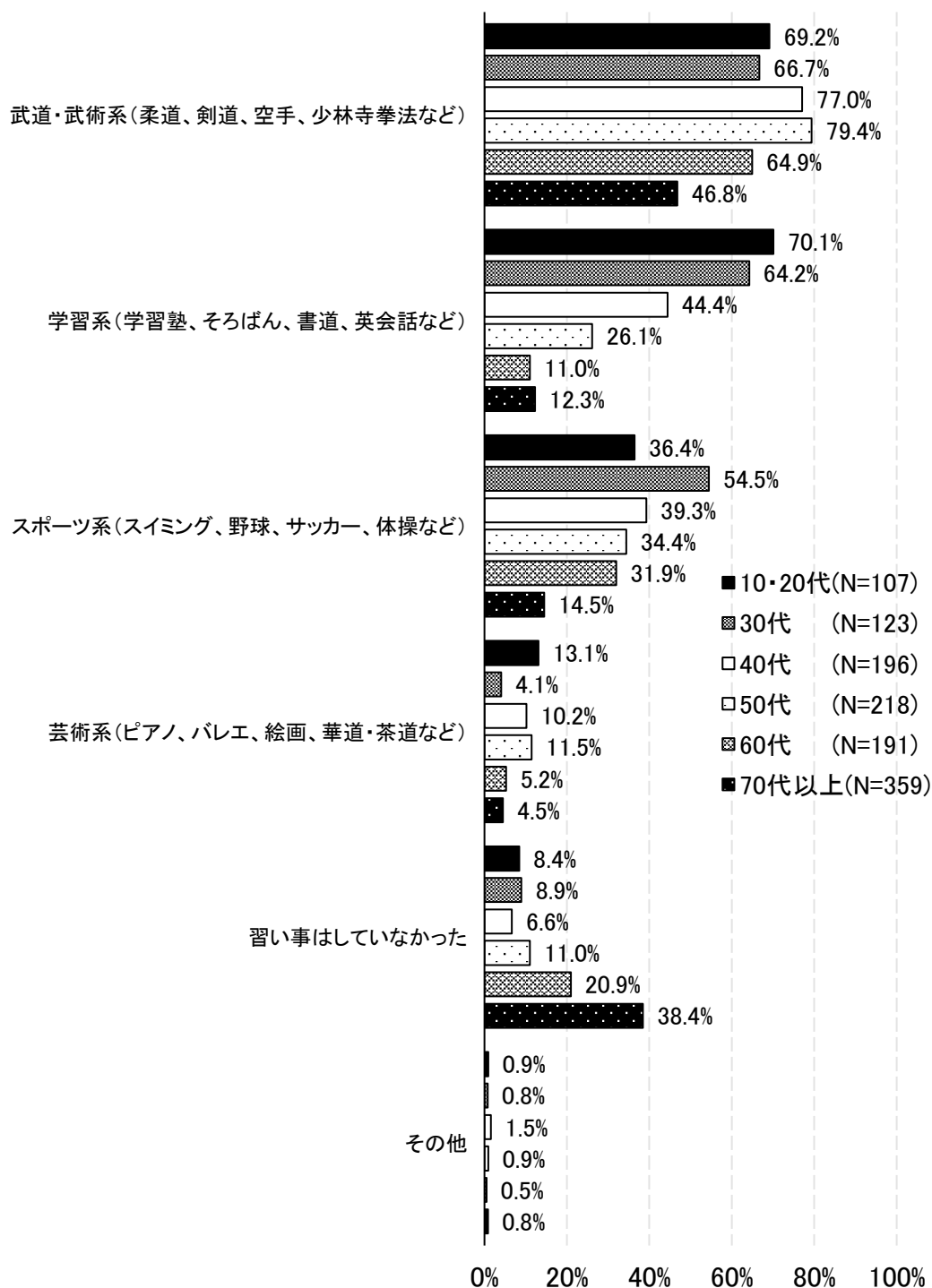


図 112 Q39 子どもの頃の習い事（複数回答・年代別）

最後に、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧を以下に示す。

No.	質問項目	高槻市	関西大学	R03	R02	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	備考
Q1	生活満足度			Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1		
Q2	家賃			Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2		
Q3	居住地域は暮らしやすいか			Q3	Q3	Q4	Q2	Q2	Q2	Q2	Q3	Q3	Q3		JGSS2002 留置票 Q41
Q4	地味に住み続けたいか			Q4	Q4	Q5	Q5	Q5	Q5	Q5	Q4	Q3	Q3		
Q5	高槻市に地味ブランドがあると思うか			Q5	Q5	Q5	Q5	Q5	Q5	Q5	Q4	Q3	Q3		
Q6	中心市街地に行く頻度が3年前と比べて増加したか			Q6	Q6	Q10				Q16					
Q7A	中心市街地の向上：防災面での安全性や快適性			Q7A	Q7A	Q11A	Q10A			Q17A					
Q7B	中心市街地の向上：防犯面での安全性や快適性			Q7B	Q7B	Q11B	Q10B			Q17B					
Q7C	中心市街地の向上：居住環境			Q7C	Q7C	Q11C	Q10C			Q17C					
Q7D	中心市街地の向上：公共交通機関の利便性			Q7D	Q7D	Q11D	Q10D			Q17D					
Q7E	中心市街地の向上：多行者にとっての歩きやすさ			Q7E	Q7E	Q11E	Q10E			Q17E					
Q7F	中心市街地の向上：風紀や治安			Q7F	Q7F	Q11F	Q10F			Q17F					
Q8A	中心市街地で3年前と比べて増加したか 文化活動			Q8A	Q8A	Q12A				Q18A					
Q8B	中心市街地で3年前と比べて増加したか コミュニティ活動			Q8B	Q8B	Q12B				Q18B					
Q8C	中心市街地で3年前と比べて増加したか 商店街の魅力			Q8C	Q8C	Q12C				Q18C					
Q8D	中心市街地で3年前と比べて増加したか 百貨店などの大型店の魅力			Q8D	Q8D	Q12D				Q18D					
Q8E	中心市街地で3年前と比べて増加したか 買い物やイベントでの楽しさ			Q8E	Q8E	Q12E				Q18E					
Q8F	中心市街地で3年前と比べて増加したか 魅力的な飲食店			Q8F	Q8F	Q12F				Q18F					
Q8G	中心市街地で3年前と比べて増加したか オフィスなど業務施設			Q8G	Q8G	Q12G				Q18G					
Q8H	中心市街地で3年前と比べて増加したか 病院			Q8H	Q8H	Q12H				Q18H					
Q8I	中心市街地で3年前と比べて増加したか 道路の清潔			Q8I	Q8I	Q12I				Q18I					
Q8J	中心市街地で3年前と比べて増加したか 駐輪場			Q8J	Q8J	Q12J				Q18J					
Q8K	中心市街地で3年前と比べて増加したか 駐車の場			Q8K	Q8K	Q12K				Q18K					
Q8L	中心市街地で3年前と比べて増加したか 街なかの賑やみ			Q8L	Q8L	Q12L				Q18L					
Q9	交通手段満足度 徒歩：歩道の整備の状況			Q9	Q9	Q13				Q19					
Q10A	交通手段満足度 徒歩：バリアフリー化			Q10A	Q10A	Q13				Q19					
Q10B	交通手段満足度 自転車：運行するために必要			Q10B	Q10B	Q13				Q19					
Q10C	交通手段満足度 自転車：運行するために必要			Q10C	Q10C	Q13				Q19					
Q10D	交通手段満足度 自転車：乗っている人目へのマナー			Q10D	Q10D	Q13				Q19					
Q10E	交通手段満足度 バイク：通行するために必要			Q10E	Q10E	Q13				Q19					
Q10F	交通手段満足度 バイク：駐輪場			Q10F	Q10F	Q13				Q19					
Q10G	交通手段満足度 バイク：乗っている人目へのマナー			Q10G	Q10G	Q13				Q19					
Q10H	交通手段満足度 バイク：乗っている人目へのマナー			Q10H	Q10H	Q13				Q19					



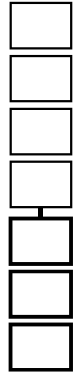
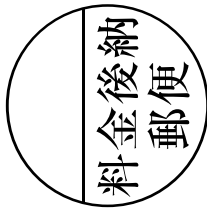




資料：  
予告はがき・調査票



郵便はがき



## 「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」 ご協力をお願い

高槻市と関西大学は、高槻市民の生活ともの見方についての調査を共同で実施することになりました。調査の対象は、無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。

近日中に調査票の入った大きな茶封筒（ボールペン入り）が届きます。ご多忙中、誠に恐縮ですが、届き次第、調査票に回答をご記入の上、ご返送頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年8月



市民生活環境部 市民生活相談課  
〒569-0067 高槻市桃園町2-1  
TEL 072-674-7130

関西大学 総合情報学部  
〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1  
TEL 072-690-2151

※あて所に尋ねあたらぬ場合は、高槻市へ返戻して下さい。

予告はがき



## 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査

(調査実施) 高槻市・関西大学総合情報学部

高槻市と関西大学は共同で、市政と市民生活に関する調査を行っています。市は、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とすることを目的に、大学は、高槻市民の生活ともの見方に関する研究と教育を行うことを目的に実施するもので、調査の対象は、住民基本台帳から無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。封筒宛名のご本人様ご自身の回答を、この調査票にご記入いただきますようお願いいたします。調査の回答は、調査の目的以外には、一切利用いたしませんので安心してお答えください。

調査結果につきましては、本年12月頃に速報版を、翌年3月中旬に最終報告書を発行し、高槻市と関西大学で閲覧できるようにいたします。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

\*ボールペンを同封しております。回答の際にご利用ください(返却の必要はありません)。

\*ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。マルをつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものは、指示に従ってお答えください。

\*お忙しいところ誠に恐縮ですが、**9月9日(金)**までに、同封の封筒(切手貼付済み)でご返送いただきますようお願いいたします。

\*この調査票と封筒には、ご住所やお名前を記入されないようお願いいたします。

(どなたがどのような回答をされたかわからないようにするためです。)

<調査に関するお問い合わせ> 高槻市 市民生活環境部 市民生活相談課 tel: 072-674-7130  
関西大学 総合情報学部 tel: 072-690-2151

Q1. あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

Q2. あなたは、現在どのくらい幸せですか。

1	2	3	4	5
幸せ	やや幸せ	どちらともいえない	やや不幸せ	不幸せ

Q3. あなたのお住まいの地域は、全体的に暮らしやすいと思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q4. あなたは、現在お住まいの地域にどのくらい「住み続けたい」と思いますか。

1	2	3	4	5
ずっと住み続けたい	住み続けたい	まあ住み続けたい	どちらともいえない	機会があれば引っ越したい

Q5. あなたは、高槻市には地域ブランドと呼べるような特産品や観光地があると思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q6. あなたが買い物・食事・娯楽などで中心市街地(JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺)に行く頻度は、5年前と比べて増加しましたか。それとも減少しましたか。

1	2	3	4	5	6
増加した	少し増加した	変わらない	少し減少した	減少した	5年前を知らない

Q7. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、5年前と比べて向上したと思いますか。それとも低下したと思いますか。

A. 防災面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

B. 防犯面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

C. 居住環境

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

D. 公共交通機関の利便性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

E. 歩行者にとっての歩きやすさ

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

F. 風紀や治安

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	5年前を知らない

Q8. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、5年前と比べて増加したと思いますか。それとも減少したと思いますか。

A. 文化活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

B. コミュニティ活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

C. 商店街の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

D. 百貨店などの大型店の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

E. 買い物やイベントでのにぎわい

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

F. 魅力的な飲食店

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

G. オフィスなど業務施設

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

H. 病院などの医療機関

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

I. 道路の渋滞

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

J. 駐輪場

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

K. 駐車場

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

L. 街なかの緑や潤い

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	5年前を知らない

Q9. 中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）を住み良い街にするために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。3つ以内にマルをつけてください。

1. 街路樹や植栽、公園の整備など、緑豊かな住居環境の向上を図る
2. 日常生活に困らないよう、スーパーマーケットや食料品店などの充実を図る
3. 休日や夜間の突然の病気やケガで困らないよう、病院など医療機能の充実を図る
4. 安心・安全に生活できるよう、治安・防犯の向上を図る
5. 高齢者等も安全・快適に生活できるよう、街のバリアフリー化を図る
6. 民間のマンションや公的住宅など、中心市街地での住宅の供給を促進する
7. その他 ( )
8. 今以上の取り組みは必要ない

Q10. 高槻市の交通手段におけるそれぞれの現状について、あなたはどのくらい満足していますか。

A. 【徒歩】：歩道の整備の状況

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

B. 【徒歩】：バリアフリー化

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

C. 【自転車】：通行するために必要なスペース

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

D. 【自転車】：駐輪場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

E. 【自転車】：乗っている人々のマナー

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

F. 【バイク】：通行するために必要なスペース

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

G. 【バイク】：駐車場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

H. 【バイク】：乗っている人々のマナー

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

I. 【バス】：路線・系統

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

J. 【バス】：ダイヤ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

K. 【バス】：バス停

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

L. 【バス】：乗り方の分かりやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

M. 【鉄道】：駅の使いやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

N. 【鉄道】：列車ダイヤ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

O. 【自動車】：道路の整備の状況

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

P. 【自動車】：駐車場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

Q. 【タクシー】：利用しやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

Q11. あなたは、1日に平均して何分くらい歩いていますか。

- 1. 10分未満
- 2. 10分以上20分未満
- 3. 20分以上30分未満
- 4. 30分以上40分未満
- 5. 40分以上50分未満
- 6. 50分以上60分未満
- 7. 60分以上70分未満
- 8. 70分以上100分未満
- 9. 100分以上

Q12. あなたの関心が高い、環境問題に関する話題は何ですか。3つ以内でマルをつけてください。

- |                |                |                 |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化       | 8. 悪臭          | 15. 食の安全性       |
| 2. ヒートアイランド現象  | 9. 水質汚濁        | 16. 食品ロス        |
| 3. 異常気象        | 10. 土壌汚染       | 17. ごみの減量、リサイクル |
| 4. 省エネルギー (節電) | 11. 生物多様性、外来生物 | 18. 不法投棄        |
| 5. 再生可能エネルギー   | 12. 森林荒廃       | 19. その他( )      |
| 6. 大気汚染、PM2.5  | 13. 景観保全       |                 |
| 7. 騒音、振動       | 14. 都市緑化       | 20. いずれにも関心がない  |

Q13へ

Q13. あなたは「生物多様性」という言葉とその意味を知っていますか。

- |             |                  |      |
|-------------|------------------|------|
| 1           | 2                | 3    |
| 言葉も意味も知っている | 言葉は知っているが意味は知らない | 知らない |

Q14. あなたは、この1年以内に、摂津峡・三好山周辺を訪れましたか。

1. 訪れた      2. 訪れていない

Q16へ

Q15. 訪れた目的は何ですか。該当するものをいくつかでもお選びください。

1. 花見 (桜など)
2. 紅葉見物
3. ハイキング
4. 川遊び
5. 歴史散策 (芥川山城跡など)
6. 自然観察 (ホタルなど)
7. 環境活動 (ボランティアなど)
8. 公園利用
9. キャンプ
10. 宿泊・温泉
11. カフェ・レストラン
12. その他 ( )
13. 特に目的はない

右上のQ16へ

Q16. 次に、現在の高槻市の環境に関するA～Dの項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 高槻市には、身近な自然環境とのふれあいがあると思いますか。

- |      |        |           |        |
|------|--------|-----------|--------|
| 1    | 2      | 3         | 4      |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

B. 高槻市は、不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちだと思いますか。

- |      |        |           |        |
|------|--------|-----------|--------|
| 1    | 2      | 3         | 4      |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

C. 高槻市には、良好な環境づくりを目指した活動が豊富にあると思いますか。

- |      |        |           |        |
|------|--------|-----------|--------|
| 1    | 2      | 3         | 4      |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

D. 高槻市には、環境活動に関する情報や呼びかけが十分にあると思いますか。

- |      |        |           |        |
|------|--------|-----------|--------|
| 1    | 2      | 3         | 4      |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |



Q17. 仮にいま、あなたがお住まいの地域の住民の間で、5年間かけて、森林レクリエーション活動※ができるように整備するという案がでてきたとします。この案を実施するために、地域住民でお金を出し合うとしたら、あなたはお金を負担しても良いと思いますか。

※森林レクリエーションとは、ハイキング・登山、森林浴など森林内で実施する保健・文化・教育的な活動のことです。

- 1 適切な金額ならば負担する  
2 負担しない  
3 わからない

Q18へ

Q19へ

Q18. この案を実施するにあたって、1年あたりの負担金額が、以下に示すA～Eのそれぞれの場合、あなたは案に賛成しますか。賛成しませんか。それぞれ選んでください。

年間負担金額

- |             |         |          |
|-------------|---------|----------|
| A. 200円の場合  | 1. 賛成する | 2. 賛成しない |
| B. 400円の場合  | 1. 賛成する | 2. 賛成しない |
| C. 1000円の場合 | 1. 賛成する | 2. 賛成しない |
| D. 2000円の場合 | 1. 賛成する | 2. 賛成しない |
| E. 3000円の場合 | 1. 賛成する | 2. 賛成しない |

Q19. あなたは、障害のある・なし等にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。この中から1つだけお答えください。

- 1 知っている  
2 言葉だけは聞いたことがある  
3 知らない

Q20. あなたは、最近、気が沈んだり、気が重くなることがありますか。

- 1 全くない  
2 少しだけある  
3 ときどきある  
4 たいていある  
5 いつもある

Q21. あなたは、いつも心配事が多く、不安になりやすい方だと思いますか。

- 1 そう思う  
2 ややそう思う  
3 どちらともいえない  
4 あまりそう思わない  
5 そう思わない

Q22. あなたは、初対面の相手との会話を楽しむことができる方だと思いますか。

- 1 そう思う  
2 ややそう思う  
3 どちらともいえない  
4 あまりそう思わない  
5 そう思わない

Q23. 自殺で亡くなる人の数は全国で年間約2万人となっています。あなたは毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることをご存知ですか。

1. 知っている  
2. 知らない

Q24. あなたは、自殺について相談できる機関があるのをご存知ですか。(例えば、保健所 ところの健康相談など)

1. 知っている  
2. 知らない

Q25. あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことがありますか。

1. ある  
2. ない

Q26. あなたは、もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 相談に乗らない、もしくは話題を変える
2. 「死んではいけない」と説得する
3. 「つまらないことを考えるな」と叱る
4. 「がんばって生きよう」と励ます
5. 「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す
6. 「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する
7. ひたすら耳を傾けて聞く
8. その他 ( )
9. 適切と思われる対応はない

Q27. 今後の自殺対策について、おうかがいします。今後、どのような自殺対策が求められるとあなたは思いますか。いくつでもお選びください。

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 危険な場所、薬品等の規制
3. インターネットにおける自殺関連情報の対策
4. 自殺に関する広報・啓発
5. 適切な精神科医療体制の整備
6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
9. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
10. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
11. 子どもの自殺予防
12. 自殺未遂者の支援
13. 自死遺族等の支援
14. その他 ( )
15. 特になし

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

Q28. 自殺したいという気持ちを乗り越えるには、どのような方法が適切と思われますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらう
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談する
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談する
4. できるだけ休養を取るようにする
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわすよう努める
6. 特に何もしない
7. その他 ( )
8. 適切と思われる方法はない

Q29. 次のa～sは、市の仕事のうち、生活に関係の深いものをあげています。

以下から、①あなたが、最近良くなってきたと思うもの(マルはいくつでも)、また、②あなたが、今後力を入れてほしいもの(マルは3つまで)をそれぞれ選んでください。

②力を入れてほしいもの(3つまで)		
①良くなってきたもの(いくつでも)	↓	
a. 学校教育の充実、青少年の健全育成	1	1
b. 図書館、博物館などの文化施設の整備	2	2
c. スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	3	3
d. 高齢者や障がい者等への福祉対策	4	4
e. 医療施設や救急医療体制の整備	5	5
f. 空気の汚れ、騒音などへの対策	6	6
g. 公園の整備や自然・緑の保全	7	7
h. 街並み・景観の整備	8	8
i. 駅前の整備、駐車・駐輪対策	9	9
j. ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	10	10
k. 下水道の整備	11	11
l. 水の安定供給、上水道整備	12	12
m. バス・鉄道などの公共交通機関の整備	13	13
n. 身のまわりの生活道路の整備	14	14
o. 交通安全・災害防止対策	15	15
p. 公営住宅の建設や住宅融資制度	16	16
q. 市の広報・窓口相談、情報公開の充実	17	17
r. 災害対策・防犯対策	18	18
s. 子育て支援	19	19
t. 特になし	20	20

Q30. あなたは、『「高槻市みらいのための経営革新」に向けた改革方針』をご存知ですか。

1	2	3
名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない

Q31. あなたは、高槻市が20年後、30年後を見据えて行財政改革に取り組む必要性を感じますか。

1	2	3	4
感じる	やや感じる	あまり感じる	感じない

Q 3 2. あなたは普段、1日にどのくらいの時間、SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)に触れていますか。

1. 全く使用しない
2. 20分未満
3. 20分以上40分未満
4. 40分以上1時間未満
5. 1時間以上2時間未満
6. 2時間以上

Q 3 3. あなたは、友人や知人と雑談をする場合、以下のどのような手段を好みますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 電子メール
2. LINE等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり
3. FacebookやTwitter等のSNSでのテキストのやりとり
4. 音声電話 (LINEやSkype等の無料通話アプリの利用を含む)
5. ビデオ通話 (Zoom、LINE、Skype など)
6. 対面での会話
7. 手紙
8. その他 ( )
9. あてはまるものはない

Q 3 4. あなたは、現在の友人との関係に全体としてどのくらい満足していますか。

- |    |      |           |      |    |        |
|----|------|-----------|------|----|--------|
| 1  | 2    | 3         | 4    | 5  | 6      |
| 満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不満 | 不満 | 友人はいない |

Q 3 5. あなたは普段、新型コロナウイルスに感染するのではないかという不安を感じますか。

- |        |         |         |        |
|--------|---------|---------|--------|
| 1      | 2       | 3       | 4      |
| 非常に感じる | ある程度感じる | あまり感じない | 全く感じない |

Q 3 6. あなたは、屋外にいて人がまばらな時、普段マスクを着用しますか。

- |        |          |          |         |
|--------|----------|----------|---------|
| 1      | 2        | 3        | 4       |
| 常に着用する | たいてい着用する | あまり着用しない | 全く着用しない |

Q 3 7. あなたの過去1ヶ月間における就寝時間は、主に何時ごろでしたか。

1. 午後9時前 (正午以降)
2. 午後9時台
3. 午後10時台
4. 午後11時台
5. 午前0時台
6. 午前1時以降 (正午まで)

Q 3 8. あなたの過去1ヶ月間における眠りの深さは、次のどれにあたりますか。

- |       |       |    |       |       |
|-------|-------|----|-------|-------|
| 1     | 2     | 3  | 4     | 5     |
| 非常に深い | 比較的深い | 普通 | 比較的浅い | 非常に浅い |

Q 3 9. あなたは、子どもの頃 (15歳以下)、どのような習い事をしていましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. スポーツ系 (スイミング、野球、サッカー、体操など)
2. 武道・武術系 (柔道、剣道、空手、少林寺拳法など)
3. 芸術系 (ピアノ、バレエ、絵画、華道・茶道など)
4. 学習系 (学習塾、そろばん、書道、英会話など)
5. その他 ( )
6. 習い事はしていなかった

◆最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかお答えがほしいです。答えたくない質問や答えにくい質問は空欄のままでも構いません。

Q 4 0. あなたの性別はどちらですか。

1. 男性 2. 女性

Q 4 1. あなたの年齢をお答えください。

1. 18歳、19歳 4. 40代 7. 70代以上  
2. 20代 5. 50代  
3. 30代 6. 60代

Q 4 2. あなたの現在の職業はどれにあたりますか。(複数の職業に就かれている場合は、主なもの1つにマル)

1. 常時雇用の勤め人 5. 経営者、役員  
2. 臨時雇用、パート、アルバイト 6. 家事専業  
3. 自営業主 7. 学生  
4. 自営業の家族従業者 8. 無職  
9. その他 ( )

Q 4 3. あなたの最終学歴を教えてください。(在学中の方は、いま通っている学校を選んでください)

1. 中学 (旧小学校など)  
2. 高校 (または旧制中学など)  
3. 専門学校  
4. 短大・高専 (5年制)  
5. 大学 (旧高専)・大学院  
6. わからない

Q 4 4. あなたの住まいの地域はどこですか。( )内の小学校区を参考にしてお答えください。

1. 檜田地区 (檜田小学校)  
2. 高槻北地区 (芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校)  
3. 高槻南地区 (高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校)  
4. 五領地区 (五領・上牧小学校)  
5. 高槻西地区 (郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校)  
6. 如是・富田地区 (芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校)  
7. 三箇牧地区 (三箇牧・柱本小学校)

Q 4 5. 高槻市には現在までどのくらいお住まいですか。

1. 1年未満 6. 20年以上30年未満  
2. 1年以上3年未満 7. 30年以上40年未満  
3. 3年以上5年未満 8. 40年以上50年未満  
4. 5年以上10年未満 9. 50年以上  
5. 10年以上20年未満

Q 4 6. あなたの現在のお住まいは、一戸建てですか、集合住宅ですか。

1. 一戸建て 2. 集合住宅 (アパート・マンションなど)

Q 4 7. そのお住まいは、次のどれにあたりますか。

1. 持ち家 (親などが持ち主の場合も含む)  
2. 民間の賃貸住宅  
3. 社宅・公務員住宅等の給与住宅  
4. 公社・公団等の公営の賃貸住宅  
5. その他

Q 4 8. あなたは現在、結婚しているのでしょうか。

- 1 2 3  
既婚 既婚 未婚  
(配偶者あり) (死別・離別)

Q 4 9. 同居していない場合も含めて、現在、お子様がいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

Q 5 0. あなたの世帯の人数を、あなたも含めてお答えください。

人

Q 5 1. 過去一年間のあなたの世帯の収入はどれくらいですか。臨時収入、副収入も含めてお答えください。

1. 100万円未満 6. 800万円～1000万円未満  
2. 100万円～200万円未満 7. 1000万円～1500万円未満  
3. 200万円～400万円未満 8. 1500万円以上  
4. 400万円～600万円未満 9. わからない  
5. 600万円～800万円未満

お忙しいなか、ご協力いただきありがとうございました。  
ご回答いただきました調査票は、返信用封筒に入れて、**9月9日(金)**までにご返送ください。早目にご投函いただければ幸いです。

なお、同封のボールペンは、返信用封筒に入れずに、日頃の生活の中でご利用ください。

◆調査結果資料 (速報版) 発行予定: 令和4年12月頃

◆調査報告書発行予定: 令和5年3月

◆閲覧窓口: 高槻市役所本館1階行政資料コーナー  
関西大学総合情報学部事務室  
(高槻市・関西大学総合情報学部のウェブページでも閲覧可能となる予定です。)

## 執筆者紹介

阪口 祐介 (さかぐち ゆうすけ) 編集・はじめに・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)  
松本 渉 (まつもと わたる) 編集・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)  
西田 尚紀 (にしだ なおき) 第 2 章 (関西大学ティーチング・アシスタント)

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和 4 年度—

編集 関西大学総合情報学部、発行 高槻市・関西大学総合情報学部、発行年月 令和 5 年 3 月

※ 関連する資料として、同時期に発行された『2022 年度社会調査実習報告書—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—』(関西大学総合情報学部[編集], 関西大学総合情報学部[発行]) があります。総合情報学部学生による詳細な分析も掲載されています。